

茨城県教育財団文化財調査報告第431集

島名熊の山遺跡

島名・福田坪一体型特定土地区画整理
事業地内埋蔵文化財調査報告書 XXIII

平成30年3月

茨 城 県
公益財団法人茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第431集

しま な くま やま
島名熊の山遺跡

島名・福田坪一体型特定土地区画整理
事業地内埋蔵文化財調査報告書 XXXIII

平成30年3月

茨 城 県
公益財団法人茨城県教育財団

序

公益財団法人茨城県教育財団は、国や県などの各事業者から委託を受けて埋蔵文化財の発掘調査と整理業務を実施することを主な目的として、昭和52年に調査課が設置されて以来、数多くの遺跡の発掘調査を実施し、その成果として発掘調査報告書を刊行してきました。

この度、茨城県による島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業に伴って実施した、島名熊の山遺跡の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

当遺跡は茨城県から委託を受け、平成7年度から平成28年度にわたって断続的に発掘調査を実施し、その成果については、既に『茨城県教育財団文化財調査報告第120集』以下18冊を順次刊行しています。

今回の調査によって、古墳時代から平安時代にかけての建物跡が確認でき、遺跡北西部の集落の様相が明らかになりました。

本書が、学術的な研究資料としてはもとより、郷土の歴史に対する理解を深め、教育・文化の向上のための資料として広く活用いただければ幸いです。

最後になりますが、発掘調査から報告書の刊行に至るまで、多大な御協力を賜りました委託者である茨城県に厚く御礼申し上げますとともに、茨城県教育委員会、つくば市教育委員会をはじめ、御指導、御協力をいただきました関係各位に対し、心から感謝申し上げます。

平成30年 3月

公益財団法人茨城県教育財団

理事長 野 口 通

例 言

- 1 本書は、茨城県の委託により、公益財団法人茨城県教育財団が平成25年度に発掘調査を実施した、茨城県つくば市島名字中台1,333番地ほかに所在する島名熊^{しまなくま}の山^{やま}遺跡14区の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査期間及び整理期間は以下のとおりである。
調査 平成25年8月7日～10月31日
平成26年1月1日～3月31日
整理 平成27年9月1日～平成28年2月29日
平成29年4月1日～4月30日
- 3 発掘調査は、調査課長白田正子のもと、以下の者が担当した。
首席調査員兼班長 酒井雄一
首席調査員 奥沢哲也
調査員 盛野浩一 平成25年8月7日～10月31日、平成26年2月1日～3月31日
- 4 整理及び本書の執筆・編集は、平成27年度が整理課長後藤一成、平成29年度が整理課長皆川修のもと、以下の者が担当した。
平成27年度
首席調査員兼班長 奥沢哲也
平成29年度
次席調査員 大武宣隆
- 5 本書の執筆分担は、下記のとおりである。
奥沢哲也 第1章～第3章第4節
大武宣隆 校正

凡 例

1 当遺跡の地区設定は、日本平面直角座標第Ⅸ系座標に準拠し、 $X = + 7,320 \text{ m}$ 、 $Y = + 20,200 \text{ m}$ の交点を基準点（A 1 a1）とした。なお、この原点は、日本測地系による基準点である。

この基準点を基に遺跡範囲内を東西・南北各々 40 m 四方の大調査区に分割し、さらに、この大調査区を東西・南北に各々 10 等分し、4 m 四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、北から南へ A, B, C …, 西から東へ 1, 2, 3 … とし、「A 1 区」のように呼称した。さらに小調査区は、北から南へ a, b, c … j, 西から東へ 1, 2, 3 … 0 と小文字を付し、名称は、大調査区の名称を冠して「A 1 a1 区」のように呼称した。

2 抄録の北緯及び東経の欄には、世界測地系に基づく緯度・経度を（ ）を付けて併記した。

3 実測図・一覧表・遺物観察表等で使用した記号は次のとおりである。

遺構 HG - 遺物包含層 P - ピット SB - 掘立柱建物跡 SD - 溝跡 SE - 井戸跡 SI - 竪穴建物跡
SK - 土坑

遺物 DP - 土製品 M - 金属製品 Q - 石器 TP - 拓本記録土器

土層 K - 攪乱

4 遺構・遺物実測図の作成方法については、次のとおりである。

(1) 遺構全体図は 400 分の 1、各遺構の実測図は原則として 60 分の 1 の縮尺とした。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。

(2) 遺物実測図は、原則として 3 分の 1 の縮尺とした。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。

(3) 遺構・遺物実測図中の表示は、次のとおりである。

 焼土・朱・施釉

 火床面

 竈部材・粘土範囲・黒色処理

 柱あたり

● 土器

○ 土製品

□ 石器

△ 金属製品

■ 骨片

----- 硬化面

5 土層観察と遺物における色調の判定は、『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業株式会社）を使用した。また、土層解説中の含有物については、各々総量を記述した。

6 遺構一覧表・遺物観察表の表記は、次のとおりである。

(1) 計測値の単位は m, cm, g で示した。なお、現存値は（ ）を、推定値は [] を付して示した。

(2) 遺物観察表の備考の欄は、残存率、写真図版番号及びその他必要と思われる事項を記した。

(3) 遺物番号は通し番号とし、本文、挿図、観察表、写真図版に記した番号と同一とした。

7 竪穴建物跡の「主軸」は、竈を通る軸線とし、主軸方向は、その他の遺構の長軸（径）方向と共に、座標北からみて、どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した（例 N - 10° - E）。

8 今回の報告分で、整理作業の段階で遺構名を変更したものと及び欠番にしたものは以下の通りである。

変更 SE222 → SE248 SE223 → SE249

欠番 SK7414・7509・7522・7523

目 次

序	
例 言	
凡 例	
目 次	
島名熊の山遺跡の概要	1
第1章 調査経緯	3
第1節 調査に至る経緯	3
第2節 調査経過	3
第2章 位置と環境	6
第1節 位置と地形	6
第2節 歴史的環境	6
第3章 調査の成果	12
第1節 調査の概要	12
第2節 基本層序	12
第3節 遺構と遺物	13
1 古墳時代の遺構と遺物	13
(1) 竪穴建物跡	13
(2) 掘立柱建物跡	39
2 奈良時代の遺構と遺物	41
竪穴建物跡	41
3 平安時代の遺構と遺物	45
(1) 竪穴建物跡	45
(2) 井戸跡	72
(3) 土 坑	74
(4) 遺物包含層	80
4 室町時代の遺構と遺物	84
火葬施設	84
5 江戸時代の遺構と遺物	84
溝 跡	84
6 その他の遺構と遺物	87
(1) 土 坑	87
(2) 溝 跡	99
(3) 遺構外出土遺物	99
第4節 まとめ	101

写真図版 PL 1 ~ PL22

抄 録

付 図

しまなくま やま 島名熊の山遺跡の概要

遺跡の位置と調査の目的

島名熊の山遺跡は、つくば市の南西部、^{やだがわ}谷田川右岸の標高約 13～24 m の台地上から低地にかけて立地しています。遺跡の内容を図や写真に記録して保存するため、調査を平成 7 年度から平成 28 年度にわたり断続的に行っています。今回報告する区域は、平成 25 年度に調査を行った面積 4,457 m² で、当遺跡北部の標高 19～22 m の台地上の平坦部から斜面部にあたります。



調査の内容

今回の調査では、古墳時代後期の竪穴建物跡 11 棟、掘立柱建物跡 1 棟、奈良時代の竪穴建物跡 2 棟、平安時代の竪穴建物跡 10 棟、井戸跡 2 基、土坑 12 基、遺物包含層 1 か所などを確認しました。集落が遺跡の北部で、谷に沿った斜面部まで広がっていたことがわかりました。



平成 25 年度島名熊の山遺跡調査区全景（西から）



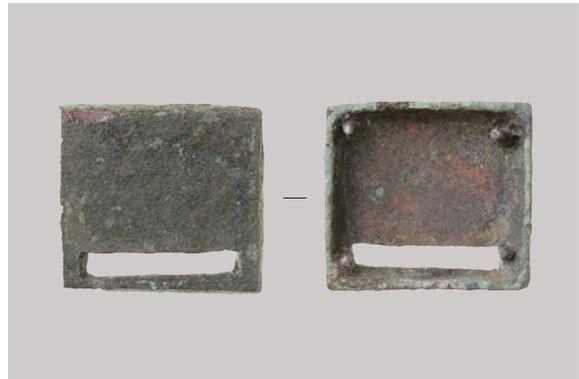
古墳時代の竪穴建物跡から土器が出土した様子



平安時代の竪穴建物跡



「城内丕」と記された墨書土器



出土した腰帯具（巡方）

調査の成果

古墳時代後期の竪穴建物跡では、^{かまど}竈の周辺から多量の土器が出土しました。壁際には、^{かめ}甕の上に^{こしき}甑を載せたままの状態^{かまど}で土器が出土し、当時の人々の生活の様子がありありと伝わってきました。また、当地方では当時はまだ貴重であった^{すえき}須恵器も出土し、様々な交流があったことが考えられます。

また、平安時代の竪穴建物跡からは、「城内丕」や「石」などの文字が墨で記された土器が出土しました。さらに、当時の有力者が身につけていたとされる^{ようたいぐ}腰帯具の^{じゅんぽう}巡方が出土しました。これらのことから、集落の北部にも、有力者が存在していたことが分かってきました。

今回の調査では、遺跡の北部の様相が明らかになってきました。このような成果の一つ一つが、熊の山遺跡の全体像につながっていくものとなります。

第1章 調査経緯

第1節 調査に至る経緯

平成6年8月18日、茨城県知事は茨城県教育委員会教育長あてに、島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内における埋蔵文化財の所在の有無及びその取扱いについて照会した。これを受けて茨城県教育委員会は、平成6年9月19日から27日に現地踏査を、平成6年9月22日に試掘調査を実施し、遺跡の所在を確認した。平成7年3月8日、茨城県教育委員会教育長は茨城県知事あてに、事業地内に島名熊の山遺跡が所在すること及びその取扱いについて別途協議が必要であることを回答した。

平成7年3月14日、茨城県知事は茨城県教育委員会教育長あてに、文化財保護法第57条の3（現第94条）に基づき、土木工事等のための埋蔵文化財包蔵地の発掘について通知した。茨城県教育委員会教育長は、現状保存が困難であることから記録保存のための発掘調査が必要であると判断し、平成7年3月16日茨城県知事あてに、工事着手前に発掘調査を実施するよう通知した。

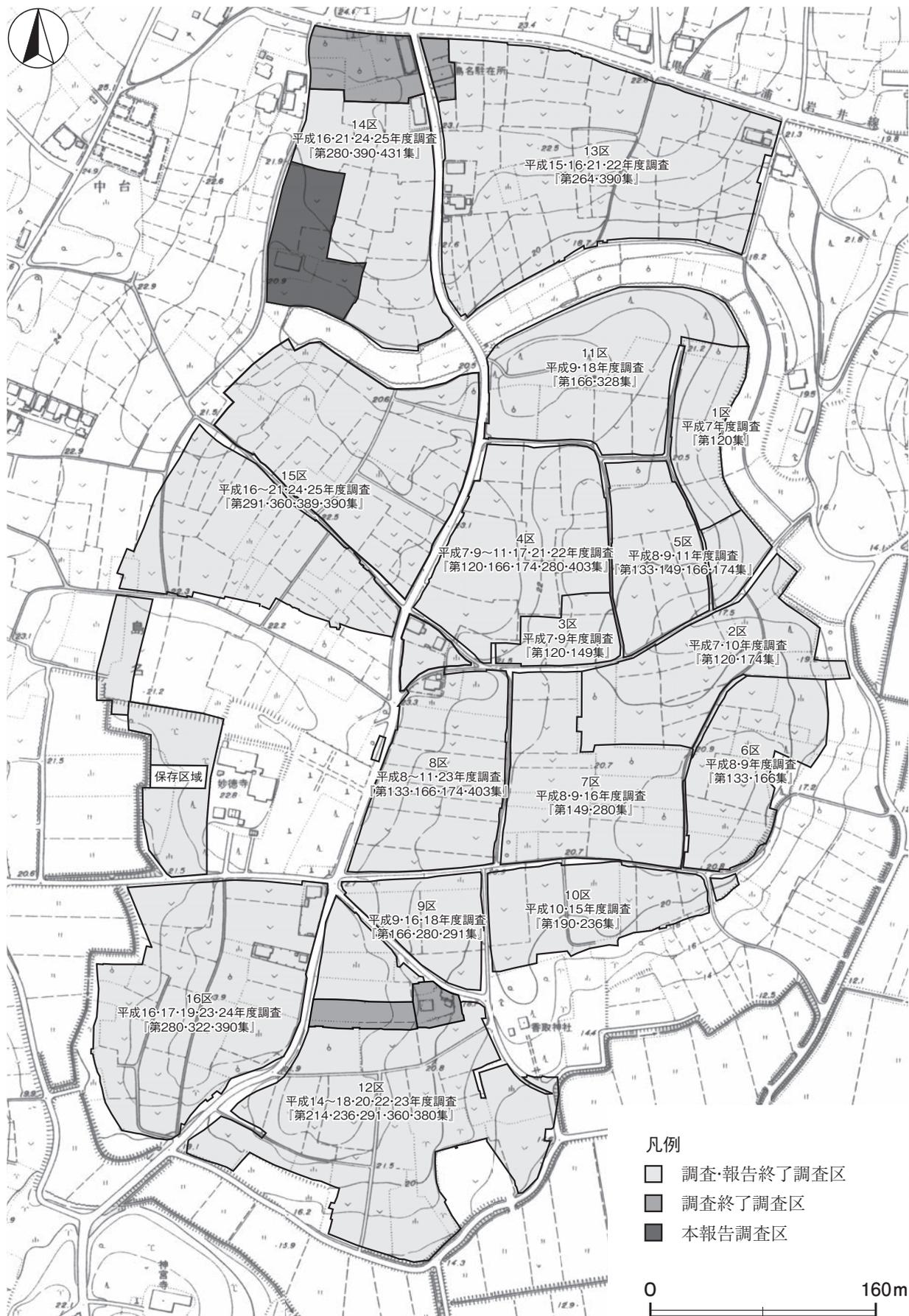
平成25年2月5日、茨城県知事（茨城県企画部つくば・ひたちなか整備局つくば地域振興課長）は茨城県教育委員会教育長あてに、島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業に係る埋蔵文化財発掘調査の実施について協議書を提出した。平成25年2月19日、茨城県教育委員会教育長は茨城県知事あてに、島名熊の山遺跡について発掘調査の範囲及び面積等について回答し、併せて埋蔵文化財の調査機関として公益財団法人茨城県教育財団を紹介した。

公益財団法人茨城県教育財団は、茨城県知事から埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け、平成25年8月7日から10月31日、平成26年1月1日から3月31日まで発掘調査を実施した。

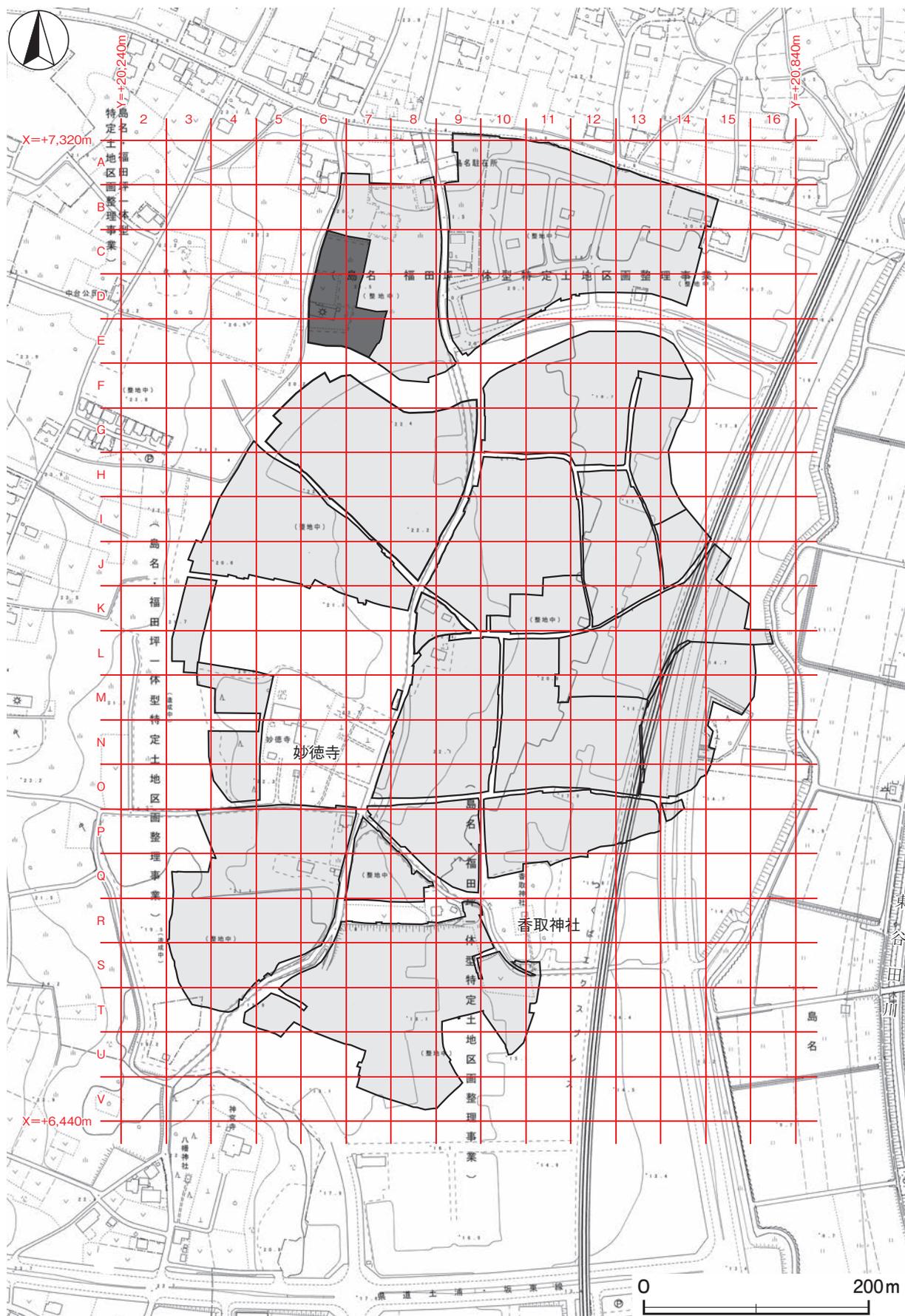
第2節 調査経過

島名熊の山遺跡14区の調査は、平成25年8月7日から10月31日までの3か月間、平成26年1月1日から3月31日までの3か月間にわたって実施した。以下、その概要を表で記載する。

工程	期間	平成25年度					
		8月	9月	10月	1月	2月	3月
調査準備 遺構除根 確認		■			■		
遺構調査		■	■	■	■	■	
遺物洗浄 写真整理		■	■	■	■	■	
撤収							■



第1図 島名熊の山遺跡調査区割図 (つくば市研究学園都市計画図 25,000分の1から作成)



第2図 島名熊の山遺跡グリッド設定図 (つくば市研究学園都市計画図 2,500 分の 1 から作成)

第2章 位置と環境

第1節 位置と地形

鳥名熊の山遺跡14区は、茨城県つくば市鳥名字中台1,333番地ほかに所在している。

つくば市は筑波山を北端に、その南東へ延びる標高20～25m程の平坦な台地上に位置している。この台地は筑波・稲敷台地と呼ばれ、東を霞ヶ浦へ流入する桜川、西は利根川に合流する小貝川によって区切られている。両河川の間には、東から花室川、蓮沼川、小野川、谷田川、西谷田川などの中小河川が北から南に向かって流れているため、台地は複雑に開析され、谷津や低地が細長く入り込んでいる。

筑波・稲敷台地は、貝化石を含む海成層の成田層を基盤として、さらにその上に黄褐色砂や黄褐色荒砂の砂礫層である竜ヶ崎層、さらに灰白色の粘土層である常総粘土層、そして表土下を厚く覆う褐色の関東ローム層が堆積し、最上部は腐食土層となっている¹⁾。

つくば市南西部の鳥名地区は、谷田川と西谷田川によって開析された、狭長な台地上の中央部に位置している。当遺跡は谷田川に面した標高13～24mの台地縁辺部に立地し、遺跡の範囲は南北880m、東西560mである。当遺跡を囲むように周辺には谷津が入り込み、台地基部から独立した島状を呈している。これまでの調査から、台地上に複数の埋没谷が入り込む様子が明らかとなっており、起伏に富んだ地形であったことがうかがえる。

今回報告する14区は、周囲を谷津に囲まれた標高19～22mほどの緩斜面部に位置している。調査前の現況は、畑地及び宅地である。

第2節 歴史的環境

鳥名熊の山遺跡周辺の小貝川、西谷田川、谷田川、蓮沼川流域の台地には、縄文時代から中世にかけての遺跡が数多く存在している。ここでは、主に谷田川と西谷田川流域での遺跡について概観する。

旧石器時代は、平北田遺跡²⁾〈37〉、下河原崎谷中台遺跡³⁾〈75〉、元宮本前山遺跡⁴⁾〈77〉で石器集中地点が確認され、ナイフ形石器や角錐状石器、搔器、尖頭器をはじめ、石核や剥片などが出土している。また、鳥名前野東遺跡⁵⁾〈7〉、鳥名一町田遺跡⁶⁾〈9〉、鳥名境松遺跡⁷⁾〈10〉、鳥名ツバタ遺跡⁷⁾〈16〉でナイフ形石器や尖頭器、サイドスクレイパー、面野井北ノ前遺跡⁸⁾〈25〉で荒屋型彫器、当遺跡⁹⁾でナイフ形石器や尖頭器、細石刃石核などが採集されており、当地域における石器製作と狩猟生活の様子を示す資料が蓄積されている。

縄文時代は、元宮本前山遺跡で早期の炉穴、下河原崎谷中台遺跡で早期の炉穴や中期から晩期にかけての建物跡、鳥名ツバタ遺跡で早期と中期の建物跡やフラスコ状土坑、鳥名境松遺跡で中・後期の建物跡や土器焼成遺構、土坑などがそれぞれ確認されている。これらの遺跡は河川を望む台地の縁辺部に立地し、特に早期の集落が西谷田川左岸で成立する様子がうかがえる。当遺跡においても陥し穴5基のほか、16区で早期前半の撚糸文、11区で早期後半の条痕文系の土器片が出土している¹⁰⁾。そのほか、各調査区で前期から後期にかけての土器片や石鏃、石斧、磨石、石皿などが採集されており、当時の人々の生活の痕跡をうかがうことができる。

弥生時代の遺跡は当地域では少なく、当遺跡南部の埋没谷周辺から後期後半の土器片が採集されているだけである。出土した土器片には籾痕が認められ、当地域の稲作を考える上で興味深い¹¹⁾。

古墳時代前期になると、谷田川沿いに小規模な集落が点在するようになる。島名一町田遺跡では、南関東系の土器を伴う初期の集落が出現し、当遺跡や島名前野遺跡¹²⁾〈6〉では集落跡、島名前野東遺跡では集落に付随した形で方形周溝墓3基が確認されている。また、面野井古墳群¹³⁾〈28〉では、方形周溝墓4基と円墳1基が確認され、周溝からは南関東系の装飾壺、及び底部穿孔壺の土師器が出土しており、谷田川上流域に南関東系の文化を持った集団が移住してきたことが明らかとなっている。特に第2号方形周溝墓からは、方台部に木棺直葬の埋葬施設が確認され、副葬品として石製の勾玉と管玉、ガラス製の玉類が出土し、県内でも貴重な調査事例である。

中期になると、集落が西谷田川沿いにも広がりを見せ、前述した遺跡に加えて島名ツバタ遺跡や谷田部漆遺跡〈56〉、上萱丸古屋敷遺跡¹⁴⁾〈57〉、真瀬三度山遺跡〈58〉などで集落跡が確認されている。特に、元宮本前山遺跡では滑石製模造品の製作跡が確認され、下河原崎谷中台遺跡では県内初の琴柱形石製品が出土しており、注目できる。これらの集落は、台地縁辺部や低湿地へ向かう緩斜面部に適度な距離をおいて営まれており、その立地や経営には台地裾部の自然湧水を利用した谷津田との関わりが強く考えられる。

後期になると、6世紀後半以降、台地全体に集落域が拡大していく様子が確認できる。当遺跡周辺では島名八幡前遺跡¹⁵⁾〈3〉、島名前野遺跡、島名前野東遺跡、平北田遺跡などの集落が継続して営まれており、当遺跡の集落は、近接するこれらの遺跡と補完し合う形をとりながら、古墳時代の終わりまで存続したものと考えられる。また、当該期は古墳が急増し、当遺跡南東部の台地先端部で径約19mと約8mの円墳2基が確認されている。当遺跡周辺では島名前野古墳〈8〉、島名榎内古墳群〈13〉、島名榎内西古墳群〈14〉、島名関ノ台古墳群〈18〉、面野井古墳群、下河原崎高山古墳群〈74〉などがあり、いずれも径10～20mの小円墳からなる地域的な群集墳の在り方を示している。中でも、当遺跡北側に隣接する島名関ノ台古墳群は、全長約40mの前方後円墳と円墳27基が存在したと言われ、被葬者は島名地区の盟主的存在であった可能性が高い。

奈良時代になると、島名地区は急速に集落の再編が進むようになる。その背景には、律令国家の成立と国郡制の整備が考えられ、当地区は河内郡島名郷に編入される。当遺跡や島名八幡前遺跡は、大型建物跡とそれに付随する掘立柱建物跡が集落の中心で、いずれも真北を主軸とした配置をとるようになる。さらに、当遺跡の中央部にL字状に掘立柱建物群が配置され、郷関連の官衙施設の可能性も指摘されている。一方、7世紀に一旦集落が途絶えていた島名前野遺跡や島名前野東遺跡では、8世紀中頃に再び集落が形成される。それは、空闲地となっていた当地が、律令体制の進展と共に再開発の適地となったためと考えられる。しかし、これらの遺跡以外に島名地区では集落が認められなくなり、当遺跡周辺だけに集落が集中する現象が認められる。

平安時代になると遺跡数はさらに減少し、集落として明確に捉えられるのは当遺跡と島名八幡前遺跡だけとなる。両遺跡は、鍛冶生産や紡績などの手工業関連の遺構・遺物が確認でき、9世紀への集落の継続性を考えたとき、極めて示唆的である。また、大規模な集落を残し、8世紀以来の集落が消滅していく状況は、律令体制の行き詰まりに伴う集落の再編成と考えることもできる。また、当遺跡の南東部の斜面では湧水点に木枠を設置した水場が構築されており、その周辺からは多量の土器や木製品が出土している。特に「嶋名」と記された墨書土器や人名が記された木簡が注目できる。この水場において、当集落の人々による祭祀行為の可能性が想定されている¹⁶⁾。

9世紀の集落再編も10世紀を迎えると新たな展開を示し、島名八幡前遺跡も集落としての終焉を迎えることになる。一方、当遺跡ではそれ以降も集落が存続し、11世紀まで継続的に営まれている。その後の集落の様相は、不明瞭であるが、墓坑や井戸跡から平安時代末期と考えられる和鏡や小銅仏が出土しており、遺物の面から有力者の存在をうかがうことができる。

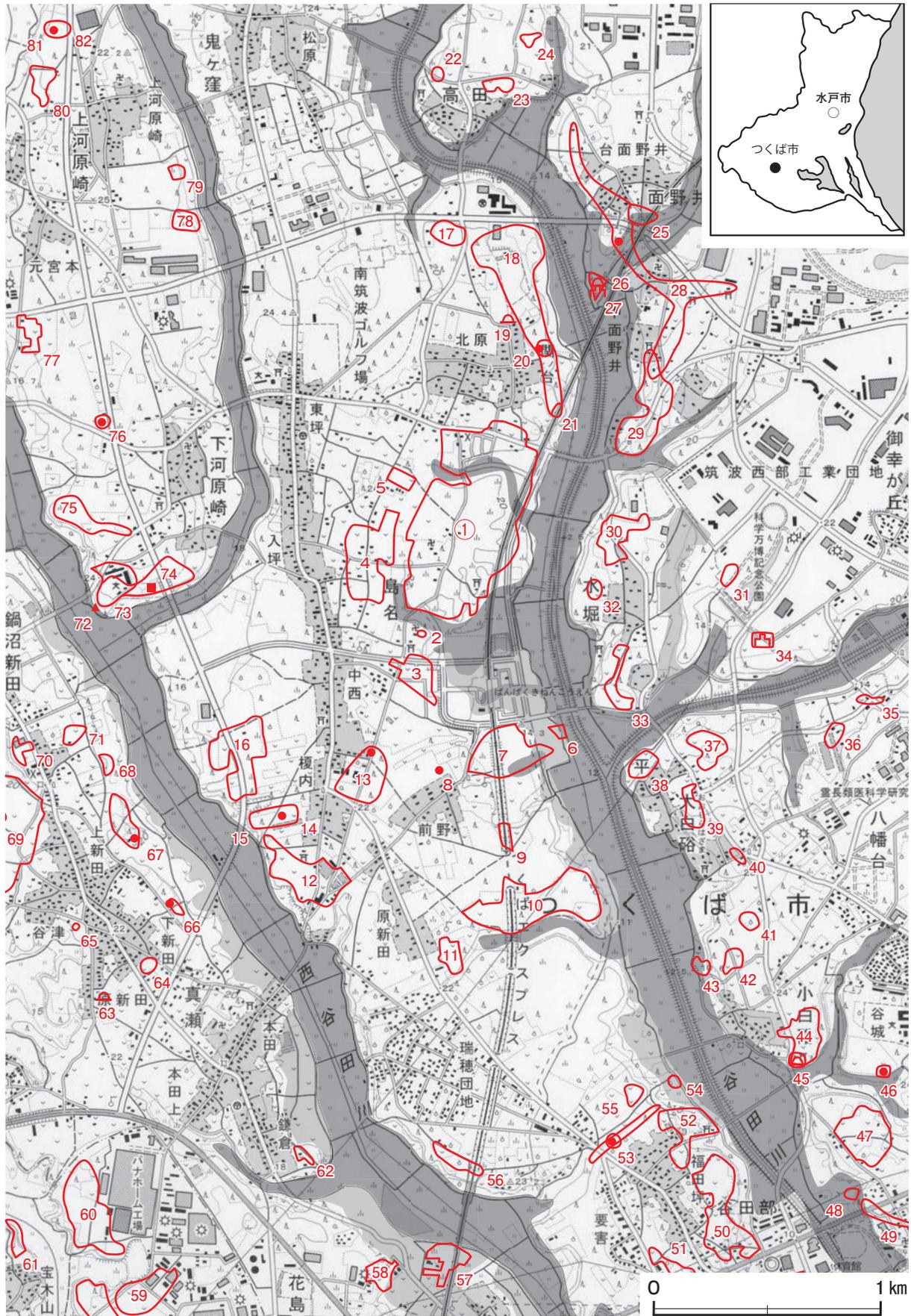
平安時代末期には、鳥名地区周辺は八条院領として立荘された田中荘に組み込まれ、鎌倉時代以降に田中荘は小田氏の支配下となる。当該期の周辺の遺跡は、平出氏の居城と伝えられる^{おもものい}面野井城跡〈27〉や鳥名前野東遺跡がある。鳥名前野東遺跡では、方一町に巡る堀に囲まれた方形居館が確認され、この在地有力者が鳥名地区一帯を治めていたものと思われる。永仁五年（1297）には、当遺跡の中央部西寄りに妙徳寺が開山し、当遺跡では梵鐘の乳や鰐口などの鋳型片が出土した鋳造土坑が確認されている。また、15世紀後半から17世紀前半にかけての墓域が確認され、妙徳寺との関連をうかがうことができる。妙徳寺周辺では幅5m、深さが2mの薬研堀が確認され、寺域周辺は防御施設としての機能も果たしていたことが明らかとなってきた¹⁷⁾。

※ 本章は、既刊の「鳥名熊の山遺跡」を参照し、加筆した。文中の〈 〉内の番号は、第3図及び表1の当該番号と同じである。

註

- 1) 日本の地質『関東地方』編集委員会『日本の地質3 関東地方』共立出版 1986年10月
- 2) 舟橋理「平北田遺跡 一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設事業地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第336集 2011年3月
- 3) a 高野裕璽「下河原崎谷中台遺跡・鳥名ツバタ遺跡 上河原崎・中西特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書3」『茨城県教育財団文化財調査報告』第282集 2007年3月
b 齋藤真弥「下河原崎谷中台遺跡・下河原崎高山古墳群 上河原崎・中西特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書4」『茨城県教育財団文化財調査報告』第292集 2008年3月
- 4) 高野裕璽「元宮本前山遺跡 上河原崎・中西特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書2」『茨城県教育財団文化財調査報告』第265集 2006年3月
- 5) a 寺門千勝・田原康司・梅澤貴司「鳥名前野東遺跡・鳥名境松遺跡・谷田部漆遺跡 鳥名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅶ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第191集 2002年3月
b 飯泉達司「鳥名前野東遺跡 鳥名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅸ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第215集 2004年3月
c 小松崎和治「鳥名境松遺跡・鳥名前野東遺跡 鳥名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書ⅩⅣ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第281集 2007年3月
- 6) 鹿島直樹「鳥名一町田遺跡 鳥名・福田坪一体型特定土地区画整理事業及び常磐新線建設工事地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第230集 2004年3月
- 7) a 佐野正「科学博関連道路谷田部明野線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書 ツバタ遺跡・高山古墳群」『茨城県教育財団文化財調査報告』第22集 1983年3月
b 皆川修「鳥名ツバタ遺跡 上河原崎・中西特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書1」『茨城県教育財団文化財調査報告』第203集 2003年3月
- 8) 鹿島直樹「鳥名関ノ台南B遺跡・面野井北ノ前遺跡 常磐新線建設工事地内埋蔵文化財調査報告書2」『茨城県教育財団文化財調査報告』第231集 2004年3月
- 9) 酒井雄一・渡邊浩美・齋藤貴史・清水哲「鳥名熊の山遺跡 鳥名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書ⅩⅢ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第280集 2007年3月
- 10) 小澤重雄「鳥名熊の山遺跡 鳥名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書ⅩⅦ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第328集 2010年3月
- 11) 稲田義弘・飯泉達司「鳥名熊の山遺跡 鳥名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅹ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第214集 2004年3月
- 12) 稲田義弘「鳥名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅵ 鳥名前野遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第175集 2001年3月
- 13) 小林和彦「面野井古墳群 都市計画道路新都市中央通りバイパス建設事業地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第391集 2014年3月

- 14) 白田正子「(仮称) 萱丸地区特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ 三度山遺跡・古屋敷遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第132集 1998年3月
- 15) a 青木仁昌「鳥名八幡前遺跡 鳥名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅸ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第201集 2003年3月
b 菊池直哉「鳥名八幡前遺跡 都市計画道路鳥名上河原崎線道路整備事業地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第283集 2007年3月
- 16) 清水哲「鳥名熊の山遺跡 鳥名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書ⅩⅢ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第380集 2013年3月
- 17) 兼子博史・坂本勝彦・田中万里子・櫻井二郎「鳥名熊の山遺跡 鳥名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書ⅩⅣ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第390集 2014年3月



第3図 島名熊の山遺跡周辺遺跡分布図（国土地理院 25,000 分の 1 「谷田部」）

表1 島名熊の山遺跡周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	時代						番号	遺跡名	時代						
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	鎌倉・室町			江戸	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	鎌倉・室町
①	島名熊の山遺跡	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
2	島名薬師遺跡				○											
3	島名八幡前遺跡				○	○	○									
4	島名本田遺跡				○	○	○	○								
5	島名中代遺跡				○											
6	島名前野遺跡		○		○	○	○	○								
7	島名前野東遺跡	○	○		○	○	○	○								
8	島名前野古墳				○											
9	島名一町田遺跡	○	○		○		○	○								
10	島名境松遺跡	○	○		○											
11	島名タカドロ遺跡		○		○											
12	島名榎内南遺跡	○			○	○										
13	島名榎内古墳群				○											
14	島名榎内西古墳群				○											
15	島名榎内遺跡				○											
16	島名ツバタ遺跡	○	○		○		○	○								
17	島名関の台遺跡				○											
18	島名関ノ台古墳群				○											
19	島名関ノ台塚							○	○							
20	島名関ノ台南A遺跡				○	○										
21	島名関ノ台南B遺跡	○	○			○		○								
22	高田和田台遺跡				○											
23	高田遺跡					○		○								
24	高田原山遺跡				○	○										
25	面野井北ノ前遺跡	○			○	○	○	○								
26	面野井西ノ台塚							○	○							
27	面野井城跡							○								
28	面野井古墳群				○											
29	面野井南遺跡				○	○	○	○								
30	水堀下道遺跡				○	○										
31	水堀遺跡				○											
32	水堀屋敷添遺跡		○		○											
33	水堀道後前遺跡					○										
34	大和田氏屋敷跡							○	○							
35	柳橋仲畑遺跡				○		○	○								
36	柳橋遺跡				○			○								
37	平北田遺跡	○	○		○	○	○	○								
38	平後遺跡				○		○	○								
39	大白裕西ノ裏遺跡				○											
40	大白裕桜下遺跡				○											
41	大白裕民部山遺跡				○											
42	小白裕民部山遺跡							○								
43	小白裕水表遺跡							○								
44	小白裕海道端遺跡			○									○	○		
45	小白裕海道端塚群												○	○		
46	谷田部カロウド塚古墳							○								
47	谷田部台成井遺跡		○													
48	谷田部下成井遺跡		○												○	
49	谷田部台町古墳群							○								
50	谷田部福田前遺跡		○					○	○							
51	谷田部漆出口遺跡		○					○					○	○		
52	谷田部福田遺跡		○					○								
53	谷田部大堀遺跡													○	○	
54	谷田部山合遺跡		○											○	○	
55	谷田部陣馬遺跡		○					○								
56	谷田部漆遺跡		○					○	○							
57	上萱丸古屋敷遺跡							○					○	○		
58	真瀬三度山遺跡		○					○								○
59	二本松遺跡		○													
60	西山遺跡		○											○	○	
61	苗代山遺跡		○													
62	真瀬戸崎遺跡							○					○	○		
63	真瀬西原遺跡													○	○	
64	真瀬中畑遺跡		○					○								○
65	真瀬新田谷津遺跡		○													
66	真瀬新田古墳群											○				
67	真瀬堀附南遺跡		○					○								
68	真瀬堀附北遺跡							○								
69	真瀬山田遺跡		○					○	○							
70	真瀬山田北遺跡		○					○								
71	鍋沼新田長峰遺跡		○					○								
72	下河原崎高山窯跡							○								
73	下河原崎高山遺跡							○								
74	下河原崎高山古墳群											○				
75	下河原崎谷中台遺跡	○	○					○	○							
76	下河原崎古墳群							○								
77	元宮本前山遺跡	○	○					○								
78	元中北東藤四郎遺跡							○								
79	元中北鹿島明神古墳							○								
80	上河原崎本田遺跡											○	○			○
81	上河原崎小山台古墳											○				
82	上河原崎八幡脇遺跡											○				

第3章 調査の成果

第1節 調査の概要

島名熊の山遺跡は、つくば市の南西部に位置し、谷田川右岸の標高13～24mの台地上に立地している。調査区は便宜上1～16区（第1図）に分けており、今回の報告分は、平成25年度に調査した14区4,457㎡についてである。

調査の結果、竪穴建物跡23棟（古墳時代11・奈良時代2・平安時代10）、掘立柱建物跡1棟（古墳時代）、井戸跡2基（平安時代）、土坑116基（平安時代12・時期不明104）、火葬施設1基（室町時代）、溝跡3条（江戸時代2・時期不明1）、遺物包含層1か所（平安時代）を確認した。

遺物は、遺物収納コンテナ（60×40×20cm）に30箱出土している。主な遺物は、土師器（坏・高台付坏・高台付皿・椀・脚付鉢・高坏・甕・小形甕・甑）、須恵器（坏・高台付坏・壺・脚付長頸壺・甕・大甕・甑）、灰釉陶器（椀・長頸瓶）、土師質土器（鉢）、陶器（香炉・壺）、土製品（土玉・管状土錘・支脚・竈鏝・不明土製品）、石器（鏃・磨石・砥石）、剥片、金属製品（刀子・鎌・釘・巡方・煙管・鉛玉）などである。

第2節 基本層序

当調査区は、標高19～22mの台地上から台地斜面部にかけて立地している。14区南西部（D7i2区）に設定したテストピットで基本土層（第4図）の観察を行った。以下、観察結果から層序を説明する。

土層は9層に分層でき、第3～6層が関東ローム層である。

第1層は、黒褐色を呈する表土層である。粘性・締まりともに弱く、層厚は5～25cmである。

第2層は、暗褐色を呈する旧表土層である。粘性・締まりともに普通で、層厚は7～35cmである。

第3層は、褐色を呈するソフトローム層である。粘性・締まりともに普通で、層厚は17～35cmである。

第4層は、暗褐色を呈する第2黒色帯（BBⅡ）層である。粘性は普通で、締まりは強く、層厚は13～28cmである。

第5層は、にぶい黄褐色を呈するハードローム層である。粘性は普通で、締まりは強く、層厚は10～27cmである。

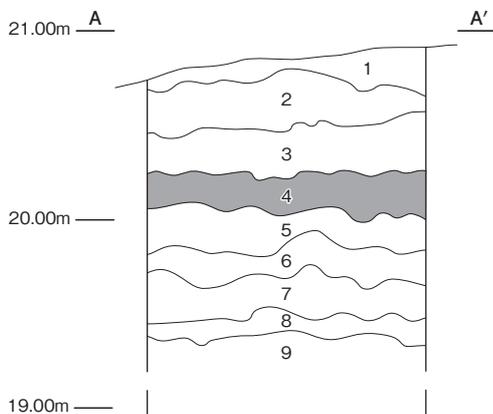
第6層は、にぶい黄褐色を呈するハードローム層で、粘性・締まりともに普通で、層厚は6～27cmである。

第7層は、にぶい黄褐色を呈する常総粘土層への漸移層である。粘性・締まりともに強く、層厚は15～30cmである。

第8層は、灰白色を呈する常総粘土層への漸移層である。粘性・締まりともに強く、層厚は7～18cmである。

第9層は、褐灰色を呈する常総粘土層である。粘性・締まりともに極めて強く、層厚は25cmまで確認したが、下層は未掘のため本来の層厚は不明である。

なお、遺構は、第3層上面で確認した。



第4図 基本土層図

第3節 遺構と遺物

1 古墳時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、竪穴建物跡 11 棟、掘立柱建物跡 1 棟を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

(1) 竪穴建物跡

第 2434 号竪穴建物跡 (第 5 図)

調査年度 竈から東部にかけての大部分は平成 16 年度に調査し、当財団調査報告『第 280 集』において報告している。残る西部は平成 25 年度に調査した。柱穴の番号については、今回報告分と合わせて、既調査分を新しい番号に更新した。

位置 14 区南西部の E 7c9 区、標高 21 m ほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 3181 号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状 長軸 4.65 m、短軸 4.58 m の方形で、主軸方向は N - 38° - W である。壁は高さ 5 cm で、ほぼ直立している。今回の調査では、西部と P 4 を確認した。

床 平坦で、壁際を除いて踏み固められている。今回の調査では、壁溝を確認できなかった。

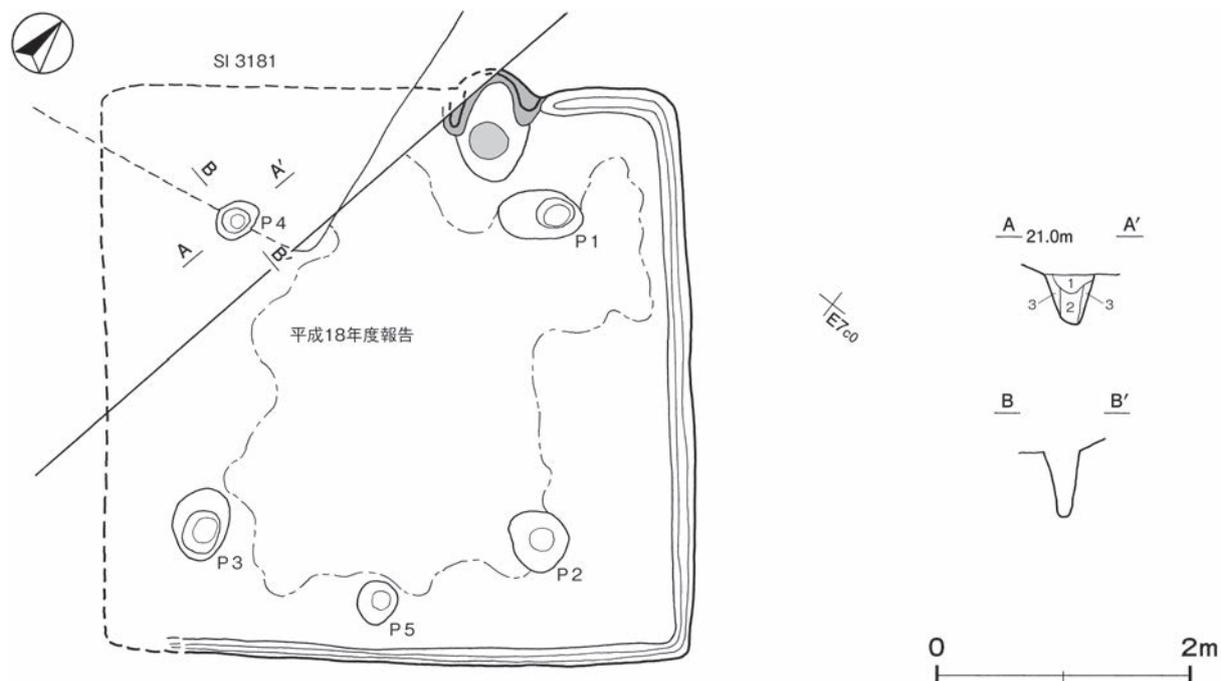
竈 北壁の東寄りに付設されている。『第 280 集』を参照されたい。

ピット 5 か所。P 4 は深さ 52 cm で、規模と配置から支柱穴である。第 1・2 層は柱抜き取り後の堆積層で、第 3 層は埋土である。P 1 ~ P 3、P 5 については、『第 280 集』を参照されたい。

ピット土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量

所見 今回の調査では遺物は出土していないが、時期は、既調査状況から古墳時代後期と考えられる。



第 5 図 第 2434 号竪穴建物跡実測図

第 2441 号 竪穴建物跡 (第 6・7 図)

調査年度 東部は平成 16 年度に調査し、当財団調査報告『第 280 集』において報告している。残る西部は平成 25 年度に調査した。柱穴の番号については、今回報告分と合わせて、既調査分を新しい番号に更新した。

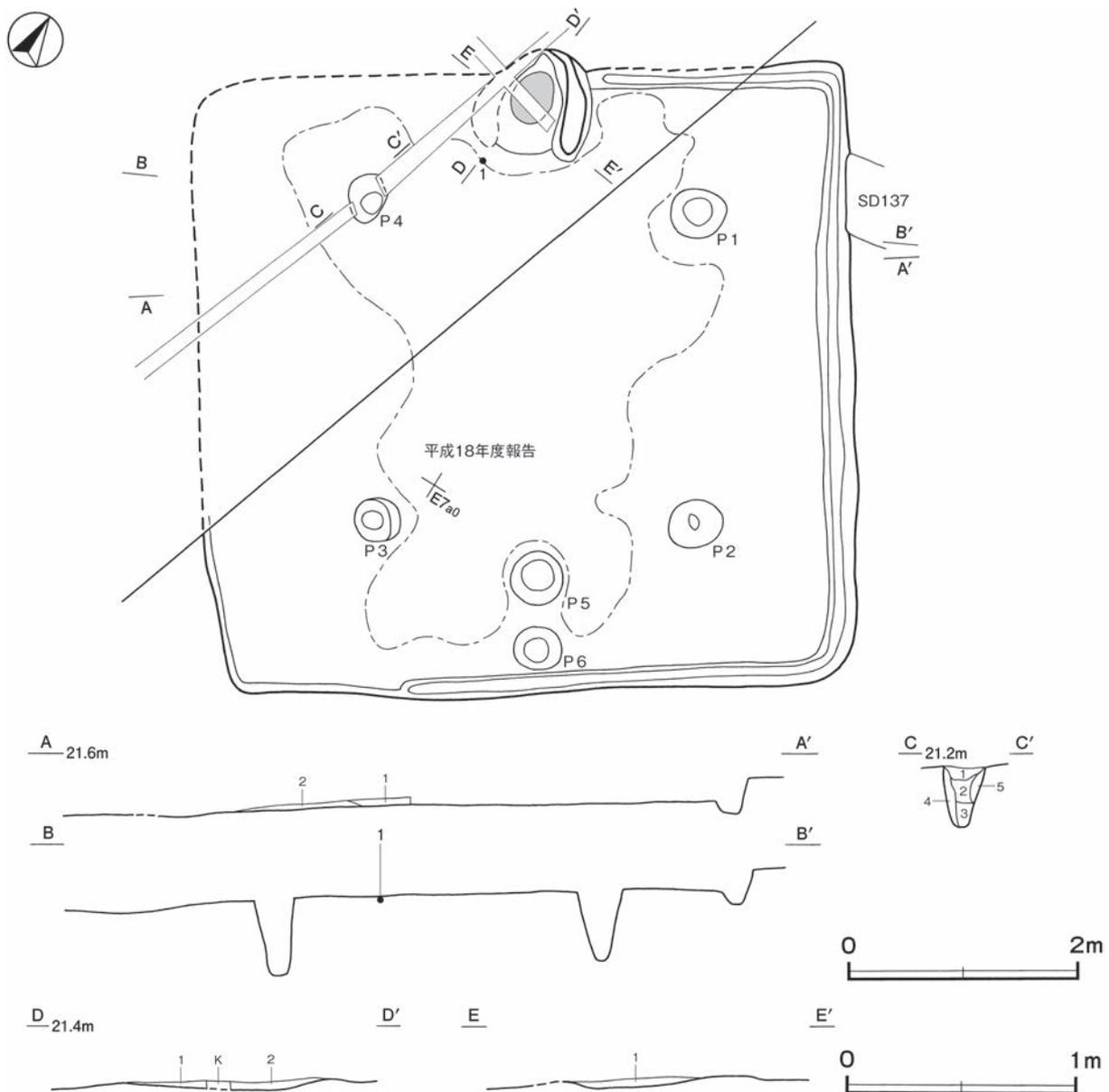
位置 14 区南西部の D 7j9 区、標高 21 m ほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 137 号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸 5.62 m、短軸 5.41 m の方形で、主軸方向は N - 33° - W である。壁は高さ 8 ~ 28cm で、ほぼ直立している。

床 平坦で、竈周辺から中央部にかけて踏み固められている。今回の調査部分では、壁溝は竈の東側でわずかに確認できたのみである。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 93cm で、燃烧部幅は 54cm である。袖部は削平のため明確ではないが、残存状況から地山を掘り残し、その上に粘土ブロックを積み上げて構築されていた



第 6 図 第 2441 号 竪穴建物跡実測図

と推定できる。火床部は床面を4cmほど掘りくぼめて構築され、火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に20cm掘り込まれ、煙道部から外傾している。

竈土層解説

- 1 暗褐色 焼土ブロック中量, 炭化粒子・粘土粒子少量 2 褐色 焼土粒子多量, 炭化粒子微量

ピット 6か所。P4は深さ66cmで、規模と配置から支柱穴である。第1～3層は柱抜き取り後の堆積層で、第4・5層は埋土である。P1～P3, P5, P6については、『第280集』を参照されたい。

ピット土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量 4 におい黄褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量
 2 褐色 ロームブロック多量 5 暗褐色 ローム粒子多量
 3 褐色 ロームブロック多量, 焼土ブロック・炭化粒子少量

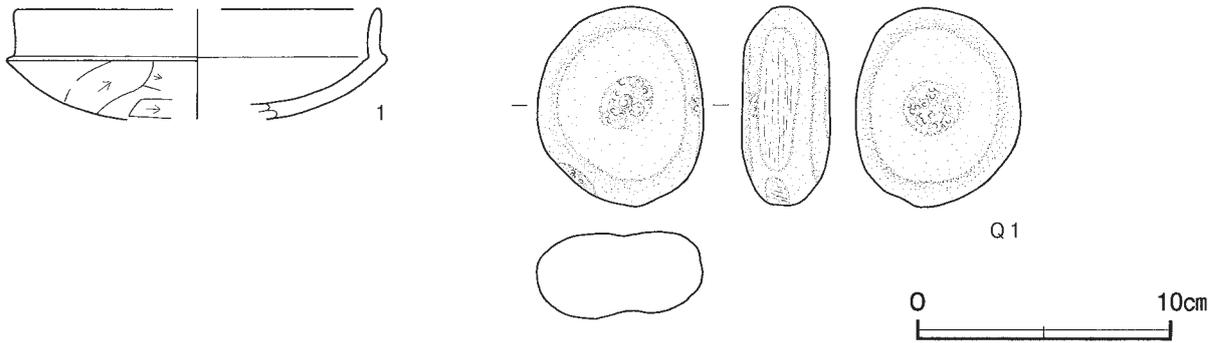
覆土 2層に分層できる。今回の調査では、覆土がわずかなため堆積状況の判断が困難であるが、既調査状況から埋め戻されている。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子多量, 焼土ブロック中量 2 褐色 ロームブロック多量, 焼土粒子少量

遺物出土状況 今回の調査では、土師器片8点(坏2, 高台付坏1, 甕5), 石器1点(磨石)のほか、須恵器片1点(甕)が出土している。1は竈周辺の床面から出土している。

所見 時期は、出土土器と既調査状況から6世紀後葉に比定できる。



第7図 第2441号竪穴建物跡出土遺物実測図

第2441号竪穴建物跡出土遺物観察表(第7図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	[14.2]	(4.4)	-	長石・赤色粒子	におい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ	覆土下層	30%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q1	磨石	7.9	6.6	3.5	261.4	安山岩	凹み3か所 磨痕2か所	覆土中	PL21

第3170号竪穴建物跡(第8・9図 PL3)

調査年度 東部は平成16年度に調査し、当財団調査報告『第280集』において報告している。東部以外は平成25年度に調査した。柱穴の番号については、今回報告分と合わせて、既調査分を新しい番号に更新した。

位置 14区西部のD7d3区、標高21mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸 6.60 m, 短軸 6.12 m の方形で, 主軸方向は N - 20° - W である。壁は高さ 8 ~ 21cm で, ほぼ直立している。

床 平坦で, 壁際までほぼ全面が踏み固められている。壁下には壁溝が全周している。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 144cm で, 燃烧部幅は 57cm である。全体を楕円形に床面から 14cm 掘りくぼめ, ロームブロックや粘土粒子を含む第 13 ~ 22 層を埋土して構築されている。袖部は, その上に粘土粒子や焼土ブロックを含んだ第 10 ~ 12 層を積み上げて構築されている。火床部は, 床面を 10cm ほど掘りくぼめて構築され, 火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に 50cm 掘り込まれ, 煙道部から外傾している。

竈土層解説

1 灰黄褐色	粘土ブロック多量, 焼土ブロック・炭化粒子中量	13 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子中量
2 灰黄褐色	焼土ブロック・粘土ブロック・炭化粒子中量	14 黒褐色	焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子中量
3 赤褐色	焼土ブロック多量	15 暗褐色	焼土ブロック多量, ロームブロック・炭化物中量, 粘土粒子少量
4 黒褐色	焼土ブロック多量, 粘土ブロック中量, 炭化粒子少量	16 暗褐色	ローム粒子中量, 炭化粒子・粘土粒子少量
5 黒褐色	焼土ブロック・粘土ブロック中量, 炭化粒子少量	17 にぶい黄褐色	粘土粒子中量, ローム粒子少量, 炭化粒子微量
6 暗赤褐色	焼土ブロック多量, 粘土ブロック中量, 炭化物少量	18 黒褐色	ロームブロック多量, 焼土ブロック・炭化粒子中量
7 にぶい黄褐色	粘土ブロック多量, 焼土ブロック・炭化物中量	19 暗褐色	焼土ブロック・炭化物・ローム粒子中量
8 暗褐色	粘土ブロック多量, 炭化物中量, 焼土ブロック少量	20 暗褐色	ローム粒子中量, 粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
9 にぶい黄褐色	ローム粒子多量, 焼土ブロック・粘土ブロック・炭化物中量	21 暗褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子微量
10 にぶい黄褐色	粘土粒子多量, 焼土ブロック・炭化物少量	22 暗褐色	粘土粒子多量, 焼土ブロック・炭化粒子中量
11 暗褐色	粘土粒子多量, 焼土ブロック中量, 炭化物少量		
12 にぶい黄褐色	粘土粒子多量, 焼土ブロック中量, 炭化粒子少量		

ピット 5 か所。P 1 ~ P 4 は深さ 40 ~ 88cm で, 規模と配置から主柱穴である。P 5 は深さ 42cm で, 南壁際の中央部に位置していることから, 出入り口施設に伴うピットと考えられる。第 1 ~ 5 層は柱抜き取り後の堆積層で, 第 6 層は埋土である。P 2 については、『第 280 集』を参照されたい。

ピット土層解説

1 暗褐色	ロームブロック中量, 炭化物少量	4 にぶい黄褐色	ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化粒子少量
2 暗褐色	ローム粒子多量	5 暗褐色	ロームブロック中量
3 灰黄褐色	ロームブロック中量	6 黒褐色	ロームブロック多量

貯蔵穴 北東コーナー部に付設されている。長径 96cm, 短径 82cm の楕円形で, 深さは 40cm である。底面は平坦で, 壁は外傾している。

貯蔵穴土層解説

1 黒褐色	ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化物少量	3 暗褐色	ロームブロック中量, 炭化物少量
2 極暗褐色	ロームブロック・炭化物中量		

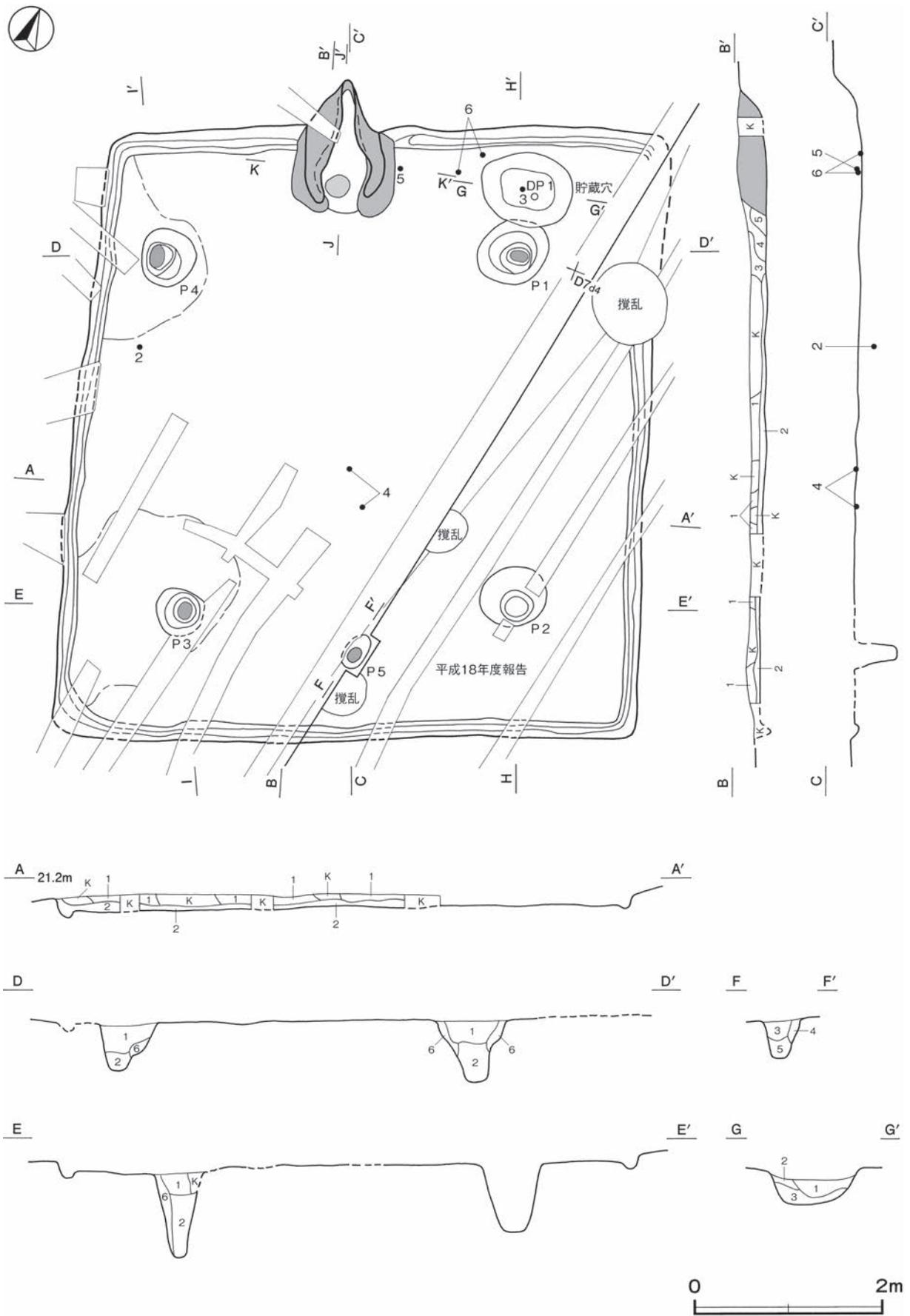
覆土 5 層に分層できる。多くの層にロームブロックや粘土ブロックが含まれていることから, 埋め戻されている。

土層解説

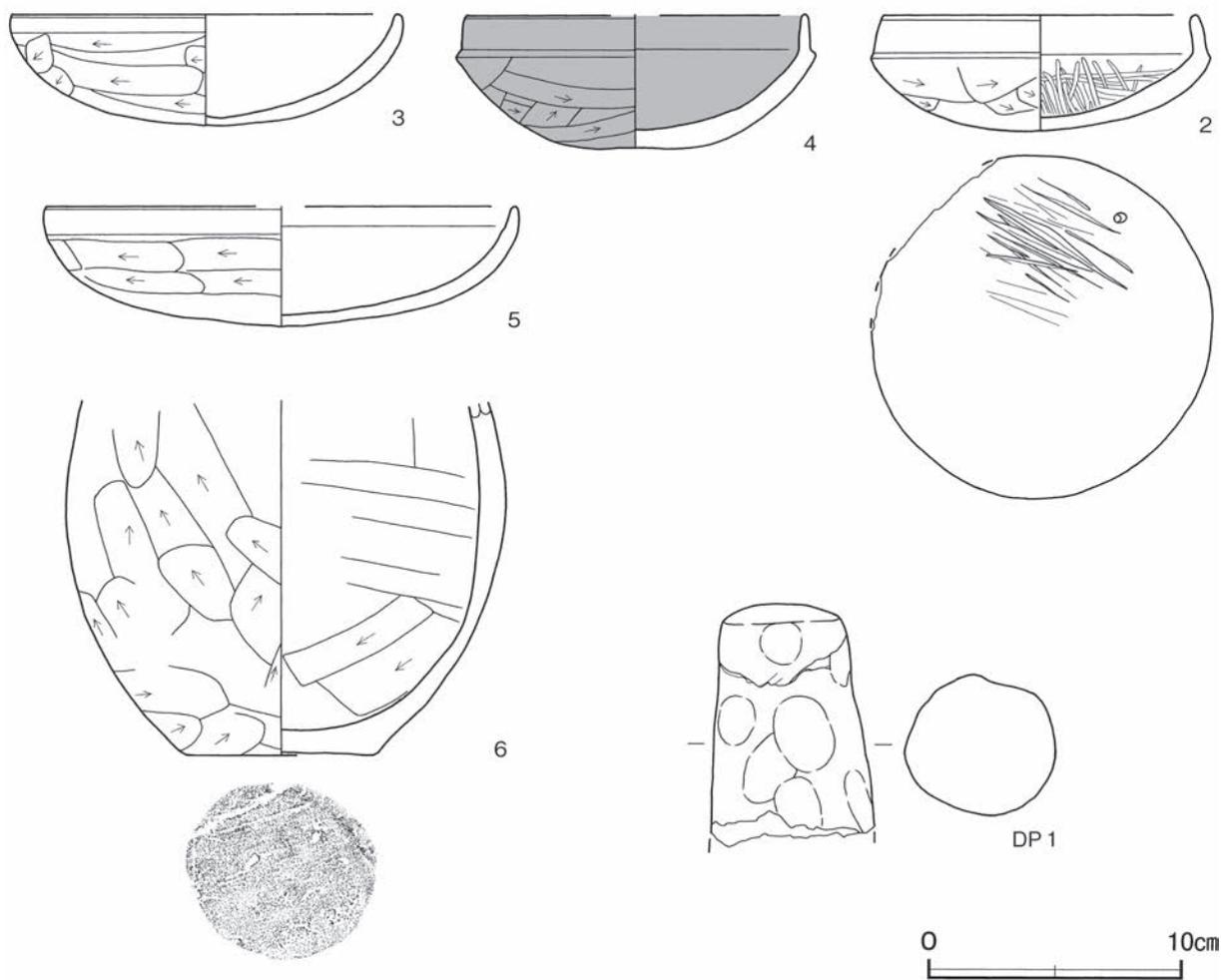
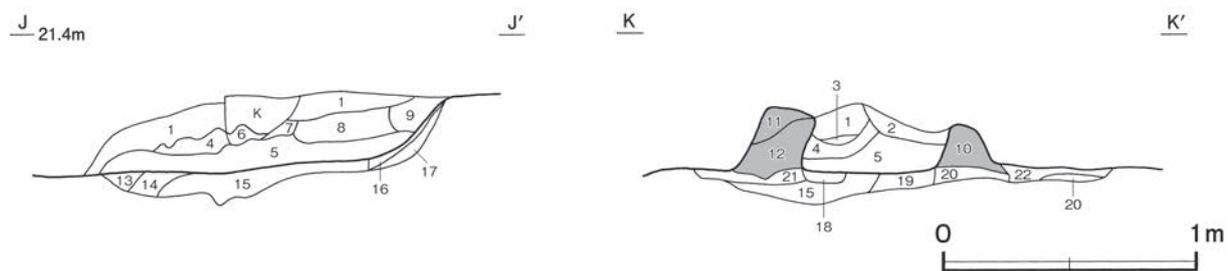
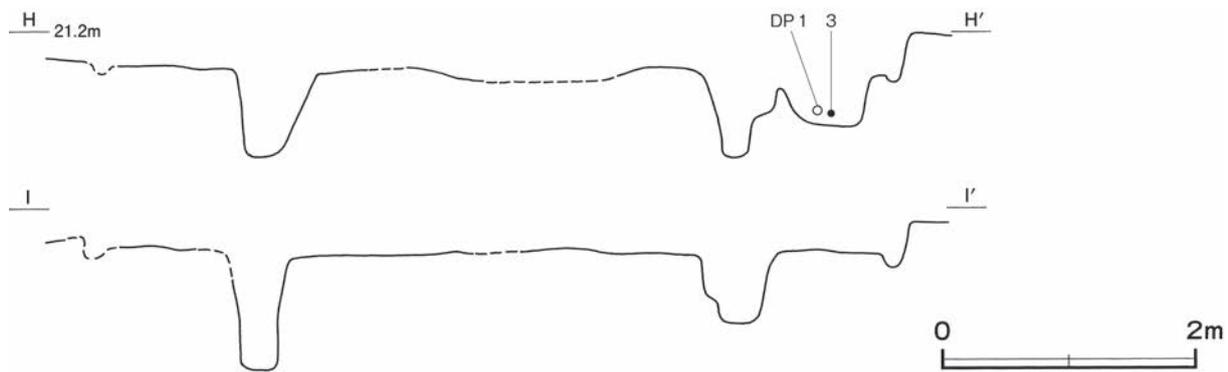
1 暗褐色	ロームブロック・炭化物少量	4 暗褐色	ロームブロック多量, 焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量
2 にぶい黄褐色	ローム粒子少量	5 灰黄褐色	粘土ブロック・焼土ブロック・炭化粒子中量
3 黒褐色	ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化物少量		

遺物出土状況 今回の調査では, 土師器片 395 点 (坏 49, 高坏 3, 甕 341, 甗 2), 手捏土器 1 点, 土製品 2 点 (支脚) のほか, 縄文土器片 3 点 (深鉢), 須恵器片 4 点 (坏 1, 甕 3), 土師質土器片 1 点 (鍋), 陶器片 1 点 (碗), 磁器片 1 点 (猪口), 粘土塊 4 点, 礫 1 点, 全体の覆土下層から床面にかけて出土している。埋め戻しの過程で廃棄されたと考えられる。3・DP 1 は貯蔵穴の覆土下層から出土しており, 廃絶時に遺棄されたものとみられる。2 は掘方の覆土中から出土している。

所見 時期は, 出土土器と既調査状況から 6 世紀後葉に比定できる。



第8図 第3170号竪穴建物跡実測図



第9図 第3170号竖穴建物跡・出土遺物実測図

第 3170 号 竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 9 図)

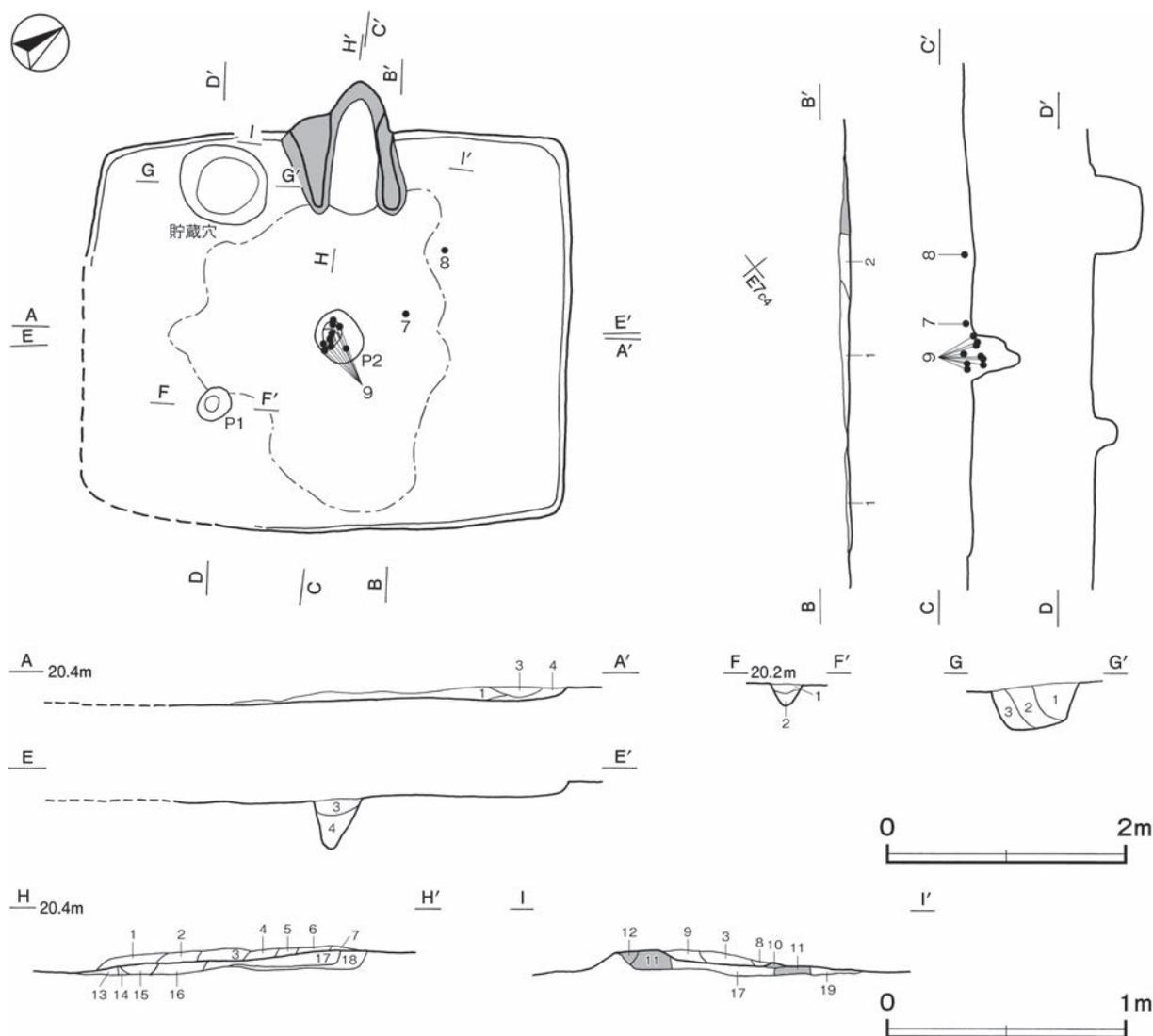
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
2	土師器	坏	12.3	4.6	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 内面へら磨き 底部砥石に転用	掘方覆土中	80% PL15
3	土師器	坏	15.2	4.4	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 内面ナデ	貯蔵穴 覆土下層	90% PL15
4	土師器	坏	[13.3]	5.4	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 内面ナデ	床面	50%
5	土師器	坏	[18.5]	4.8	-	長石・赤色粒子	浅黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 内面ナデ	床面	40%
6	土師器	甕	-	(14.1)	7.4	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部外面へら削り 内面へら削り後へらナデ	床面	40%

番号	器種	長さ	最大径	最小径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 1	支脚	(9.7)	(6.5)	4.6	(320.7)	長石・石英	にぶい橙	ナデ 指頭圧痕	貯蔵穴 覆土下層	PL22

第 3177 号 竪穴建物跡 (第 10・11 図 PL 3)

調査年度 平成 25 年度

位置 14 区南西部の E 7 c3 区, 標高 20 m ほどの台地斜面部に位置している。



第 10 図 第 3177 号 竪穴建物跡実測図

規模と形状 長軸 4.06 m, 短軸 3.38 m の長方形で, 主軸方向は N - 51° - W である。壁は高さ 4 ~ 10cm で, 外傾している。

床 平坦である。竈周辺から中央部にかけて踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設されている。右袖は残存状態が不良で, 明確ではない。規模は焚口部から煙道部まで 114cm で, 燃焼部幅は 40cm である。全体を楕円形に床面から 5cm 掘りくぼめ, ロームブロックや粘土粒子を含んだ第 13 ~ 19 層を埋土して構築されている。袖部は, その上に粘土粒子やローム粒子を含んだ第 10 ~ 12 層を積み上げて構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで, 明確な火床面は確認できない。煙道部は壁外に 46cm 掘り込まれ, 煙道部から外傾している。

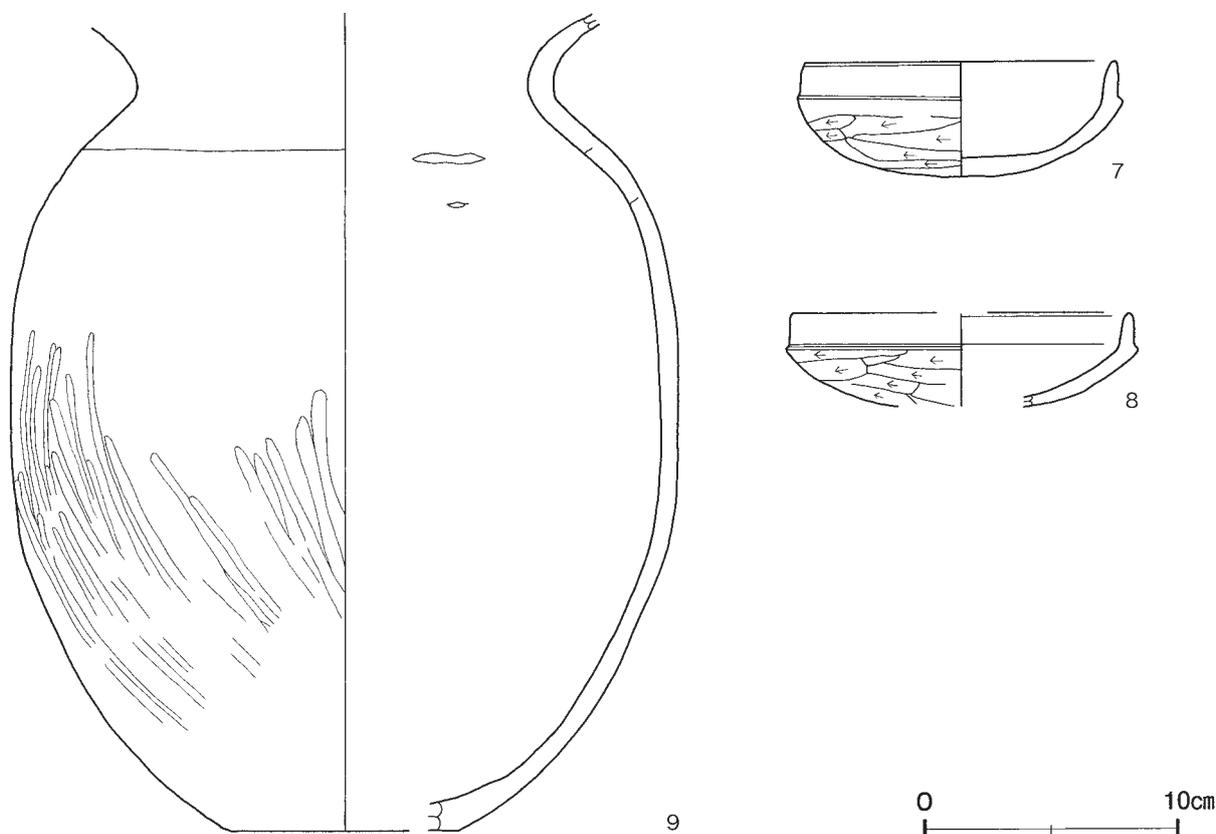
竈土層解説

1 暗褐色	焼土粒子中量, 炭化粒子・粘土粒子少量	11 にぶい黄褐色	粘土粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子少量
2 褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子・粘土粒子微量	12 にぶい黄褐色	ロームブロック・粘土粒子中量
3 暗褐色	焼土粒子・炭化粒子中量, 粘土粒子少量	13 黒褐色	ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化粒子少量
4 暗褐色	焼土ブロック多量, 炭化粒子中量, ロームブロック少量	14 暗褐色	ローム粒子多量
5 にぶい黄褐色	焼土ブロック中量, ローム粒子・炭化粒子少量	15 暗褐色	焼土ブロック多量, 炭化物中量, ロームブロック少量
6 にぶい赤褐色	焼土粒子多量, 粘土粒子中量	16 褐色	ロームブロック多量, 焼土ブロック少量
7 暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子少量	17 黒褐色	焼土ブロック多量, ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子中量
8 暗褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量	18 暗褐色	粘土粒子中量, 焼土ブロック・炭化粒子少量
9 黒褐色	焼土粒子中量, 炭化粒子・粘土粒子少量	19 暗褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子少量
10 にぶい黄褐色	粘土粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量		

ピット 2か所。P1は深さ 20cm, P2は深さ 40cmで, ともに柱穴と考えられるが, 詳細は不明である。

ピット土層解説

1 暗褐色	ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化物少量	3 暗褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗褐色	ロームブロック中量	4 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量



第 11 図 第 3177 号竪穴建物跡出土遺物実測図

貯蔵穴 北西コーナー部に付設されている。長径 70cm, 短径 68cmの円形で、深さは 40cmである。底面は平坦で、壁はほぼ直立している。

貯蔵穴土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------------|----------|-------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物中量, 粘土粒子微量 | 2 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化物少量 |
| | | 3 におい黄褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子少量 |

覆土 4層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------|-------|----------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片 60点(坏 26, 甕 34), 自然遺物(種子)のほか、縄文土器片 1点(深鉢)が出土している。9はP2の覆土上層から横位で出土しており、廃絶時、柱抜き取り後に遺棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から7世紀前葉と比定できる。

第 3177 号 竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 11 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考	
7	土師器	坏	12.1	4.5	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 内面ナデ	体部外面ヘラ削り	覆土下層	50% PL15
8	土師器	坏	[13.3]	(3.7)	-	長石・石英・赤色粒子	におい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 内面ナデ	体部外面ヘラ削り	覆土下層	40%
9	土師器	甕	-	(32.5)	[9.0]	長石・石英・雲母・細礫	におい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 内面ヘラナデ	体部外面ヘラ磨き	P2 覆土上層	80% PL19

第 3179 号 竪穴建物跡 (第 12・13 図)

調査年度 平成 25 年度

位置 14 区南西部の E 7e5 区、標高 20 m ほどの台地斜面部に位置している。

重複関係 第 3188 号 竪穴建物跡を掘り込み、第 7411・7412・7466 号 土坑に掘り込まれている。

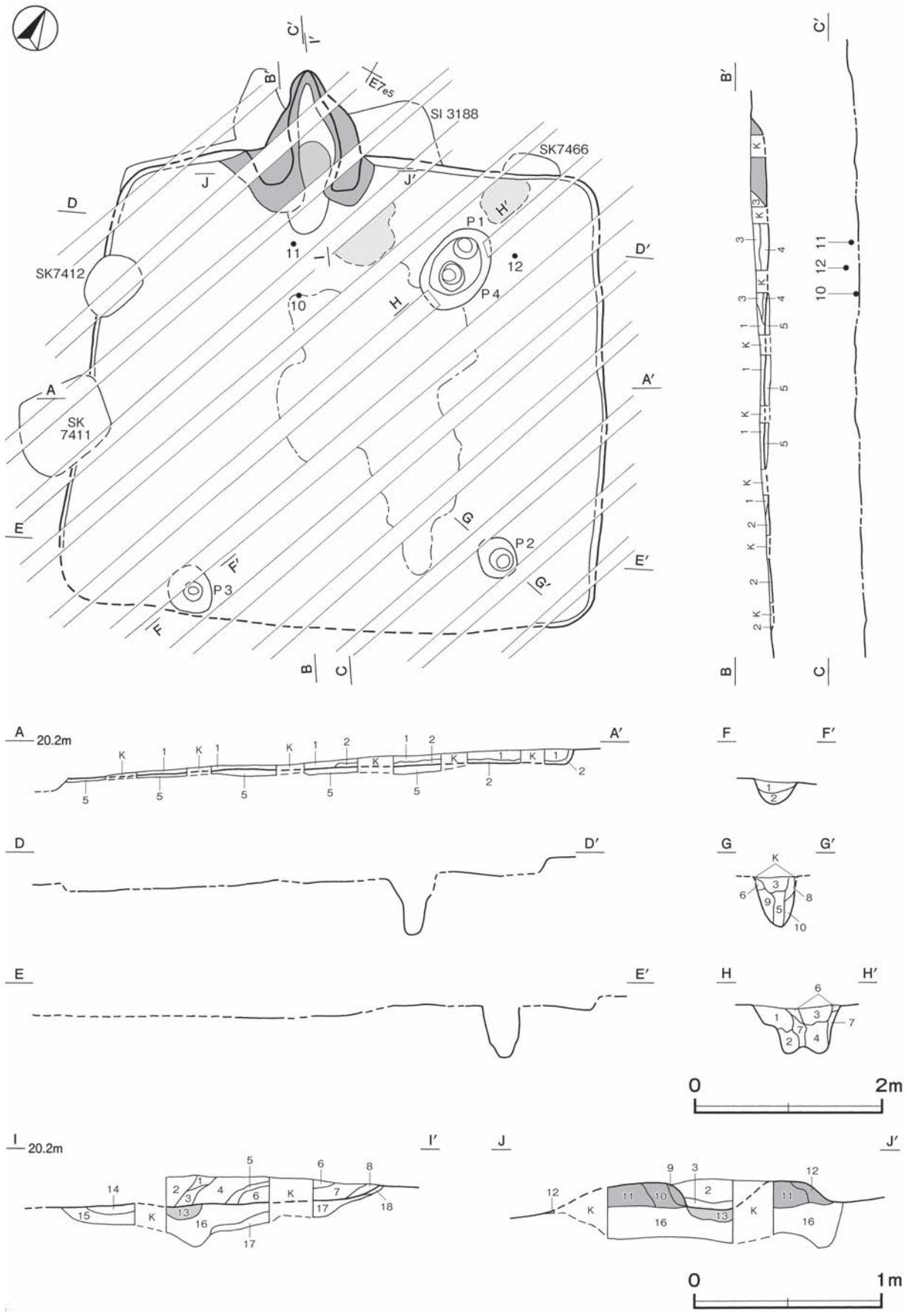
規模と形状 長軸 5.75 m で、短軸は 5.12 m しか確認できなかった。長方形で、主軸方向は N - 30° - W と推定される。壁は高さ 3 ~ 18cm で、外傾している。

床 平坦な貼床で、中央部が踏み固められている。貼床は、全体を平坦に掘り下げ、ロームブロックを含む第 5 層を埋土して構築されている。竈周辺及び北東部壁際から焼土が出土している。

竈 北壁のやや西寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 178cm で、燃焼部幅は 39cm である。全体を楕円形に床面から 25cm 掘りくぼめ、ロームブロックを含んだ第 13 ~ 18 層を埋土して構築されている。袖部は、その上に粘土粒子や焼土ブロックを含んだ第 9 ~ 12 層を積み上げて構築されている。火床部は、第 16 層上面に構築され、第 13 層は火床面で火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に 90cm 掘り込まれ、火床部から外傾している。

竈土層解説

- | | | | |
|----------|-----------------------------|-----------|-------------------------------|
| 1 暗褐色 | 焼土粒子少量, 炭化粒子・粘土粒子微量 | 11 におい黄褐色 | 粘土粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 2 暗褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 | 12 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック中量, 炭化粒子・粘土粒子少量 |
| 3 暗褐色 | 焼土粒子中量, 炭化粒子・粘土粒子微量 | | |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 13 赤褐色 | 焼土ブロック多量 |
| 5 暗褐色 | 粘土粒子中量, 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量 | 14 暗褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子中量 |
| 6 暗赤褐色 | 焼土粒子多量, 炭化物・粘土粒子中量 | 15 黒褐色 | 焼土ブロック多量, 炭化物中量, ローム粒子少量 |
| 7 暗赤褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量 | 16 暗褐色 | 焼土ブロック・炭化物中量, ロームブロック少量 |
| 8 におい黄褐色 | 粘土粒子多量, 焼土ブロック・炭化粒子少量 | 17 暗褐色 | ローム粒子多量, 炭化粒子中量, 焼土粒子少量 |
| 9 暗褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子中量, ロームブロック少量 | 18 暗褐色 | 炭化粒子・粘土粒子中量, ローム粒子少量 |
| 10 暗赤褐色 | 焼土ブロック多量, 粘土粒子中量, ロームブロック少量 | | |



第 12 图 第 3179 号竖穴建物跡実測图

ピット 4か所。P1～P4は深さ26～65cmで、規模と配置から支柱穴である。第1～5層は柱抜き取り後の覆土、第6～10層は埋土である。土層及び配置から、P4からP1へ柱を立て替えたことが考えられる。

ピット土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|--------|---------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子中量 | 6 暗褐色 | ローム粒子多量, 焼土ブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量 | 7 褐色 | ローム粒子多量, 焼土ブロック少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土ブロック・炭化粒子少量 | 8 暗褐色 | ロームブロック多量, 焼土ブロック少量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック中量 | 9 褐色 | ローム粒子多量, 焼土ブロック微量 |
| 5 黒褐色 | ロームブロック中量 | 10 黒褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子少量 |

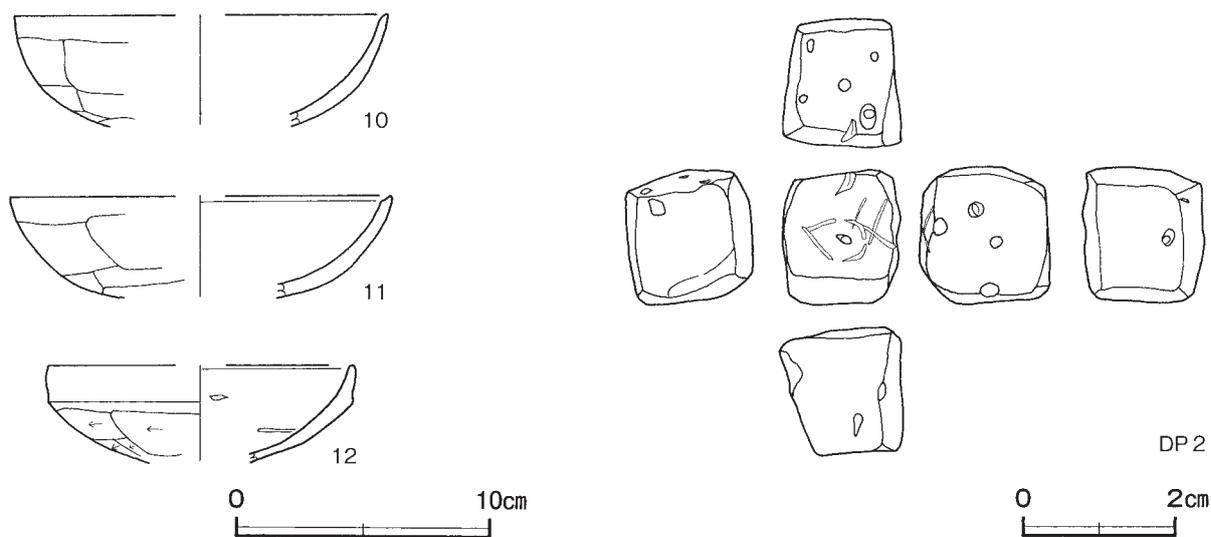
覆土 4層に分層できる。各層にロームブロックや焼土ブロック・炭化物が含まれていることから、埋め戻されている。第5層は、貼床の構築土である。

土層解説

- | | | | |
|----------|--------------------------|-------|-----------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・炭化物・焼土粒子中量 | 4 黒褐色 | 焼土粒子多量, ロームブロック・炭化物少量 |
| 2 にぶい赤褐色 | ロームブロック多量, 焼土ブロック・炭化粒子少量 | 5 褐色 | ロームブロック多量, 炭化粒子微量 |
| 3 灰黄褐色 | ロームブロック・焼土ブロック中量, 炭化粒子少量 | | |

遺物出土状況 土師器片199点(坏53, 甕145, 甑1), 土製品3点(支脚2, 不明土製品1)のほか、須恵器片2点(坏), 陶器片6点(碗), 磁器片1点(碗), 瓦片2点, 金属製品1点(鉛玉)が竈周辺の覆土上層から床面にかけて出土している。10～12は、それぞれ埋め戻しの過程で、廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から7世紀前葉に比定できる。



第13図 第3179号竪穴建物跡出土遺物実測図

第3179号竪穴建物跡出土遺物観察表(第13図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
10	土師器	坏	[14.6]	(4.4)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外・内面ナデ	覆土下層	10%
11	土師器	坏	[15.0]	(4.0)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外・内面ナデ	覆土中層	10%
12	土師器	坏	[12.0]	(3.8)	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ヘラ削り内面ナデ	覆土上層	30%

番号	器種	長さ	幅	高さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP2	不明土製品	1.8	1.6	1.7	5.7	長石・石英	にぶい黄橙	サイコロ状 線刻 刺突痕	覆土中	PL22

第 3181 号竪穴建物跡 (第 14 図)

調査年度 平成 25 年度

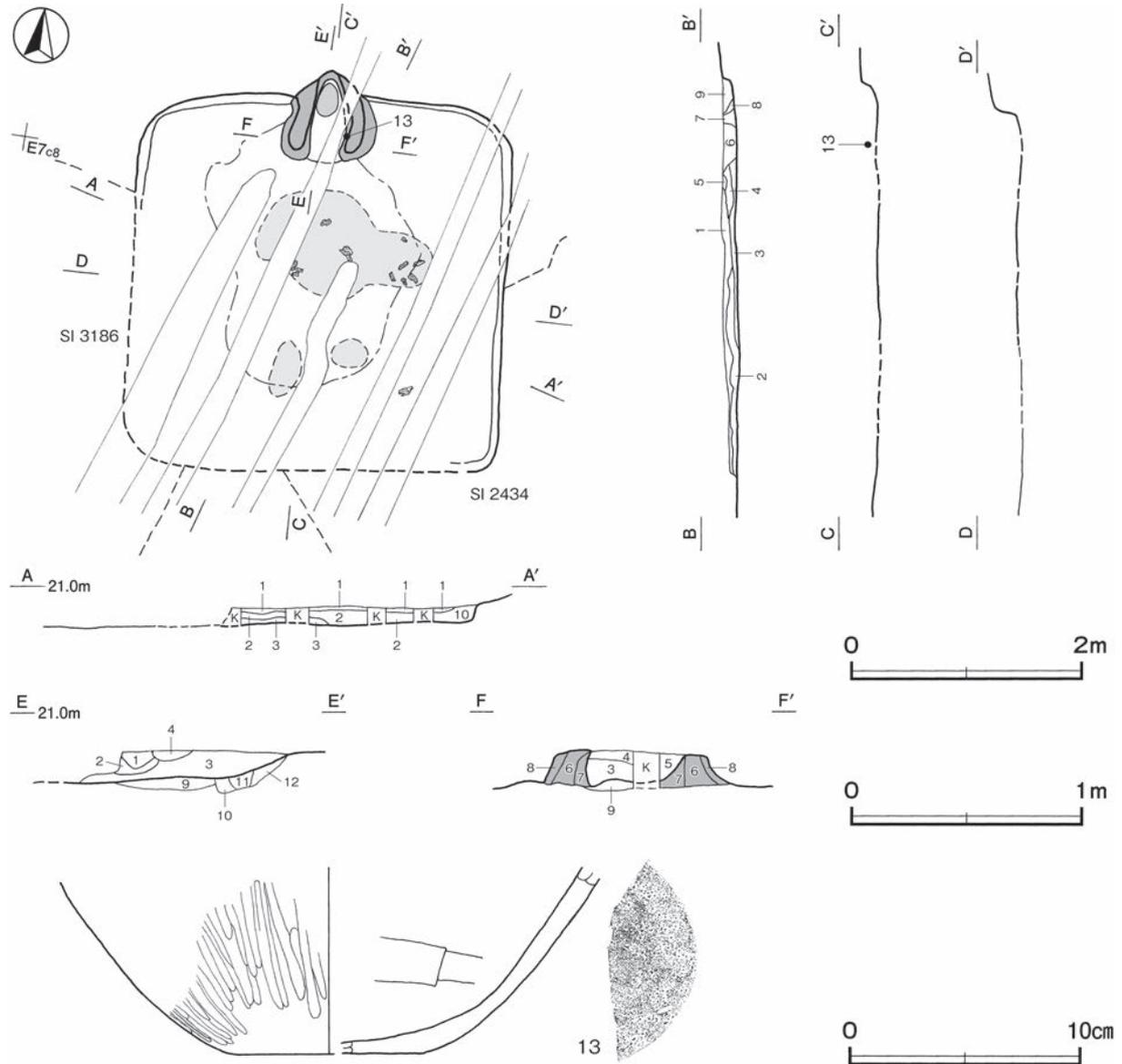
位置 14 区南西部の E 7c8 区, 標高 21 m ほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 2434 号竪穴建物跡を掘り込み, 第 3186 号竪穴建物跡に掘り込まれている。

規模と形状 南部が削平されているため, 推定規模は, 長軸 3.25 m, 短軸 3.24 m である。平面形は方形で, 主軸方向は N - 5° - W と推定できる。壁は高さ 7 ~ 14 cm で, ほぼ直立している。

床 平坦で, 竈の焚口部から中央部にかけて踏み固められている。中央部から炭化材及び焼土が出土している。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 82 cm で, 燃焼部幅は 34 cm である。袖部は, 粘土粒子を含んだ第 6 ~ 8 層を積み上げて構築されている。火床部は全体を楕円形に床面から 5 cm 掘りくぼめ, 第 9 ~ 12 層を埋土して構築されている。火床面は, 火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に 20 cm 掘り込まれ, 火床部から外傾している。



第 14 図 第 3181 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

竈土層解説

1 暗赤褐色	焼土粒子多量, 炭化物・ローム粒子・粘土粒子少量	7 黒褐色	焼土ブロック・炭化粒子多量
2 褐色	焼土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量	8 褐色	ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子少量, 焼土粒子微量
3 暗褐色	焼土ブロック多量, 炭化粒子中量	9 黒褐色	炭化粒子多量, 焼土ブロック中量
4 褐色	ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子少量, 粘土粒子微量	10 褐色	ロームブロック多量
5 褐色	焼土粒子中量, 炭化粒子少量, ローム粒子微量	11 褐色	焼土ブロック多量, 炭化粒子中量
6 黄褐色	粘土ブロック多量, 炭化粒子微量	12 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量

覆土 10層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれ、不規則な堆積状況を示していることから、埋め戻されている。

土層解説

1 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物中量	6 暗褐色	ロームブロック多量, 焼土ブロック・炭化粒子少量
2 暗褐色	ロームブロック多量, 炭化物中量, 焼土ブロック少量	7 におい黄褐色	粘土粒子多量
3 暗褐色	炭化物多量, ロームブロック中量	8 暗褐色	ローム粒子多量, 炭化物少量
4 暗褐色	ローム粒子多量, 炭化粒子中量, 焼土ブロック少量	9 暗褐色	ロームブロック・炭化物中量
5 におい黄褐色	粘土粒子多量, 焼土ブロック・炭化物中量	10 暗褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子少量

遺物出土状況 土師器片 60点 (坏 15, 甕 45), 須恵器片 4点 (甕), 粘土塊 1点が出土している。13は、竈内部の右袖脇から出土していることから、竈の廃絶時に遺棄されたものとみられる。

所見 時期は、出土土器と重複関係から7世紀代と考えられる。

第 3181 号 竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 14 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
13	土師器	甕	-	(8.2)	[8.2]	長石・石英・赤色粒子	におい黄褐色	普通	体部外面ヘラ磨き 内面ヘラナデ	竈覆土中層	5%

第 3182 号 竪穴建物跡 (第 15 図)

調査年度 平成 25 年度

位置 14 区南西部の D 7 j6 区, 標高 21 m ほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 589 号溝に掘り込まれている。

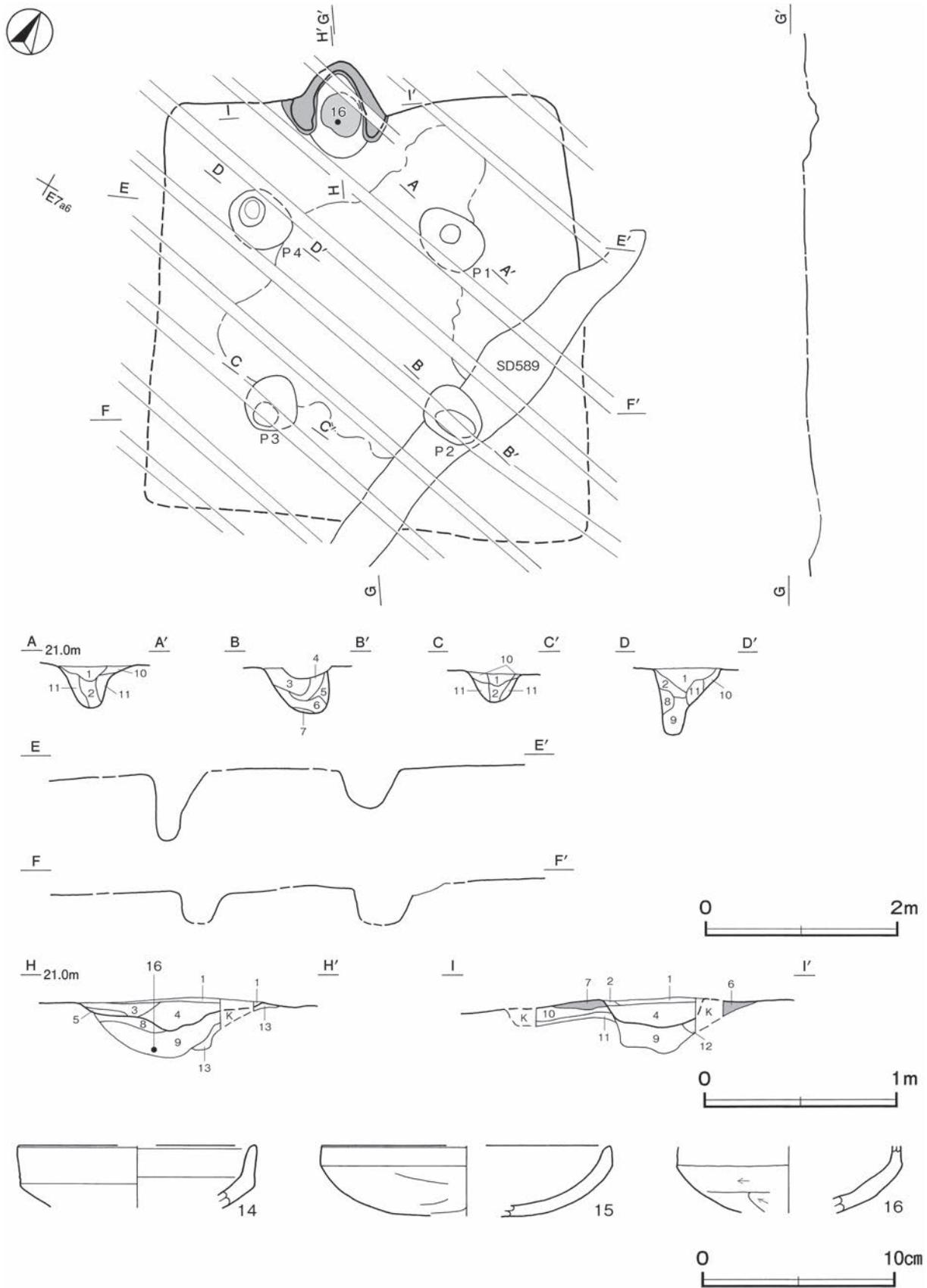
規模と形状 南部が削平を受けているため, 推定される規模は, 長軸 4.62 m, 短軸 4.18 m である。確認した柱穴の位置から, 長方形で, 主軸方向は N - 34° - W と推定できる。

床 平坦で, 中央部が踏み固められている。

竈 北壁に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 92cm で, 燃焼部幅は 48cm である。全体を楕円形に床面から 30cm 掘りくぼめ, 第 8 ~ 13 層を埋土して構築されている。袖部は, その上に粘土粒子を含んだ第 6・7 層を積み上げて構築されている。火床面は, 第 8・9 層上面で, 火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に 30cm 掘り込まれ, 火床部から外傾している。

竈土層解説

1 暗褐色	焼土粒子中量, 粘土粒子少量, 炭化粒子微量	9 暗褐色	粘土粒子中量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
2 暗褐色	炭化粒子・粘土粒子中量, 焼土粒子少量	10 におい黄褐色	ロームブロック・粘土粒子中量, 焼土ブロック少量
3 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量	11 暗褐色	ロームブロック中量, 焼土ブロック少量
4 褐色	焼土粒子中量, 炭化粒子微量	12 暗褐色	粘土ブロック多量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
5 黒褐色	焼土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量	13 黒褐色	ローム粒子多量, 焼土ブロック少量
6 におい黄褐色	粘土粒子多量, ロームブロック中量		
7 におい黄褐色	粘土粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子中量		
8 暗褐色	焼土ブロック多量, ローム粒子・炭化粒子少量		



第 15 図 第 3182 号竖穴建物跡・出土遺物実測図

ピット 4か所。P1～P4は深さ32～70cmで、規模と配置から支柱穴である。第1～9層は柱抜き取り後の堆積層で、第10・11層は埋土である。

ピット土層解説

- | | | | |
|----------|--------------------------|--------|--------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック中量, 炭化物少量 | 7 黒褐色 | ローム粒子中量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック中量, 炭化粒子少量 | 8 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 暗褐色 | 焼土ブロック中量, ローム粒子少量 | 9 暗褐色 | ロームブロック・炭化物少量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子多量 | 10 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック中量, 炭化粒子少量 |
| 5 黒褐色 | ロームブロック中量 | 11 黒褐色 | ローム粒子多量, 焼土ブロック・炭化粒子少量 |
| 6 にぶい黄褐色 | ロームブロック多量 | | |

遺物出土状況 土師器片21点(坏9, 甕12)のほか、縄文土器片1点(深鉢)が出土している。16は、竈掘方の覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から7世紀前葉に比定できる。

第3182号竪穴建物跡出土遺物観察表(第15図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
14	土師器	坏	[122]	(3.2)	-	赤色粒子	灰黄褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外・内面ナデ	覆土中	5%
15	土師器	坏	[148]	(3.7)	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外・内面ナデ	覆土中	10%
16	土師器	坏	-	(3.5)	-	長石・赤色粒子・細礫	浅黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面へラ削り内面ナデ	竈掘方下層	10%

第3183号竪穴建物跡(第16～19図 PL3・4)

調査年度 平成25年度

位置 14区西部のD6j9区、標高20mほどの台地斜面部に位置している。

規模と形状 長軸3.78m、短軸3.64mの方形で、主軸方向はN-36°-Wである。壁は高さ18～42cmで、ほぼ直立している。

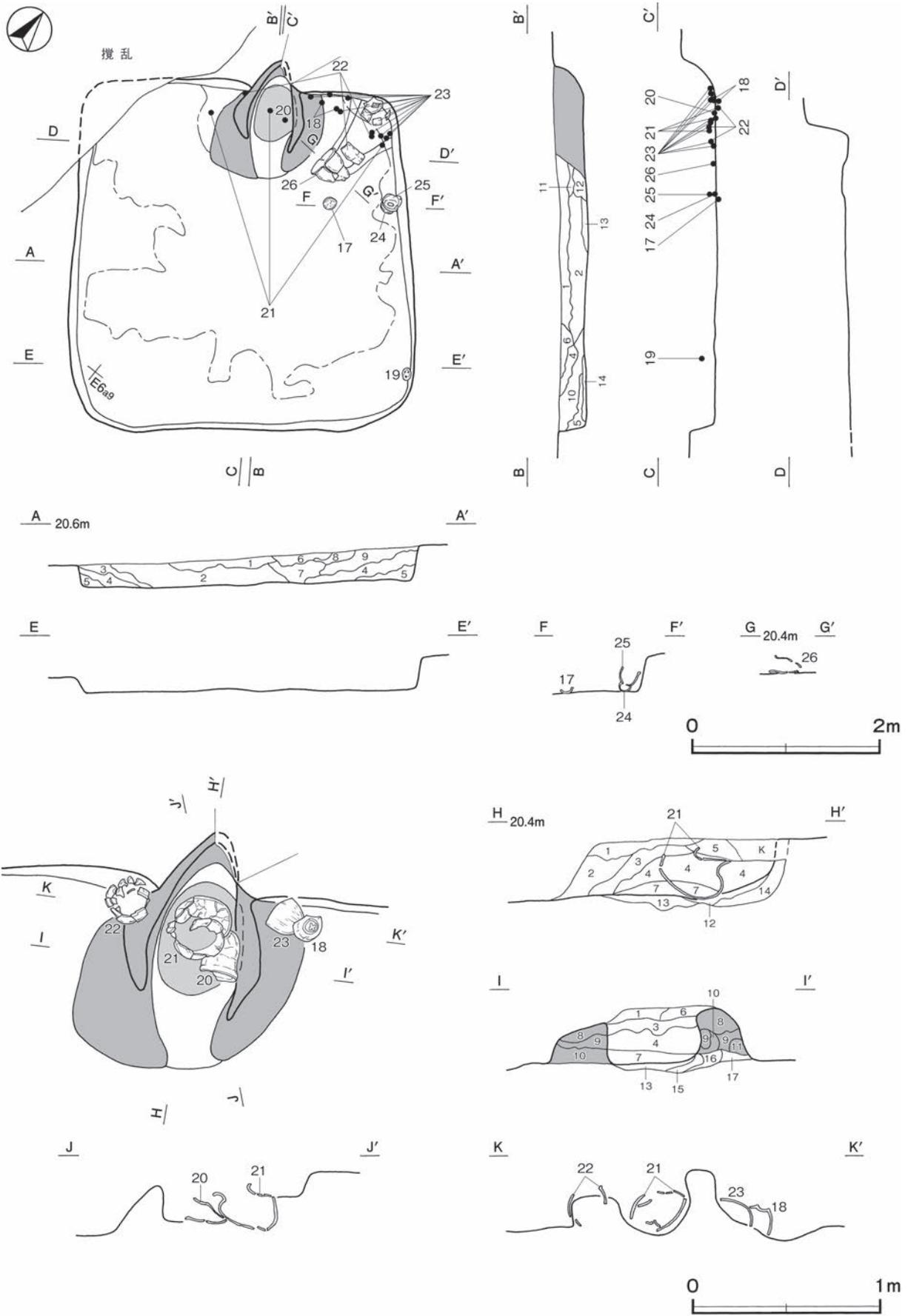
床 ほぼ平坦で、北東コーナー部に7cmほどの高まりが確認できた。竈の焚口部から中央部にかけて踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで130cmで、燃焼部幅は48cmである。床面から10cm掘りくぼめ、第12～17層を埋土して構築されている。袖部は、その上に粘土粒子を含んだ第8～11層を積み上げて構築されている。火床面は、第13層上面で、火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に35cm掘り込まれ、火床部から外傾している。

竈土層解説

- | | | | |
|----------|--------------------------------|--------|---------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子中量, 炭化粒子少量 | 8 暗褐色 | 粘土粒子中量, 炭化粒子少量 |
| 2 暗褐色 | 焼土粒子多量, ロームブロック・炭化物・粘土ブロック中量 | 9 暗褐色 | 粘土粒子中量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 3 にぶい黄褐色 | 炭化物・粘土粒子多量, 焼土ブロック少量 | 10 暗褐色 | 粘土粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 4 にぶい黄褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子中量 | 11 暗褐色 | 炭化物・粘土粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 5 暗褐色 | 粘土粒子多量, 焼土粒子中量, 炭化粒子少量 | 12 暗褐色 | 焼土ブロック・粘土粒子中量, 炭化粒子少量 |
| 6 にぶい黄褐色 | 粘土粒子多量, 焼土ブロック・炭化粒子中量, ローム粒子少量 | 13 黒色 | 炭化粒子多量, 焼土ブロック中量 |
| 7 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック・炭化物・粘土粒子中量, ローム粒子少量 | 14 褐色 | 炭化粒子中量, 焼土粒子・粘土粒子少量 |
| | | 15 黒褐色 | 炭化粒子多量, 焼土粒子少量 |
| | | 16 褐色 | 焼土粒子・粘土粒子中量, 炭化粒子少量 |
| | | 17 黒褐色 | 炭化粒子多量, 焼土粒子中量 |

覆土 14層に分層できる。各層にロームブロックや焼土ブロック・炭化物が含まれ、不規則に堆積していることから埋め戻されている。



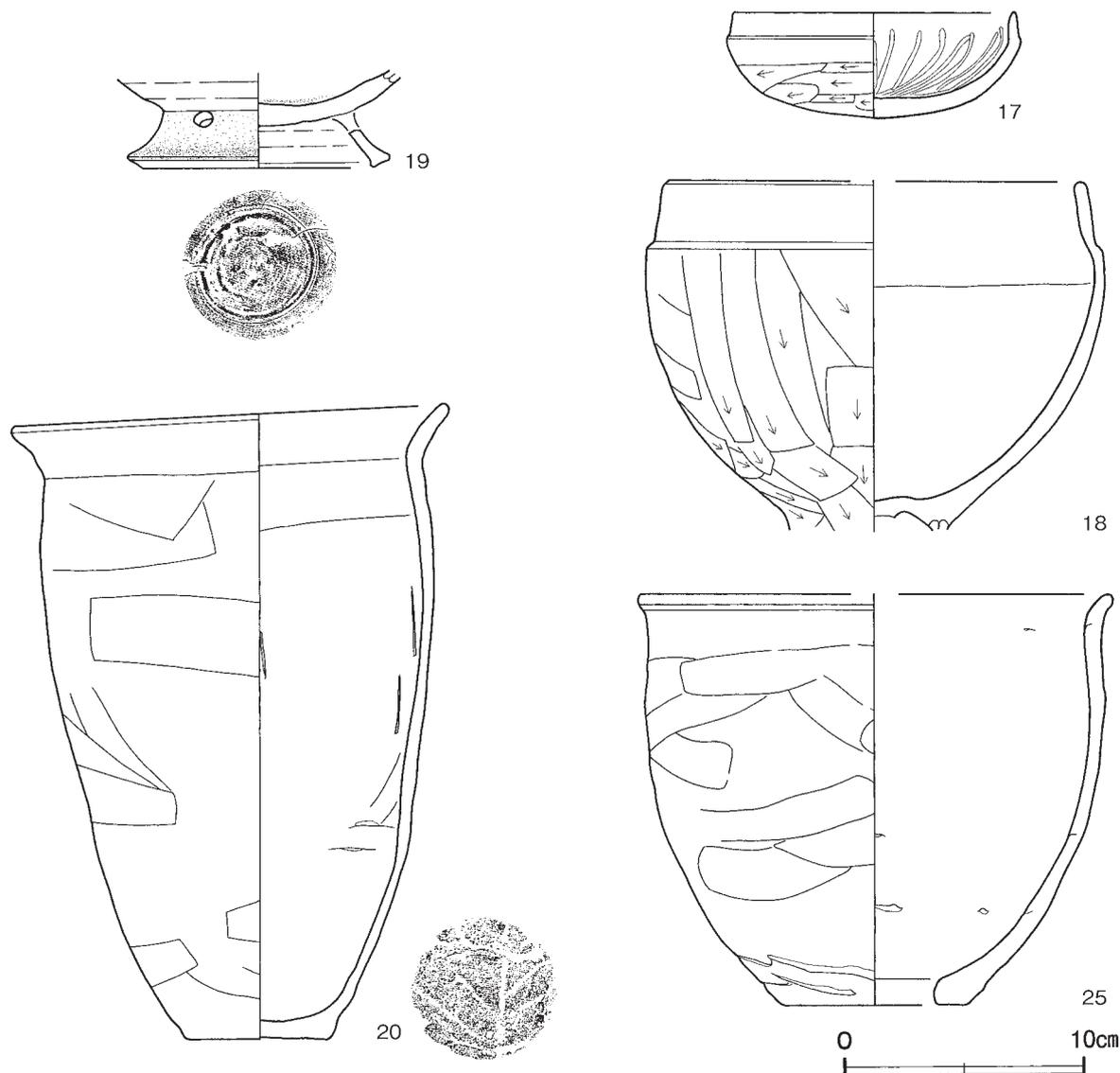
第 16 図 第 3183 号竖穴建物跡実測図

土層解説

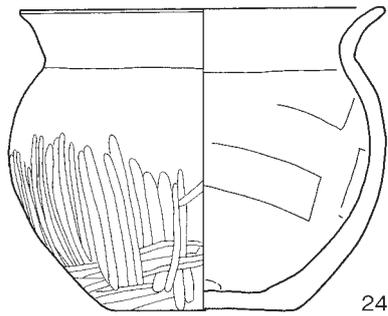
- | | | | |
|-------|--------------------------|-----------|--------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック多量, 炭化物少量 | 8 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック中量, 炭化物少量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子多量, 焼土ブロック・炭化物中量 | 9 黒褐色 | ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子中量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化粒子少量 | 10 暗褐色 | ロームブロック多量, 焼土ブロック・炭化粒子少量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化物中量 | 11 黒褐色 | ロームブロック・粘土粒子中量, 炭化物少量 |
| 5 褐色 | ローム粒子多量, 焼土ブロック・炭化粒子少量 | 12 にぶい黄褐色 | 粘土粒子多量, ローム粒子・炭化粒子中量 |
| 6 黒褐色 | 焼土粒子多量, ロームブロック・炭化物中量 | 13 黒褐色 | ローム粒子多量, 炭化物中量 |
| 7 暗褐色 | 炭化物・ローム粒子・焼土粒子多量 | 14 褐色 | ロームブロック多量, 炭化物少量 |

遺物出土状況 土師器片 57 点 (坏 7, 脚付鉢 1, 甕 41, 小形甕 1, 甌 7), 須恵器片 3 点 (坏 2, 脚付長頸壺 1) のほか, 陶器片 1 点 (碗) が竈周辺の床面を中心に出土している。17 は中央部やや東側の床面から正位で, 20 は竈の火床部, 26 は竈の東側の床面からそれぞれ横位で, 24・25 は甕に甌を載せた状態で中央東壁付近の床面から正位でそれぞれ出土しており, 廃絶時に遺棄されたものといえる。また, 18・21～23 はそれぞれ床面から覆土下層にかけての覆土中や竈の内外から分散して出土した破片が接合したことから, 埋め戻し時に投棄されたか, 据え置かれていたものが落下し割れた可能性が考えられる。19 は南東コーナー部の覆土中層から出土しており, 埋め戻しの過程で廃棄されたものとみられる。

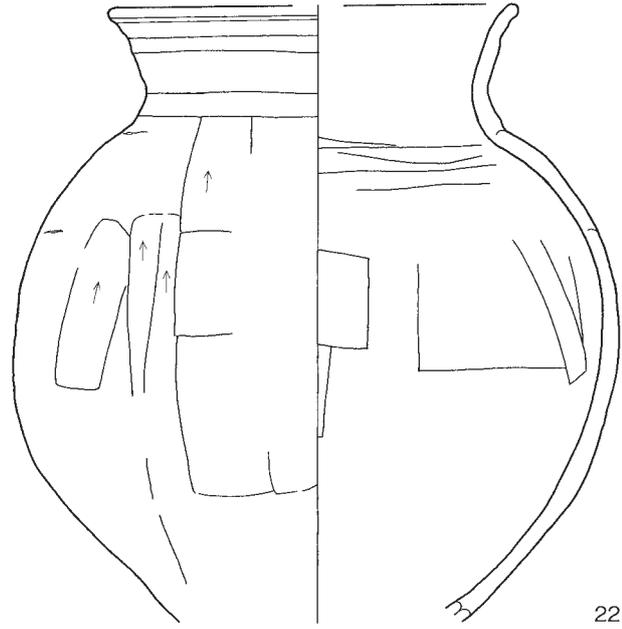
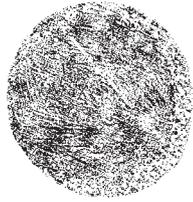
所見 時期は, 出土土器から 6 世紀後葉に比定できる。



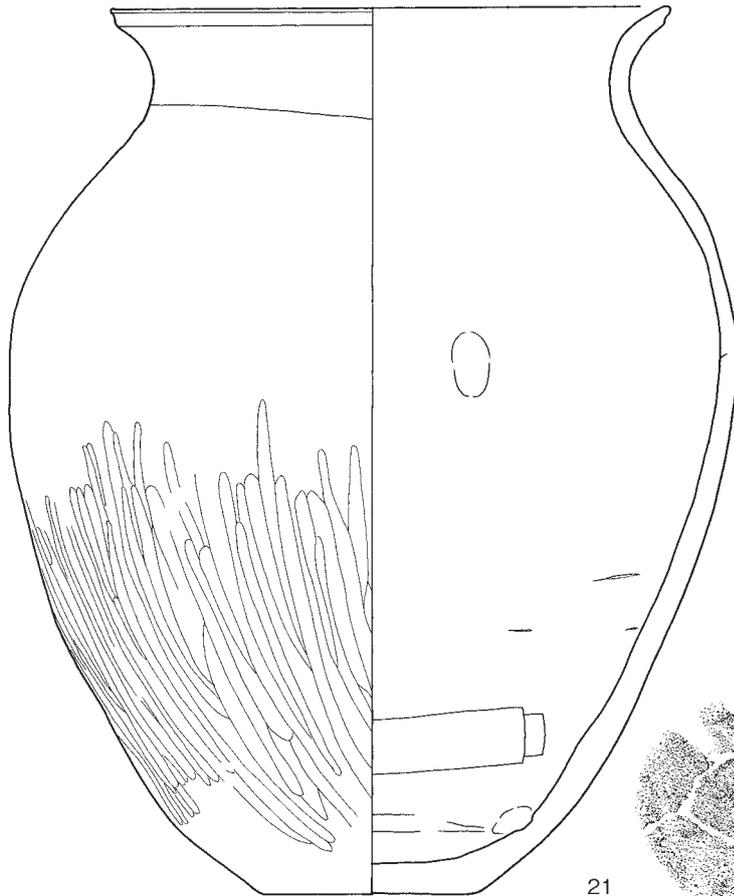
第 17 図 第 3183 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (1)



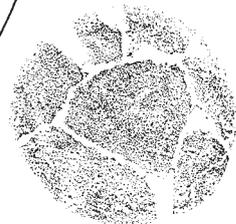
24



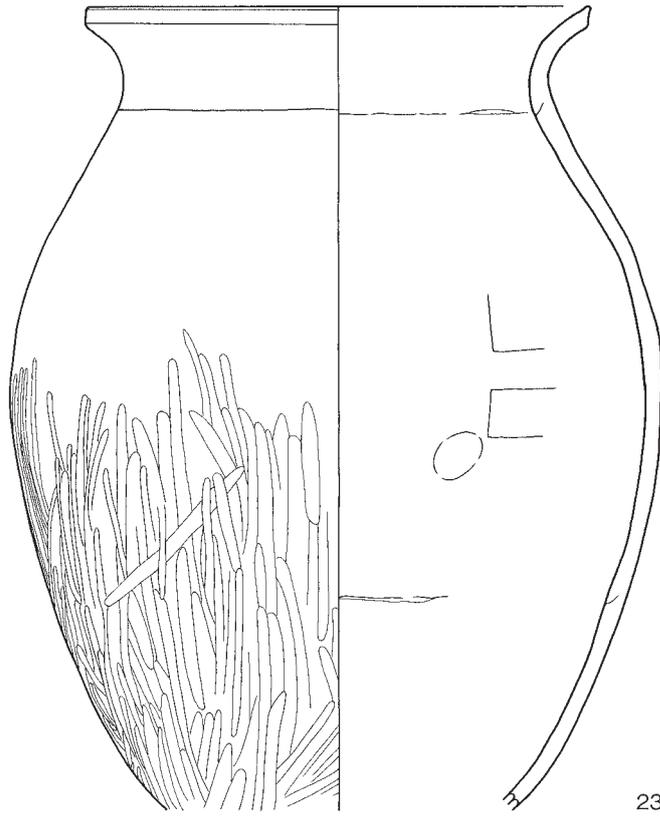
22



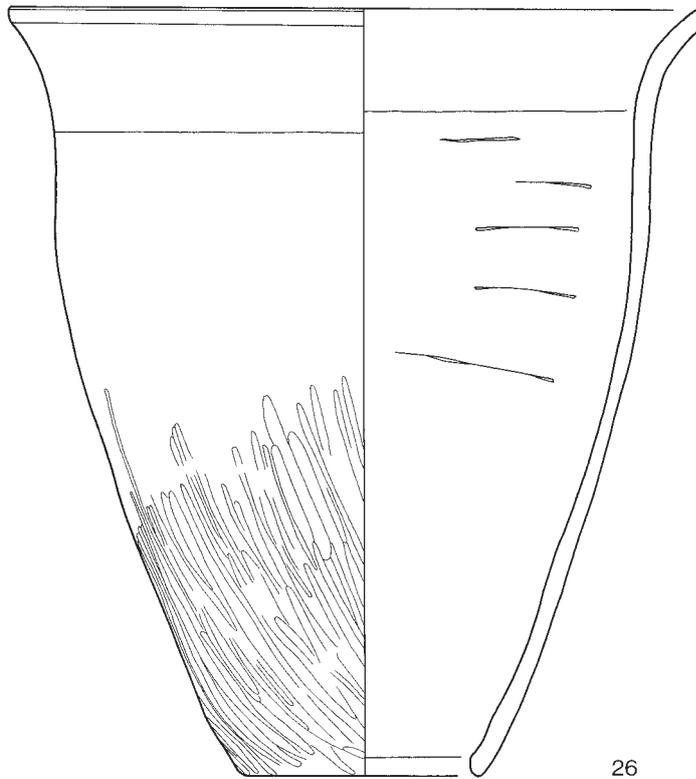
21



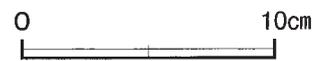
第 18 図 第 3183 号 豎穴建物跡出土遺物実測図 (2)



23



26



第 19 图 第 3183 号竖穴建物跡出土遺物実測図 (3)

第 3183 号 竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 17 ~ 19 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考	
17	土師器	坏	11.7	4.4	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 内面ヘラ磨き	体部外面ヘラ削り	床面	95% PL15
18	土師器	脚付鉢	[17.2]	(14.7)	-	長石・石英・雲母・細礫	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 内面ナデ	体部外面ヘラ削り 脚部欠損	竈袖部 床面	50% PL17
19	須恵器	脚付長頸壺	-	(4.0)	9.6	長石	灰色	良好	脚部外側からの穿孔3か所	底部回転ヘラ切り	覆土中層	10% PL18 TK209 型式
20	土師器	甕	17.8	26.6	6.0	長石・石英・雲母・礫	にぶい褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 底部木葉痕	体部外・内面ヘラナデ	竈火床部	80% PL19
21	土師器	甕	21.8	35.3	8.7	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 内面ヘラナデ	体部外面ヘラ磨き 指頭圧痕 底部ナデ	竈火床部 覆土下層	80% PL19
22	土師器	甕	[15.6]	(24.6)	-	長石・石英	明赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 内面ヘラナデ	体部外面ヘラ削り	竈袖部 床面	60%
23	土師器	甕	19.9	(32.0)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰黄褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 内面ヘラナデ	体部外面ヘラ磨き 指頭圧痕	竈袖部 覆土下層~ 床面	70% PL19
24	土師器	小形甕	14.1	12.1	7.3	長石・石英	褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 内面ヘラナデ	体部外面ヘラ磨き 底部ヘラナデ	床面	95% PL17
25	土師器	甌	[19.4]	17.3	[7.6]	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 下端工具痕	体部外面ヘラナデ 内面ナデ	床面	60% PL20
26	土師器	甌	27.2	30.4	9.2	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 内面ナデ	体部外面ヘラ磨き	床面	90% PL20

第 3184 号 竪穴建物跡 (第 20・21 図 PL 5)

調査年度 平成 25 年度

位置 14 区南西部の E 7c5 区, 標高 20 m ほどの台地斜面部に位置している。

重複関係 第 139 号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸 3.99 m, 短軸 3.82 m の方形で, 主軸方向は N-0° である。壁は高さ 5~13cm で, ほぼ直立している。

床 平坦で, 竈の焚口部から中央部にかけて踏み固められている。壁下には壁溝がほぼ全体に巡っている。床面の全域から炭化材及び焼土が出土している。

竈 北壁の西寄りに付設されている。北東部が第 139 号溝に掘り込まれているため, 焚口部から煙道部の一部と左袖部しか遺存していない。規模は焚口部から煙道部まで 97cm で, 残存している燃焼部幅は 29cm である。袖部は, 地山を掘り残し, その上に, 粘土粒子や焼土粒子を含んだ第 6・7 層を積み上げて構築されている。火床部は, 床面を 5cm ほど掘りくぼめた部分に第 8 層を埋土して構築され, 火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に 24cm 掘り込まれ, 火床部から外傾している。

竈土層解説

1 暗赤褐色	焼土ブロック中量, ロームブロック・炭化物・粘土粒子少量	5 褐色	焼土粒子・粘土粒子少量, 炭化物微量
2 暗赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量, 粘土粒子微量	6 にぶい黄褐色	粘土粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量
3 極暗赤褐色	焼土ブロック・炭化物中量, ローム粒子微量	7 暗褐色	炭化粒子・粘土粒子少量, 焼土粒子微量
4 暗赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・粘土粒子少量	8 暗褐色	焼土ブロック中量, ローム粒子・炭化粒子少量
		9 褐色	ローム粒子中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量

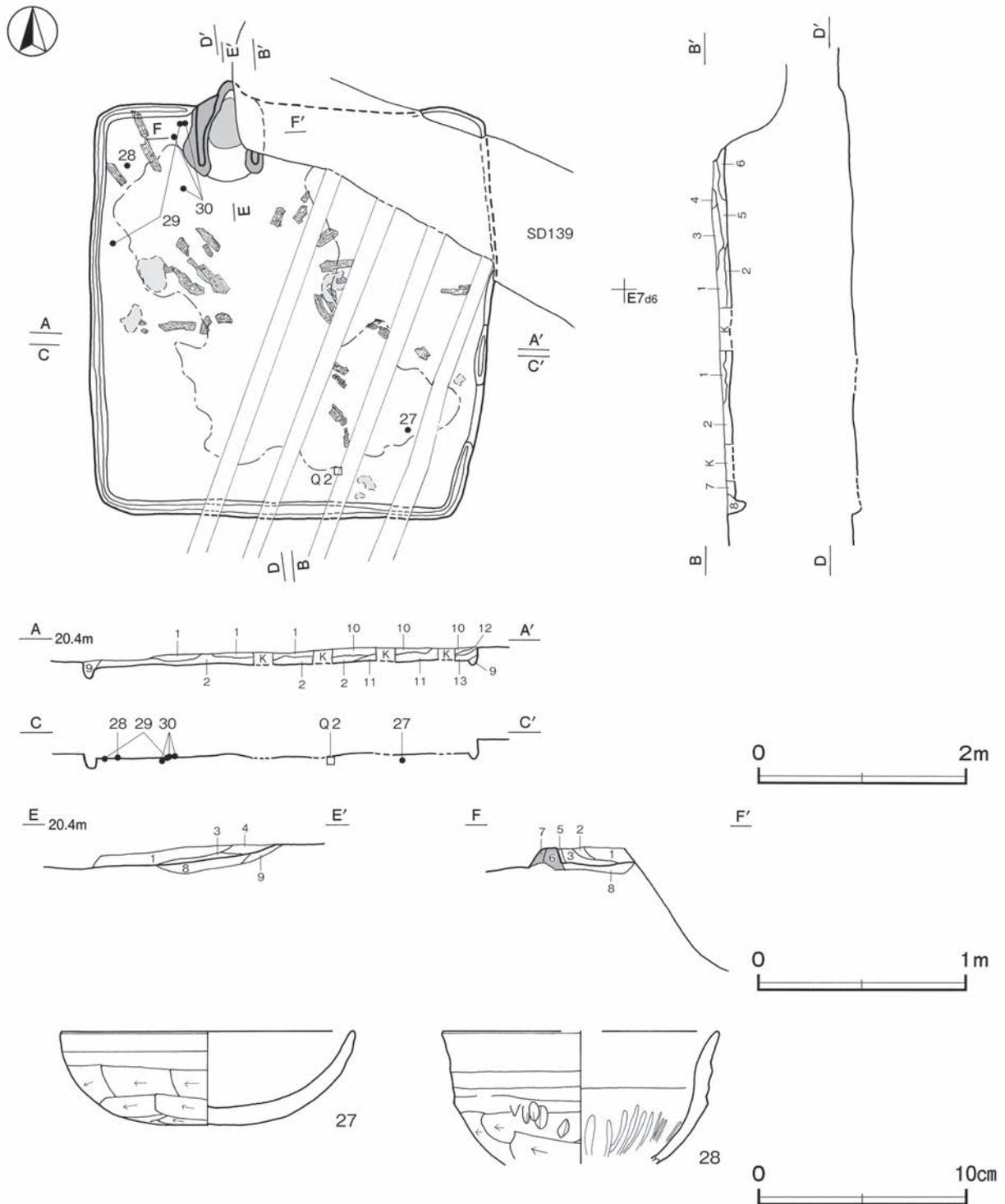
覆土 13 層に分層できる。各層にロームブロックや焼土ブロック・炭化物が含まれ, 不規則に堆積していることから埋め戻されている。

土層解説

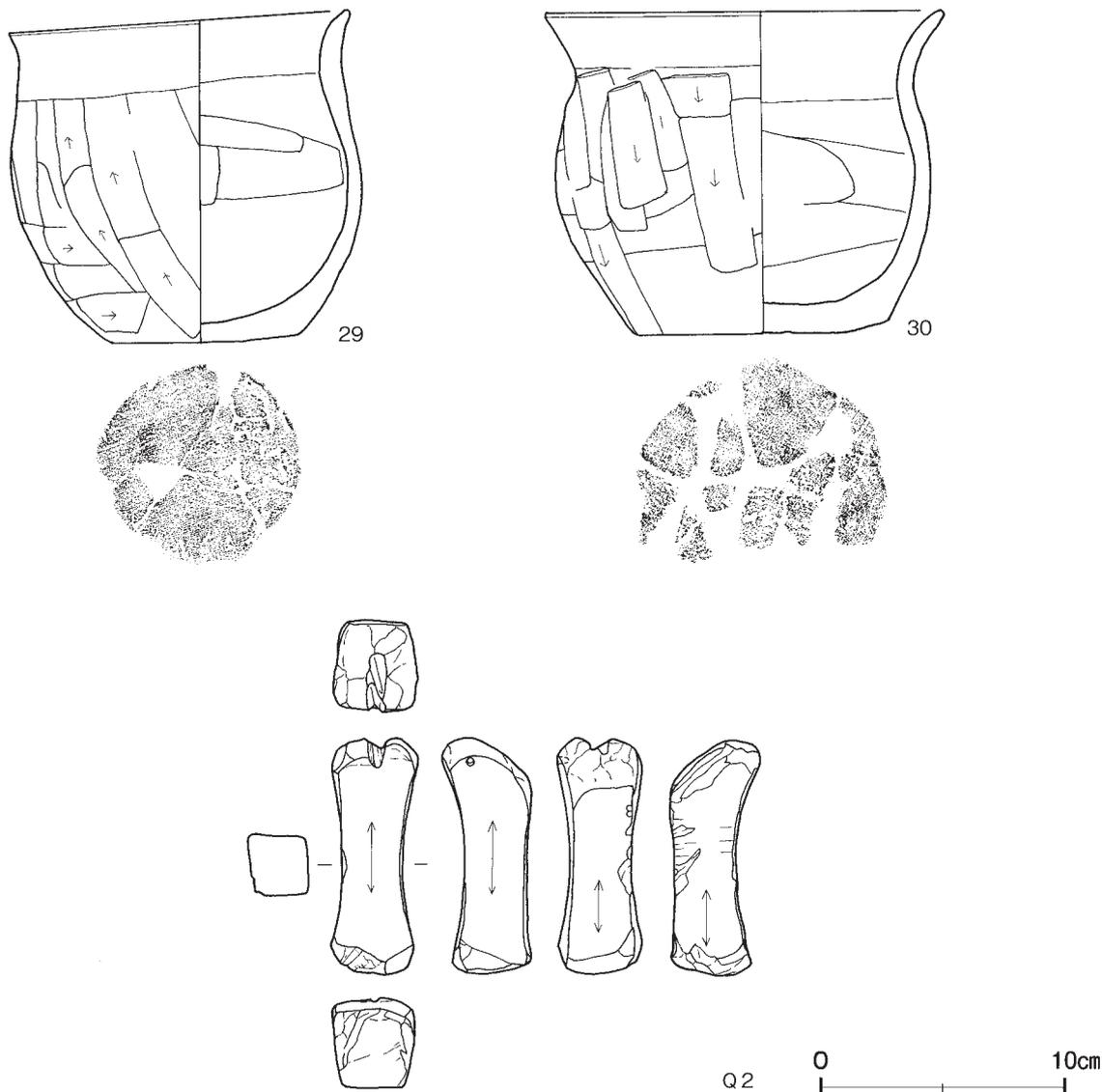
1 暗褐色	ロームブロック中量, 炭化物少量	7 黒褐色	炭化物多量, ロームブロック・焼土ブロック中量
2 暗褐色	ロームブロック・炭化物中量	8 暗褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子少量
3 褐色	ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量	9 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子中量, 焼土ブロック少量
4 にぶい黄褐色	粘土粒子多量, 炭化物・焼土粒子中量	10 黒褐色	ローム粒子中量, 炭化物少量
5 にぶい黄褐色	ロームブロック・炭化物中量, 焼土ブロック少量	11 黒褐色	ロームブロック・炭化物中量, 焼土ブロック少量
6 褐色	ローム粒子多量, 炭化物中量, 焼土粒子・粘土粒子少量	12 にぶい黄褐色	ローム粒子多量
		13 黒褐色	焼土ブロック多量, ローム粒子・炭化粒子少量

遺物出土状況 土師器片 35 点 (坏 10, 椀 1, 甕 13, 小形甕 2, 甑 9), 石器 1 点 (砥石) が全体の覆土下層から床面にかけて出土している。27 は, ほぼ完形で南東部の床面から正位で出土していることから, 遺棄されたものとみられる。29・30 は北西部の床面から出土しており, 分散した破片が接合したことから, 埋め戻し時に投棄されたと考えられる。Q 2 は南部の床面から出土している。

所見 炭化材は, 中央に向かう形で確認されていることから, 垂木などの上屋構造の部材とみられる。炭化材とともに焼土が出土していることから焼失建物と考えられる。時期は, 出土土器から 6 世紀中葉に比定できる。



第 20 図 第 3184 号竪穴建物跡・出土遺物実測図



第 21 図 第 3184 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 3184 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 20・21 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
27	土師器	坏	14.1	4.6	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ	床面	95% PL15
28	土師器	椀	[13.2]	(6.4)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ヘラ削り 工具痕 内面ヘラ磨き	床面	20%
29	土師器	小形甕	13.8	13.7	8.0	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ 底部ヘラナデ	床面	80% PL17
30	土師器	小形甕	16.0	13.2	10.4	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ 底部ヘラナデ	床面	60% PL17

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q2	砥石	9.7	3.5	3.7	150.7	凝灰岩	砥面4面 端面1面に溝状の研磨痕 未穿孔	床面	PL21

第 3187 号竪穴建物跡 (第 22・23 図 PL 5)

調査年度 平成 25 年度

位置 14 区南西部の E 7e1 区、標高 19 m ほどの台地斜面部に位置している。

重複関係 上部を第7413号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 上部を第7413号土坑に掘り込まれているため、長軸は3.66m、短軸は3.41mしか確認できなかった。方形で、主軸方向はN-62°-Wである。壁は高さ10~26cmで、外傾している。

床 平坦である。硬化面は確認できなかった。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで82cmで、燃烧部幅は34cmである。遺存状態が不良なため、火床部及び焚口部、袖部の構築材の粘土を確認したのみである。

ピット 2か所。P1・P2は深さ25・30cmで、性格は不明である。

ピット土層解説

- | | |
|-------------------------|-----------------------------|
| 1 ぶい褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量 | 3 褐色 焼土ブロック中量, 炭化粒子・粘土粒子少量 |
| 2 暗褐色 焼土ブロック・炭化粒子中量 | 4 ぶい黄褐色 粘土粒子中量, 炭化粒子少量 |

貯蔵穴 南西コーナー部に付設されている。長径108cm、短径56cmの楕円形で、深さは32cmである。底面は平坦で、壁はほぼ直立している。

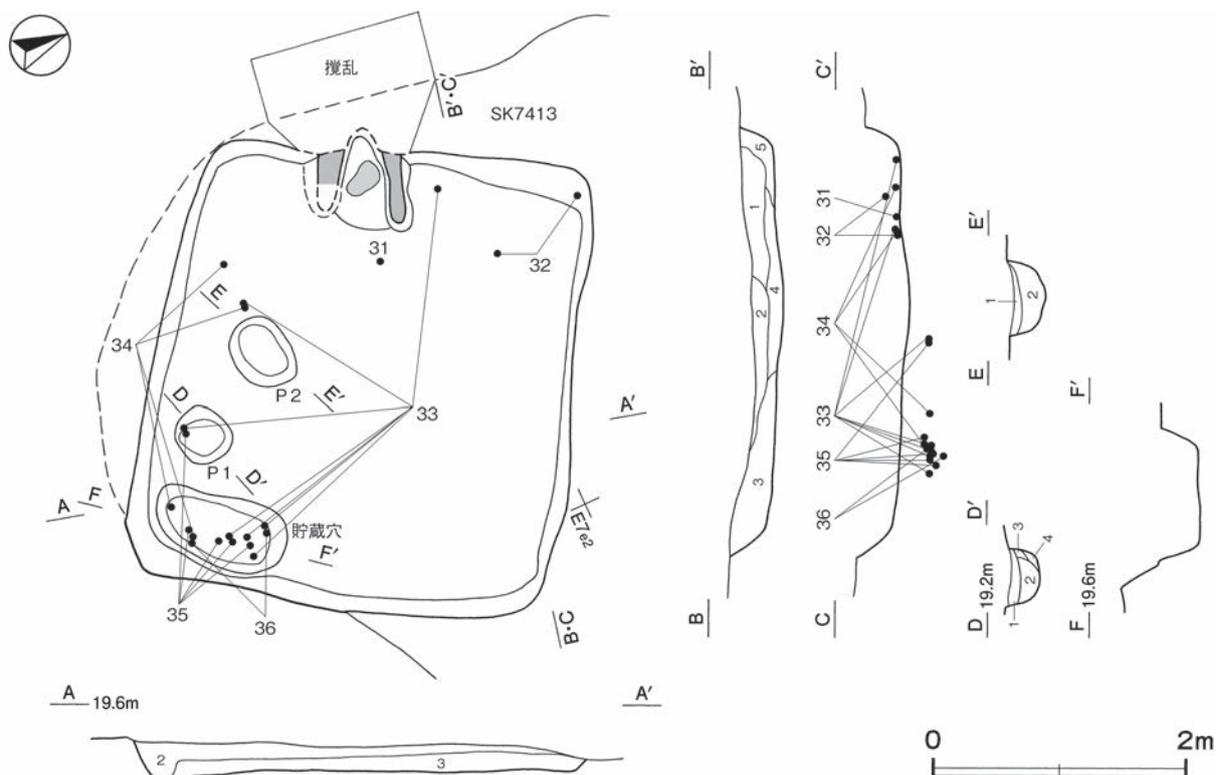
覆土 5層に分層できる。多くの層にロームブロックや粘土ブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

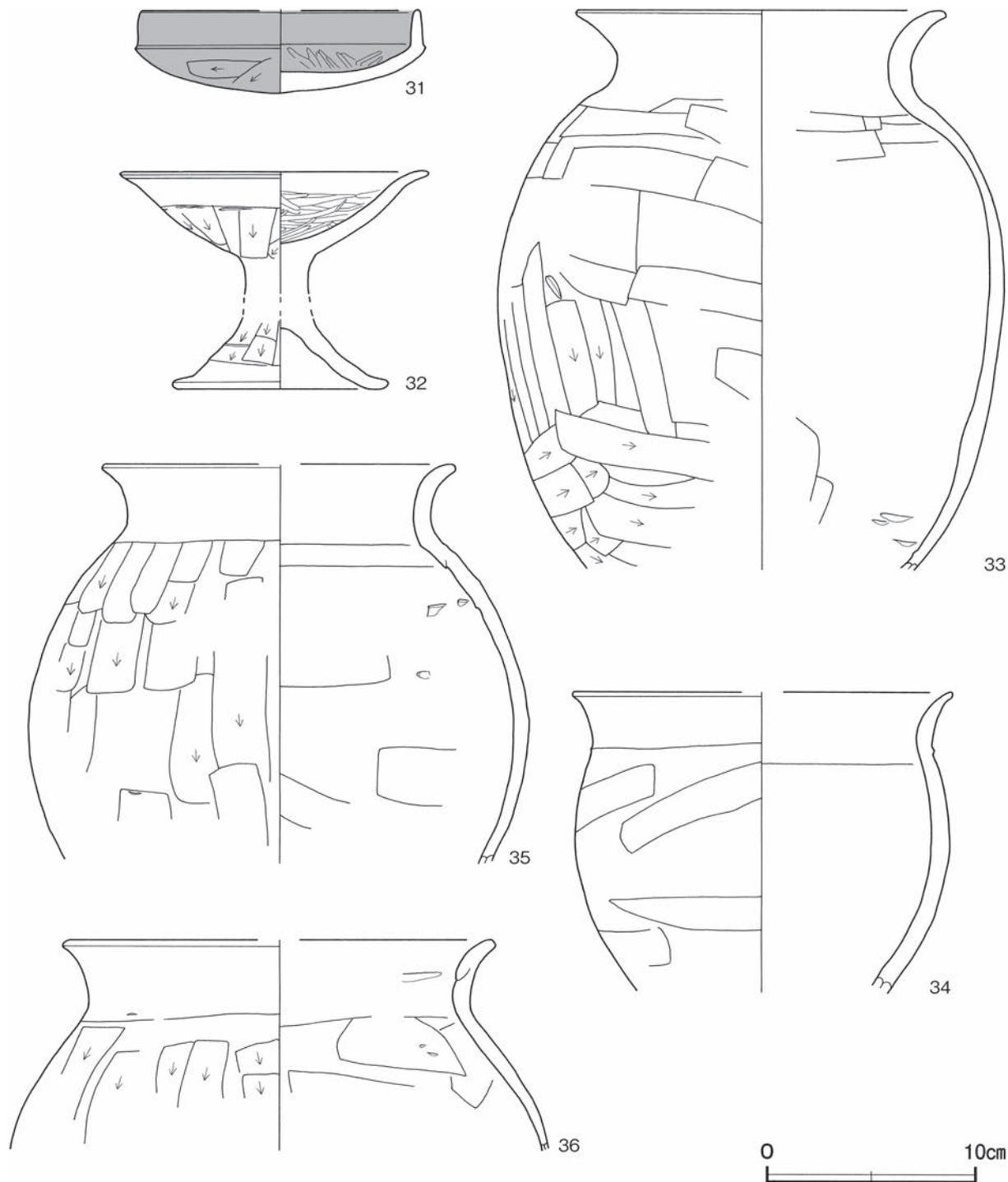
- | | |
|---------------------------------------|--------------------------------------|
| 1 暗褐色 粘土ブロック中量, ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量 | 4 暗褐色 粘土ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック・炭化物中量 | 5 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック少量, 粘土ブロック・炭化粒子微量 | |

遺物出土状況 土師器片106点(坏12, 高坏1, 甕93), 手捏土器1点のほか、縄文土器片2点(深鉢), 須恵器片2点(坏)が、全体の覆土中層から床面にかけて出土している。32~36は、覆土下層から床面, P1, 貯蔵穴などから出土し、それぞれ分散した破片が接合しているため、埋め戻しの過程で投棄されたものとみられる。

所見 時期は、出土土器から6世紀中葉に比定できる。



第22図 第3187号竪穴建物跡実測図



第 23 図 第 3187 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 3187 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 23 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
31	土師器	坏	[13.2]	4.0	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 内面ヘラ磨き 体部外面ヘラ削り	床面	30%
32	土師器	高坏	14.3	(5.9) (3.4)	10.3	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	坏部口縁部外・内面横ナデ 内面ヘラ磨き 外面ヘラ削り 脚部外面ヘラ削り 内面ナデ	覆土下層～床面	80% PL18
33	土師器	甕	17.4	(27.0)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 内面ヘラナデ 体部外面ヘラ削り	床面 貯蔵穴覆土下層 P1 覆土下層	30%
34	土師器	甕	[18.0]	(14.5)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 内面ナデ 体部外面ヘラナデ	床面 貯蔵穴覆土中層	30% PL17

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考	
35	土師器	甕	[16.6]	(19.3)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 内面ヘラナデ	体部外面ヘラ削り	床面 貯蔵穴覆土下層 P1覆土下層	20%
36	土師器	甕	[20.1]	(10.2)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 内面ヘラナデ	体部外面ヘラ削り	貯蔵穴覆土 中層～下層	10%

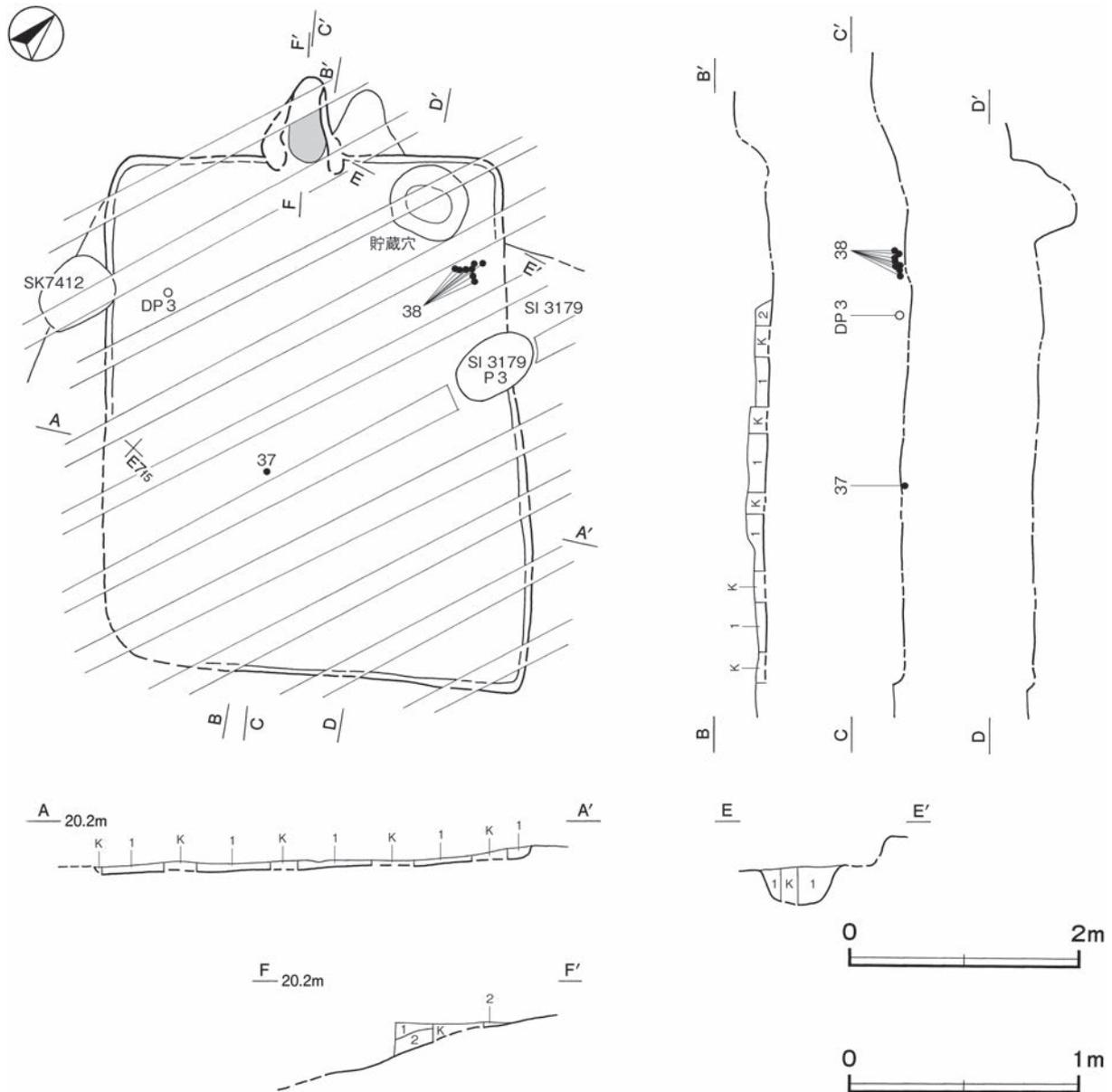
第 3188 号竪穴建物跡 (第 24・25 図)

調査年度 平成 25 年度

位置 14 区南西部の E 7 e5 区, 標高 20 m ほどの台地斜面部に位置している。

重複関係 第 3179 号竪穴建物, 第 7412 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸 4.62 m, 短軸 3.56 m の長方形で, 主軸方向は N - 43° - W である。壁は高さ 8 ~ 28 cm で, ほぼ直立している。



第 24 図 第 3188 号竪穴建物跡実測図

床 平坦である。硬化面は確認できなかった。

竈 北壁に付設されている。第 3179 号竪穴建物の竈で右袖が掘り込まれ、また、攪乱を受けて遺存状態が不良であるため、推定できる規模は焚口部から煙道部まで 75cm で、燃烧部幅は 35cm ほどである。

竈土層解説

- 1 暗褐色 炭化粒子少量、焼土粒子・粘土粒子微量 2 暗褐色 焼土粒子中量、炭化粒子・粘土粒子少量

貯蔵穴 北東コーナー部に付設されている。長径 67cm、短径 61cm の円形で、深さは 32cm である。底面は平坦で、壁はほぼ直立している。

貯蔵穴土層解説

- 1 暗褐色 焼土ブロック・炭化物中量、ロームブロック少量

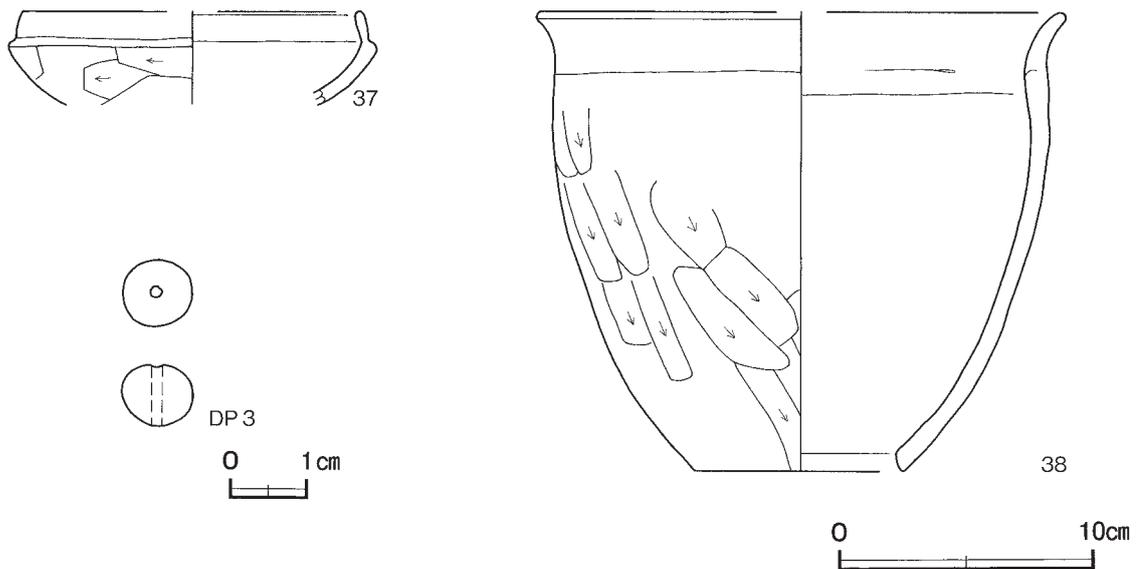
覆土 2層に分層できる。各層にロームブロックが堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 2 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子中量、炭化粒子少量

遺物出土状況 土師器片 47 点（坏 3，甕 43，甑 1），土製品 1 点（土玉）のほか、縄文土器片 2 点（深鉢），須恵器片 1 点（甕），瓦片 1 点が出土している。37・38・DP 3 は覆土下層及び床面から出土しており、埋め戻しの過程で廃棄されたものとみられる。

所見 時期は、出土土器から 6 世紀後葉と考えられる。



第 25 図 第 3188 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 3188 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 25 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
37	土師器	坏	[13.2]	(3.7)	-	長石・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面へら削り 内面ナデ	床面	5%
38	土師器	甑	[20.6]	18.3	[8.2]	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面へら削り 内面ナデ	覆土下層	30%

番号	器種	径	高さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 3	土玉	0.9	0.8	0.1	0.7	長石・石英	にぶい黄橙	ナデ 一方向からの穿孔	覆土下層	

表2 古墳時代竪穴建物跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設					覆土	主な出土遺物	時期	備考
				長軸×短軸 (m)				主柱穴	出入口	ピット	竈	貯蔵穴				
2434	E 7c9	N - 38° - W	[方形]	[4.65] × 4.58	5	平坦	一部	4	1	-	北壁	-	-	土師器	古墳時代後期	本跡→SI3181
2441	D 7j9	N - 33° - W	方形	5.62 × 5.41	8~28	平坦	一部	4	2	-	北壁	-	人為	土師器, 石器	6世紀後葉	本跡→SD137
3170	D 7d3	N - 20° - W	方形	6.60 × 6.12	8~21	平坦	ほぼ全周	4	1	-	北壁	1	人為	土師器, 土製品	6世紀後葉	
3177	E 7c3	N - 51° - W	長方形	4.06 × 3.38	4~10	平坦	-	-	-	2	北壁	1	人為	土師器, 自然遺物	7世紀前葉	
3179	E 7e5	N - 30° - W	[長方形]	5.75 × (5.12)	3~18	貼床平坦	-	4	-	-	北壁	-	人為	土師器, 土製品	7世紀前葉	SI3188 →本跡 →SK7411・7412・7466
3181	E 7c8	N - 5° - W	[方形]	3.25 × (3.24)	7~14	平坦	-	-	-	-	北壁	-	人為	土師器, 須恵器, 粘土塊	7世紀代	SI2434 →本跡 →SI3186
3182	D 7j6	N - 34° - W	[長方形]	[4.62] × [4.18]	-	平坦	-	4	-	-	北壁	-	-	土師器	7世紀前葉	本跡→SD589
3183	D 6j9	N - 36° - W	方形	3.78 × 3.64	18~42	ほぼ平坦	-	-	-	-	北壁	-	人為	土師器, 須恵器	6世紀後葉	
3184	E 7c5	N - 0°	方形	3.99 × 3.82	5~13	平坦	ほぼ全周	-	-	-	北壁	-	人為	土師器, 石器	6世紀中葉	本跡→SD139
3187	E 7e1	N - 62° - W	方形	(3.66) × (3.41)	10~26	平坦	-	-	-	2	北壁	1	人為	土師器	6世紀中葉	本跡→SK7413
3188	E 7e5	N - 43° - W	長方形	(4.62) × (3.56)	8~28	平坦	-	-	-	-	北壁	1	人為	土師器, 土製品	6世紀後葉	本跡→SI3179, SK7412

(2) 掘立柱建物跡

第597号掘立柱建物跡 (第26図 PL5)

調査年度 平成25年度

位置 14区西部のC7d4区, 標高21mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第3194号竪穴建物, 第7530号土坑に掘り込まれている。

規模と構造 桁行2間, 梁行2間の側柱建物跡で, 桁行方向がN-90°-Wの東西棟である。規模は, 桁行4.2m, 梁行3.0mで, 面積は12.6㎡である。柱間寸法は, 桁行2.1m(7尺), 梁行1.5m(5尺)で均等に配置され, 柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 8か所。平面形は円形または楕円形で, 長径64~104cm, 短径59~81cmである。深さは18~66cmである。第1~6層が柱抜き取り後の堆積層, 第7~10層が埋土である。P1を除いた柱穴の底面に, 柱のあたりを確認した。

土層解説 (各柱穴共通)

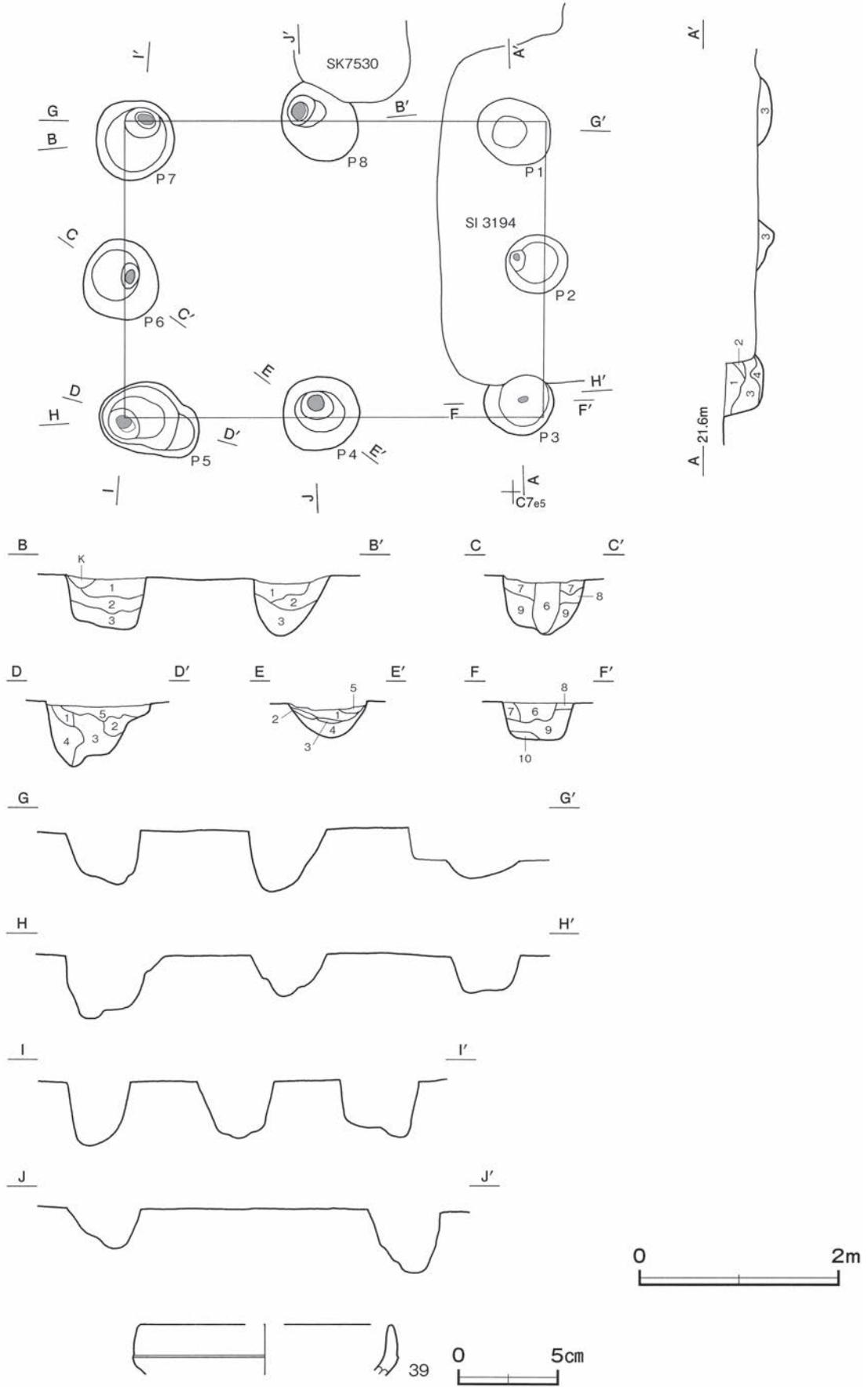
- | | |
|------------------------------|------------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック少量 | 6 黒褐色 ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子中量 | 7 暗褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量 | 8 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 4 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量 | 9 暗褐色 ロームブロック中量 |
| 5 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子中量, 焼土粒子微量 | 10 暗褐色 ロームブロック多量 |

遺物出土状況 土師器片18点(坏2, 甕16)のほか, 須恵器片5点(坏)が出土している。39は, P5の覆土中から出土している。

所見 時期は, 出土土器や第3194号竪穴建物跡との新旧関係から7世紀前葉と考えられる。

第597号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第26図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
39	土師器	坏	[12.5]	(2.5)	-	長石	灰黄褐	普通	口縁部外・内面横ナデ	P5覆土中	5%



第 26 图 第 597 号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

2 奈良時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、竪穴建物跡2棟を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

竪穴建物跡

第3162号竪穴建物跡（第27図 PL6）

調査年度 北部は平成24年度に調査し、当財団調査報告『第390集』にて報告している。北部以外の大部分は平成25年度に調査した。

位置 14区西部のC7c2区、標高21mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸4.24m、短軸3.78mの長方形で、主軸方向はN-60°-Eである。壁は高さ45～52cmで、ほぼ直立している。

床 平坦な貼床で、中央部が踏み固められている。貼床は、全体を平坦に掘り下げ、ロームブロックを含む第7層を埋土して構築されている。壁下には壁溝が全周している。

竈 北東コーナー部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで114cmで、燃焼部幅は30cmである。袖部は、粘土粒子を多量に含んだ第7層を積み上げて構築されている。火床部は楕円形に床面から15cm掘りくぼめ、第8～11層を埋土して構築されている。火床面は第8層上面で、火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に40cm掘り込まれ、火床部から外傾している。

竈土層解説

1 明赤褐色	焼土粒子・炭化粒子中量、ローム粒子少量	8 暗褐色	焼土粒子・粘土粒子多量、炭化粒子中量
2 赤褐色	焼土粒子多量、炭化粒子少量	9 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子少量、焼土粒子微量
3 暗褐色	粘土粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量	10 暗褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量
4 暗赤褐色	焼土粒子多量、粘土粒子中量、炭化粒子少量	11 褐色	ローム粒子多量、炭化粒子少量
5 暗赤褐色	焼土粒子・炭化粒子中量、粘土粒子少量		
6 暗赤褐色	焼土粒子多量、粘土粒子中量		
7 暗褐色	粘土粒子多量、焼土粒子・炭化粒子少量		

ピット P1は深さ24cmで、規模と配置から出入口施設に伴うピットと考えられる。第1～3層は柱抜き取り後の堆積層である。

ピット土層解説

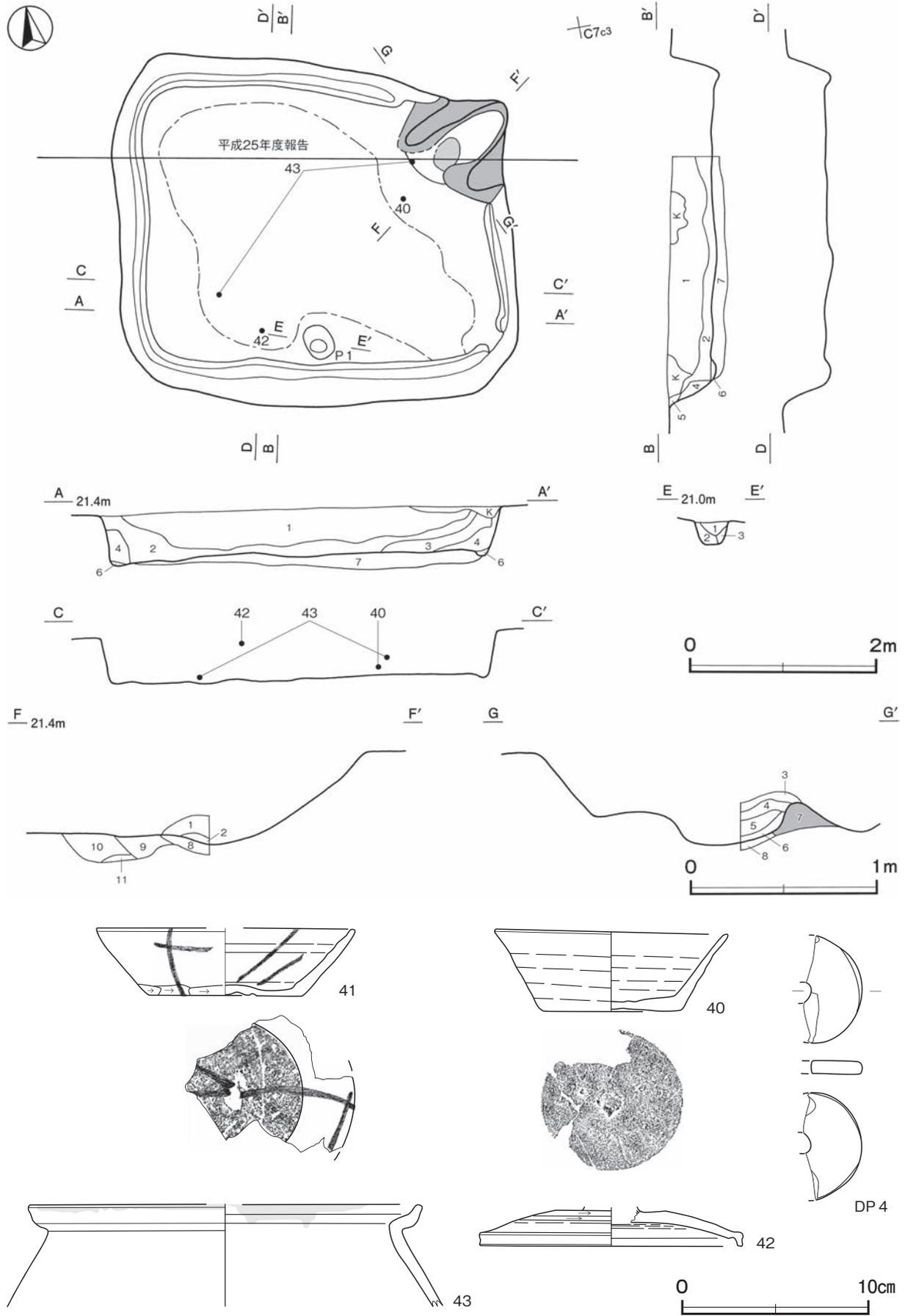
1 暗褐色	ローム粒子多量、炭化粒子少量	3 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量
2 暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子少量		

覆土 6層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。第7層は貼床の構築土である。

土層解説

1 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	5 褐色	ローム粒子多量、炭化粒子少量
2 黒褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量	6 暗褐色	ローム粒子多量、炭化粒子少量、焼土粒子微量
3 暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量	7 泥い黄褐色	ロームブロック多量、炭化粒子少量
4 褐色	ロームブロック多量、炭化粒子中量		

遺物出土状況 平成25年度の調査では、土師器片147点（坏11、甕136）、須恵器片63点（坏33、蓋11、甕19）、土製品1点（紡錘車）のほか、陶器片1点（碗）が、覆土上層から床面にかけて投棄された状況で出土している。40は竈の周辺の覆土下層から出土しており、竈の覆土中から出土した土器と接合している。42は覆土上層から、43は覆土中層から下層にかけて出土している。41・DP4は、それぞれ覆土中から出土している。
所見 時期は、『第390集』では、出土土器から9世紀中葉と報告されているが、平成25年度の調査で出土土器から8世紀後葉に比定できる。



第27図 第3162号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第 3162 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 27 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
40	須恵器	坏	124	4.4	7.5	長石・石英・黒色粒子	灰	普通	底部一方向のヘラ削り	覆土下層	70% PL15 堀ノ内窯
41	須恵器	坏	[13.7]	3.7	[8.0]	長石・石英・細礫	灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方向のヘラ削り	覆土中	20% 新治窯
42	須恵器	蓋	[14.0]	(2.1)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土上層	20% 新治窯
43	土師器	甕	[20.8]	(5.5)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	口縁部横ナデ 体部外・内面ナデ	覆土中～下層	5% 口縁部朱付着

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 4	紡錘車	(5.8)	0.7	[1.2]	(14.5)	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	両面ナデ	覆土中	

第 3178 号竪穴建物跡（第 28・29 図 PL 6）

調査年度 平成 25 年度

重複関係 第 7419 号土坑に掘り込まれている。

位置 14 区南西部の E 7e3 区、標高 20 m ほどの台地斜面部に位置している。

規模と形状 長軸 3.56 m、短軸 3.55 m の方形で、主軸方向は N - 17° - E である。壁は高さ 23 ~ 30 cm で、直立している。

床 やや凹凸がある。竈の焚口部から中央部を中心に、踏み固められている。壁下には、壁溝が全周している。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 120 cm で、燃焼部幅は 40 cm である。袖部は、粘土粒子やローム粒子を含んだ第 12 ~ 15 層を積み上げて構築されている。火床部は床面から 5 cm 掘りくぼめ、第 16・17 層を埋土して構築されている。火床面は第 16 層上面で、火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に 30 cm 掘り込まれ、火床部から外傾している。

竈土層解説

1 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量	11 暗褐色	焼土粒子中量、ローム粒子少量
2 暗褐色	炭化粒子中量、ロームブロック・粘土粒子少量、焼土粒子微量	12 黄褐色	ロームブロック多量、粘土粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量
3 黄褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量	13 褐色	ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量
4 褐色	ロームブロック多量、炭化粒子少量	14 にぶい黄褐色	炭化粒子・粘土粒子中量、ローム粒子少量、焼土粒子微量
5 褐色	粘土粒子多量、ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量	15 暗褐色	炭化粒子・粘土粒子中量、ローム粒子少量、焼土粒子微量
6 暗褐色	炭化粒子少量、ロームブロック・焼土粒子微量	16 暗褐色	焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子少量
7 黒褐色	粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	17 黒褐色	炭化粒子中量
8 にぶい黄褐色	焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量		
9 暗褐色	焼土ブロック多量、炭化粒子少量		
10 褐色	焼土ブロック多量、ローム粒子中量		

覆土 8 層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

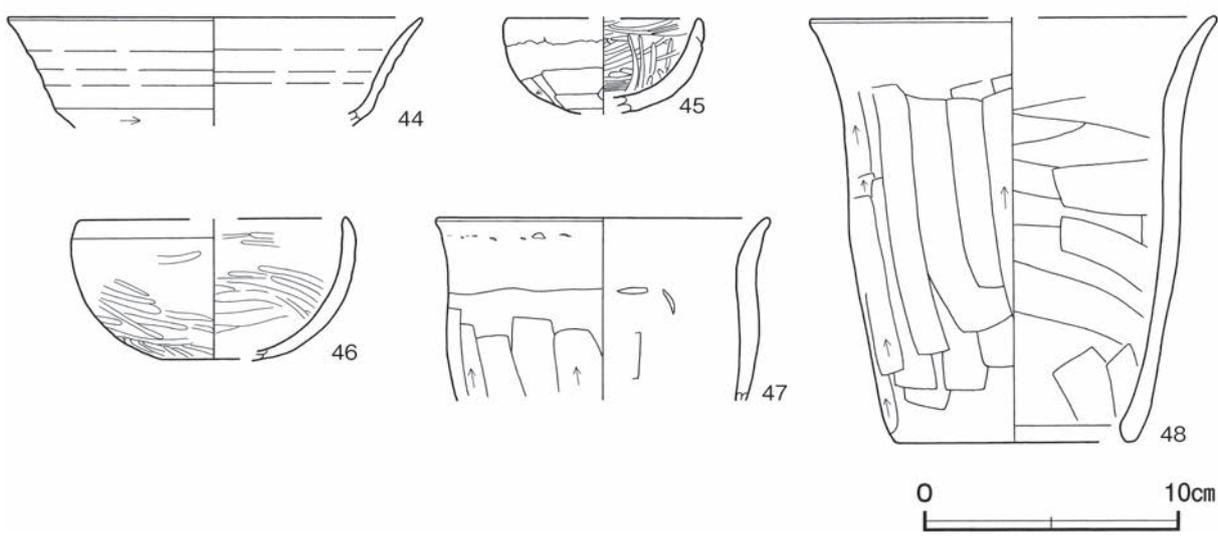
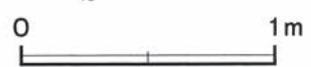
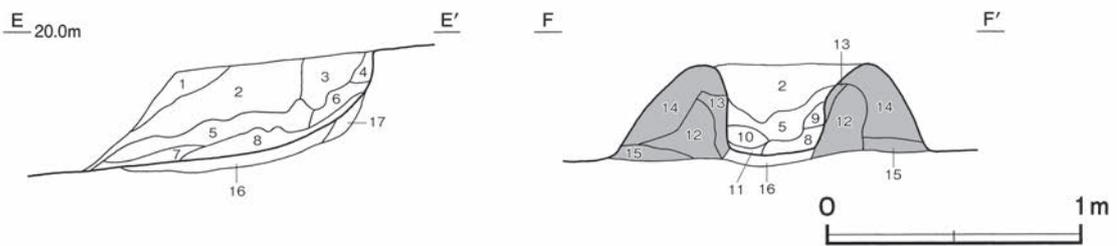
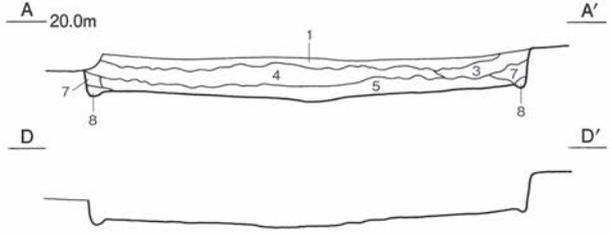
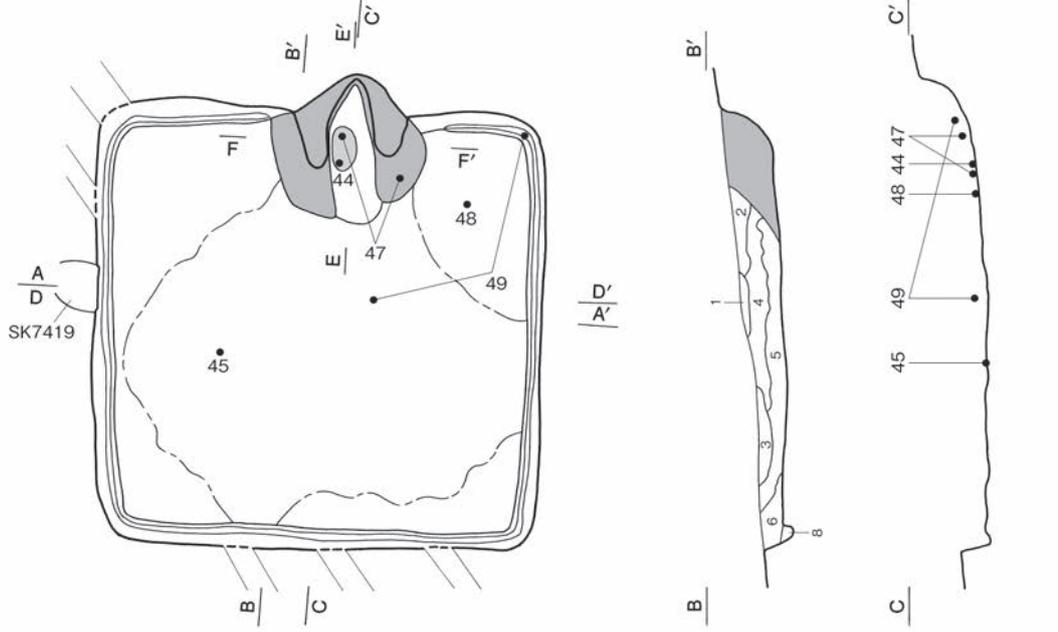
1 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量	5 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック中量、炭化物少量
2 暗褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・粘土ブロック・炭化物少量	6 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック中量、炭化粒子少量
3 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量	7 暗褐色	ロームブロック中量
4 暗褐色	ローム粒子多量、粘土ブロック中量、焼土ブロック・炭化物少量	8 黒褐色	ロームブロック多量

遺物出土状況 土師器片 100 点（坏 17、碗 2、甕 77、小形甕 1、甗 3）、須恵器片 15 点（坏 8、高台付坏 1、蓋 1、甕 5）、粘土塊 3 点が覆土中層から床面にかけて、埋め戻しの過程で投棄された様相で出土している。44 は竈の火床面から出土しており、47 は竈火床部と袖部からそれぞれ出土したものが接合している。45・48 はそれぞれ床面から出土している。

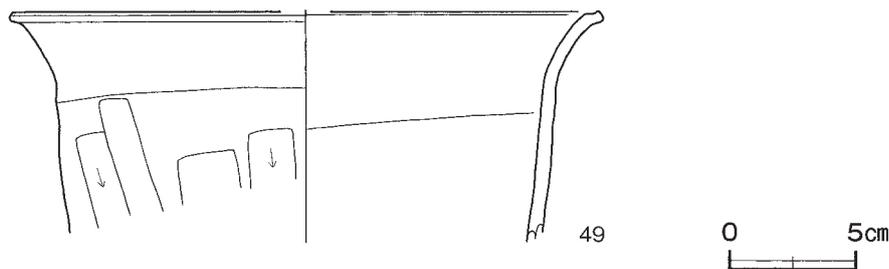
所見 時期は、出土土器から、8 世紀前葉に比定できる。



TE7e3



第 28 图 第 3178 号竖穴建物跡・出土遺物実測図



第 29 図 第 3178 号 竪穴建物跡出土遺物実測図

第 3178 号 竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 28・29 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
44	須恵器	坏	[16.2]	(4.3)	-	長石・石英・雲母	灰白	普通	体部下端回転ヘラ削り	竈火床面	10% 新治窯
45	土師器	椀	[7.6]	(3.8)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部外面横ナデ 体部下端手持ちヘラ削り 内面ヘラ磨き	床面	30%
46	土師器	椀	[10.4]	5.6	[4.2]	雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外・内面ヘラ磨き	覆土中	20%
47	土師器	小形甕	13.0	(7.2)	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ	竈袖部・火床部	20%
48	土師器	甌	[15.8]	16.9	[9.6]	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ	床面	30%
49	土師器	甌	[23.0]	(9.1)	-	長石・石英・細礫	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ	覆土下層	10%

表 3 奈良時代竪穴建物跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模		壁高 (cm)	床面 壁溝	内部施設					覆土	主な出土遺物	時期	備考
				長軸×短軸 (m)	(cm)			主柱穴	出入口	ピット	竈	貯蔵穴				
3162	C 7c2	N - 60° - E	長方形	4.24 × 3.78	45 ~ 52	貼床 平坦	全周	-	1	-	北東 コーナー	-	人為	土師器, 土製品, 須恵器,	8世紀後葉	
3178	E 7e3	N - 17° - E	方形	3.56 × 3.55	23 ~ 30	やや 凹凸	全周	-	-	-	北壁	-	人為	土師器, 須恵器, 粘土塊	8世紀後葉	本跡→SK7419

3 平安時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、竪穴建物跡 10 棟、井戸跡 2 基、土坑 12 基、遺物包含層 1 か所を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

(1) 竪穴建物跡

第 3171 号 竪穴建物跡 (第 30 図)

調査年度 東部は平成 24 年度に調査し、当財団調査報告『第 390 集』にて報告している。西部は平成 25 年度に調査した。

位置 14 区西部の D 7 b4 区、標高 21 m ほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 3165 号 竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 攪乱を受けているため、確認できた規模は、長軸 4.25 m、短軸 2.90 m である。平面形は長方形で、主軸方向は N - 73° - W と推定できる。壁は高さ 22 ~ 25cm で、ほぼ直立している。

床 平坦である。北部で火熱を受けたと考えられる焼土範囲を確認した。西壁の壁下に壁溝が巡っている。

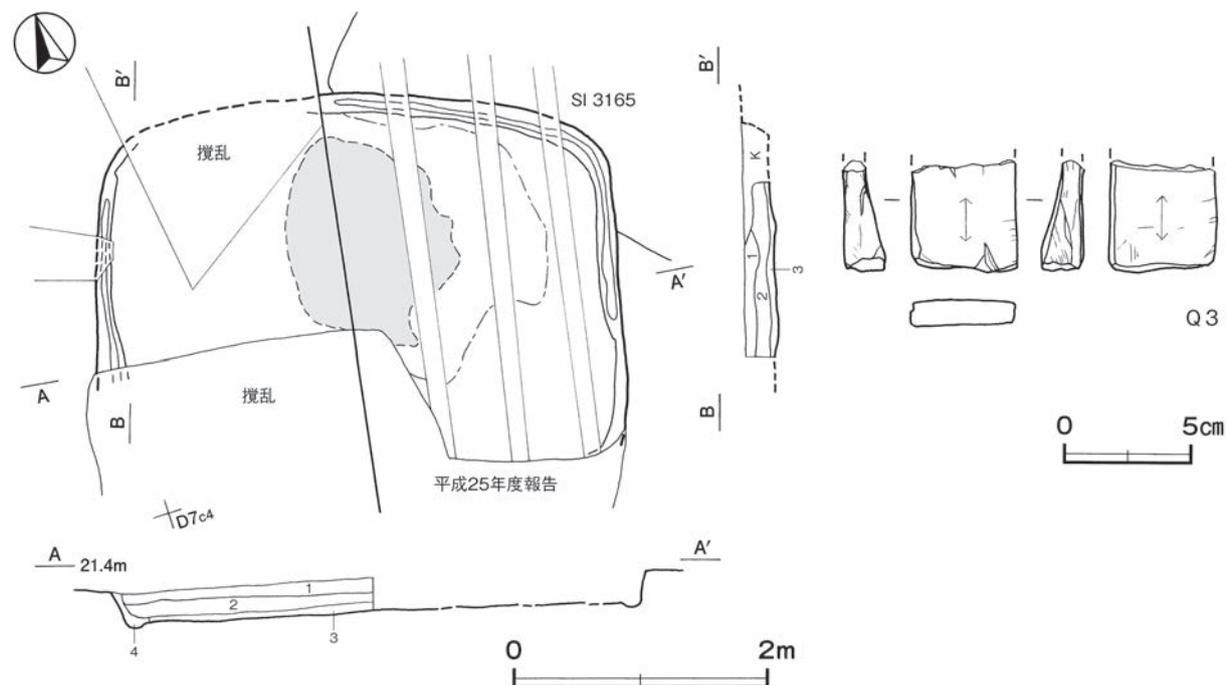
覆土 4 層に分層できる。周囲から流れ込んだ堆積状況を示していることから、自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|----------|---------------------|----------|--------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 にぶい黄褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子・粘土粒子微量 |
| 2 にぶい黄褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子・粘土粒子微量 | 4 褐色 | ローム粒子中量 |

遺物出土状況 平成 25 年度の調査では、土師器片 16 点（坏 4，皿 1，甕 10，甑 1），須恵器片 6 点（甕），石器 1 点（砥石），金属製品 1 点（刀子_ナ）のほか、陶器片 1 点（鉢），磁器片 1 点（碗）が出土している。

所見 時期は、出土土器と既調査状況から 9 世紀中葉に比定できる。床面に火熱を受けた焼土範囲が確認され、覆土中に焼土粒子や炭化粒子を含むことから焼失建物跡の可能性が高い。



第 30 図 第 3171 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第 3171 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 30 図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 3	砥石	(4.4)	(4.2)	(1.7)	(39.1)	凝灰岩	砥面 2 面	覆土中	PL21

第 3180 号竪穴建物跡（第 31 ～ 33 図 PL 7）

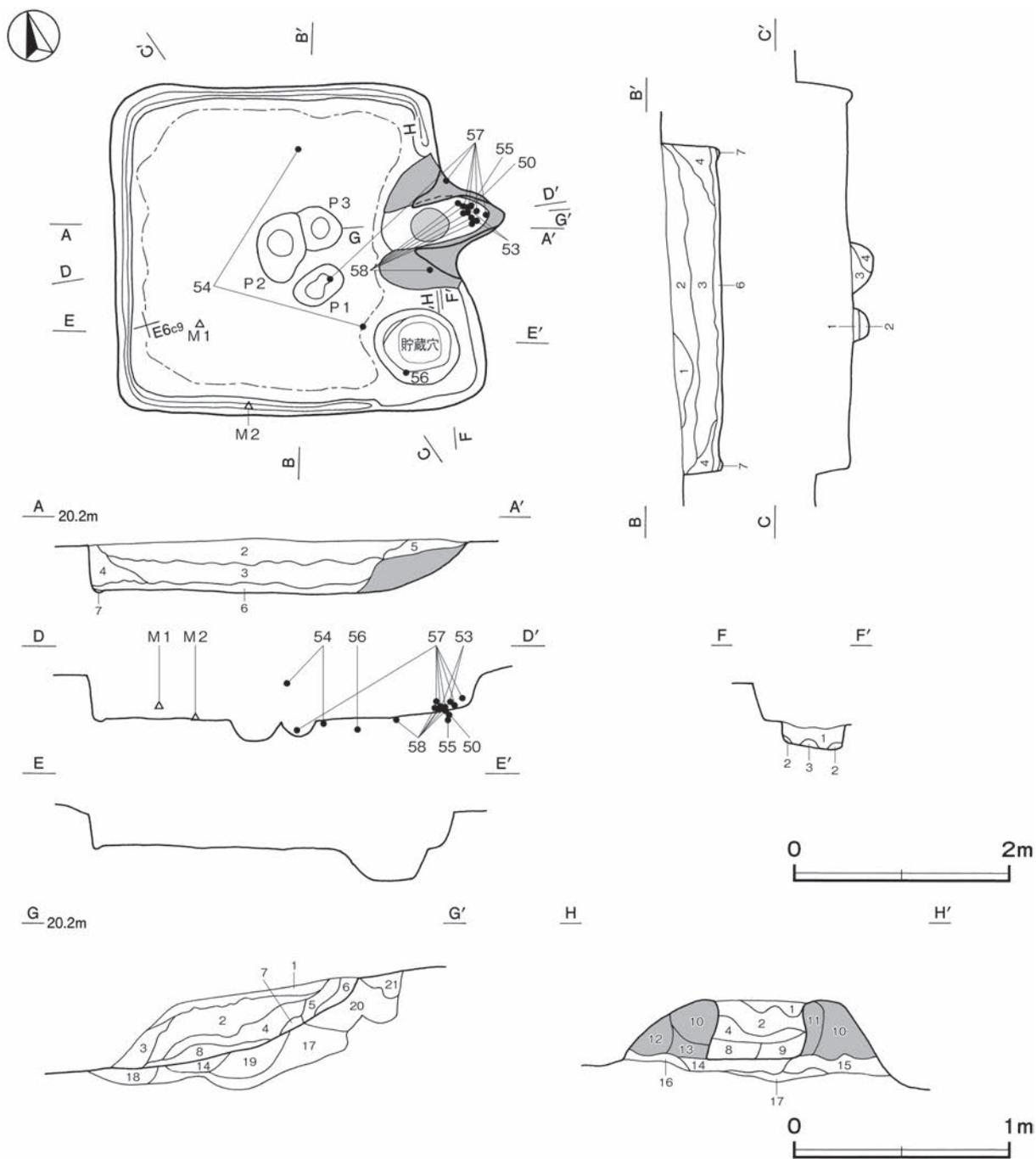
調査年度 平成 25 年度

位置 14 区南西部の E 6 b9 区，標高 20 m ほどの台地斜面部に位置している。

規模と形状 長軸 3.41 m，短軸 3.08 m の長方形で，主軸方向は N - 105° - E である。壁は高さ 31 ～ 50cm で，直立している。

床 平坦で，壁際を除いて踏み固められている。壁下には南東コーナー部を除いて壁溝が巡っている。

竈 東壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 117cm で，燃烧部幅は 45cm である。全体を楕円形に床面から 18cm 掘りくぼめ，ロームブロックを含んだ第 14 ～ 21 層を埋土している。袖部は，その上に粘土粒子や焼土ブロックを含んだ第 10 ～ 13 層を積み上げて構築されている。火床部は，床面とほぼ同じ高さを利用しており，火床面は第 14 層上面で，火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に 50cm 掘り込まれ，火床部から外傾している。火床部には，土師器の坏と高台付坏の 2 個体が逆位で重ねられた状態で据えられており，支脚として使用されていたと考えられる。



第31図 第3180号竪穴建物跡実測図

竈土層解説

- | | | | |
|----------|-----------------------------|-----------|-------------------------------|
| 1 暗褐色 | 焼土粒子少量, 炭化粒子・粘土粒子微量 | 12 にぶい黄褐色 | 粘土粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 2 暗褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 | 13 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック中量, 炭化粒子・粘土粒子少量 |
| 3 暗褐色 | 焼土粒子中量, 炭化粒子・粘土粒子微量 | 14 暗褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子中量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 15 黒褐色 | 焼土ブロック多量, 炭化物中量, ローム粒子少量 |
| 5 暗褐色 | 粘土粒子中量, 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量 | 16 暗褐色 | 焼土ブロック・炭化物中量, ロームブロック少量 |
| 6 暗赤褐色 | 焼土粒子多量, 炭化物・粘土粒子中量 | 17 暗褐色 | ローム粒子多量, 炭化粒子中量, 焼土粒子少量 |
| 7 暗赤褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量 | 18 暗褐色 | 炭化粒子・粘土粒子中量, ローム粒子少量 |
| 8 にぶい黄褐色 | 粘土粒子多量, 焼土ブロック・炭化粒子少量 | 19 褐色 | ロームブロック多量 |
| 9 赤褐色 | 焼土ブロック多量 | 20 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化物少量 |
| 10 暗褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子中量, ロームブロック少量 | 21 褐色 | ロームブロック多量, 炭化物少量 |
| 11 暗赤褐色 | 焼土ブロック多量, 粘土粒子中量, ロームブロック少量 | | |

ピット 3か所。P 1～P 3は深さ14～20cmで、それぞれ柱穴と考えられるが、性格は不明である。第1～4層は柱抜き取り後の堆積層である。

ピット土層解説

- | | |
|-------------------------------|-------------------------------|
| 1 黒褐色 炭化物中量, ロームブロック・焼土ブロック少量 | 3 黒褐色 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子中量 |
| 2 にぶい黄褐色 ロームブロック多量, 粘土粒子中量 | 4 黒褐色 焼土ブロック・炭化物多量, ロームブロック中量 |

貯蔵穴 南東コーナー部に付設されている。長径80cm, 短径70cmの楕円形で、深さは30cmである。底面は平坦で、壁はほぼ直立している。

貯蔵穴土層解説

- | | |
|-----------------------------|----------------------|
| 1 黒褐色 焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量 | 3 暗褐色 焼土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 2 褐色 粘土粒子中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量 | |

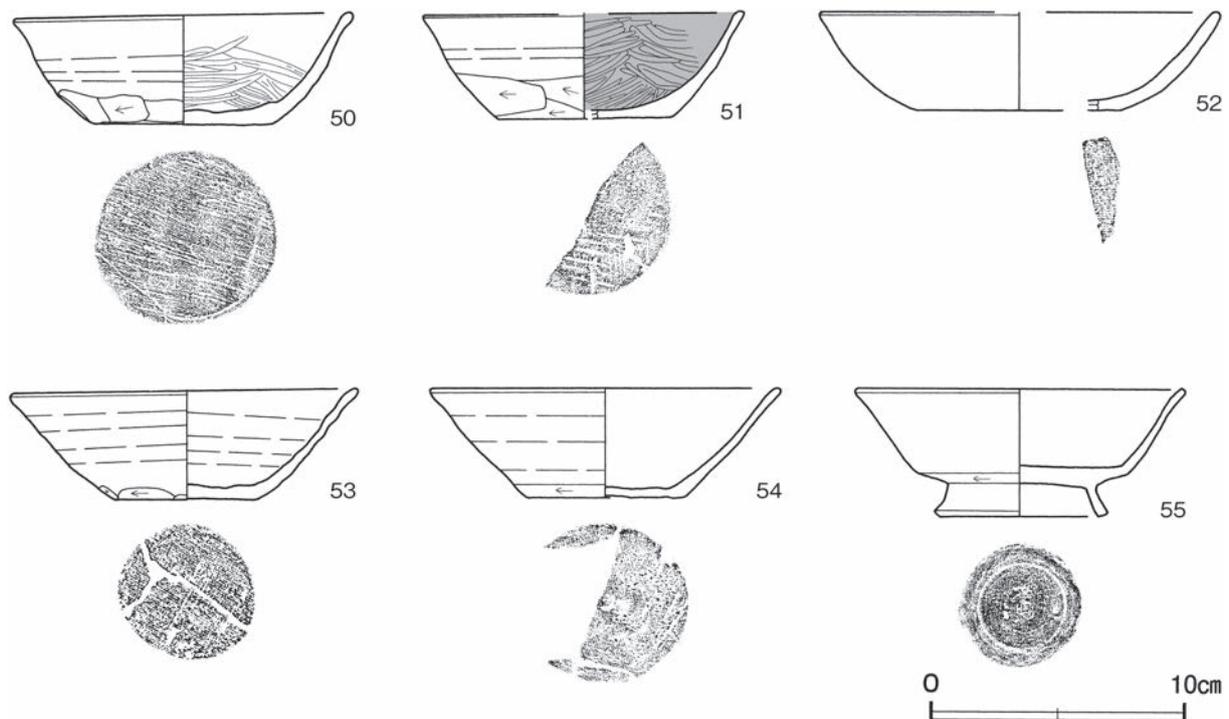
覆土 7層に分層できる。周囲から流れ込んだ堆積状況を示していることから、自然堆積である。

土層解説

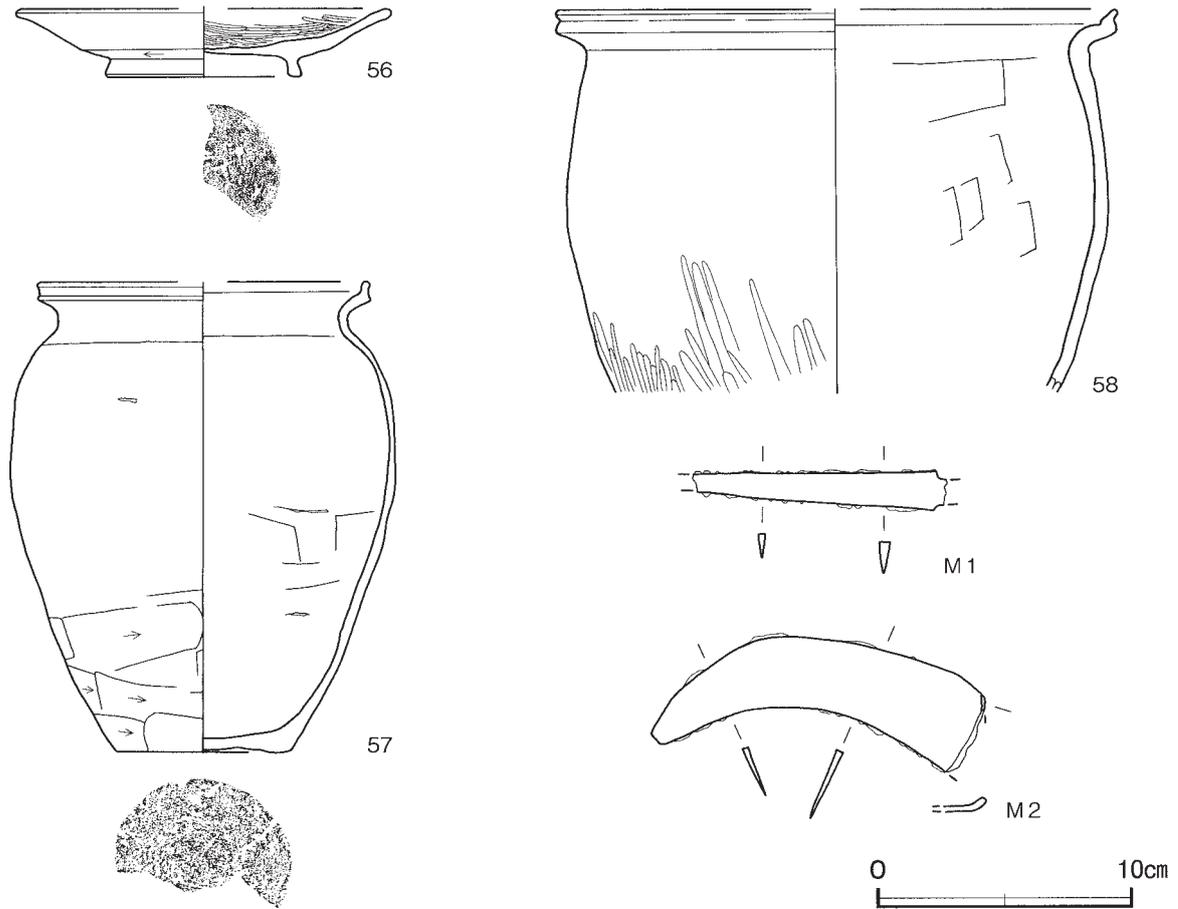
- | | |
|--------------------------------|-----------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量 | 5 黒褐色 焼土ブロック・炭化物・粘土ブロック中量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | 6 暗褐色 炭化物・焼土粒子多量, ロームブロック中量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック・炭化物中量, 焼土ブロック少量 | 7 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック中量, 炭化粒子少量 | |

遺物出土状況 土師器片266点(坏29, 高台付坏2, 高台付皿1, 甕233, 甑1), 須恵器片76点(坏29, 甕47), 灰釉陶器片2点(長頸瓶), 粘土塊6点, 石器1点(砥石), 金属製品3点(刀子, 鎌, 釘)のほか, 縄文土器片4点(深鉢), 陶器片2点(壺), 石核1点が出土している。遺物は竈内を中心に, 覆土中層から床面にかけて全体に出土していることから, 遺棄及び埋没していく過程で混入したものとみられる。50と55は, 火床部からそれぞれ逆位で重ねられた状態で出土している。火熱を受けており, 支脚として使用されていたと考えられる。53・57・58は竈内部及び周辺から出土しており, 竈の廃絶時に廃棄されたものと考えられる。M 1は南西部の覆土中層から, M 2は南部の壁溝から, それぞれ出土している。覆土中から出土した灰釉陶器片は細片のため図示できなかったが, 猿投窯産である。

所見 時期は, 出土土器から9世紀中葉に比定できる。



第32図 第3180号竪穴建物跡出土遺物実測図(1)



第 33 図 第 3180 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (2)

第 3180 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 32・33 図)

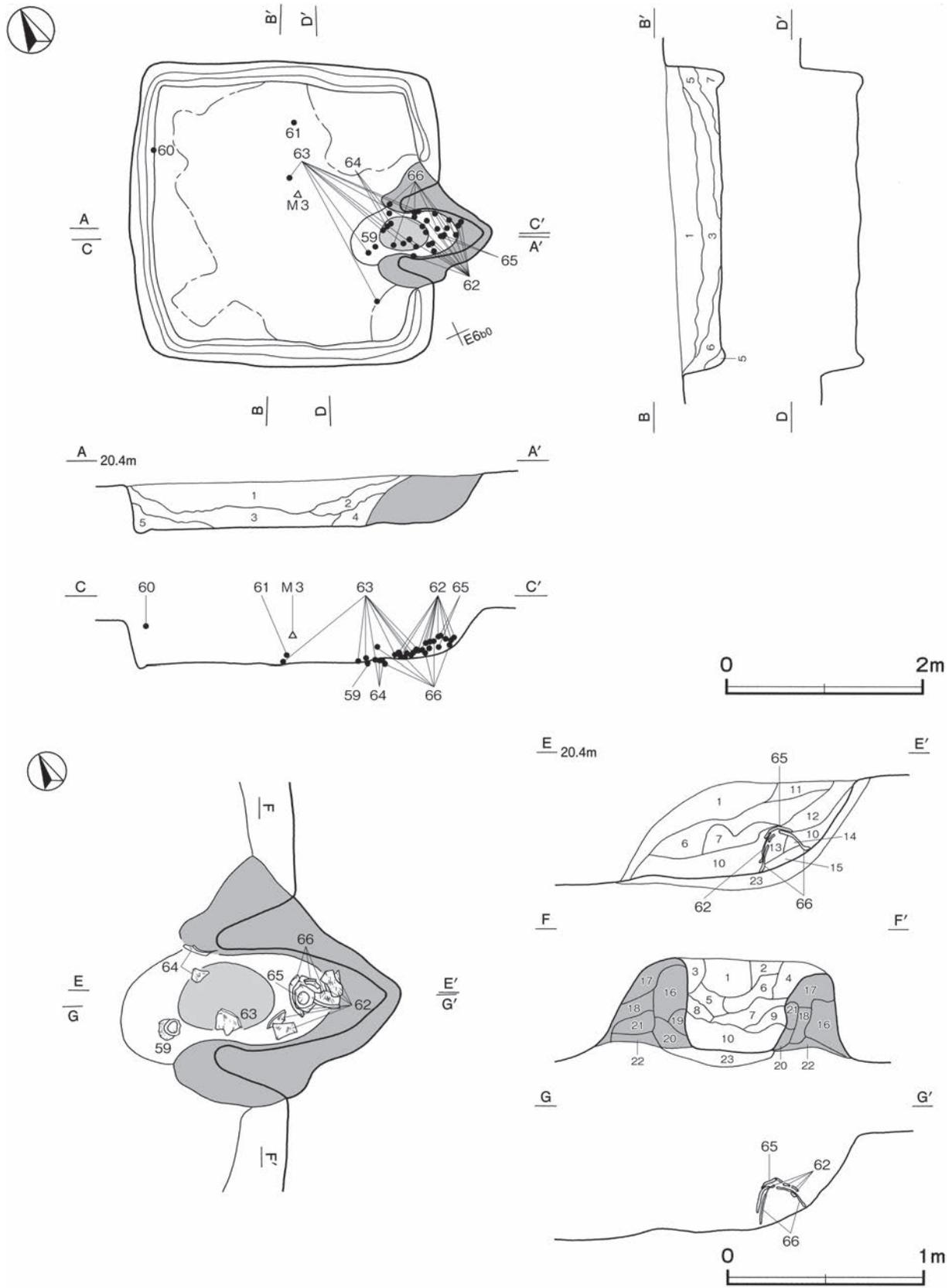
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
50	土師器	坏	13.1	4.5	7.0	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方向のヘラ削り	竈火床部	90% PL15
51	土師器	坏	[12.4]	4.2	[6.8]	長石	浅黄橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方向のヘラ削り	覆土中	30%
52	土師器	坏	[15.6]	3.9	[8.0]	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	底部ヘラナデ	覆土中	30%
53	須恵器	坏	13.4	4.5	5.3	長石・石英・雲母・細礫	灰黄	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方向のヘラ削り	竈覆土下層	90% 新治窯 PL15
54	須恵器	坏	13.6	4.4	6.2	長石・石英・雲母・赤色粒子・細礫	灰黄	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部一方向のヘラ削り	覆土上層～床面	50% 新治窯 PL15
55	土師器	高台付坏	12.7	5.1	6.1	長石・石英・赤色粒子・細礫	橙	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ削り	竈火床部	90% PL16
56	土師器	高台付皿	[14.4]	2.7	[7.7]	長石・石英・雲母・赤色粒子・細礫	にぶい黄褐	普通	体部下端回転ヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ削り	貯蔵穴 覆土上層	30%
57	土師器	甕	[12.8]	18.7	6.7	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 内面ヘラナデ	竈袖部・火床部	30%
58	土師器	甕	[21.9]	(15.3)	-	長石・石英・細礫	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 内面ヘラナデ	竈袖部・火床部	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 1	刀子	(10.0)	1.6	(0.5)	(15.7)	鉄	刃先・茎部欠損 刃部断面三角形	覆土中層	PL22
M 2	鎌	(13.0)	(5.4)	0.3	(34.6)	鉄	刃部断面三角形 基部折り返し	床面	PL22

第 3185 号竪穴建物跡 (第 34～36 図 PL 8)

調査年度 平成 25 年度

位置 14 区南西部の E 6a9 区、標高 20 m ほどの台地斜面部に位置している。



第34図 第3185号竪穴建物跡実測図

規模と形状 長軸3.16 m，短軸3.14 mの方形で，主軸方向はN - 114° - Eである。壁は高さ36～58cmで，ほぼ直立している。

床 平坦で、竈の焚口部から中央部を中心に踏み固められている。壁下には壁溝が全周している。

竈 東壁に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで140cmで、燃焼部幅は50cmである。床面から8cm掘りくぼめ、第23層を埋土している。袖部は、その上に粘土粒子や焼土ブロックを含んだ第16～22層を積み上げて構築されている。火床面は第23層上面で、火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に50cm掘り込まれ、火床部から外傾している。火床面には、縦に分割された須恵器甌と土師器甕に土師器小形甕の下半が逆位で重ねられた状態で据えられており、支脚として使用されていたと考えられる。

竈土層解説

1 黒褐色	ローム粒子・粘土粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量	12 極暗褐色	炭化粒子多量、焼土粒子・粘土粒子少量
2 暗褐色	ローム粒子・粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	13 赤褐色	焼土ブロック多量、炭化粒子少量
3 暗褐色	粘土粒子多量、焼土粒子・炭化粒子少量	14 極暗赤褐色	焼土粒子・炭化粒子中量
4 暗褐色	焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量	15 極暗褐色	焼土粒子・炭化粒子少量
5 暗褐色	炭化粒子中量、焼土粒子・粘土粒子少量、ロームブロック微量	16 暗褐色	粘土粒子中量、ロームブロック・焼土ブロック少量
6 暗褐色	焼土粒子・粘土粒子少量、炭化粒子微量	17 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子少量
7 暗褐色	焼土粒子中量、炭化粒子・粘土粒子少量	18 にぶい黄褐色	ローム粒子中量、焼土ブロック・粘土粒子少量
8 暗褐色	焼土ブロック・炭化物・ローム粒子少量	19 暗褐色	焼土ブロック多量、ロームブロック中量、粘土粒子少量
9 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子少量	20 暗褐色	焼土ブロック・粘土粒子中量、ローム粒子少量
10 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子少量	21 にぶい黄褐色	粘土粒子多量、炭化粒子少量
11 暗褐色	炭化粒子・粘土粒子中量、焼土粒子少量	22 褐色	ロームブロック多量
		23 黒褐色	ロームブロック多量、焼土ブロック・炭化物中量

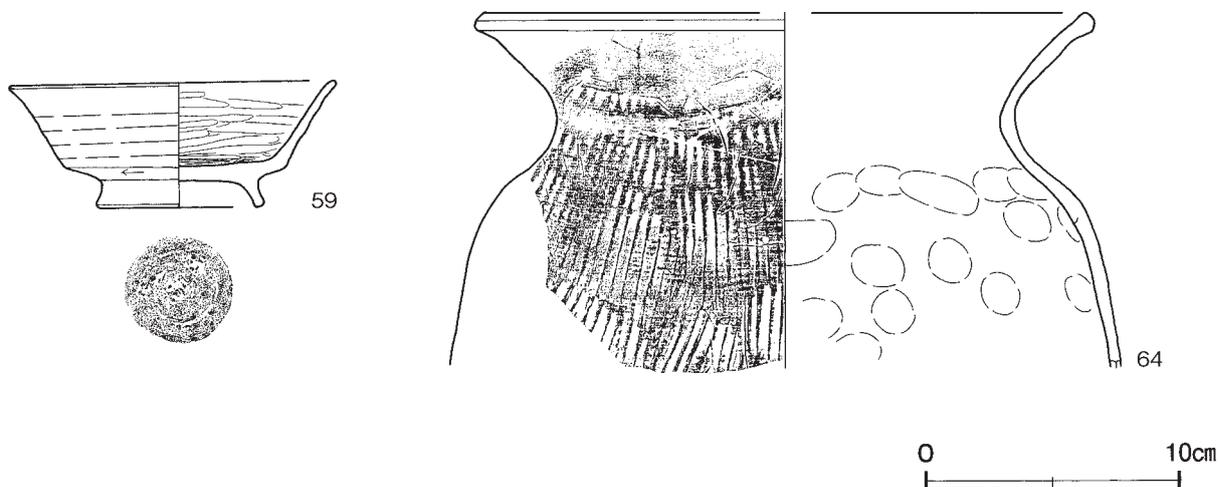
覆土 7層に分層できる。周囲から流れ込んだ堆積状況を示していることから、自然堆積である。

土層解説

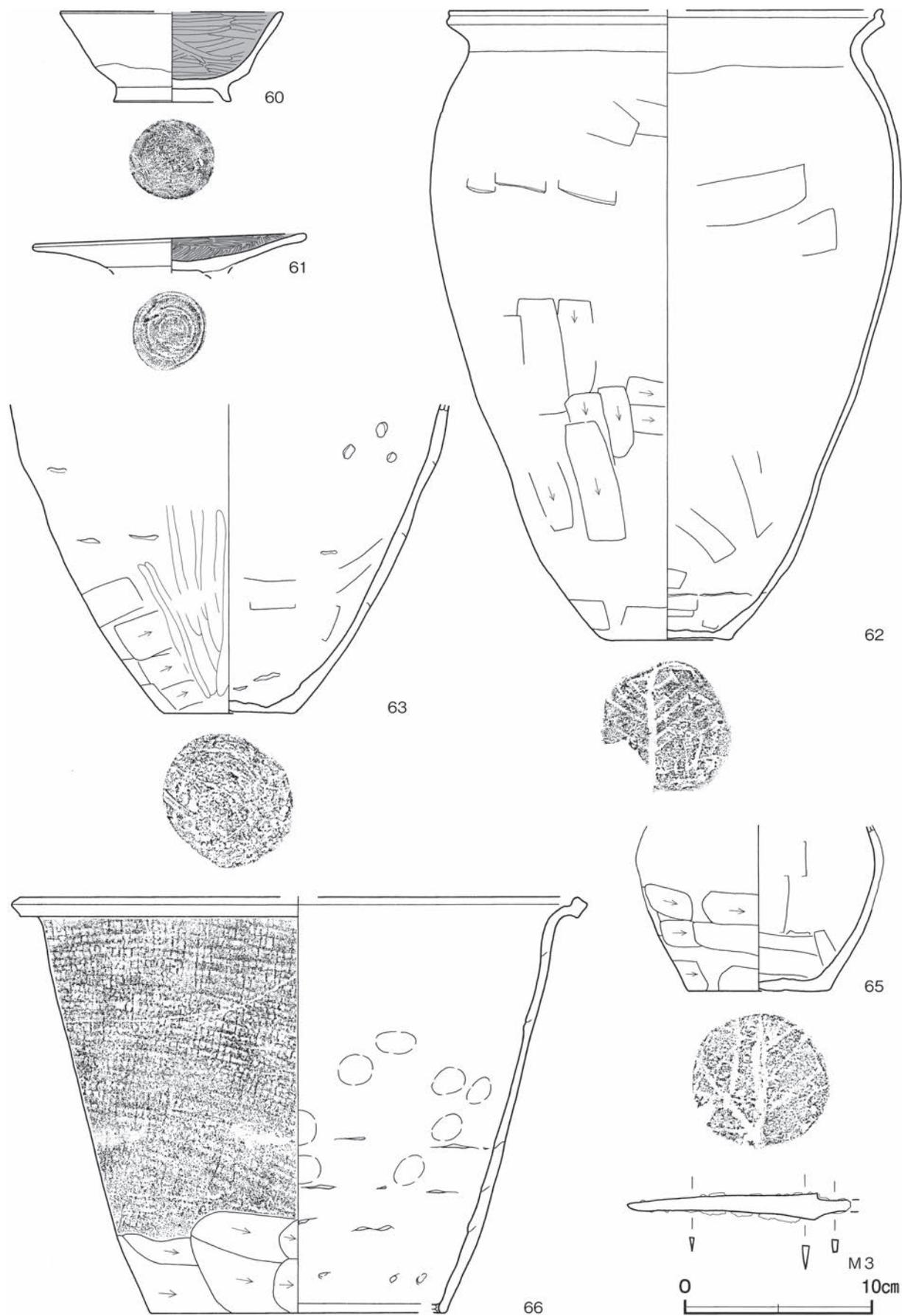
1 黒褐色	ロームブロック多量、焼土ブロック・炭化粒子中量	5 にぶい黄褐色	ロームブロック多量、焼土ブロック・炭化粒子少量
2 黒褐色	ローム粒子多量、焼土ブロック・炭化物中量	6 暗褐色	炭化物・ローム粒子中量、焼土粒子少量
3 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子多量	7 暗褐色	ローム粒子多量、炭化粒子少量
4 暗褐色	焼土ブロック・炭化粒子多量、ロームブロック中量		

遺物出土状況 土師器片171点(坏39, 高台付坏2, 高台付皿1, 甕128, 小形甕1), 須恵器片65点(坏49, 甕13, 甌3), 粘土塊1点, 鉄滓1点(16.74g), 金属製品1点(刀子)が、全体の覆土上層から床面にかけて混入した状況で出土している。62・65・66は、竈の火床面からそれぞれ逆位で重ねられた状態で出土している。62・66はそれぞれ縦に分割されたものを斜めに重ねており、その上に65の小形甕下半のみを最上部に据えていた。それぞれ火熱を受けており、支脚として使用されていたと考えられる。64は竈の左袖部脇から出土しており、袖部の補強材として用いられたと考えられる。

所見 時期は、出土土器から9世紀中葉と考えられる。



第35図 第3185号竪穴建物跡出土遺物実測図(1)



第36图 第3185号竖穴建物跡出土遺物実測図(2)

第 3185 号 竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 35・36 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
59	土師器	高台付坏	12.7	5.1	6.1	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部下端回転ヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ削り	床面	80% PL16
60	土師器	高台付坏	[11.7]	4.9	6.2	長石・石英	にぶい黄橙	普通	体部下端ナデ 内面ヘラ磨き 底部ナデ	覆土上層	50% PL16
61	土師器	高台付皿	14.5	(2.1)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	体部内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ削り	覆土下層	60% PL18
62	土師器	甕	[23.0]	34.0	6.5	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ヘラナデ・ヘラ削り 内面ヘラナデ 底部木葉痕	竈火床面	40% PL19
63	土師器	甕	-	(16.7)	6.9	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き 内面ヘラナデ	覆土下層～床面	40%
64	須恵器	甕	[23.6]	(14.1)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面格子状叩き 内面ナデ 指頭痕	竈火床面	20% 新治窯
65	土師器	小形甕	-	(8.9)	7.5	長石・石英・雲母・赤色粒子・細礫	にぶい黄褐	普通	体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ 底部木葉痕	竈火床面	50%
66	須恵器	甕	[30.0]	22.4	[16.0]	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面格子状叩き 下部ヘラ削り 内面ナデ 指頭痕	竈火床面	40% 新治窯

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 3	刀子	(11.9)	1.5	0.4	(12.4)	鉄	刃部断面三角形 茎部断面長方形	覆土中層	PL22

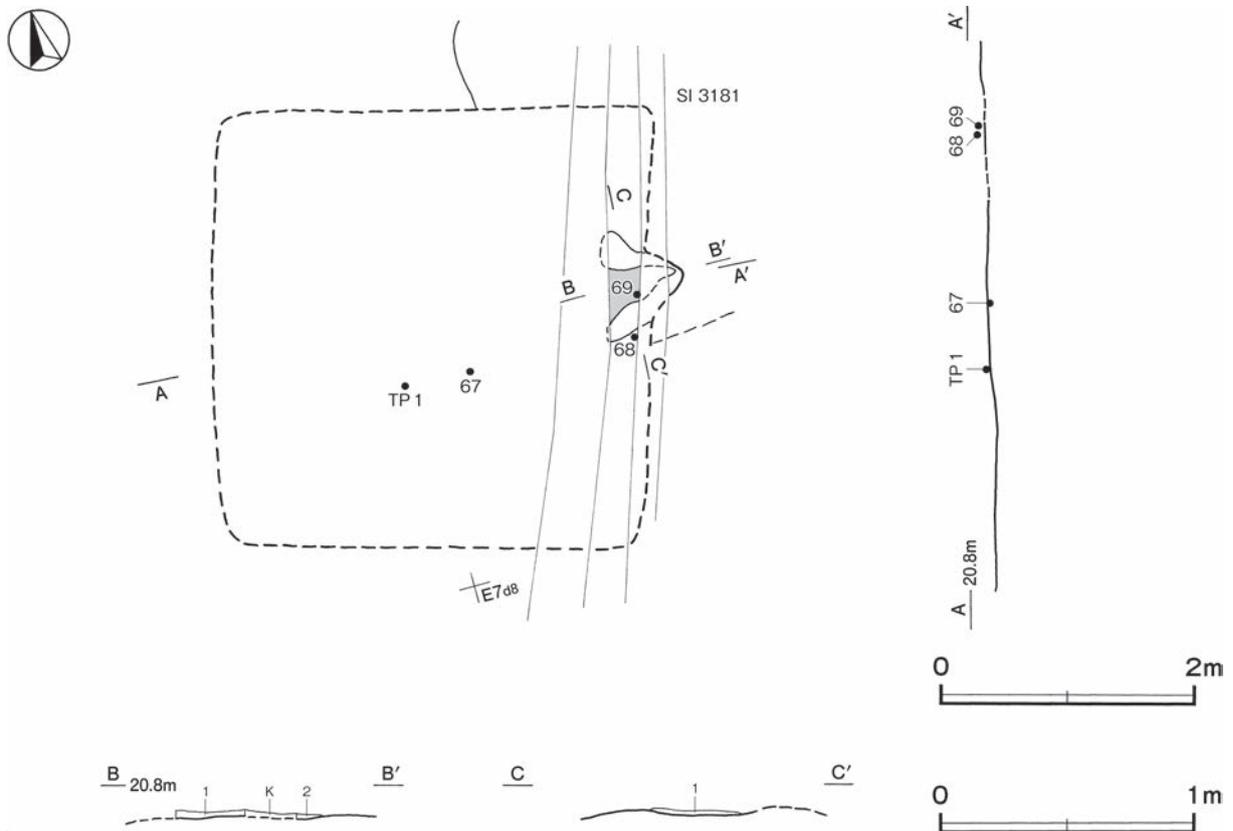
第 3186 号 竪穴建物跡 (第 37・38 図)

調査年度 平成 25 年度

位置 14 区南西部の E 7 c8 区, 標高 21 m ほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 3181 号 竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 大部分が削平されているが, 竈の位置と遺物の出土状況から, 推定される規模は長軸 3.46 m, 短軸 3.44 m の方形で, 主軸方向は N - 103° - E である。



第 37 図 第 3186 号 竪穴建物跡実測図

床 ほぼ平坦である。

竈 東壁中央部に付設されている。削平を受けているため、遺存している規模は焚口部から煙道部まで60cmで、燃焼部幅は30cmである。袖部は地山を掘り残し構築されている。火床面は、火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は、壁外に30cm掘り込まれている。

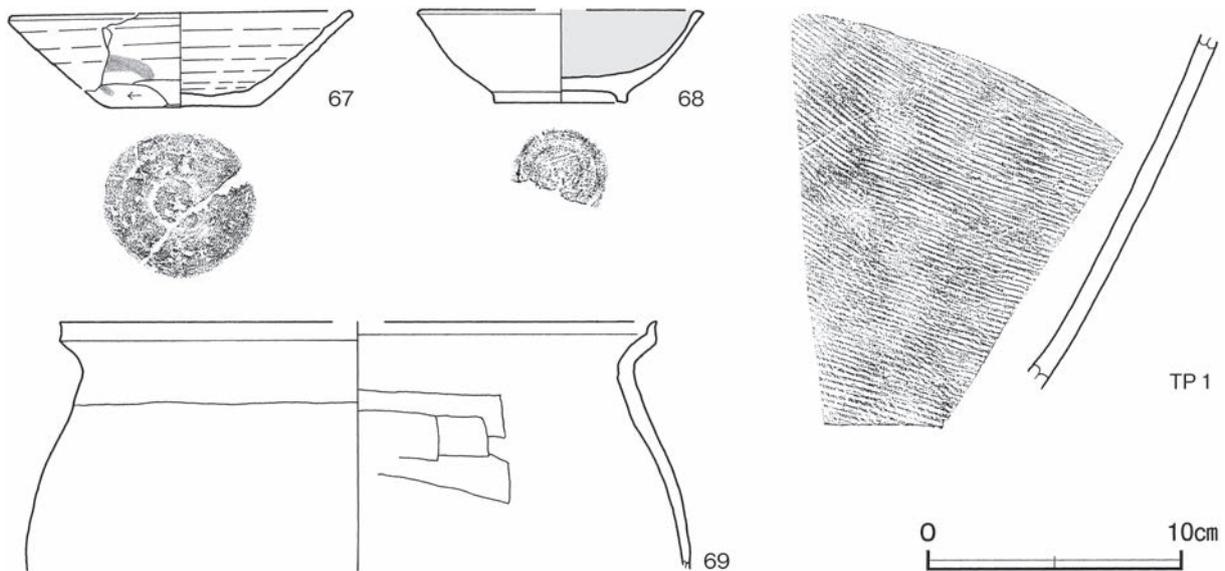
竈土層解説

1 褐色 焼土粒子多量, 炭化粒子中量

2 暗褐色 焼土粒子中量, 炭化粒子少量

遺物出土状況 土師器片3点(甕), 須恵器片7点(坏1, 蓋1, 甕5), 灰釉陶器片1点(椀)が, 覆土下層から床面にかけて出土している。69は竈の火床部から出土しており, 竈廃絶時に廃棄されたものとみられる。

所見 時期は, 出土土器から9世紀中葉に比定できる。



第38図 第3186号竪穴建物跡出土遺物実測図

第3186号竪穴建物跡出土遺物観察表(第38図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
67	須恵器	坏	13.3	3.8	5.8	長石・石英	灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部多方向のヘラ削り 墨書「□」	床面	80% 新治窯 PL15
68	灰釉陶器	椀	[10.8]	3.7	[5.1]	長石・石英	灰白	緻密	体部内面灰釉刷毛塗り 底部ヘラ記号「一」	覆土下層	20% PL17 黒笹14窯式
69	土師器	甕	[23.4]	(9.9)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ナデ 内面ヘラナデ	竈火床部	5%
TP1	須恵器	甕	-	-	-	長石・石英・雲母	灰	普通	体部外面横位の平行叩き 内面ナデ	床面	新治窯 PL21

第3189号竪穴建物跡(第39図 PL9)

調査年度 平成25年度

位置 14区西部のD6g0区, 標高21mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第520号溝に掘り込まれている。

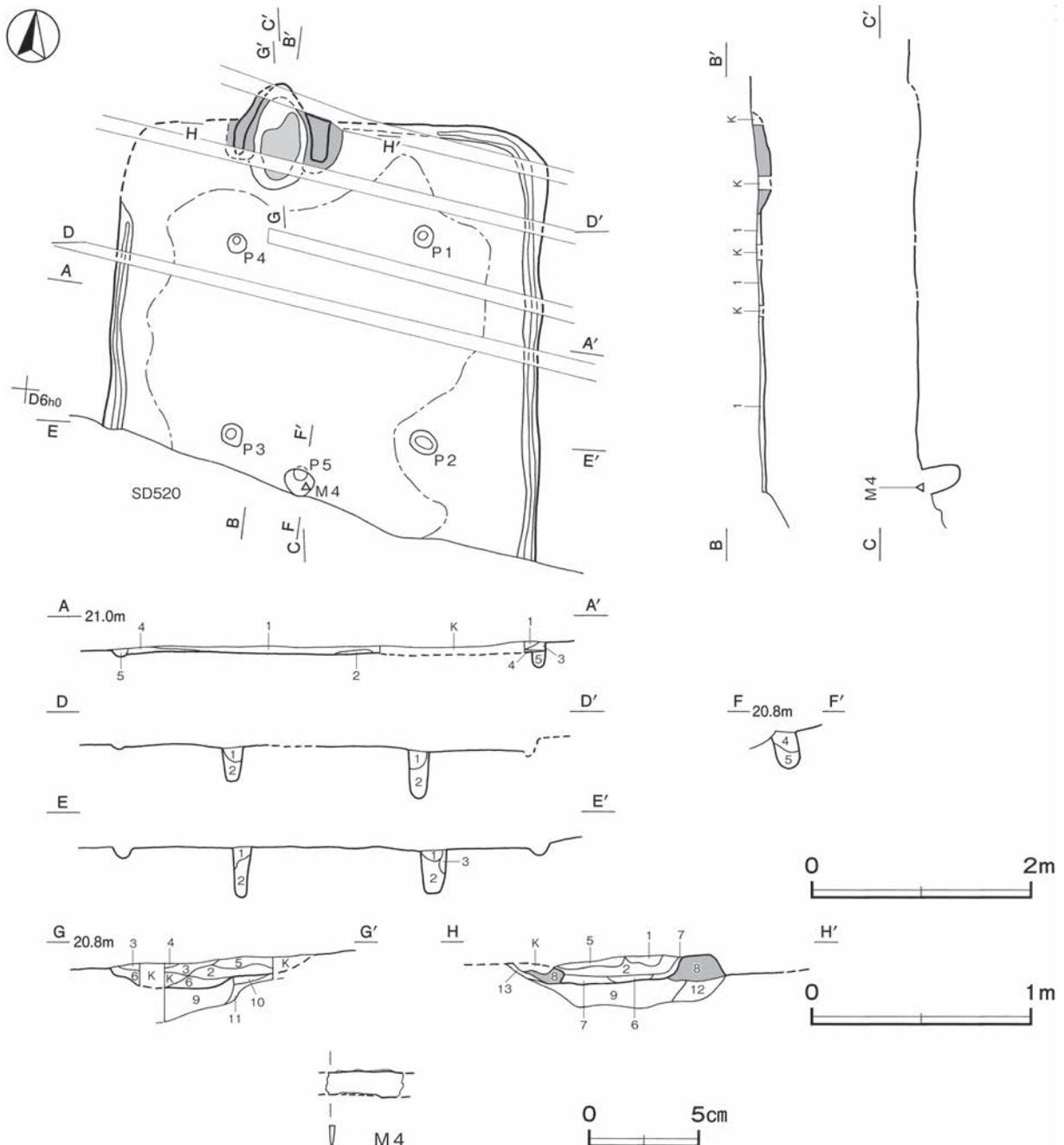
規模と形状 北西コーナー部が削平され, 南部を第520号溝に掘り込まれているため, 長軸は4.00mで, 短軸は3.88mしか確認できなかった。方形または長方形で, 主軸方向はN-5°-Wである。壁は高さ2~10cmで, 外傾している。

床 平坦で, 中央部が踏み固められている。北西コーナー部を除いて, 壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部やや西寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで98cmで、燃焼部幅は48cmである。全体を楕円形に床面から15cm掘りくぼめ、第9～13層を埋土している。袖部は、その上に粘土粒子を主体とする第8層を積み上げて構築されている。火床部は第9・10層上面で、火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に32cm掘り込まれ、火床部から外傾している。

竈土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------------|-----------|----------------------|
| 1 暗褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量 | 6 黒褐色 | 焼土ブロック多量、ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 | 焼土ブロック多量、炭化粒子中量、ローム粒子・粘土粒子少量 | 7 暗褐色 | 焼土ブロック中量、炭化物・ローム粒子少量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量 | 8 にぶい黄褐色 | 粘土粒子多量、焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | 9 暗褐色 | ローム粒子多量、焼土粒子少量 |
| 5 褐色 | 焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子少量 | 10 褐色 | ロームブロック・焼土粒子中量、炭化物少量 |
| | | 11 褐色 | ローム粒子多量、粘土粒子中量 |
| | | 12 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土ブロック少量 |
| | | 13 にぶい黄褐色 | ローム粒子多量、粘土粒子中量 |



第39図 第3189号竪穴建物跡・出土遺物実測図

ピット 5か所。P 1～P 4は深さ32～46cmで、規模と配置から支柱穴である。P 5は深さ34cmで、南壁際の中央部付近に位置していると推定されることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。第1～5層は、柱抜き取り後の堆積層である。

ピット土層解説

- | | | | |
|---------|----------------------|-------|--------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量 | 4 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量 | 5 黒褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 にぶい褐色 | ローム粒子多量 | | |

覆土 5層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------------|----------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量 | 3 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化物・焼土粒子少量 |
| 2 暗褐色 | 焼土粒子・粘土粒子中量, ローム粒子・炭化粒子少量 | 4 にぶい黄褐色 | ローム粒子多量 |
| | | 5 暗褐色 | ローム粒子多量 |

遺物出土状況 土師器片24点(坏4, 甕19, 甑1), 金属製品1点(刀子)が, 竈の周辺を中心に出土している。出土土器は細片のため, 図示できなかったが, 出土した土師器坏はロクロ成形で, 底部に回転ヘラ切りが認められる。M 4は, P 5の覆土上層から出土している。

所見 時期は, 出土土器から9世紀代と考えられる。

第3189号竪穴建物跡出土遺物観察表(第39図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 4	刀子	(3.6)	(1.2)	(0.2)	(2.9)	鉄	刃先・茎部欠損 刃部断面三角形	P 5覆土上層	

第3190号竪穴建物跡(第40・41図 PL 9)

調査年度 平成25年度

位置 14区西部のD 6f9区, 標高20mほどの台地斜面部に位置している。

規模と形状 長軸3.54m, 短軸2.80mの長方形で, 主軸方向はN-16°-Eである。壁は高さ10～24cmで, ほぼ直立している。

床 平坦で, 竈の焚口部から中央部を中心に踏み固められている。壁下には壁溝が全周している。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで132cmで, 燃焼部幅は35cmである。床面から5cm掘りくぼめ, 第14層を埋土して構築されている。袖部は左袖の下を土坑状に掘り込み, 第15・16層を埋土し, その上に粘土粒子や焼土ブロック・炭化粒子を含んだ第11～13層を積み上げて構築されている。火床面は第14層上面で, 火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に92cm掘り込まれ, 火床部から外傾している。

竈土層解説

- | | | | |
|----------|-------------------------------|-----------|---------------------------------|
| 1 暗褐色 | 焼土ブロック・炭化物・ローム粒子・粘土粒子少量 | 8 にぶい赤褐色 | 焼土粒子多量 |
| 2 灰黄褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子中量, 炭化粒子少量 | 9 褐色 | ロームブロック・炭化粒子中量, 焼土粒子少量 |
| 3 黒褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子中量, 粘土粒子少量 | 10 暗褐色 | 焼土粒子多量, ロームブロック中量, 炭化物少量 |
| 4 にぶい黄褐色 | 粘土粒子多量, ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子微量 | 11 にぶい黄褐色 | 粘土粒子多量, 炭化物中量, ロームブロック・焼土ブロック少量 |
| 5 黒褐色 | 焼土ブロック多量, ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子少量 | 12 黒褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子多量, ローム粒子少量 |
| 6 灰黄褐色 | 焼土粒子多量, 炭化粒子少量 | 13 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子中量, 炭化粒子少量 |
| 7 暗褐色 | 焼土ブロック・炭化物少量 | 14 にぶい黄褐色 | 焼土粒子多量, ローム粒子・炭化粒子中量 |
| | | 15 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土ブロック・炭化物少量 |
| | | 16 褐色 | 炭化物・ローム粒子中量, 焼土ブロック少量 |

ピット 5か所。P1～P4は深さ12～32cmで、規模と配置から支柱穴である。P5は深さ14cmで、南壁際の中央部付近に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。第1～6層は柱抜き取り後の堆積層である。

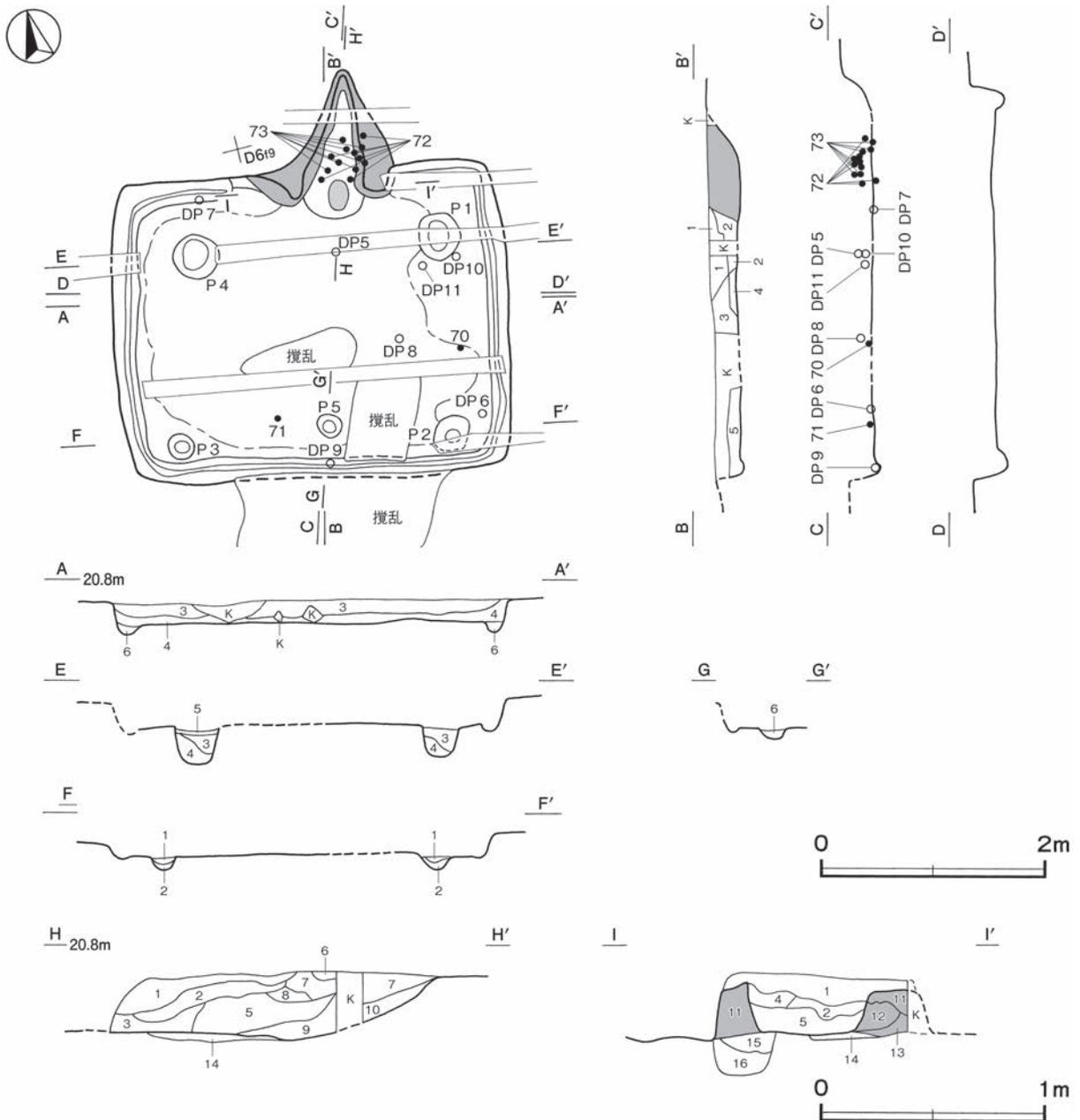
ピット土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|-------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量 | 4 暗褐色 | ロームブロック多量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量 | 5 黒褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化物少量 |
| 3 褐色 | ローム粒子多量 | 6 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土ブロック・炭化物少量 |

覆土 6層に分層できる。各層にロームブロックや焼土ブロック・炭化物が含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

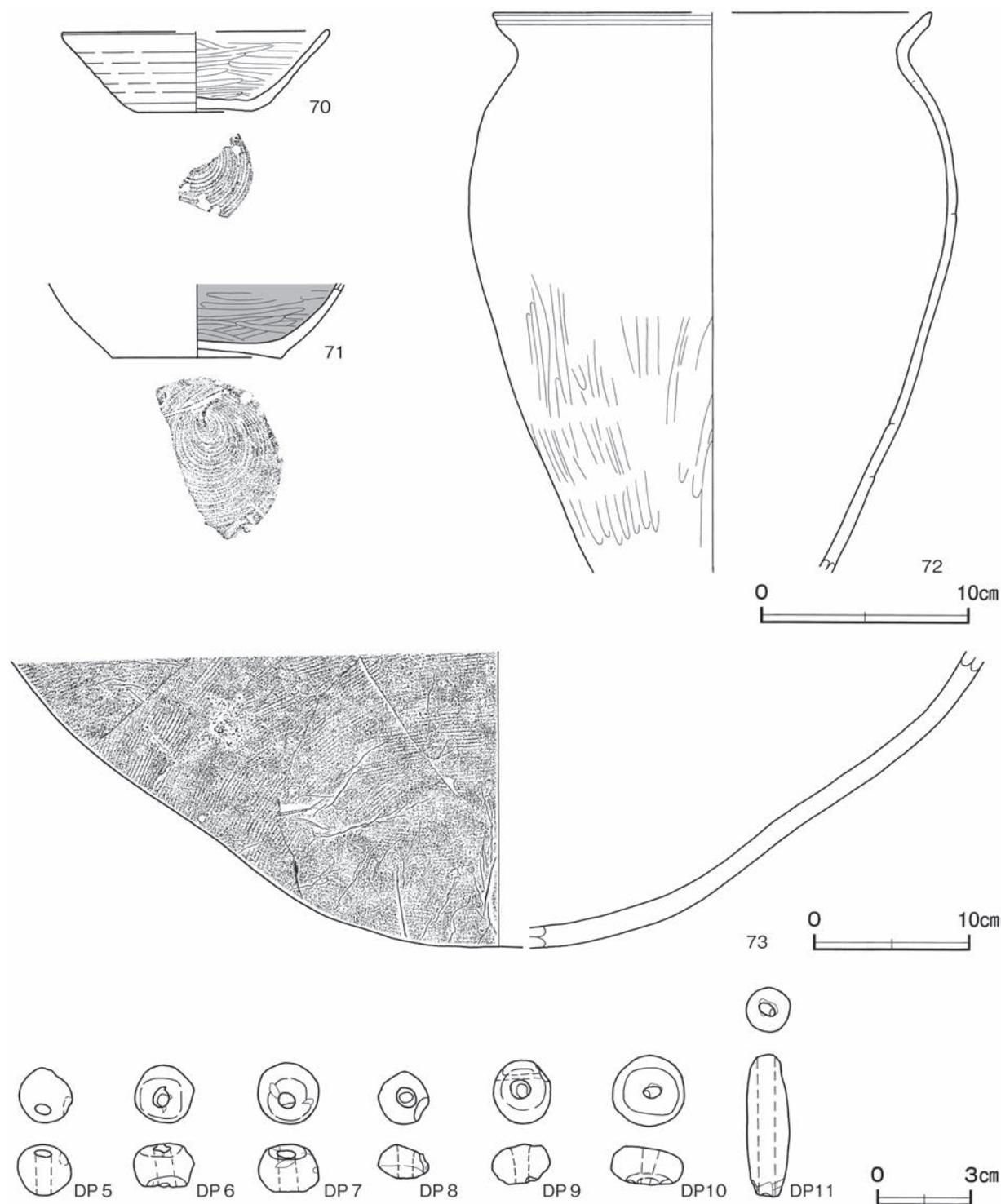
- | | | | |
|-------|------------------------|----------|--------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・粘土粒子中量, 炭化物少量 | 4 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化物少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量 | 5 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子多量, 焼土粒子中量, 炭化物少量 | 6 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量 |



第40図 第3190号竪穴建物跡実測図

遺物出土状況 土師器片 89 点 (坏 10, 甕 79), 須恵器片 4 点 (坏 2, 甕 1, 大甕 1), 土製品 10 点 (土玉 8, 管状土錘 2), 金属製品 3 点 (刀子 2, 鉛玉 1), 鉄滓 1 点 (2.40g) が, 全体の覆土中層から床面にかけて出土している。70 は東部, 71 は南部のそれぞれ床面から出土している。72・73 は竈の火床面から出土しており, 竈廃絶時に廃棄されたものとみられる。DP 5 ~ DP11 は覆土下層から床面にかけて全体に広がって出土しており, 埋め戻しの際に投棄されたものと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から 10 世紀前葉に比定できる。



第 41 図 第 3190 号 竪穴建物跡出土遺物実測図

第 3190 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 41 図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 徴 ほ か	出土位置	備 考
70	土師器	坏	[12.7]	3.9	[5.5]	長石	橙	普通	体部内面ヘラ磨き 底部回転糸切り	床面	20%
71	土師器	坏	-	(3.6)	[8.2]	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部内面ヘラ磨き 底部回転糸切り	床面	40%
72	土師器	甕	[21.1]	(27.4)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ヘラ磨き 内面ナデ	竈火床面	30%
73	須恵器	大甕	-	(19.1)	-	長石・石英・細礫	暗青灰	普通	体部外面横位の並行叩き 内面ナデ	竈火床面	10% 新治窯

番号	器 種	径	厚さ	孔径	重量	胎 土	色 調	特 徴	出土位置	備 考
DP 5	土玉	1.9	1.6	0.5	4.3	長石	橙	ナデ 一方向からの穿孔	覆土下層	PL22
DP 6	土玉	1.9	1.4	0.6	4.4	長石・石英	橙	ナデ 一方向からの穿孔	床面	PL22
DP 7	土玉	2.0	1.6	0.6	5.3	長石・赤色粒子	にぶい黄橙	ナデ 一方向からの穿孔	床面	PL22
DP 8	土玉	1.7	1.1	0.6	2.0	長石	橙	ナデ 一方向からの穿孔	覆土下層	PL22
DP 9	土玉	2.1	1.3	0.6	3.6	長石	橙	ナデ 一方向からの穿孔	床面	PL22
DP10	土玉	2.3	1.3	0.3~0.6	5.7	長石・石英	にぶい黄橙	ナデ 一方向からの穿孔	覆土下層	PL22
DP11	管状土錘	1.5	4.7	0.4~0.6	8.4	長石・石英	灰黄褐	ナデ 一方向からの穿孔	覆土下層	PL22

第 3191 号竪穴建物跡 (第 42 ~ 44 図 PL10)

調査年度 平成 25 年度

位置 14 区西部の D 6 c9 区, 標高 21 m ほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸 5.32 m, 短軸 5.00 m の方形で, 主軸方向は N - 1° - W である。壁は高さ 14 ~ 28cm で, ほぼ直立している。

床 平坦な貼床で, 壁際を除いて踏み固められている。壁下には壁溝が全周している。貼床は, ピット周辺の 4 か所を確認面から 42 ~ 59cm の深さに凹凸のある不整楕円形に掘り込み, ローム粒子主体の第 17 ~ 19 層を埋土後に踏み固めて構築されている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 104cm で, 燃焼部幅は 50cm である。全体を楕円形に床面から 22cm 掘りくぼめ, 第 20 ~ 27 層を埋土している。袖部は右袖の下を土坑状に掘り込み, 第 28 層を埋土している。その上に粘土粒子や焼土ブロック・炭化物を含んだ第 14 ~ 19 層を積み上げて, 左右の袖部を構築している。火床面は第 20・21 層上面で, 火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に 20cm 掘り込まれ, 火床部から外傾している。

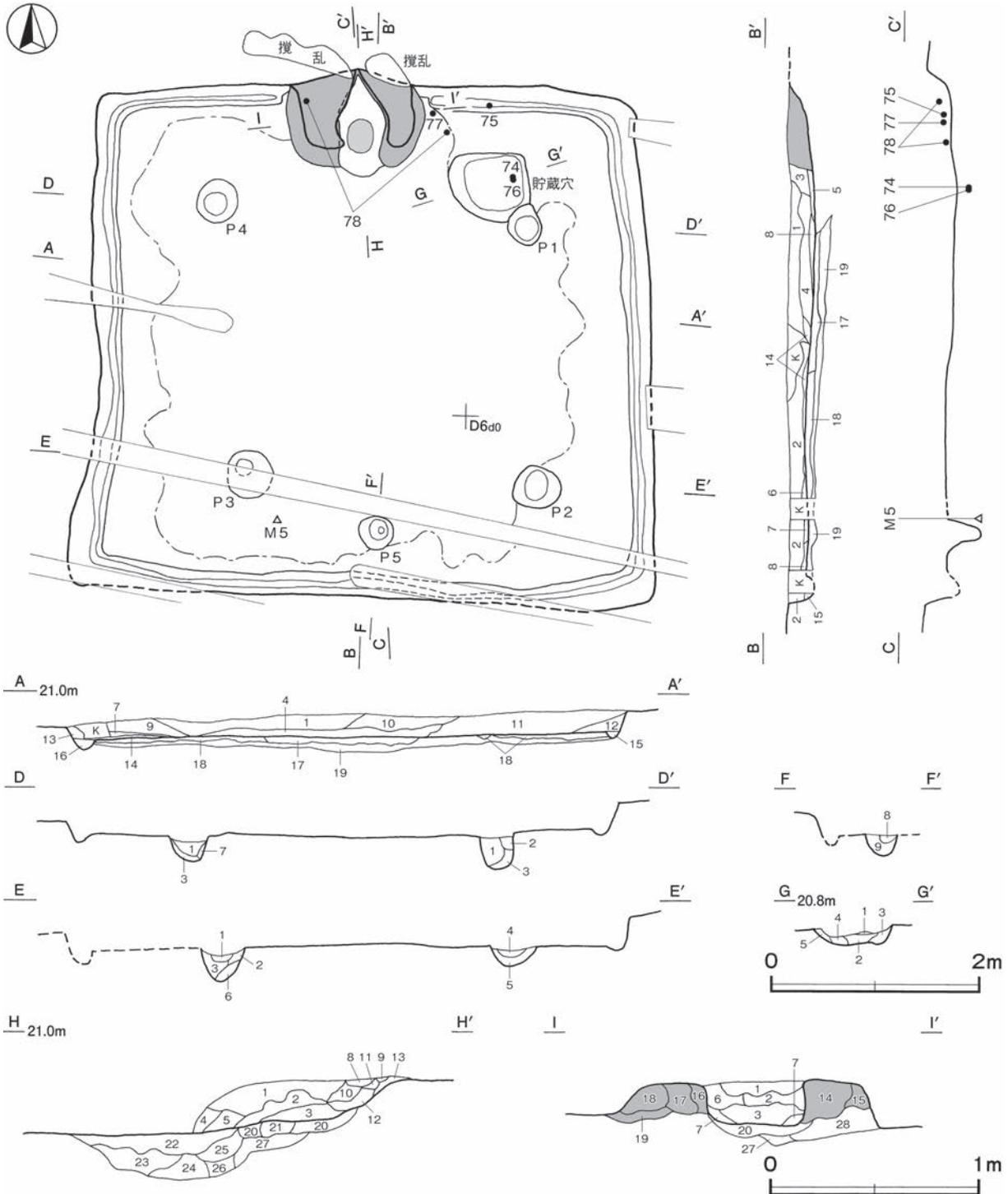
竈土層解説

1 暗 褐 色	炭化粒子・粘土粒子中量, 焼土ブロック・ローム粒子少量	15 黒 褐 色	ローム粒子中量, 焼土ブロック・炭化物・粘土粒子少量
2 灰黄褐色	焼土ブロック多量, 粘土粒子中量, 炭化物少量	16 暗赤褐色	焼土ブロック・粘土粒子多量, 炭化物・ローム粒子少量
3 にぶい赤褐色	焼土ブロック多量, 粘土粒子中量	17 にぶい黄褐色	粘土粒子多量, 焼土ブロック・炭化物・ローム粒子少量
4 にぶい褐色	粘土粒子多量, 焼土ブロック・炭化物中量	18 黒 褐 色	粘土粒子多量, 炭化物中量, 焼土ブロック少量
5 黒 褐 色	炭化粒子多量, 焼土ブロック・粘土粒子中量	19 暗 褐 色	ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化粒子少量
6 暗赤褐色	焼土ブロック多量, 炭化物・粘土粒子中量	20 暗 褐 色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
7 黒 褐 色	焼土ブロック・ロームブロック中量, 炭化粒子少量	21 赤 褐 色	焼土ブロック多量
8 暗赤褐色	焼土ブロック多量, 炭化粒子・粘土粒子中量	22 黒 褐 色	炭化粒子多量, ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子中量
9 暗赤褐色	焼土ブロック多量, 炭化物中量, ロームブロック・粘土粒子少量	23 黒 褐 色	焼土ブロック・粘土粒子少量
10 暗 褐 色	ロームブロック・粘土粒子中量, 焼土ブロック少量	24 黒 褐 色	焼土ブロック・粘土粒子中量, 炭化物少量
11 暗赤褐色	焼土粒子多量, 炭化物・ローム粒子中量, 粘土粒子少量	25 暗赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物中量
12 暗 褐 色	焼土ブロック多量, 炭化物・ローム粒子中量	26 にぶい黄褐色	焼土ブロック中量
13 暗 褐 色	ローム粒子多量, 焼土ブロック・炭化粒子少量	27 暗 褐 色	ローム粒子中量, 焼土ブロック少量
14 にぶい赤褐色	焼土ブロック・炭化物・粘土粒子多量, ロームブロック少量	28 暗 褐 色	ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化物少量

ピット 5か所。P1～P4は深さ22～36cmで、規模と配置から主柱穴である。P5は深さ34cmで、南壁際の中央部付近に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。第1～9層は柱抜き取り後の堆積層である。

ピット土層解説

- | | | | |
|----------|--------------------------|----------|-----------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化物少量 | 6 にぶい黄褐色 | ローム粒子中量 |
| 2 にぶい黄褐色 | ロームブロック多量, 焼土ブロック・炭化粒子少量 | 7 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子微量 | 8 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土ブロック・炭化物少量 |
| 4 褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化物少量 | 9 にぶい黄褐色 | ローム粒子多量, 焼土ブロック少量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック中量 | | |



第42図 第3191号竪穴建物跡実測図(1)

貯蔵穴 北東コーナー部に付設されている。長径 78cm, 短径 68cmの楕円形で, 深さは 18cmである。底面は平坦で, 壁はほぼ外傾している。

貯蔵穴土層解説

- | | | | |
|----------|----------------------------|----------|--------------------|
| 1 暗褐色 | 焼土ブロック・粘土粒子中量, 炭化物・ローム粒子少量 | 4 暗褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | 5 にぶい黄褐色 | 焼土ブロック・炭化物・ローム粒子中量 |
| 3 にぶい黄褐色 | 炭化物・ローム粒子・粘土粒子中量, 焼土ブロック少量 | | |

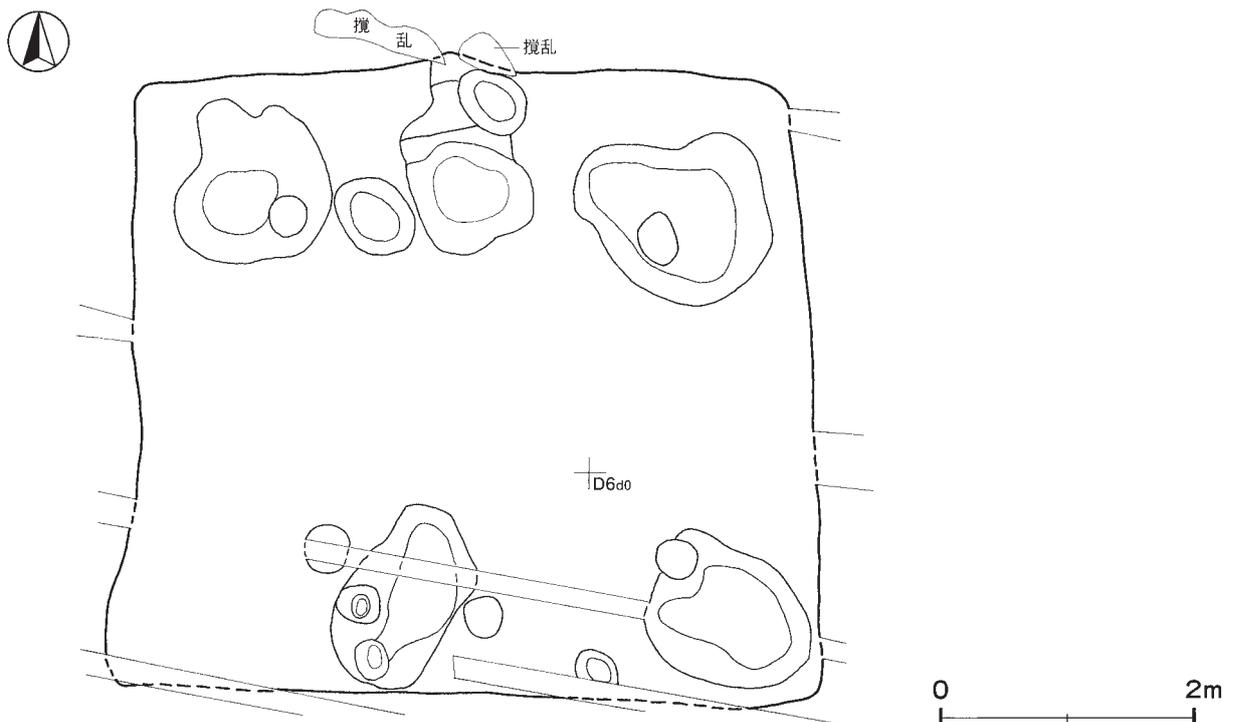
覆土 16層に分層できる。多くの層にロームブロックや焼土ブロック・炭化物が含まれていることから, 埋め戻されている。第 17～19層は貼床の構築土である。

土層解説

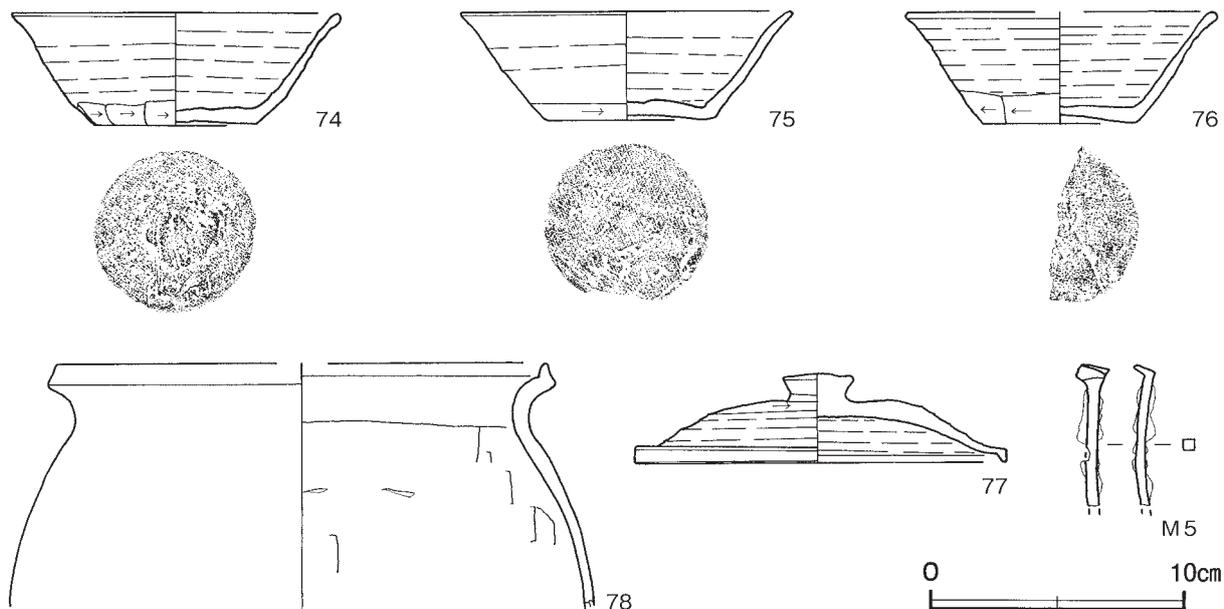
- | | | | |
|----------|-----------------------------|-----------|--------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・粘土粒子少量 | 9 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック少量 | 10 黒褐色 | ローム粒子多量, 焼土粒子・粘土粒子中量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子中量 | 11 黒褐色 | ローム粒子多量, 焼土ブロック中量, 炭化物少量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック・粘土粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 12 黒褐色 | ローム粒子多量 |
| 5 にぶい黄褐色 | 粘土粒子多量, 焼土ブロック・炭化物中量 | 13 黒褐色 | ローム粒子中量, 炭化物・焼土粒子少量 |
| 6 暗褐色 | ローム粒子中量 | 14 にぶい黄褐色 | ローム粒子多量, 焼土ブロック少量 |
| 7 黒褐色 | ロームブロック中量 | 15 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 8 暗褐色 | 炭化粒子多量, ロームブロック中量, 焼土粒子少量 | 16 褐色 | ロームブロック中量 |
| | | 17 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土ブロック・炭化粒子少量 |
| | | 18 灰黄褐色 | ローム粒子多量 |
| | | 19 にぶい黄褐色 | ローム粒子多量 |

遺物出土状況 土師器片 183点 (坏 5, 甕 178), 須恵器片 81点 (坏 33, 高台付坏 1, 蓋 11, 盤 2, 壺 1, 甕 33), 金属製品 1点 (釘) のほか, 縄文土器片 5点 (深鉢), 古墳時代の土師器片 2点 (高坏), 瓦質土器片 1点 (鉢), 陶器片 5点 (播鉢 1, 壺 3, 甕 1), 鉄滓 1点 (22.75 g), 石核 1点が, 全体の覆土上層から床面にかけて出土している。75・77は竈の右袖付近から, 74・76は貯蔵穴の底面から出土しており, それぞれ遺棄されたものとみられる。M5が, P3脇の掘方覆土中から出土している。

所見 時期は, 出土土器から 9世紀中葉に比定できる。



第 43 図 第 3191 号 縦穴建物跡実測図 (2)



第44図 第3191号竪穴建物跡出土遺物実測図

第3191号竪穴建物跡出土遺物観察表（第44図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
74	須恵器	坏	12.7	4.5	6.4	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方向のヘラ削り	貯蔵穴底面	90% PL15 新治窯
75	須恵器	坏	12.9	4.4	6.3	長石・石英・細礫	灰	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部二方向のヘラ削り	覆土下層	80% PL15 新治窯
76	須恵器	坏	[12.0]	4.4	[6.1]	長石・石英	灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部ナデ	貯蔵穴底面	40% 新治窯
77	須恵器	蓋	14.5	3.6	-	長石・石英	灰	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土下層	70% PL16 新治窯
78	土師器	甕	[19.3]	(9.8)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ナデ 内面ヘラナデ	覆土下層	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M5	釘	(5.7)	(1.2)	(0.4)	(5.9)	鉄	先端部欠損 断面方形の棒状	掘方覆土中	PL22

第3192号竪穴建物跡（第45～47図 PL10・11）

調査年度 平成25年度

位置 14区西部のC6h9区、標高21mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第7495号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸2.99m、短軸は2.66mの長方形で、主軸方向はN-2°-Wである。壁は高さ27～40cmで、ほぼ直立している。

床 平坦である。ほぼ全面が踏み固められている。北壁及び東壁の一部を除く壁下には、壁溝が巡っている。

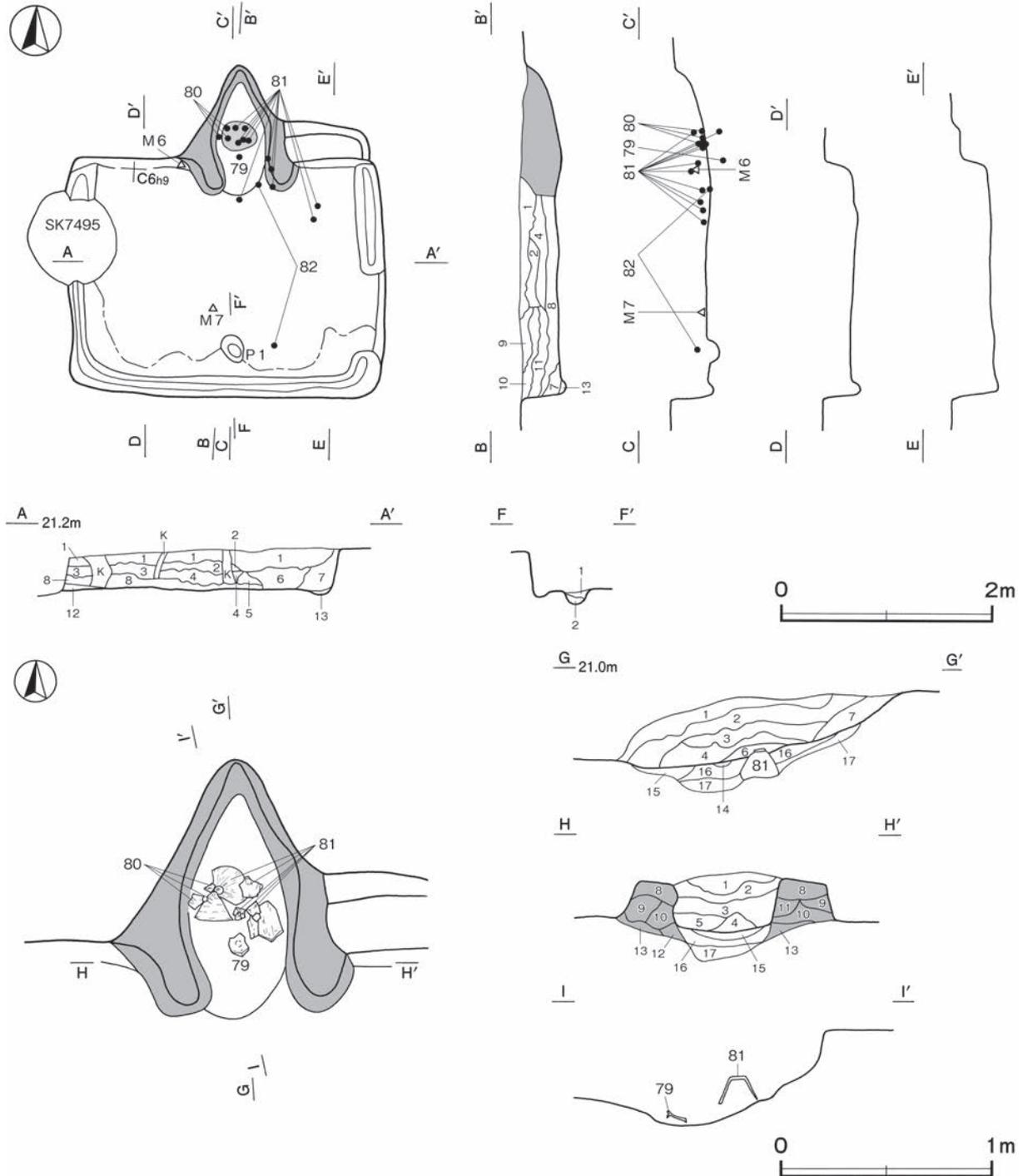
棚状施設 北壁東部に設置されている。幅0.8m、奥行0.3mで、地山を掘り込んでいる。確認面からの深さは10cmで、床面から高さは25cmである。底面は平坦である。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで124cmで、燃焼部幅は50cmである。全体を楕円形に床面から14cm掘りくぼめ、第14～17層を埋土している。袖部は地山を8cmほど掘り下げ、粘土粒子や焼土粒子・炭化粒子を含んだ第8～13層を積み上げて構築している。火床面は第16層上面で、火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に94cm掘り込まれ、火床部から外傾している。火床部には甕の体部下半

が逆位で据えられており、支脚として使用されていたと考えられる。

電土層解説

- | | | | |
|----------|--------------------------|---------|--------------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量 | 11 灰黄褐色 | 粘土粒子多量, 焼土粒子中量, ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 2 黒褐色 | 粘土粒子中量, ロームブロック・焼土ブロック少量 | 12 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 3 にぶい黄褐色 | 粘土粒子多量, 炭化粒子少量 | 13 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・粘土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 | 焼土粒子多量, 粘土粒子中量, 炭化粒子少量 | 14 明赤褐色 | 焼土ブロック多量, 炭化粒子少量 |
| 5 暗褐色 | 焼土ブロック・炭化物・粘土粒子中量 | 15 黒褐色 | 焼土ブロック・炭化物多量, ロームブロック中量 |
| 6 褐色 | 焼土粒子・粘土粒子中量, 炭化粒子少量 | 16 黒褐色 | 焼土粒子多量, ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子少量 |
| 7 黒褐色 | 焼土ブロック・炭化物中量, 粘土粒子少量 | 17 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 |
| 8 黒褐色 | 粘土粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量 | | |
| 9 黒褐色 | 粘土粒子多量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量 | | |
| 10 黒褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量 | | |



第 45 図 第 3192 号 竪穴建物跡実測図

ピット P 1 は深さ 15cm で、南壁際の中央部付近に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。第 1・2 層は柱抜き取り後の堆積層である。

ピット土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック中量, 炭化粒子少量 2 黒褐色 ローム粒子少量

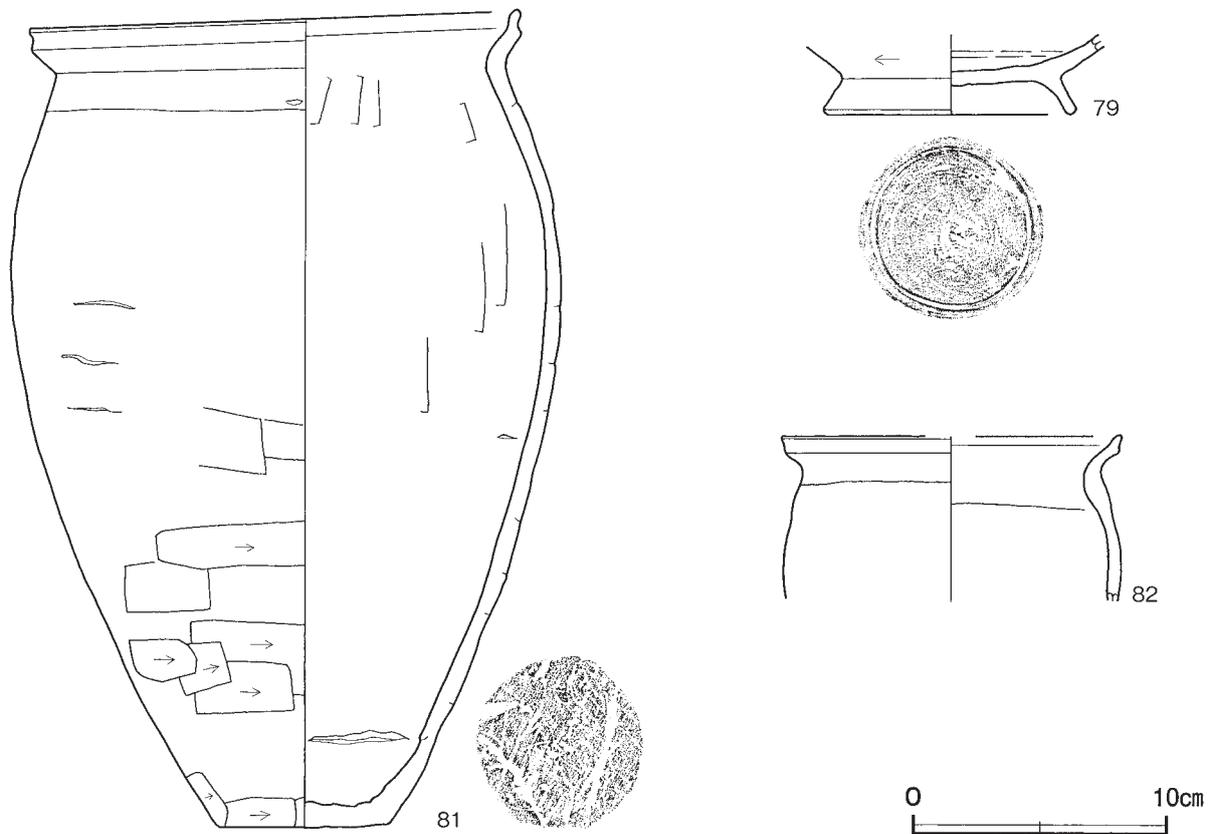
覆土 13 層に分層できる。多くの層にロームブロックや焼土ブロック・炭化物が含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

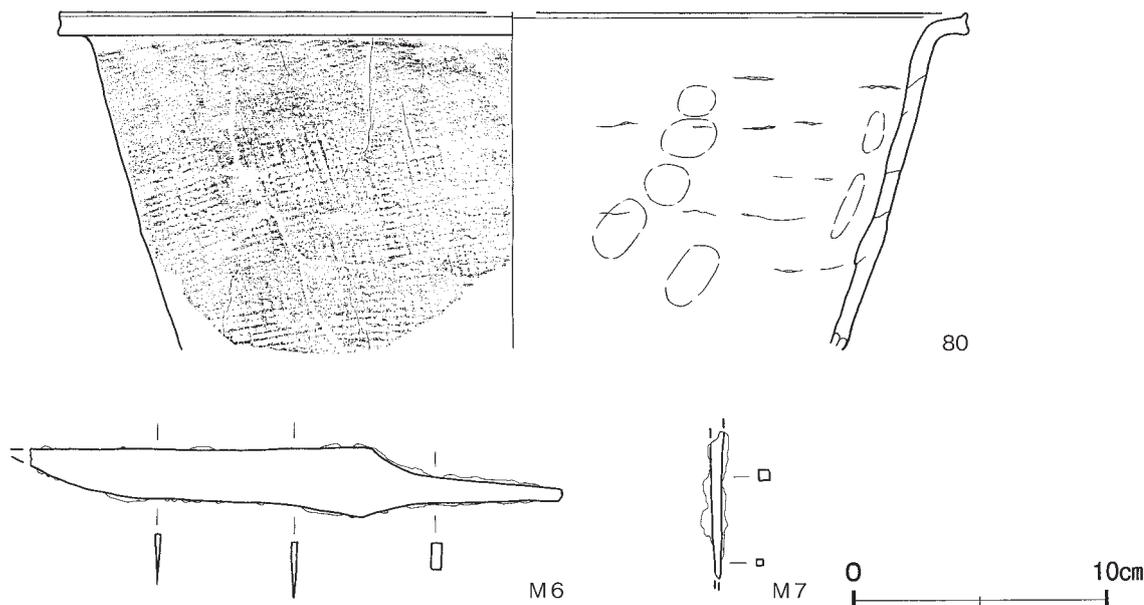
- | | | | |
|----------|---------------------------------|-----------|--------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化物少量 | 7 黒褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック少量 |
| 2 にぶい黄褐色 | ローム粒子多量, 炭化粒子・粘土粒子少量 | 8 黒色 | 炭化粒子多量, ロームブロック・焼土ブロック中量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子少量, 焼土ブロック微量 | 9 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック中量, 炭化粒子少量 |
| 4 黒褐色 | 粘土粒子多量, ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化物少量 | 10 黒褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子多量, 焼土ブロック中量, 炭化粒子少量 | 11 にぶい黄褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 6 黒褐色 | 粘土粒子多量, ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化物少量 | 12 黒褐色 | ローム粒子多量 |
| | | 13 黒褐色 | ロームブロック・炭化物中量, 焼土ブロック少量 |

遺物出土状況 土師器片 183 点 (坏 23, 高台付坏 1, 甕 158, 小形甕 1), 須恵器片 8 点 (坏 1, 鉢 1, 甕 6), 金属製品 2 点 (刀子, 釘) が, 全体の覆土中層から床面にかけて出土している。79 は竈火床部の掘方から正位で出土している。81 は竈の火床面に体部下半を逆位にして据えられた状態で出土しており, 支脚に転用していたと考えられる。その体部上半は, 竈の内部や周辺から出土している。80 は竈の火床面から, 82 は竈付近の床面と出入口付近の覆土中層から, M 6 は竈の左袖付近の覆土中層, M 7 は出入口付近の床面から, それぞれ出土しており, 埋め戻しの際に投棄されたとみられる。

所見 時期は, 出土土器から 9 世紀中葉に比定できる。



第 46 図 第 3192 号 竪穴建物跡出土遺物実測図 (1)



第 47 図 第 3192 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (2)

第 3192 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 46・47 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考	
79	土師器	高台付坏	-	(3.2)	9.5	長石・石英・ 細礫	明黄褐	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ削り	竈掘方	20%	
80	須恵器	鉢	[35.8]	(13.4)	-	長石・石英・ 雲母	浅黄	普通	口縁部外・内面横ナデ 内面ナデ 指頭痕	体部外面格子状叩き	竈火床面	10% PL21
81	土師器	甕	19.0	32.5	6.7	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 内面ヘラナデ 底部木葉痕	体部外面ヘラ削り	竈火床面 覆土下層	80% PL19
82	土師器	小形甕	[13.2]	(6.6)	-	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ	体部外・内面ナデ	覆土中層～ 床面	20%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 6	刀子	(21.0)	2.8	0.4	(42.8)	鉄	刃先欠損 刃部断面三角形 茎部長方形	覆土中層	PL22
M 7	釘	(5.9)	(0.6)	(0.4)	(3.6)	鉄	頭部・先端部欠損 断面方形の棒状	床面	

第 3193 号竪穴建物跡 (第 48 図 PL11)

調査年度 平成 25 年度

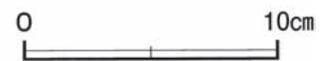
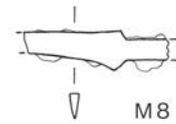
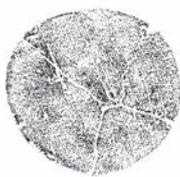
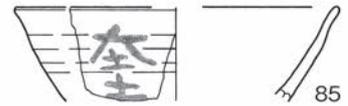
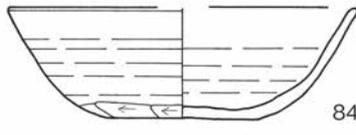
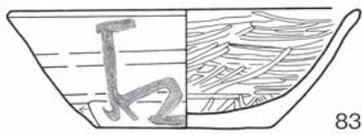
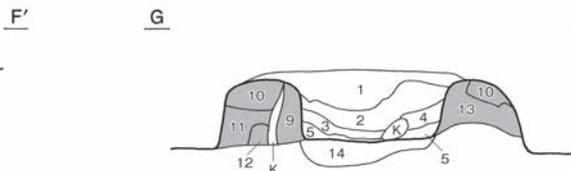
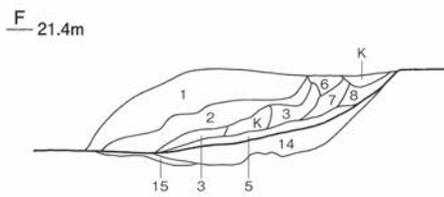
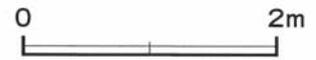
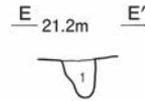
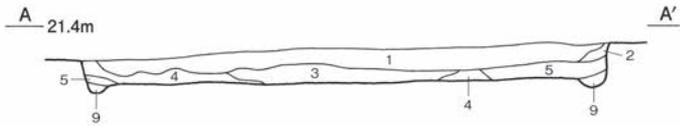
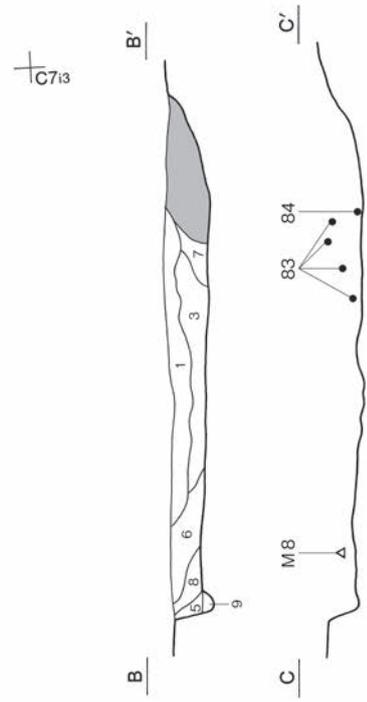
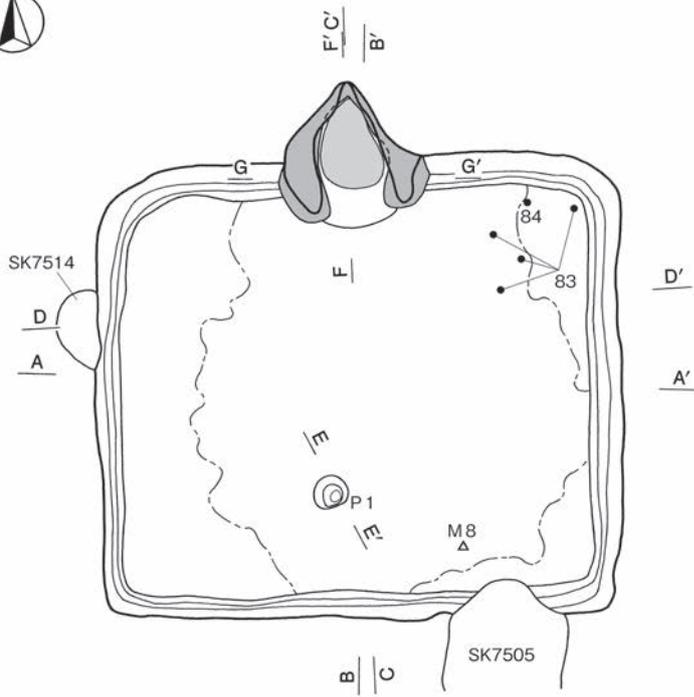
位置 14 区西部の C 7 i2 区, 標高 21 m ほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 7505・7514 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸 4.17 m, 短軸 3.66 m の長方形で, 主軸方向は N - 4° - W である。壁は高さ 23 ~ 29cm で, ほぼ直立している。

床 平坦で, 竈の焚口部から出入口にかけて踏み固められている。壁下には壁溝が全周している。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 120cm で, 燃焼部幅は 54cm である。袖部は, 地山の上に粘土粒子や焼土粒子・炭化粒子を含んだ第 9 ~ 13 層を積み上げて構築している。火床部は全体を楕円形に床面から 10cm 掘りくぼめ, 第 14・15 層を埋土して構築されている。火床面は第 14 層上面で, 火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に 60cm 掘り込まれ, 火床部から外傾している。



第 48 図 第 3193 号 竖穴建物跡・出土遺物実測図

竈土層解説

- | | | | |
|--------|-------------------------------|--------|-----------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子少量, 焼土ブロック微量 | 8 黒褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量 |
| 2 黒褐色 | 焼土ブロック・粘土粒子中量, ロームブロック・炭化物少量 | 9 暗褐色 | 焼土粒子多量, 炭化粒子・粘土粒子少量 |
| 3 暗褐色 | 焼土ブロック・粘土粒子多量, 炭化物少量 | 10 褐色 | ロームブロック多量, 炭化粒子中量, 粘土粒子少量 |
| 4 灰黄褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量 | 11 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 5 暗褐色 | 焼土粒子・炭化粒子中量, 粘土粒子少量 | 12 暗褐色 | 粘土粒子中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 6 黒褐色 | 炭化粒子・粘土粒子中量, 焼土粒子少量 | 13 暗褐色 | ロームブロック・粘土粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 7 暗褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量 | 14 暗褐色 | 焼土粒子多量, 炭化粒子中量 |
| | | 15 褐色 | ローム粒子・焼土粒子中量 |

ピット P1 は深さ 32cm で、南壁際の中央部付近に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。第1層は、柱抜き取り後の堆積層である。

ピット土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック中量, 炭化物微量

覆土 9層に分層できる。周囲から流れ込んだ堆積状況を示していることから、自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------|-------|------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 黒褐色 | 焼土粒子中量, ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック多量, 炭化粒子少量 | 7 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量 | 8 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子中量, 焼土粒子少量 | 9 暗褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子中量 | | |

遺物出土状況 土師器片 165点 (坏 24, 甕 141), 須恵器片 12点 (坏 6, 高台付坏 2, 蓋 1, 甕 3), 金属製品 1点 (刀子), 礫 1点が、東部を中心に覆土上層から下層にかけて出土している。83は、北東コーナー部の覆土上層から下層にかけて外側から流れ込んだ様相を示して出土しており、埋没の過程で混入したものとみられる。84は覆土下層, M8は覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀後葉に比定できる。

第 3193 号 竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 48 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
83	土師器	坏	13.6	4.8	6.8	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部一方向のヘラ削り 墨書「石」	覆土上～下層	90% PL16
84	須恵器	坏	[13.5]	4.4	[6.0]	長石・石英	灰黄褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方向のヘラ削り	覆土下層	30% 新治窯
85	須恵器	坏	[12.8]	(3.8)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部ロクロナデ 墨書「空□」	竈覆土中	5% 新治窯 PL21

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M8	刀子	(5.7)	1.5	0.4	(6.4)	鉄	刃先・茎部欠損 刃部断面三角形	覆土中層	

第 3194 号 竪穴建物跡 (第 49 ~ 51 図 PL12・13)

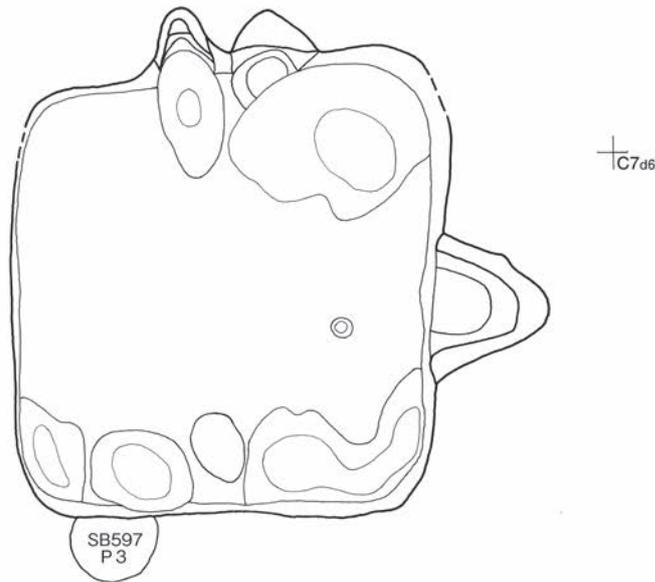
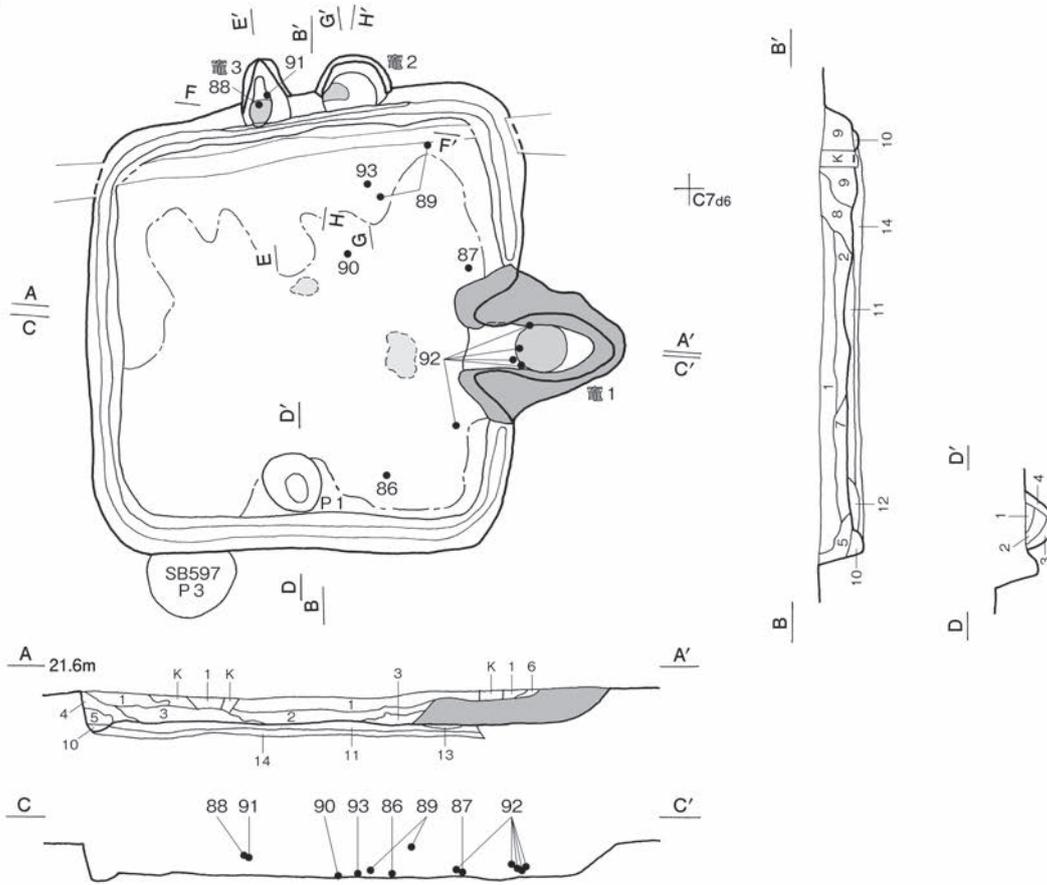
調査年度 平成 25 年度

位置 14 区西部の C 7 d5 区, 標高 21 m ほどの平坦な台地上に位置している。

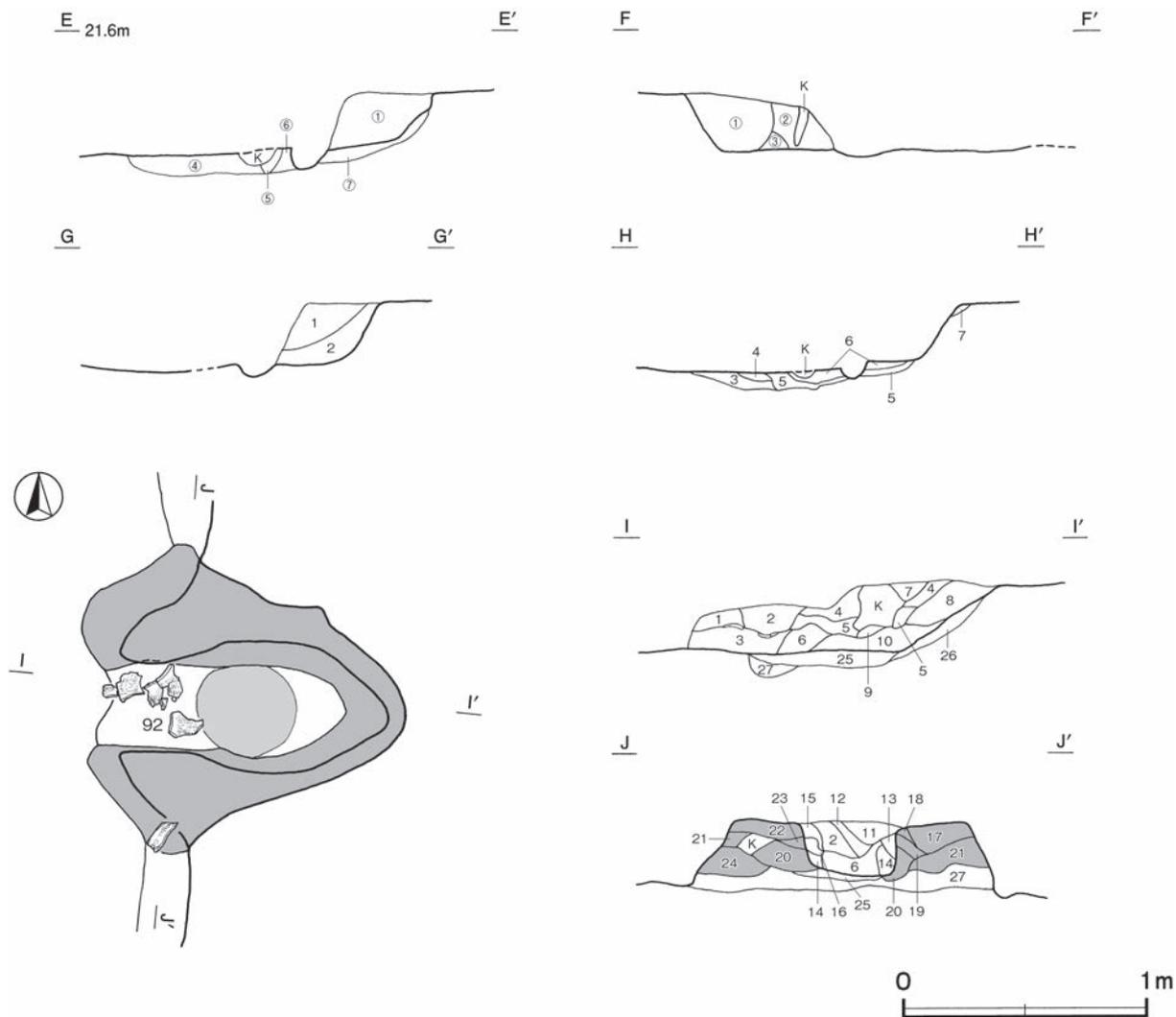
重複関係 第 597 号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸 3.71 m, 短軸 3.45 m の方形で、主軸方向は N - 89° - E である。壁は高さ 22 ~ 24cm で、ほぼ直立している。

床 やや凹凸がある貼床で、ほぼ全体が踏み固められている。壁下には壁溝が全周している。中央部に火熱を受けたと考えられる焼土範囲が確認された。貼床は、北西部を除く各コーナー周辺に確認面から 38 ~ 46cm の



第 49 图 第 3194 号竖穴建物迹实测图 (1)



第 50 図 第 3194 号竪穴建物跡実測図 (2)

深さで凹凸のある不整楕円形状に掘り込み、ロームブロック主体の第 11～14 層を 8～14cm 埋土し構築されている。

竈 3 か所。竈 1 は東壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 120cm で、燃燒部幅は 38cm である。壁溝を第 27 層で埋め戻し、壁外に向かって不整楕円形に床面から 6cm ほど掘りくぼめ第 25・26 層を埋土している。袖部は、埋土した第 27 層の上に粘土粒子や焼土粒子・炭化粒子を含んだ第 17～24 層を積み上げて構築されている。火床面は第 25 層上面で、火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に 84cm 掘り込まれ、火床部から外傾している。竈 2 は北壁中央部のやや東寄りに付設されている。煙道部の掘り込みと火床部、掘方が確認できた。楕円形に床面から 7cm ほど掘りくぼめ第 3～6 層を埋土している。火床面は第 4～6 層上面で、火熱を受けてわずかに赤変硬化している。煙道部は壁外に 30cm 掘り込まれ、火床部から外傾している。竈 3 は北壁中央部のやや西寄りに付設されている。煙道部の掘り込みと火床部、掘方が確認できた。楕円形に床面から 9cm ほど掘りくぼめ第 ④～⑦層を埋土している。火床面は第 ⑦層上面で、火熱を受けてわずかに赤変硬化している。煙道部は壁外に 34cm 掘り込まれ、火床部から外傾している。土層の観察と遺存状態から、竈 3 から竈 2 へ、竈 2 から竈 1 へ作り替えられている。

竈1土層解説

1 暗褐色	粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量	13 灰黄褐色	粘土粒子多量, 焼土粒子少量
2 黒褐色	焼土粒子・粘土粒子中量, 炭化粒子少量	14 暗褐色	ローム粒子多量, 粘土粒子中量, 炭化粒子少量
3 黒褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量	15 にぶい黄褐色	粘土粒子多量, 焼土粒子少量
4 暗褐色	焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子中量, ローム粒子少量	16 暗褐色	焼土粒子少量, 粘土ブロック微量
5 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量	17 暗褐色	粘土粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量
6 褐色	焼土粒子中量, 炭化粒子・粘土粒子少量	18 暗褐色	粘土粒子中量, 炭化粒子少量
7 暗褐色	焼土ブロック中量, ローム粒子・炭化粒子少量	19 褐色	焼土粒子中量, 炭化粒子・粘土粒子少量
8 暗褐色	焼土ブロック・炭化粒子中量, ローム粒子・粘土粒子少量	20 暗褐色	焼土粒子多量, 炭化粒子・粘土粒子少量
9 にぶい黄褐色	焼土ブロック・炭化粒子中量, ローム粒子・粘土粒子少量	21 暗褐色	粘土ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量
10 暗褐色	焼土粒子多量, 炭化粒子少量	22 暗褐色	粘土粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子少量
11 暗褐色	焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量	23 暗褐色	焼土粒子・粘土粒子少量
12 黒褐色	焼土ブロック・粘土粒子中量, 炭化粒子少量	24 暗褐色	ローム粒子中量, 炭化粒子・粘土粒子少量
		25 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子中量
		26 暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
		27 褐色	ローム粒子多量, 炭化粒子少量

竈2土層解説

1 暗褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子少量	4 暗褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子少量
2 暗褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量	5 暗褐色	焼土粒子多量, 炭化粒子中量, ローム粒子少量
3 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量	6 褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子少量
		7 褐色	ローム粒子・焼土粒子中量, 炭化粒子少量

竈3土層解説

① 暗赤褐色	焼土粒子多量, ローム粒子・炭化粒子中量	⑤ 暗褐色	焼土粒子中量, ローム粒子少量
② 暗赤褐色	焼土粒子多量, ローム粒子中量, 粘土粒子少量	⑥ 褐色	焼土粒子・炭化粒子少量
③ 褐色	焼土ブロック・ローム粒子・粘土粒子中量	⑦ 暗褐色	焼土粒子・炭化粒子中量, ローム粒子少量
④ 暗褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量		

ピット P1は深さ24cmで、南壁際の中央部付近に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。第1～3層は柱抜き取り後の堆積層で、第4層は埋土である。

ピット土層解説

1 暗褐色	ローム粒子中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量	3 暗褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗褐色	ローム粒子少量, 炭化粒子微量	4 褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子少量

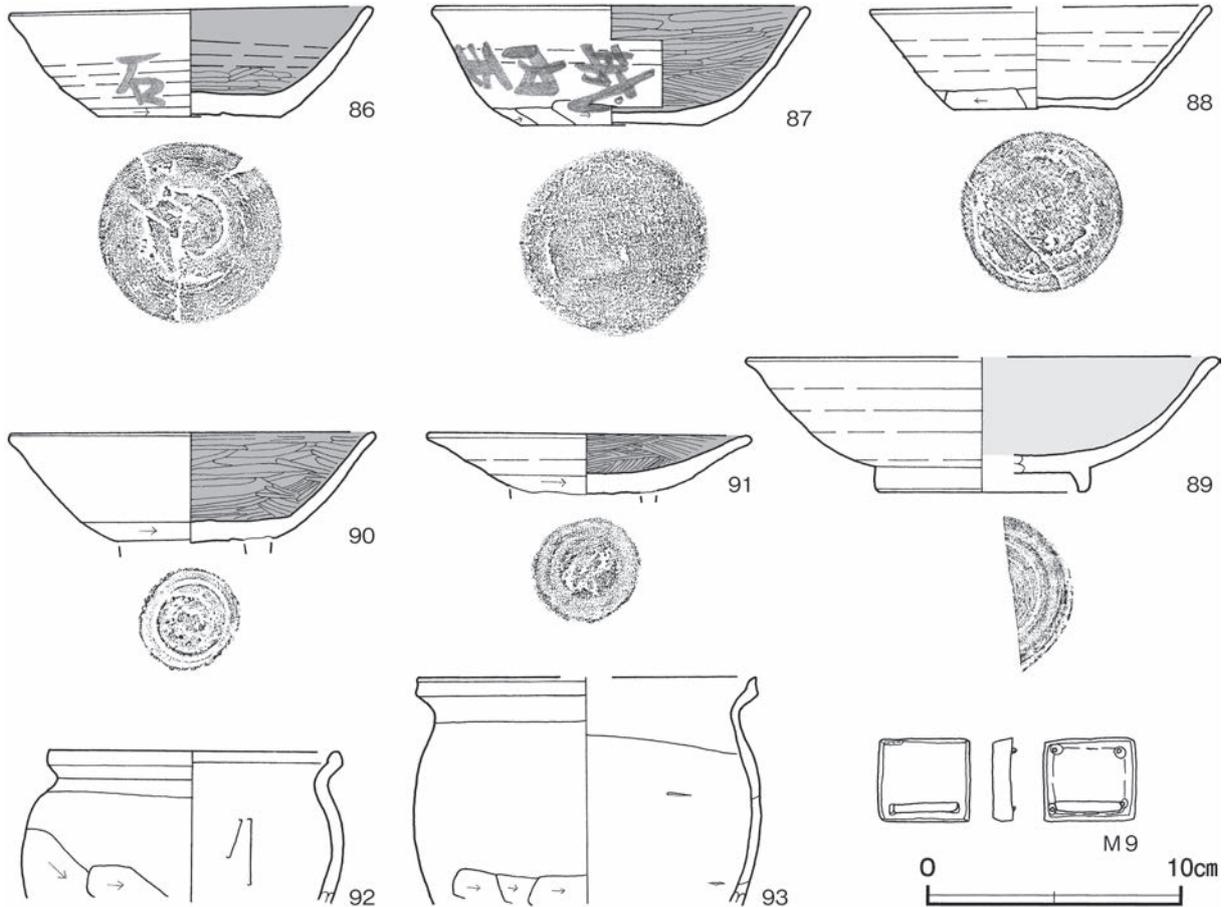
覆土 10層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。第11～14層は、貼床の構築土である。

土層解説

1 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物中量	7 黒褐色	ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化粒子少量
2 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子中量, 焼土ブロック少量	8 暗褐色	焼土粒子多量, ロームブロック中量, 炭化粒子少量
3 黒褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量	9 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
4 黒褐色	ロームブロック中量	10 黒褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
5 暗褐色	ローム粒子多量	11 暗褐色	ロームブロック多量, 炭化粒子中量
6 暗褐色	炭化物・粘土粒子中量, 焼土ブロック・ローム粒子少量	12 暗褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量
		13 褐色	ロームブロック・炭化粒子中量
		14 暗褐色	ローム粒子多量, 焼土ブロック・炭化粒子少量

遺物出土状況 土師器片184点(坏35, 高台付坏2, 高台付皿2, 甕143, 小形甕2), 須恵器片48点(坏21, 甕27), 灰釉陶器片3点(碗2, 壺1), 土製品1点(支脚), 金属製品1点(巡方), 雲母片岩3点が、全体の覆土上層から床面にかけて出土している。86は南部から逆位で、87は東部から正位で、90は中央部から正位で、それぞれ床面から遺棄された状態で出土している。89は、北部の竈2の周辺の覆土上層から下層にかけて出土している。92は、竈1の火床部から竈廃絶時に遺棄された状態で出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀後葉に比定できる。竈の作り替えが2回されている。最初に北壁中央部やや西寄りに付設された竈3から北壁中央部やや東寄りの竈2に、作り替えがされた。次に、竈2廃絶後、東壁中央部の竈1へ2回目の作り替えがされている。



第 51 図 第 3194 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 3194 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 51 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
86	土師器	坏	14.2	4.4	7.2	長石・石英	灰黄	普通	体部下端回転ヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部ヘラ切り後ナデ 墨書「石」	床面	95% PL16
87	土師器	坏	14.6	4.8	7.1	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方向のヘラ削り 墨書「城内丕」	床面	80% PL16
88	須恵器	坏	[13.3]	4.1	6.4	長石・石英・赤色粒子	黄灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方向のヘラ削り	竈3 覆土中層	50% 新治窯 PL16
89	灰釉陶器	椀	[18.4]	5.4	[8.2]	長石	灰白 灰オリーブ	普通	体部内面灰釉刷毛塗り 底部回転ヘラ削り 底部内面重ね焼き痕	覆土上～下層	30% PL17 黒笹 90 窯式
90	土師器	高台付坏	14.2	(4.4)	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	体部下端回転ヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ切り	床面	50% PL16
91	土師器	高台付皿	12.5	(2.4)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部下端回転ヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ切り後ナデ	竈3 覆土中層	70% PL18
92	土師器	小形甕	11.3	(6.1)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ	竈1 覆土下層	30%
93	土師器	小形甕	[13.2]	(9.0)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ	床面	20%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 9	巡方	3.4	3.7	1.0	(21.8)	銅	脚鉄4か所 透かし孔 2.5 × 0.4cm	覆土中	PL22

表 4 平安時代竪穴建物跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模		壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設					覆土	主な出土遺物	時期	備考
				長軸×短軸 (m)	(cm)				主柱穴	出入口	ピット	竈	貯蔵穴				
3171	D 7b4	N - 73° - W	[長方形]	4.25 × (2.90)	22 ~ 25	平坦	一部	-	-	-	-	-	自然	土師器, 須恵器, 石器, 金属製品	9世紀中葉	SI3165 → 本跡	
3180	E 6b9	N - 105° - E	長方形	3.41 × 3.08	31 ~ 50	平坦	ほぼ全周	-	-	3	東壁	1	自然	土師器, 須恵器, 灰釉陶器, 石器, 金属製品	9世紀中葉		

番号	位置	主軸方向	平面形	規模	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設					覆土	主な出土遺物	時期	備考
				長軸×短軸 (m)				主柱穴	出入口	ピット	竈	貯蔵穴				
3185	E 6a9	N - 114° - E	方形	3.16 × 3.14	36 ~ 58	平坦	全周	-	-	-	東壁	-	自然	土師器, 須恵器, 粘土塊, 鉄滓, 金属製品	9世紀中葉	
3186	E 7c8	N - 103° - E	[方形]	[3.46] × [3.44]	-	ほぼ平坦	-	-	-	-	東壁	-	-	土師器, 須恵器, 灰釉陶器	9世紀中葉	SI3181 → 本跡
3189	D 6g0	N - 5° - W	[方形, 方形]	4.00 × (3.88)	2 ~ 10	平坦	ほぼ全周	4	1	-	北壁	-	人為	土師器, 金属製品	9世紀代	本跡 → SD520
3190	D 6f9	N - 16° - E	長方形	3.54 × 2.80	10 ~ 24	平坦	全周	4	1	-	北壁	-	人為	土師器, 須恵器, 土製品, 金属製品	10世紀前葉	
3191	D 6c9	N - 1° - W	方形	5.32 × 5.00	14 ~ 28	貼床平坦	全周	4	1	-	北壁	1	人為	土師器, 須恵器, 金属製品	9世紀中葉	
3192	C 6h9	N - 2° - W	長方形	2.99 × 2.66	27 ~ 40	平坦	ほぼ全周	-	1	-	北壁	-	人為	土師器, 須恵器, 金属製品	9世紀中葉	竈東に棚状施設本跡 → SK7495
3193	C 7i2	N - 4° - W	長方形	4.17 × 3.66	23 ~ 29	平坦	全周	-	1	-	北壁	-	自然	土師器, 須恵器, 土製品, 金属製品	9世紀後葉	本跡 → SK7505・7514
3194	C 7d5	N - 89° - E	方形	3.71 × 3.45	22 ~ 24	貼床や凹凸	全周	-	1	-	北壁2 東壁1	-	人為	土師器, 須恵器, 灰釉陶器, 金属製品	9世紀後葉	SB597 → 本跡

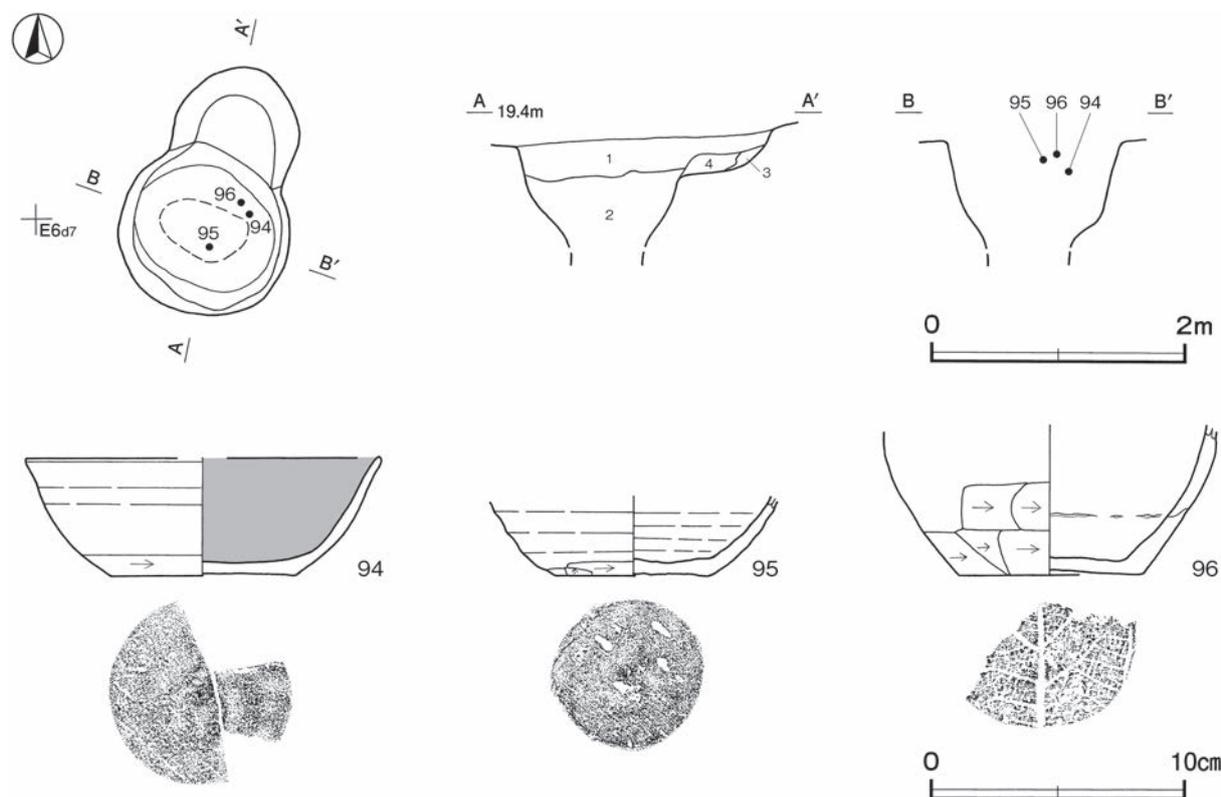
(2) 井戸跡

第248号井戸跡 (第52図 PL13)

調査年度 平成25年度

位置 14区南西部のE6c7区, 標高19mほどの台地斜面部に位置している。

規模と形状 確認面は長径1.37m, 短径1.28mの円形である。確認面から楕円形に深さ28cm掘りくぼめた後, ロート状に50cmほど掘り下げ, さらに径0.68mの円筒状に掘り下げている。深さ100cmほど掘り下げた時点で, 湧水と崩落のおそれがあることから調査を断念したため, 下部の構造は不明である。楕円形に掘りくぼめた部分は, 掘り下げる際の足場になっていた可能性がある。



第52図 第248号井戸跡・出土遺物実測図

覆土 4層に分層できる。各層にロームブロックやローム粒子・焼土ブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|------------------------|---------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量 | 3 黒褐色 ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子少量 | 4 暗褐色 ロームブロック中量, 焼土ブロック少量 |

遺物出土状況 土師器片 24点 (坏 10, 甕 14), 須恵器片 4点 (坏 2, 甕 2) が出土している。94・95・96は覆土上層から出土していることから、埋め戻す過程で投棄されたものとみられる。

所見 埋め戻された時期は、出土土器から9世紀中葉と考えられる。

第 248 号井戸跡出土遺物観察表 (第 52 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
94	土師器	坏	[13.8]	4.7	7.2	長石・石英・雲母	明黄褐	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部ナデ	覆土上層	40%
95	須恵器	坏	-	(3.2)	5.9	長石・石英・雲母	灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方向のヘラ削り	覆土上層	50% 新治窯
96	土師器	甕	-	(6.0)	[7.2]	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り 内面ナデ 底部木葉痕	覆土上層	10%

第 249 号井戸跡 (第 53 図 PL13)

調査年度 平成 25 年度

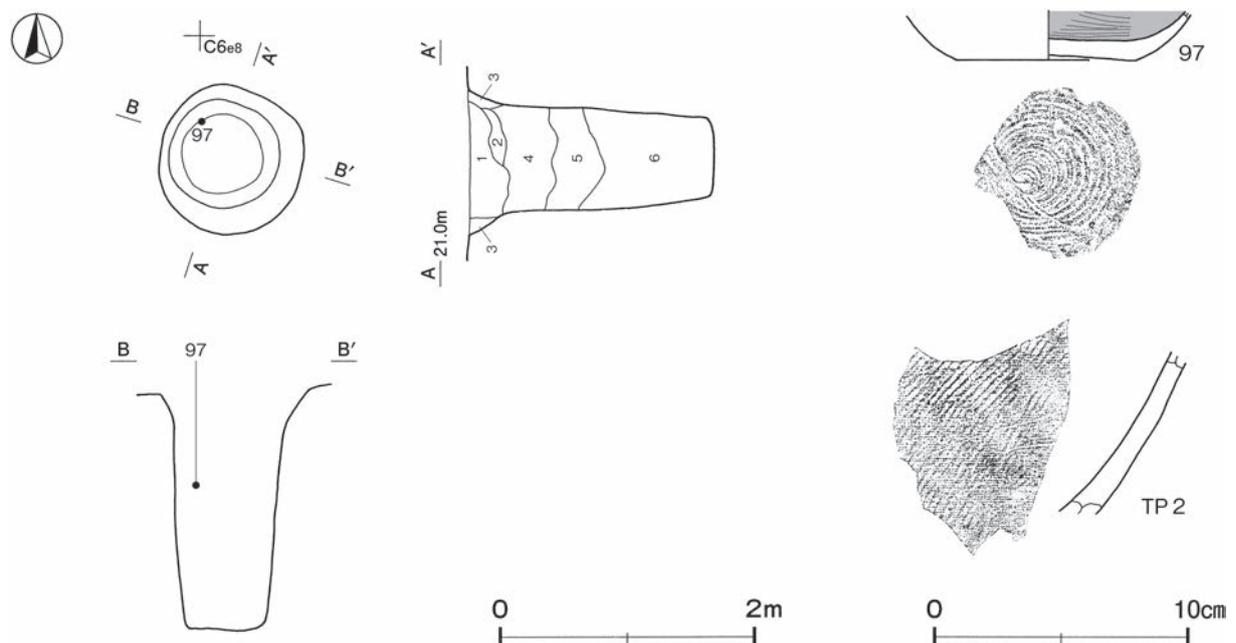
位置 14 区南西部の C 6 e8 区, 標高 21 m ほどの台地斜面部に位置している。

規模と形状 確認面は、径 1.20 m の円形である。確認面から円筒状に深さ 195cm 掘り下げ、底面はほぼ平坦である。

覆土 6層に分層できる。各層にロームブロックや粘土ブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|-----------------------------------|----------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック中量 | 4 黒褐色 粘土ブロック・ローム粒子中量 |
| 2 黒褐色 粘土ブロック多量, ローム粒子中量, 焼土ブロック少量 | 5 黒褐色 ロームブロック中量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック多量 | 6 黒褐色 ロームブロック少量 |



第 53 図 第 249 号井戸跡・出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片4点(坏1,甕3),須恵器片2点(壺,鉢),礫3点が出土している。97は覆土中層から,TP2は覆土中から出土している。それぞれ,埋め戻しの過程で投棄されたものとみられる。

所見 埋め戻された時期は,出土土器から9世紀後葉と考えられる。

第249号井戸跡出土遺物観察表(第53図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
97	土師器	坏	-	(20)	[70]	長石・石英・雲母	橙	普通	体部内面ヘラ磨き 底部回転糸切り	覆土中層	20%
TP2	須恵器	鉢	-	-	-	長石	灰黄褐 暗灰黄	普通	体部外面斜位の平行叩き 内面ナデ	覆土中	東海産 PL21

表5 平安時代の井戸跡一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
248	E6c7	-	円形	1.37 × 1.28	(100)	-	ロート状	人為	土師器, 須恵器	
249	C6e8	-	円形	1.20 × 1.20	195	-	直立	人為	土師器, 須恵器, 礫	

(3) 土坑

第7471号土坑(第54図)

調査年度 平成25年度

位置 14区西部のC6j8区, 標高21mほどの台地斜面部に位置している。

規模と形状 長径1.10m, 短径0.98mの楕円形で, 長径方向はN-67°-Wである。深さは22cmで, 底面は平坦である。壁は外傾している。

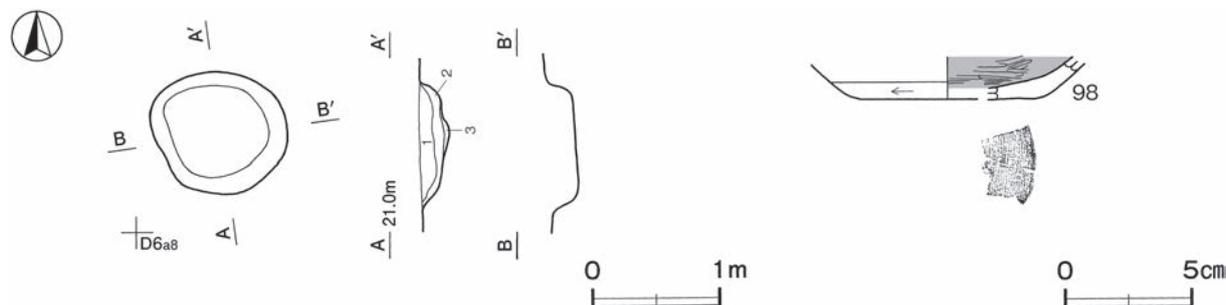
覆土 3層に分層できる。第3層は, 黒色土で有機物が堆積したものとみられる。第1・2層は周囲から流れ込んだ堆積状況を示していることから, 自然堆積である。

土層解説

- 1 褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量
- 3 黒色 ローム粒子少量

遺物出土状況 土師器片7点(坏3, 甕4)が出土している。98は覆土中から出土しており, 周囲からの土砂の流入の過程で混入したものとみられる。

所見 時期は, 出土土器と遺構の形状及び周囲の遺構との関係から, 9世紀代と考えられる。最下層の黒色土の堆積が顕著であり, 有機物が堆積したものと考えられる。屋外における貯蔵施設と考える。



第54図 第7471号土坑・出土遺物実測図

第 7471 号土坑出土遺物観察表（第 54 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
98	土師器	坏	-	(1.7)	[7.0]	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	体部下端回転ヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ削り	覆土中	5%

第 7474 号土坑（第 55 図）

調査年度 平成 25 年度

位置 14 区西部の C 6 i7 区，標高 21 m ほどの台地斜面部に位置している。

規模と形状 長径 1.10 m，短径 1.03 m の円形である。深さは 24cm で，底面は平坦である。壁は外傾している。

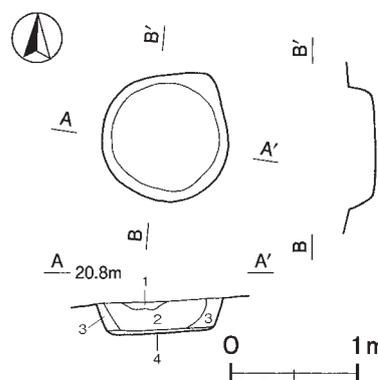
覆土 4 層に分層できる。第 4 層は，黒色土で有機物が堆積したものとみられる。第 1～3 層は周囲から流れ込んだ堆積状況を示していることから，自然堆積である。

土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子多量，炭化粒子少量
- 2 黒 褐色 ロームブロック中量，炭化物少量
- 3 黒 褐色 ロームブロック中量，炭化粒子少量
- 4 黒 色 ローム粒子中量

遺物出土状況 土師器片 3 点（甕）が出土している。遺物は細片のため図示できなかったが，土師器甕片は，口縁端部がつまみ上げられている。

所見 時期は，出土土器と遺構の形状及び周囲の遺構との関係から，9 世紀代と考えられる。最下層の黒色土の堆積が顕著であり，有機物が堆積したものと考えられる。屋外における貯蔵施設と考える。



第 55 図 第 7474 号土坑実測図

第 7475 号土坑（第 56 図）

調査年度 平成 25 年度

位置 14 区西部の C 6 j8 区，標高 21 m ほどの台地斜面部に位置している。

規模と形状 長径 1.12 m，短径 0.99 m の楕円形で，長径方向は N - 87° - W である。深さは 30cm で，底面は平坦である。壁は外傾している。

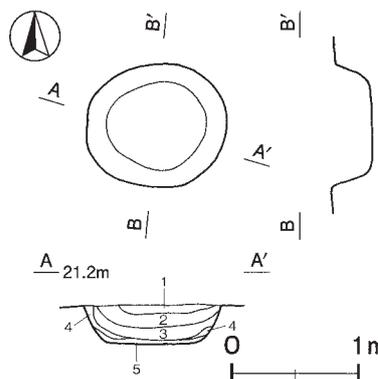
覆土 5 層に分層できる。第 5 層は，黒色土で有機物が堆積したものとみられる。第 1～4 層は周囲から流れ込んだ堆積状況を示していることから，自然堆積である。

土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック少量
- 2 黒 褐色 ローム粒子中量
- 3 暗 褐色 ロームブロック中量，炭化粒子少量
- 4 黒 褐色 ロームブロック中量
- 5 黒 色 ローム粒子中量

遺物出土状況 土師器片 2 点（坏）が出土している。遺物は細片のため図示できなかった。

所見 時期は，出土土器と遺構の形状及び周囲の遺構との関係から，9 世紀代と考えられる。最下層の黒色土の堆積が顕著であり，有機物が堆積したものと考えられる。屋外における貯蔵施設と考える。



第 56 図 第 7475 号土坑実測図

第 7476 号土坑 (第 57 図 PL14)

調査年度 平成 25 年度

位置 14 区西部の C 6j9 区, 標高 21 m ほどの台地斜面部に位置している。

規模と形状 長径 0.98 m, 短径 0.92 m の円形である。深さは 29cm で, 底面は平坦である。壁は外傾している。

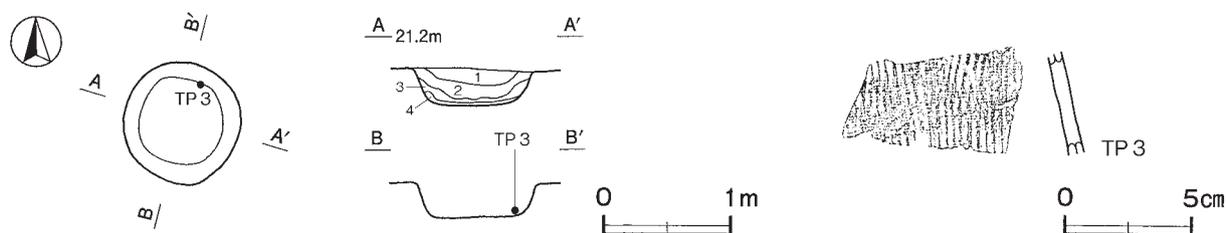
覆土 4 層に分層できる。第 4 層は, 黒色土で有機物が堆積したものとみられる。第 1～3 層は周囲から流れ込んだ堆積状況を示していることから, 自然堆積である。

土層解説

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック少量 | 3 黒褐色 ロームブロック多量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子中量 | 4 黒色 ローム粒子中量 |

遺物出土状況 土師器片 4 点 (坏 2, 甕 2), 須恵器片 1 点 (甕) が出土している。TP 3 は覆土下層から出土しており, 周囲からの土砂の流入の過程で混入したものとみられる。

所見 時期は, 出土土器と遺構の形状及び周囲の遺構との関係から, 9 世紀代と考えられる。最下層の黒色土の堆積が顕著であり, 有機物が堆積したものと考えられる。屋外における貯蔵施設と考える。



第 57 図 第 7476 号土坑・出土遺物実測図

第 7476 号土坑出土遺物観察表 (第 57 図)

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP 3	須恵器	甕	長石・雲母	褐灰	体部外面格子状叩き 内面ナデ	覆土下層	5% 新治窯 PL21

第 7477 号土坑 (第 58 図)

調査年度 平成 25 年度

位置 14 区西部の C 6i8 区, 標高 21 m ほどの台地斜面部に位置している。

規模と形状 長径 0.84 m, 短径 0.78 m の円形である。深さは 15cm で, 底面は皿状である。壁は外傾している。

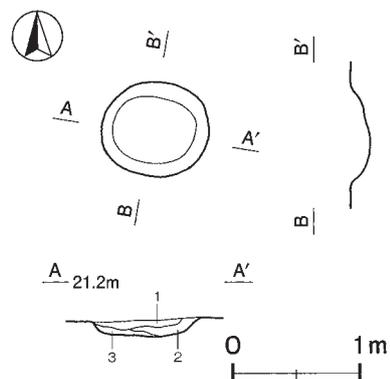
覆土 3 層に分層できる。第 3 層は, 黒色土で有機物が堆積したものとみられる。第 1・2 層は周囲から流れ込んだ堆積状況を示していることから, 自然堆積である。

土層解説

- | |
|-----------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子多量 |
| 3 黒色 ローム粒子中量 |

遺物出土状況 土師器片 3 点 (坏 1, 甕 2) が出土している。遺物は細片のため図示できなかったが, 土師器坏片はロクロ成形されている。

所見 時期は, 出土土器と遺構の形状及び周囲の遺構との関係から, 9 世紀代と考えられる。最下層の黒色土の堆積が顕著であり, 有機物が堆積したものと考えられる。屋外における貯蔵施設と考える。



第 58 図 第 7477 号土坑実測図

第 7486 号土坑 (第 59 図)

調査年度 平成 25 年度

位置 14 区西部の C 6j8 区, 標高 21 m ほどの台地斜面部に位置している。

重複関係 第 7493 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径は 1.11 m, 短径は 0.98 m しか確認できなかった。楕円形で, 長径方向は N - 42° - W と推測される。深さは 31cm で, 底面は平坦である。壁は外傾している。

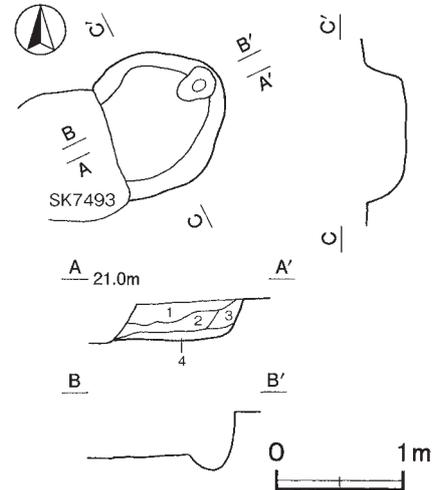
覆土 4 層に分層できる。周囲から流れ込んだ堆積状況を示していることから, 自然堆積である。

土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック中量
- 3 黒 褐 色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量
- 4 黒 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量

遺物出土状況 土師器片 6 点 (甕), 須恵器片 1 点 (甕) が出土している。遺物は細片のため図示できなかったが, 須恵器甕片は体部外面に平行叩きが施されている。

所見 時期は, 出土土器と遺構の形状及び周囲の遺構との関係から, 9 世紀代と考えられる。屋外における貯蔵施設と考える。



第 59 図 第 7486 号土坑実測図

第 7493 号土坑 (第 60 図)

調査年度 平成 25 年度

位置 14 区南西部の C 6j8 区, 標高 21 m ほどの台地斜面部に位置している。

重複関係 第 7486 号土坑を掘り込んでいる。

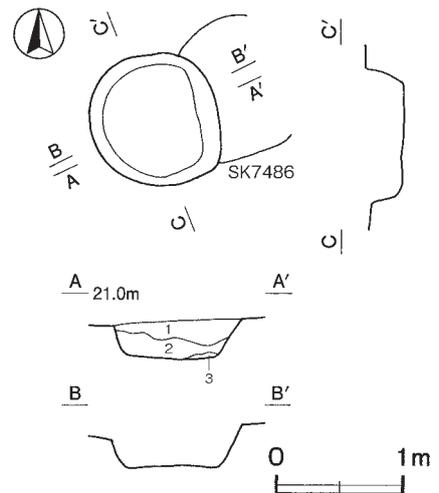
規模と形状 長径 1.15 m, 短径 1.05 m の円形である。深さは 30cm で, 底面は平坦である。壁は外傾している。

覆土 3 層に分層できる。第 3 層は, 黒色土で有機物が堆積したものとみられる。第 1・2 層は周囲から流れ込んだ堆積状況を示していることから, 自然堆積である。

土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック中量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック多量
- 3 黒 色 ローム粒子中量

所見 遺物は出土していないが, 時期は, 遺構の形状及び周囲の遺構との関係から, 9 世紀代と考えられる。最下層の黒色土の堆積が顕著であり, 有機物が堆積したものと考えられる。屋外における貯蔵施設と考える。



第 60 図 第 7493 号土坑実測図

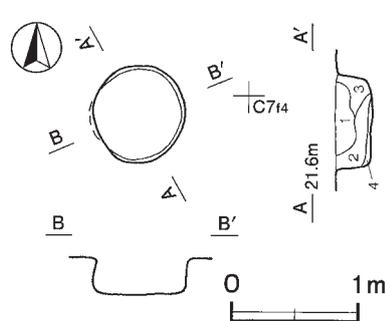
第 7510 号土坑 (第 61 図)

調査年度 平成 25 年度

位置 14区西部のC7f3区, 標高21mほどの台地斜面部に位置している。

規模と形状 長径0.74m, 短径0.68mの円形である。深さは30cmで, 底面は平坦である。壁は直立している。

覆土 4層に分層できる。第4層は, 黒色土で有機物が堆積したものとみられる。第1～3層は周囲から流れ込んだ堆積状況を示していることから, 自然堆積である。



土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 2 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 4 黒色 ローム粒子中量

遺物出土状況 土師器片5点(甕), 須恵器片1点(蓋)が出土している。遺物は細片のため図示できなかった。

所見 時期は, 出土土器と遺構の形状及び周囲の遺構との関係から, 9世紀代と考えられる。最下層の黒色土の堆積が顕著であり, 有機物が堆積したものと考えられる。屋外における貯蔵施設と考える。

第61図 第7510号土坑実測図

第7511号土坑 (第62図 PL14)

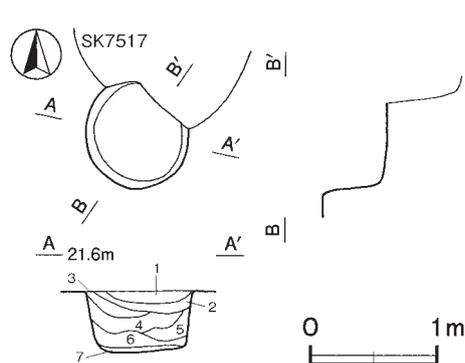
調査年度 平成25年度

位置 14区南西部のC7f1区, 標高21mほどの台地斜面部に位置している。

重複関係 第7517号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径は0.86mで, 短径は0.70mしか確認できなかった。円形と推測される。深さは50cmで, 底面は平坦である。壁は直立している。

覆土 7層に分層できる。第7層は, 黒色土で有機物が堆積したものとみられる。第1～6層は周囲から流れ込んだ堆積状況を示していることから, 自然堆積である。



土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子中量
- 3 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 4 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子中量
- 5 黒褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 6 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子中量
- 7 黒色 ローム粒子中量

所見 遺物は出土していないが, 時期は, 遺構の形状及び周囲の遺構との関係から, 9世紀代と考えられる。最下層の黒色土の堆積が顕著であり, 有機物が堆積したものと考えられる。屋外における貯蔵施設と考える。

第62図 第7511号土坑実測図

第7515号土坑 (第63図)

調査年度 平成25年度

位置 14区南西部のC6e0区, 標高21mほどの台地斜面部に位置している。

規模と形状 長径0.70m, 短径0.67mの円形である。深さは19cmで, 底面は平坦である。壁はほぼ直立している。

覆土 4層に分層できる。第4層は, 黒色土で有機物が堆積したものとみられる。第1～3層は周囲から流れ

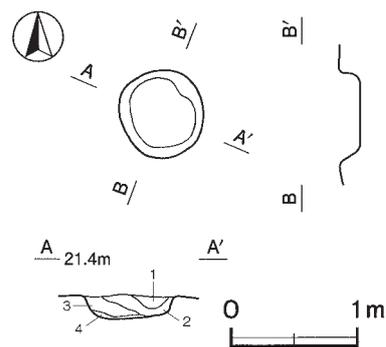
込んだ堆積状況を示していることから、自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量
- 3 暗褐色 ローム粒子多量
- 4 黒色 ローム粒子中量

遺物出土状況 土師器片4点(坏2, 甕2), 須恵器片1点(坏)が出土している。遺物は細片のため図示できなかった。

所見 時期は, 出土土器と遺構の形状及び周囲の遺構との関係から, 9世紀代と考えられる。最下層の黒色土の堆積が顕著であり, 有機物が堆積したものと考えられる。屋外における貯蔵施設と考える。



第63図 第7515号土坑実測図

第7516号土坑 (第64図)

調査年度 平成25年度

位置 14区西部のC6e9区, 標高21mほどの台地斜面部に位置している。

規模と形状 長径0.97m, 短径0.90mの円形である。深さは23cmで, 底面は平坦である。壁はほぼ直立している。

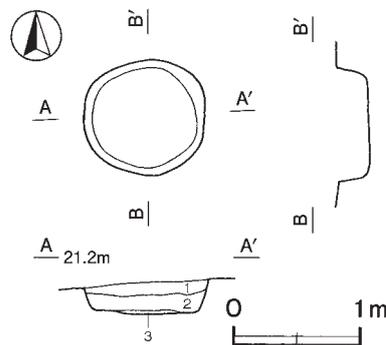
覆土 3層に分層できる。第3層は, 黒色土で有機物が堆積したものとみられる。第1・2層は周囲から流れ込んだ堆積状況を示していることから, 自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子少量
- 2 黒褐色 ロームブロック多量
- 3 黒色 ローム粒子・炭化粒子中量

遺物出土状況 土師器片12点(坏2, 甕10)が出土している。遺物は細片のため図示できなかった。

所見 時期は, 出土土器と遺構の形状及び周囲の遺構との関係から, 9世紀代と考えられる。最下層の黒色土の堆積が顕著であり, 有機物が堆積したものと考えられる。屋外における貯蔵施設と考える。



第64図 第7516号土坑実測図

第7518号土坑 (第65図)

調査年度 平成25年度

位置 14区南西部のC6j0区, 標高21mほどの台地斜面部に位置している。

規模と形状 長径1.03m, 短径1.02mの円形である。深さは25cmで, 底面は平坦である。壁は外傾している。

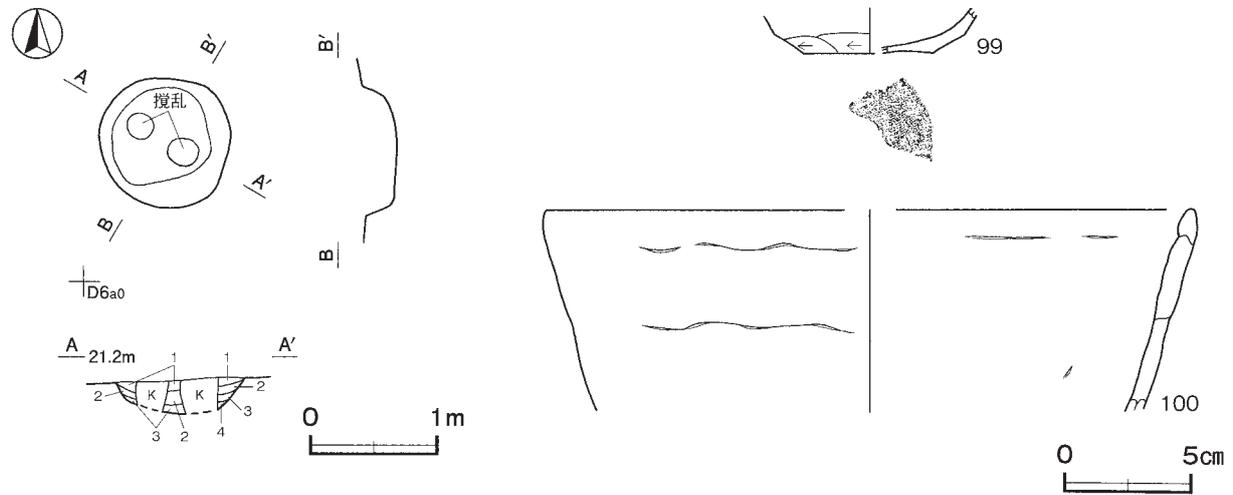
覆土 4層に分層できる。第4層は, 黒色土で有機物が堆積したものとみられる。第1~3層は周囲から流れ込んだ堆積状況を示していることから, 自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 褐色 ロームブロック多量, 炭化粒子微量
- 4 黒色 ローム粒子少量

遺物出土状況 土師器片6点(坏2, 甕3, 甗1), 須恵器片2点(坏)が出土している。99・100はいずれも覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器と遺構の形状及び周囲の遺構との関係から、9世紀代と考えられる。最下層の黒色土の堆積が顕著であり、有機物が堆積したものと考えられる。屋外における貯蔵施設と考える。



第 65 図 第 7518 号土坑・出土遺物実測図

第 7518 号土坑出土遺物観察表（第 65 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
99	須恵器	坏	-	(18)	[5.1]	長石・石英	灰	普通	体部下端手持ちへら削り 底部へら削り	覆土中	5%
100	土師器	甑	[25.4]	(8.1)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外・内面ナデ	覆土中	5%

表 6 平安時代土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
7471	C 6j8	N-67°-W	楕円形	1.10 × 0.98	22	平坦	外傾	自然	土師器	
7474	C 6i7	-	円形	1.10 × 1.03	24	平坦	外傾	自然	土師器	
7475	C 6j8	N-87°-W	楕円形	1.12 × 0.99	30	平坦	外傾	自然	土師器	
7476	C 6j9	-	円形	0.98 × 0.92	29	平坦	外傾	自然	土師器, 須恵器	
7477	C 6i8	-	円形	0.84 × 0.78	15	皿状	外傾	自然	土師器	
7486	C 6j8	N-42°-W	[楕円形]	1.11 × (0.98)	31	平坦	外傾	自然	土師器, 須恵器	本跡→SK7493
7493	C 6j8	-	円形	1.15 × 1.05	30	平坦	外傾	自然		SK7486→本跡
7510	C 7f3	-	円形	0.74 × 0.68	30	平坦	直立	自然	土師器, 須恵器	
7511	C 7f1	-	[円形]	0.86 × (0.70)	50	平坦	直立	自然		本跡→SK7517
7515	C 6e0	-	円形	0.70 × 0.67	19	平坦	ほぼ直立	自然	土師器, 須恵器	
7516	C 6e9	-	円形	0.97 × 0.90	23	平坦	ほぼ直立	自然	土師器	
7518	C 6j0	-	円形	1.03 × 1.02	25	平坦	外傾	自然	土師器, 須恵器	

(4) 遺物包含層

第 4 号遺物包含層（第 66～68 図 PL14）

調査年度 平成 25 年度

位置 14 区西部の D 6a4 区から D 6j6 区にかけて、標高 20 m ほどの谷部に位置している。

確認状況 表土を除去した段階で、14 区の西部に黒色土が堆積した谷部を確認した。その一部に、土師器片



第 66 图 第 4 号遺物包含層実測図

や須恵器片を主体とする遺物の広がりを確認したことから、遺物包含層とした。遺物包含層は、さらに調査区域外に広がっているものとみられる。

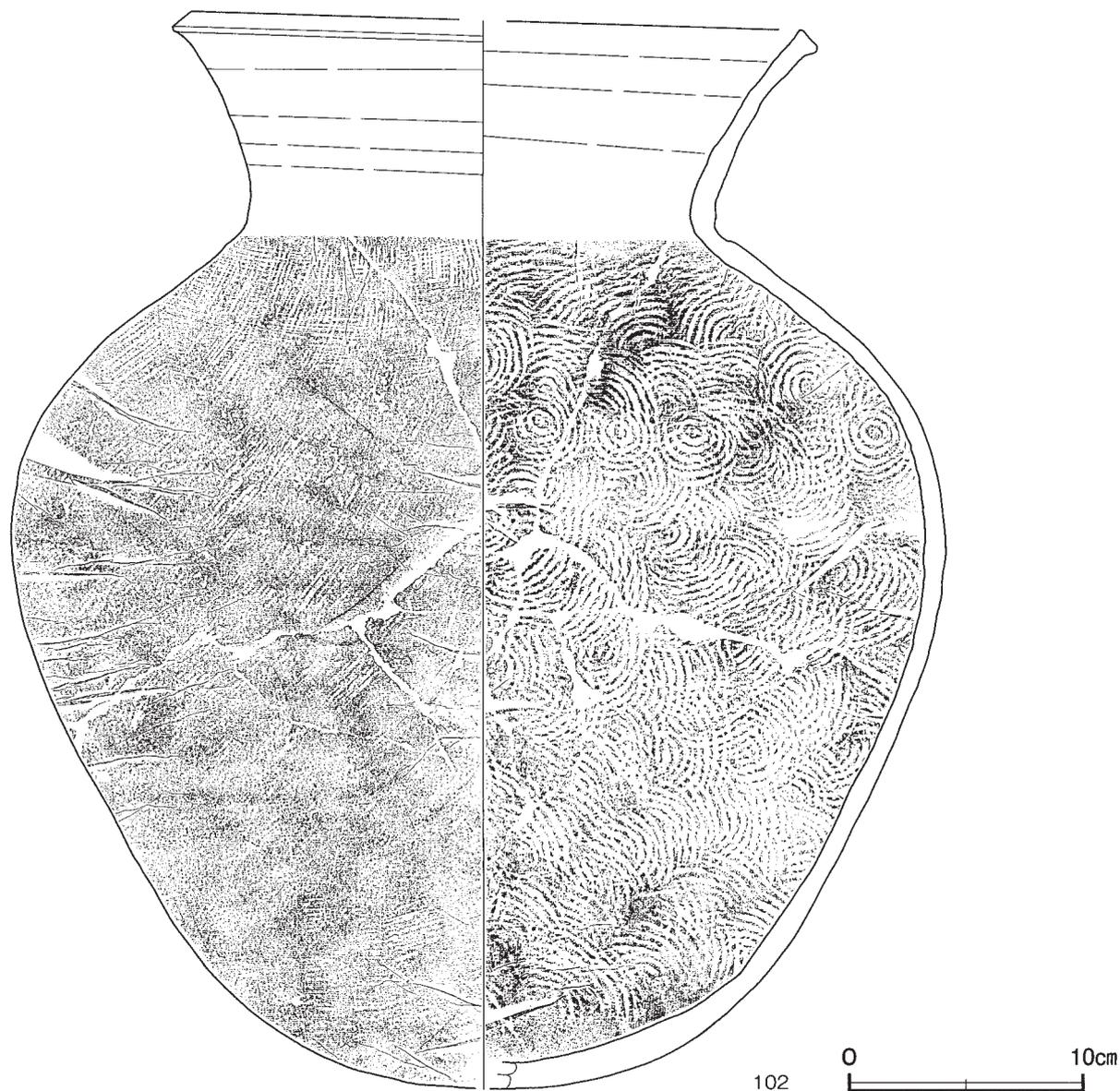
調査の方法 遺跡全体を網羅した広域グリッドを利用し、D 6 a4 区を北西隅の起点として包含層の確認範囲に4mの基本グリッドを設定した。グリッドごとに堆積土を掘り下げ、遺物の出土地点を記録した。

覆土 4層に分層できる。台地の斜面部から、谷部に向かって傾斜に沿って堆積した様相を示している。

土層解説

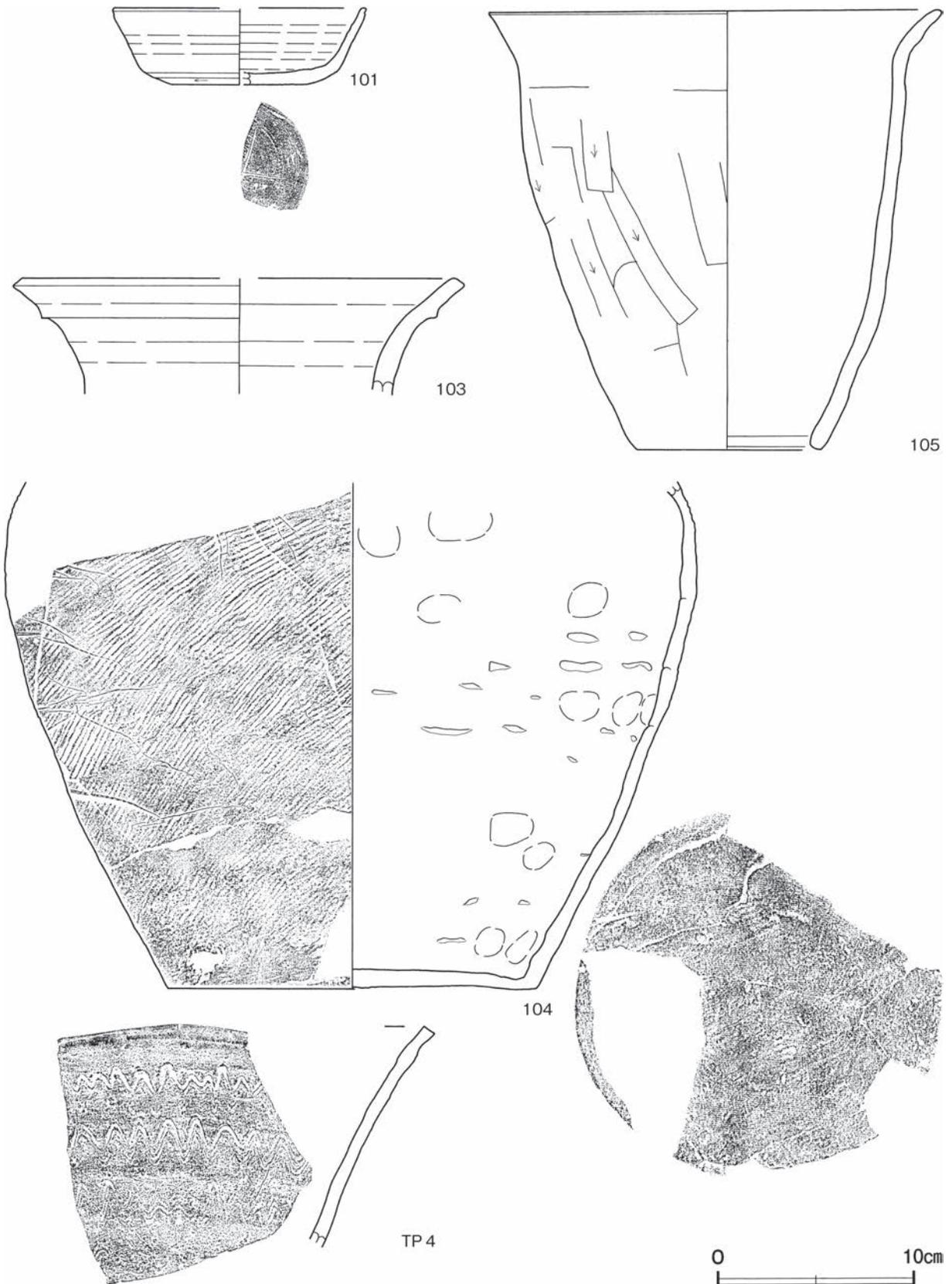
- | | | | |
|-------|--------------------|-------|-----------------|
| 1 黒色 | ロームブロック少量 | 3 黒褐色 | ロームブロック中量、炭化物少量 |
| 2 黒褐色 | 粘土ブロック中量、ロームブロック少量 | 4 褐色 | ロームブロック多量 |

遺物出土状況 縄文土器片3点(深鉢), 土師器片516点(坏24, 高台付坏1, 甕490, 甑1), 須恵器片166点(坏92, 高台付坏2, 蓋6, 盤2, 高盤1, 壺4, 甕58, 甑1), 灰釉陶器片1点(碗), 土師質土器片2点(内耳鍋), 磁器片1点(碗), 金属製品1点(不明)が出土している。多くの土器は破片であり、台地上の土砂が谷に流入する過程で混入したものと考えられる。102はほぼ完形で出土しており、使用を終えた段階で谷に廃棄されたとみられる。104は破片が広く散らばっており、投棄されたものと考えられる。



第67図 第4号遺物包含層出土遺物実測図(1)

所見 遺物は縄文時代から中世にかけて確認され、長期に渡って周辺の土砂が流入し、谷が埋没していったものとする。その中で、当遺物包含層は、出土土器から8世紀前葉から9世紀前葉に形成されたと考えられる。



第68図 第4号遺物包含層出土遺物実測図(2)

第4号遺物包含層出土遺物観察表（第67・68図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
101	須恵器	坏	[12.7]	4.0	[6.8]	長石・石英	青灰	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ削り ヘラ記号「Xカ」	D 6 i3	30% 新治窯
102	須恵器	甕	[26.0]	45.7	-	長石・石英	灰	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面肩部横位の並行叩き後斜位の平行叩き 体部外面斜位の平行叩き 内面同心円文の当具痕	D 6 i4	90% 新治窯 PL18
103	須恵器	甕	[21.9]	(6.0)	-	長石・石英・細礫	灰	普通	口縁部外・内面横ナデ	D 6 a5	5% 新治窯
104	須恵器	甕	-	(26.1)	18.8	長石・石英・雲母	灰	普通	体部外面斜位の平行叩き 内面指頭圧痕 底部ナデ	D 6 i4	30% 新治窯
105	土師器	甗	22.8	22.7	9.4	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ	D 6 i3	90% PL20
TP 4	須恵器	甕	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黄褐 暗灰黄	普通	口縁部外・内面横ナデ 外面3条の櫛歯波状文 3段施文	D 6 e3	新治窯 PL21

4 室町時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、火葬施設1基を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

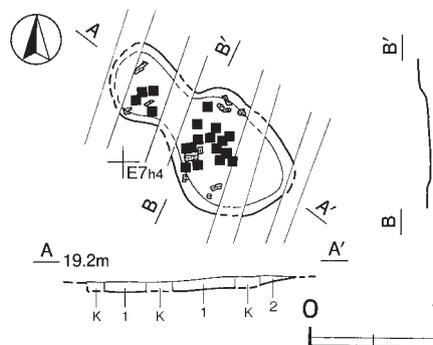
火葬施設

第7467号土坑（第69図）

位置 14区南西部のE7g4区、標高19mほどの台地斜面部に位置している。

規模と形状 平面形は呂字状で、主軸方向はN-128°-Eである。通風孔の規模は長さ0.70mで、上幅0.58m、下幅0.43mである。確認面からの深さは8cmで、底面は皿状を呈し、燃烧部に向かってわずかに傾斜している。燃烧部は南北軸（横幅）1.07m、東西軸（奥行き）0.85mの隅丸長方形で、主軸と鋭角（20度）に交わっている。確認面からの深さは10cmで、底面はほぼ平坦である。壁は緩やかに傾斜している。

覆土 2層に分層できる。炭化材・ローム粒子・焼土粒子が含まれていることから、埋め戻されている。



土層解説

- 1 黒色 炭化材多量、骨片中量、焼土粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子・骨片少量、焼土粒子微量

遺物出土状況 土師器片3点（甕）が出土している。周囲から混入したもので、遺構に伴うものではない。

所見 底面に炭化材や焼土、骨片が堆積した火葬施設である。時期は、遺構の形状や周囲の火葬施設・墓坑との関係から、室町時代と考えられる。周囲の遺構については、『第280集』を参照されたい。

第69図 第7467号土坑実測図

5 江戸時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、溝跡2条を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

溝跡

第139号溝跡（第70図）

調査年度 本跡は、14区南西部のD7i4区から、南部のE8h8区にかけて確認した。南部のE7f8区からE8h8区を平成16・17年度に調査し、『第280集』にて報告している。D7i4区からE7f8区を平成25年度に調査した。

位置 14区南西部のD7i4区から南部のE8h8区，標高20～21mほどの平坦な台地上から斜面部にかけて位置している。

重複関係 第3184号竪穴建物跡を掘り込み，第7415号土坑，第520号溝に掘り込まれている。

規模と形状 D7i4区から西方向（N-73°-W）に直線状に延び，D7h1区で南方向（N-166°-W）に屈曲している。さらに，E7a1区で東方向（N-110°-E）に屈曲して直線状に延びる。E7b5区とE7c5区でクランク状に屈曲し，さらにE7e8区とE7f8区でクランク状に屈曲し，前回調査区へと続いている。確認できた長さは総延長109.6mで，上幅0.24～1.44m，下幅0.08～0.29m，深さ19～97cmである。断面形状はU字状で，中央部が深く掘り込まれている。壁は外傾している。

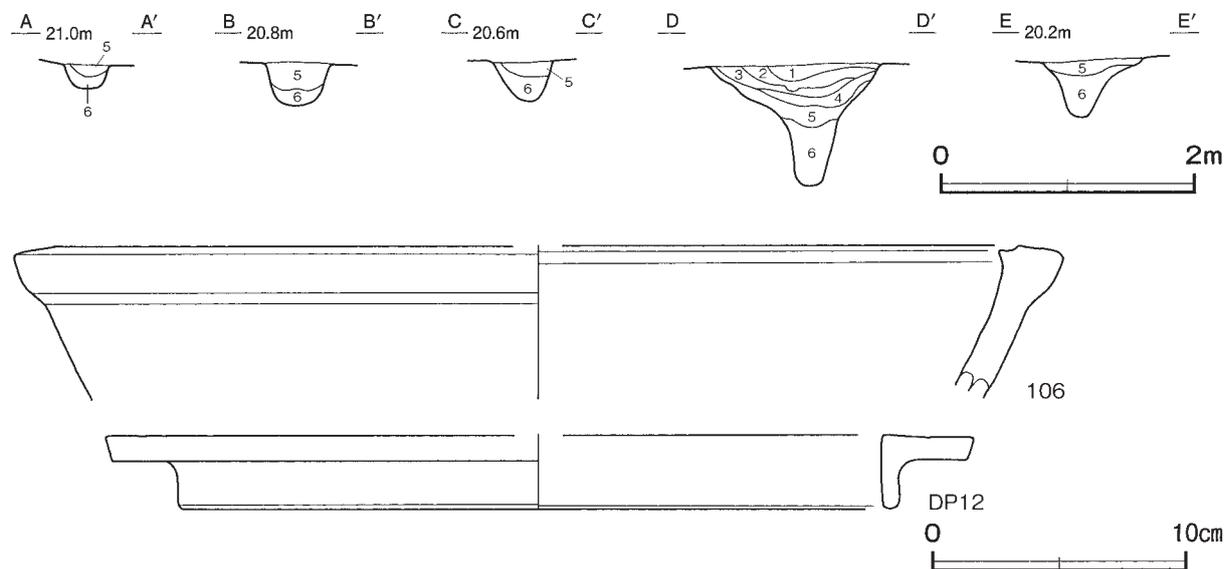
覆土 6層に分層できる。周囲から流れ込んだ様相を示しており，自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|---------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 褐色 | ローム粒子多量，炭化粒子少量，焼土粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック少量，炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子少量，炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ローム粒子少量，炭化粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片1点（深鉢），土師器片90点（坏4，甕86），須恵器片8点（坏3，甕5），土師質土器片10点（鍋9，鉢1），瓦質土器片4点（鉢），陶器片14点（碗11，播鉢3），磁器片19点（碗9，皿10），土製品1点（竈鏝），金属製品1点（煙管），鉄滓1点（49.85g），粘土塊1点，礫1点が出土している。106・DP12はそれぞれ覆土中から出土している。

所見 南部については、『第280集』を参照されたい。墓域の区画や，傾斜面の根切り溝の可能性がある。時期は，出土土器と既調査状況から中世以降に機能し，18世紀代に埋没したと考えられる。



第70図 第139号溝跡・出土遺物実測図

第139号溝跡出土遺物観察表（第70図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
106	土師質土器	鉢	[38.0]	(6.1)	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外・内面ナデ	覆土中	5%
番号	器種	長径	内径	器高	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考	
DP12	竈鏝	[34.1]	[27.2]	3.0	(61.5)	長石・石英	にぶい褐	外・内面ナデ	覆土中		

第 520 号溝跡 (第 71 図)

調査年度 本跡は、14 区中央部の D 8 e4 区から、西部の D 7 h2 区にかけて確認した。中央部の D 8 e4 区から D 7 a4 区を平成 21・24 年度に調査し、『第 390 集』にて報告している。西部の D 7 a4 区から D 7 h2 区を平成 25 年度に調査した。

位置 14 区中央部の D 8 e4 区から西部の D 7 h2 区、標高 21 m ほどの平坦な台地上から斜面部にかけて位置している。

重複関係 第 3189 号竪穴建物跡、第 7472 号土坑、第 139 号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状 前回調査区から続く D 7 a4 区でクランク状に屈曲し、西方向 (N - 77° - W) に直線状に延びている。C 6 j8 区で南方向 (N - 170° - W) に屈曲し、直線状に D 6 g7 区まで延びている。D 6 g7 区で東方向 (N - 114° - E) に屈曲し D 7 h2 区まで延び、第 139 号溝跡を掘り込んでいる。確認できた長さは総延長 118.6 m で、上幅 0.32 ~ 1.84 m、下幅 0.10 ~ 0.68 m、深さ 5 ~ 56 cm である。断面形は浅い U 字状で、緩やかに立ち上がっている。

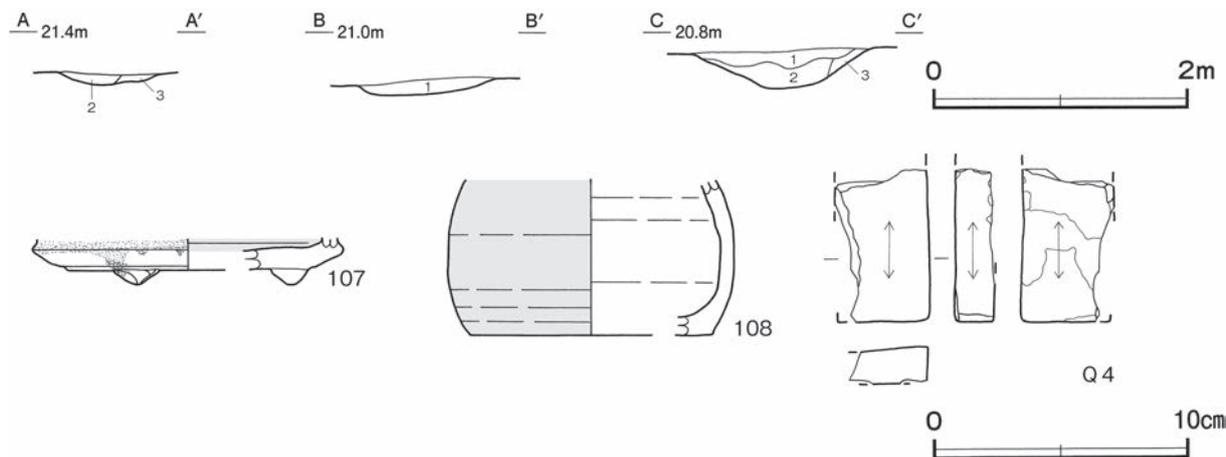
覆土 3 層に分層できる。周囲から流れ込んだ様相を示しており、自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量、炭化物少量
- 3 暗褐色 ロームブロック多量

遺物出土状況 土師器片 53 点 (高台付坏 1, 甕 52), 須恵器片 4 点 (甕), 土師質土器片 3 点 (鍋), 陶器片 6 点 (碗 4, 香炉 1, 壺 1), 瓦片 2 点, 石器 1 点 (砥石), 礫 1 点が、散在した状態で出土している。107・Q 4 は D 6 a0 区のそれぞれ覆土中層と底面から出土している。108 は D 6 h9 区の覆土中層から出土している。

所見 中央部については、『第 390 集』を参照されたい。地境の根切りとともに、北部から南部に傾斜していることから排水を兼ねた溝と考えられる。時期は 18 世紀前葉に機能を終えたと考えられる。



第 71 図 第 520 号溝跡・出土遺物実測図

第 520 号溝跡出土遺物観察表 (第 71 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	釉薬	産地	出土位置	備考
107	陶器	香炉	-	(1.8)	[9.4]	長石 灰白	三足 _g	灰釉	瀬戸・美濃系	覆土中層	10%
108	陶器	壺	-	(6.2)	[9.5]	長石 におい橙	外・内面ロクロナデ	鉄釉	在地 _g	覆土中層	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 4	砥石	(6.1)	3.7	1.6	(52.7)	凝灰岩	砥面 3 面	底面	PL21

表7 江戸時代溝跡一覧表

番号	位置	方向	平面形	規模				断面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)	深さ(cm)					
139	D 7i4 ~ E 8h8	N - 73° - W N - 166° - W N - 110° - E	クランク状	(109.6)	0.24 ~ 1.44	0.08 ~ 0.29	19 ~ 97	U字状	外傾	自然	土師質土器, 瓦質土器, 陶器, 磁器, 金属製品	SI3184 → 本跡 → SK7415, SD520
520	D 8e4 ~ D 7h2	N - 77° - W N - 170° - W N - 114° - E	クランク状	(118.6)	0.32 ~ 1.84	0.10 ~ 0.68	5 ~ 56	浅い U字状	緩斜	自然	土師質土器, 陶器, 瓦, 石器	SI3189, SK7472, SD139 → 本跡

6 その他の遺構と遺物

今回の調査で時期が明らかでない土坑104基, 溝跡1条を確認した。以下, 遺構及び遺物について記述する。

(1) 土坑

時期や性格が明確でない土坑に関して, 規模・形状等を実測図(第72~77図)と土層解説及び一覧表で掲載する。

第7410号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子多量
- 2 暗褐色 ロームブロック多量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量
- 4 黒褐色 ローム粒子中量

第7411号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化物少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量
- 3 黒褐色 ロームブロック中量, 焼土ブロック少量
- 4 黒褐色 焼土ブロック中量, ロームブロック・炭化粒子少量

第7412号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子多量, 焼土ブロック少量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量
- 3 暗褐色 ロームブロック多量, 焼土ブロック少量
- 4 暗褐色 ローム粒子多量

第7413号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック多量, 焼土ブロック中量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 黒褐色 ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化物少量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土ブロック・炭化物少量
- 5 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量
- 6 におい黄褐色 ロームブロック中量
- 7 黒褐色 ロームブロック中量, 焼土ブロック少量
- 8 黒褐色 ロームブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子少量
- 9 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量
- 10 褐色 ロームブロック多量, 粘土ブロック・炭化物少量
- 11 暗褐色 ロームブロック多量, 粘土ブロック中量
- 12 黒褐色 焼土ブロック・ローム粒子少量
- 13 におい黄褐色 粘土ブロック多量, ロームブロック中量, 炭化物少量
- 14 黒褐色 ローム粒子多量, 焼土ブロック少量
- 15 におい黄褐色 ロームブロック多量
- 16 黒褐色 ローム粒子中量, 焼土ブロック少量
- 17 暗褐色 ローム粒子多量

第7415号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量

第7416号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化物少量
- 2 褐色 ローム粒子多量

第7417号土坑土層解説

- 1 におい黄褐色 ロームブロック多量
- 2 黒褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子多量

第7418号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子多量, 粘土ブロック少量

第7419号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子多量, 焼土ブロック・炭化粒子少量

第7420号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量, 焼土ブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック多量
- 3 褐色 ローム粒子多量

第7421号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量
- 2 におい黄褐色 ロームブロック多量

第7422号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量
- 3 褐色 ローム粒子多量

第7423号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化粒子少量

第7424号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子多量, 焼土ブロック中量

第7425号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック多量, 焼土ブロック少量

第7426号土坑土層解説

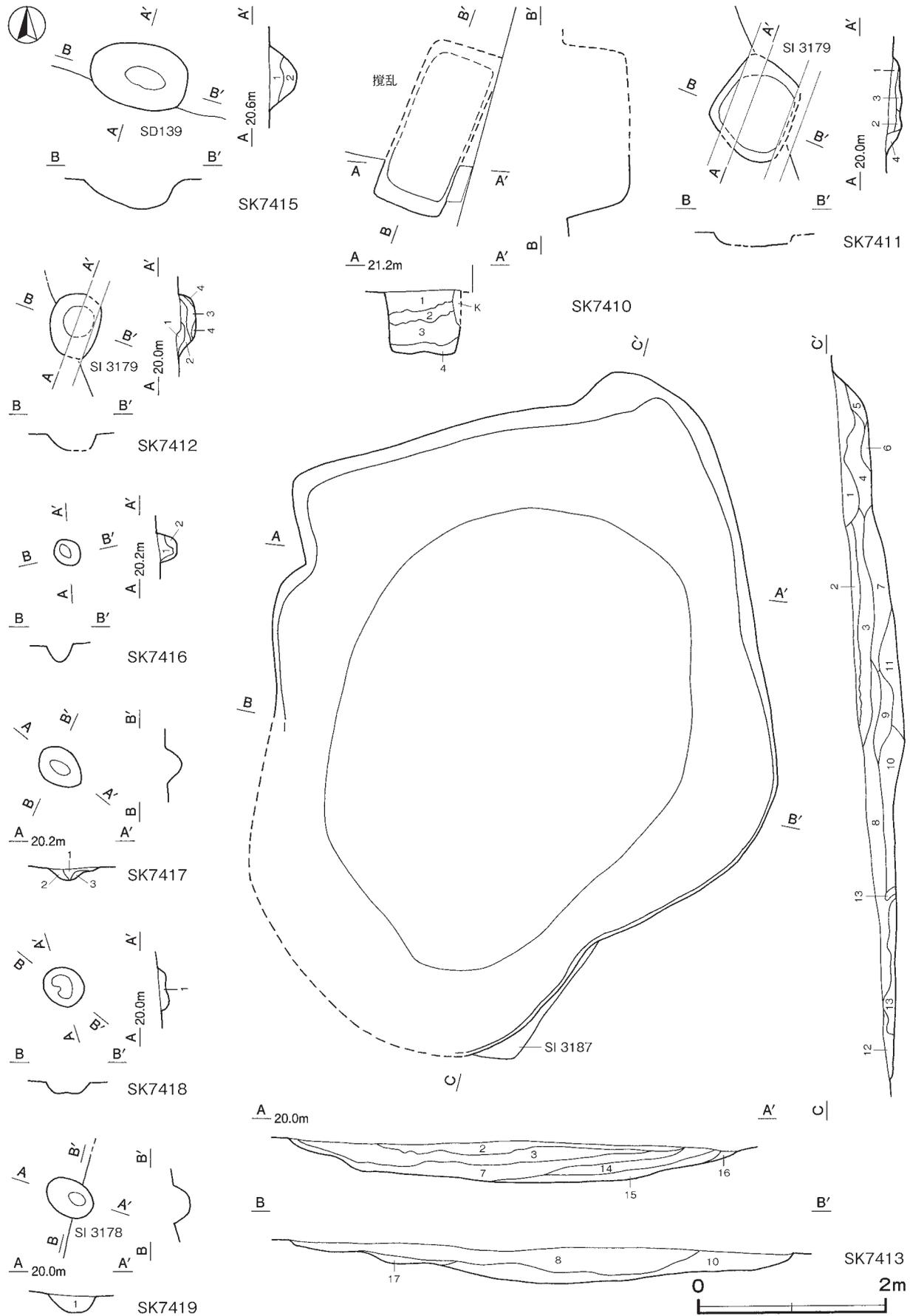
- 1 暗褐色 ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化物少量
- 2 黒褐色 ローム粒子多量, 焼土ブロック少量

第7427号土坑土層解説

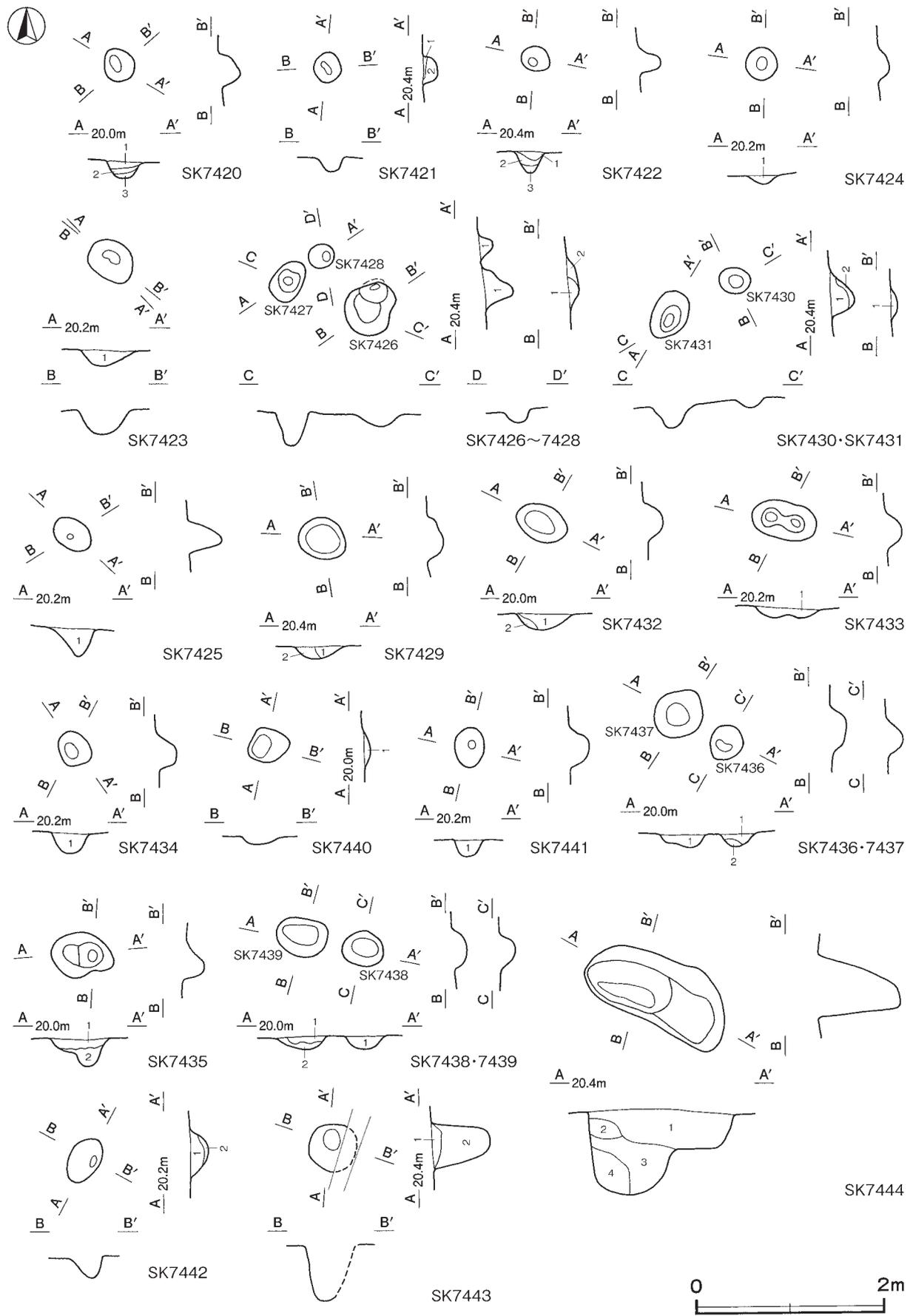
- 1 暗褐色 ロームブロック中量, 焼土ブロック少量

第7428号土坑土層解説

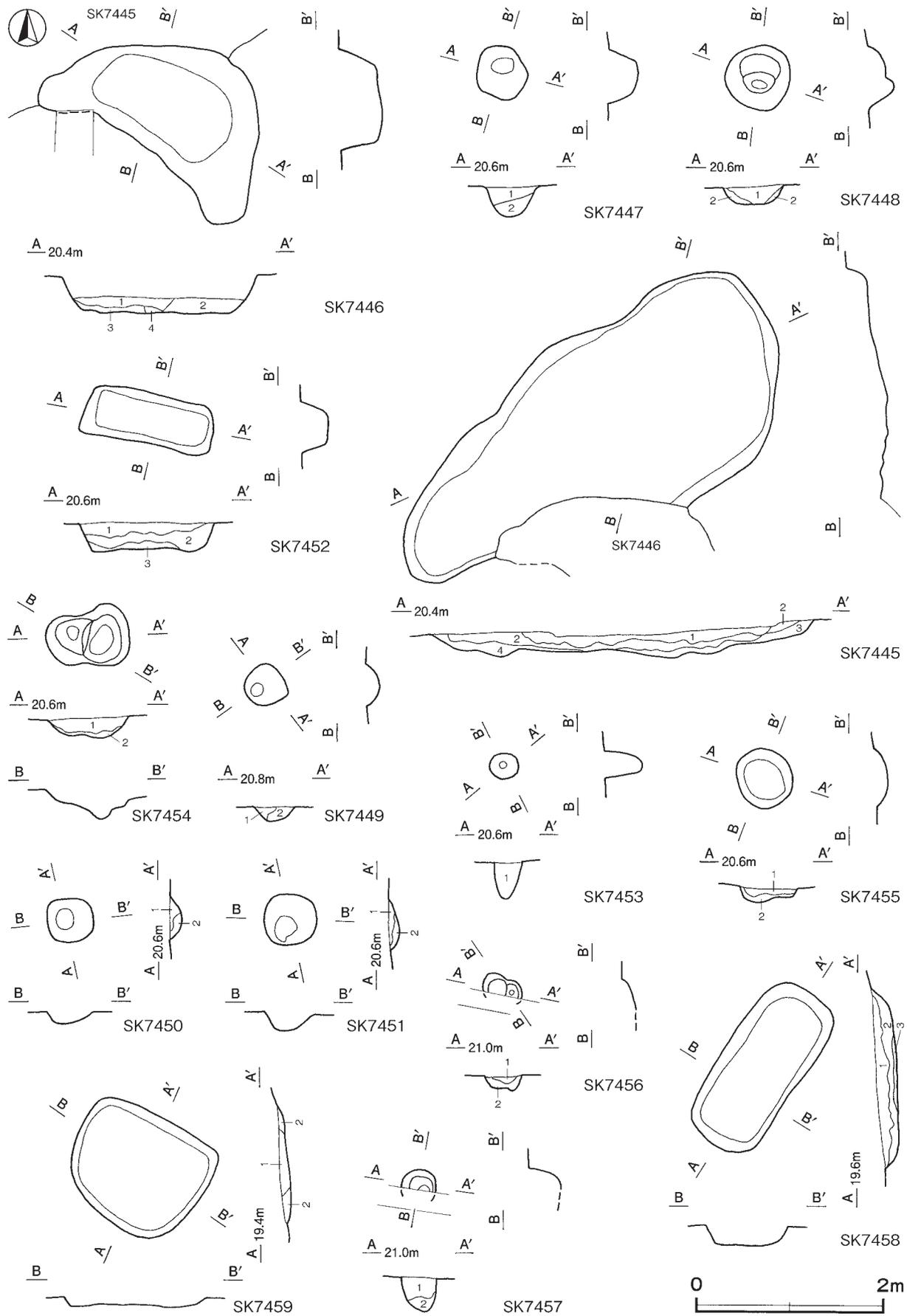
- 1 黒褐色 ローム粒子多量



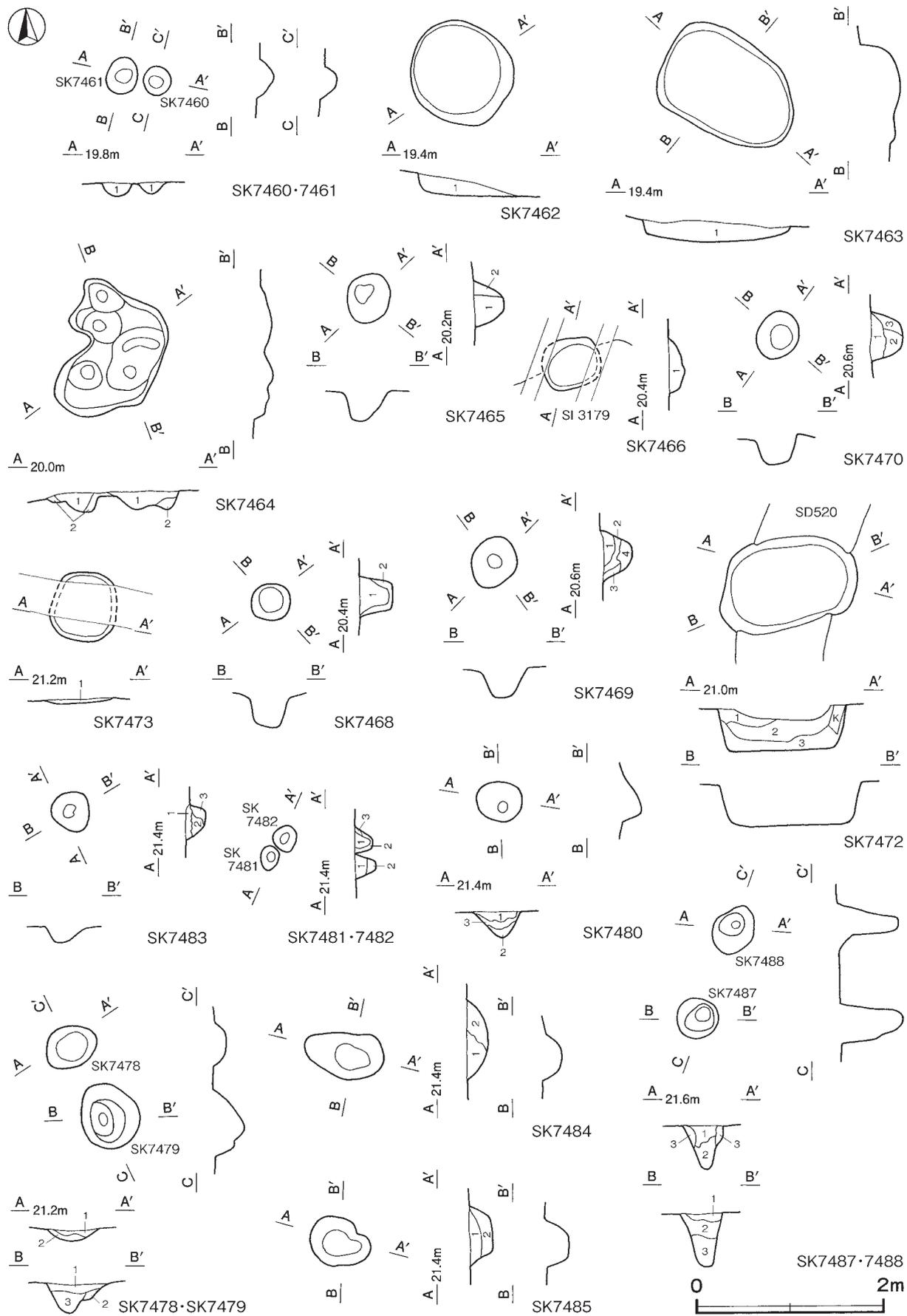
第72図 その他の土坑実測図(1)



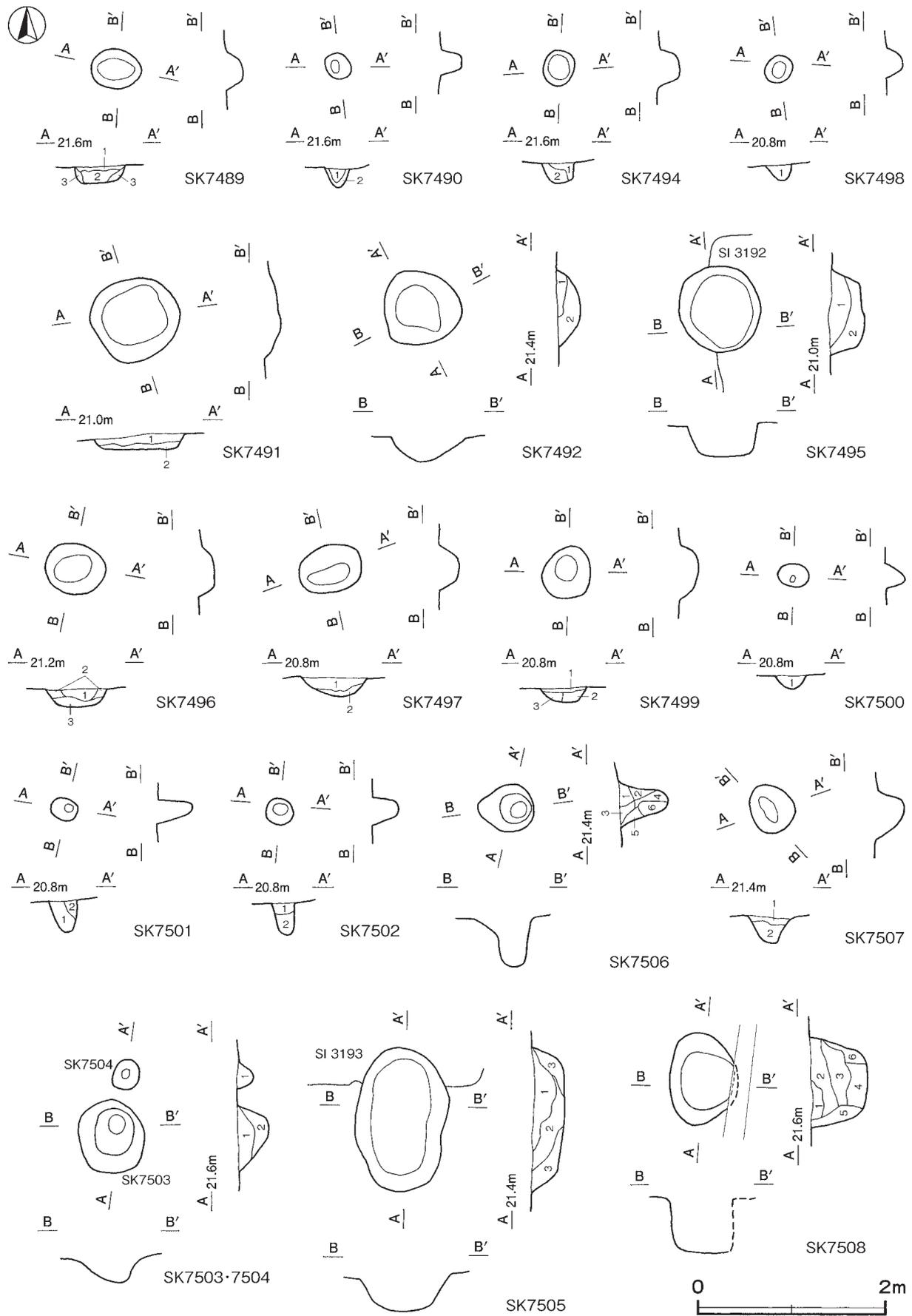
第 73 図 その他の土坑実測図 (2)



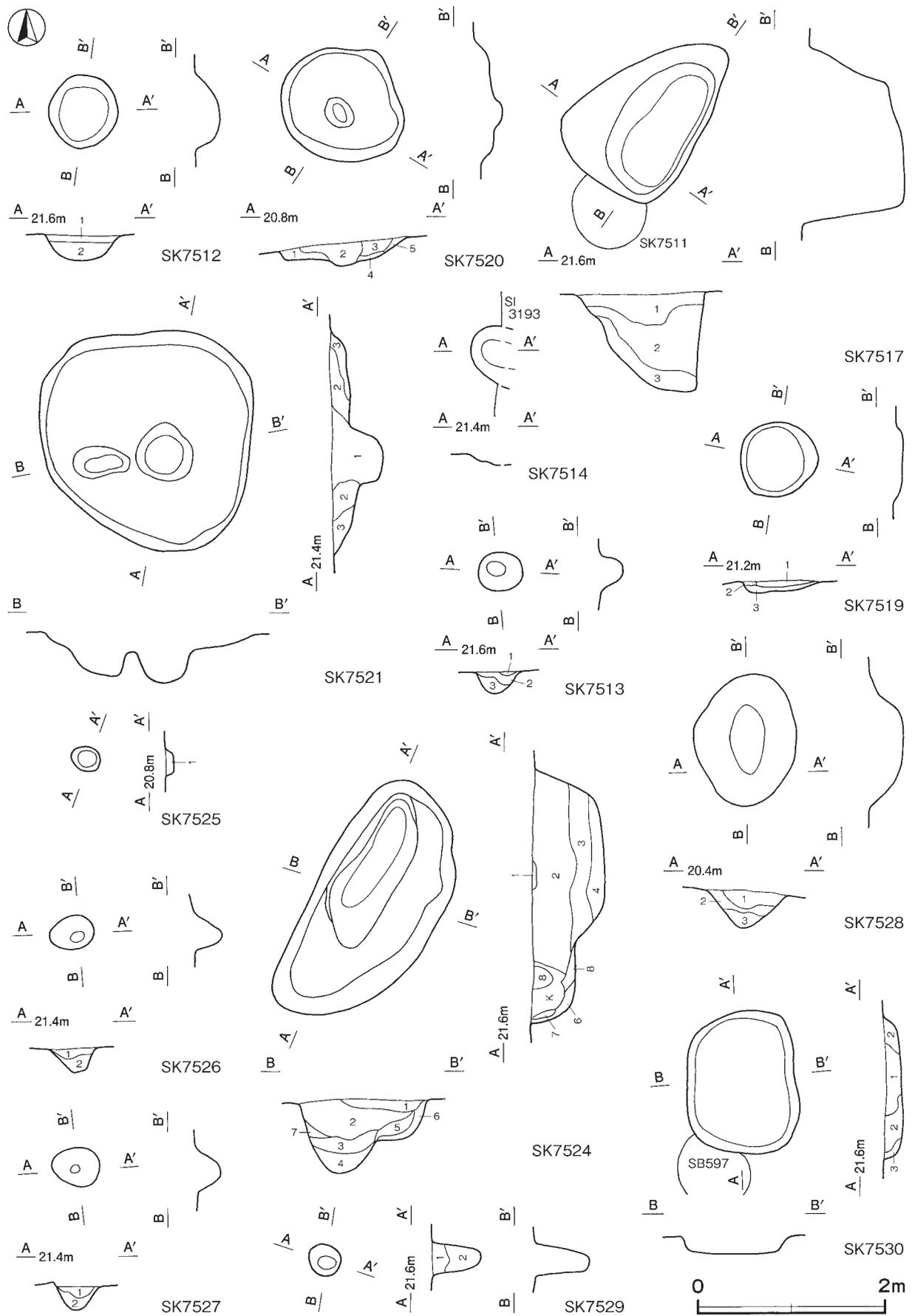
第74図 その他の土坑実測図(3)



第 75 図 その他の土坑実測図 (4)



第76図 その他の土坑実測図(5)



第 77 図 その他の土坑実測図 (6)

第 7429 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量

第 7430 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック多量, 焼土ブロック少量

第 7431 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子中量, 炭化粒子少量
- 2 褐色 ロームブロック多量

第 7432 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子少量

第 7433 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化粒子少量

第 7434 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 焼土ブロック・ローム粒子少量

第 7435 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量, 焼土ブロック・粘土ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量

第 7436 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量, 焼土ブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック多量

第 7437 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子少量

第 7438 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量, 焼土ブロック・炭化粒子少量

第 7439 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量, 炭化物少量
- 2 暗褐色 ロームブロック多量

第 7440 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子少量

第 7441 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量

第 7442 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量

第 7443 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 2 にぶい黄褐色 ロームブロック中量

第 7444 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック多量, 炭化物中量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量
- 3 黒褐色 ロームブロック中量
- 4 灰黄褐色 ロームブロック多量

第 7445 号土坑土層解説

- 1 黒色 ローム粒子多量, 焼土ブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化物少量
- 3 褐色 ローム粒子多量, 炭化物少量
- 4 褐色 ロームブロック多量

第 7446 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量, 炭化物少量
- 3 にぶい黄褐色 ロームブロック中量

- 4 暗褐色 ロームブロック中量

第 7447 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 褐色 ローム粒子多量

第 7448 号土坑土層解説

- 1 にぶい黄褐色 ロームブロック多量
- 2 暗褐色 ロームブロック多量

第 7449 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 褐色 ロームブロック中量

第 7450 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土ブロック・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック多量, 焼土ブロック・炭化物少量

第 7451 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土ブロック・炭化物少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量, 焼土ブロック少量

第 7452 号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック中量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量

第 7453 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量

第 7454 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第 7455 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量

第 7456 号土坑土層解説

- 1 黒色 ロームブロック中量, 炭化物少量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量

第 7457 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック多量, 焼土ブロック・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック多量

第 7458 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック中量, 炭化粒子少量
- 2 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック・炭化物中量
- 3 黒色 ローム粒子少量

第 7459 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量

第 7460 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量

第 7461 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量

第 7462 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量

第 7463 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化物少量

第 7464 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量

第 7465 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 2 黒 褐 色 ローム粒子少量

第 7466 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土粒子微量

第 7468 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量
- 2 褐 色 ローム粒子多量

第 7469 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子中量
- 2 暗 褐 色 焼土ブロック・炭化物少量, ロームブロック微量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック中量
- 4 黒 褐 色 ロームブロック中量

第 7470 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック中量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 3 黒 褐 色 ロームブロック中量

第 7472 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子多量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化物少量
- 3 黒 褐 色 ロームブロック中量

第 7473 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 炭化物・ローム粒子多量, 焼土ブロック少量

第 7478 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック中量
- 2 にぶい黄褐色 ロームブロック多量

第 7479 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック中量, 焼土粒子微量
- 2 褐 色 ローム粒子多量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック中量

第 7480 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子中量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック中量
- 3 褐 色 ロームブロック多量

第 7481 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック中量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック中量

第 7482 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量
- 3 暗 褐 色 ローム粒子多量, 焼土粒子少量

第 7483 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 炭化物・ローム粒子少量
- 2 にぶい黄褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック中量

第 7484 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子多量

第 7485 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック中量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック中量

第 7487 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック・炭化物少量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック多量
- 3 黒 褐 色 ローム粒子中量

第 7488 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 2 黒 褐 色 ローム粒子少量
- 3 暗 褐 色 ローム粒子多量

第 7489 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック中量, 炭化物少量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量
- 3 褐 色 ロームブロック多量

第 7490 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 2 褐 色 ローム粒子多量

第 7491 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子中量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子多量

第 7492 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック多量, 炭化物少量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック多量, 焼土粒子少量

第 7494 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子多量

第 7495 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック・炭化物中量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量

第 7496 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子・炭化粒子中量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量

第 7497 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子・炭化粒子中量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子・炭化粒子少量

第 7498 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量

第 7499 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子中量
- 2 褐 色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 3 黒 褐 色 ロームブロック多量, 炭化粒子少量

第 7500 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量

第 7501 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子多量, 炭化粒子中量

第 7502 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子・炭化粒子中量

第 7503 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック多量, 炭化粒子少量

第 7504 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量

第 7505 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック少量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量

第 7506 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 3 褐 色 ロームブロック多量, 炭化粒子中量
- 4 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 5 褐 色 ロームブロック・炭化粒子多量
- 6 褐 色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量

第 7507 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子中量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子多量, 炭化粒子中量

第 7508 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子中量
- 2 褐 色 ロームブロック多量, 炭化粒子少量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量
- 4 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 5 褐 色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 6 褐 色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量

第 7512 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック多量, 炭化粒子中量

第 7513 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子多量, 炭化粒子少量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック・炭化粒子中量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子中量

第 7517 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック中量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック多量

第 7519 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 炭化粒子中量, ロームブロック少量
- 2 黒 褐 色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 3 黒 褐 色 ローム粒子・炭化粒子中量

第 7520 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 2 黒 褐 色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 3 暗 褐 色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 4 黒 褐 色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 5 褐 色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量

第 7521 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子・炭化粒子中量
- 2 褐 色 ロームブロック・炭化粒子中量
- 3 褐 色 ロームブロック多量, 焼土粒子中量

第 7524 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック多量, 炭化粒子少量
- 2 褐 色 ロームブロック多量, 炭化粒子中量, 焼土粒子少量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック多量, 炭化粒子中量
- 4 褐 色 ロームブロック多量, 炭化粒子・粘土粒子少量
- 5 褐 色 粘土粒子多量, ローム粒子・炭化粒子少量
- 6 暗 褐 色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量
- 7 暗 褐 色 ローム粒子・炭化粒子中量
- 8 褐 色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量

第 7525 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量

第 7526 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 2 褐 色 ロームブロック多量, 炭化粒子少量

第 7527 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子中量

第 7528 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 2 黒 褐 色 炭化粒子中量, ローム粒子少量
- 3 黒 褐 色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量

第 7529 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック多量, 炭化物・焼土粒子少量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック中量

第 7530 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック多量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子多量, 炭化粒子少量
- 3 黒 褐 色 ロームブロック中量, 焼土粒子少量

表 8 その他の土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		底 面	壁 面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
7410	E 7 a9	N - 20° - E	[隅丸長方形]	[1.87] × (0.77)	(69)	(平坦)	(直立)	人為		
7411	E 7 f4	N - 38° - E	[長方形]	0.98 × [0.86]	18	平坦	外傾	人為	土師器	SI3179 → 本跡
7412	E 7 e4	N - 7° - E	楕円形	[0.70] × 0.52	20	平坦	外傾 緩斜	人為		SI3179・3188 → 本跡
7413	E 7 d1	N - 21° - E	不整楕円形	7.66 × 5.74	48	皿状	緩斜	人為	縄文土器, 土師器, 陶器, 磁器, 土製品, 鏝	SI3187 → 本跡
7415	E 7 b4	N - 70° - W	楕円形	1.07 × 0.71	31	皿状	緩斜	自然		SD139 → 本跡
7416	E 7 d3	N - 43° - W	楕円形	0.31 × 0.26	29	皿状	緩斜	自然		
7417	E 7 d3	N - 52° - W	楕円形	0.55 × 0.39	16	皿状	緩斜	人為		
7418	E 7 e3	N - 50° - W	楕円形	0.45 × 0.39	13	皿状	緩斜	自然		
7419	E 7 e3	N - 61° - W	楕円形	0.53 × 0.40	16	皿状	緩斜	自然		SI3178 → 本跡
7420	E 7 e3	-	円形	0.38 × 0.35	20	皿状	外傾 緩斜	自然		
7421	E 7 c2	-	円形	0.30 × 0.30	16	皿状	緩斜	自然		

番号	位置	N-長径方向	平面形	規 模		底 面	壁 面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
7422	E 7 c2	N - 67° - W	楕円形	0.31 × 0.27	23	皿状	外傾	自然	土師器	
7423	E 7 c1	N - 39° - W	楕円形	0.53 × 0.43	26	皿状	外傾	自然		
7424	E 7 c1	-	円形	0.35 × 0.34	12	皿状	緩斜	自然		
7425	E 7 c1	N - 50° - W	楕円形	0.45 × 0.31	34	皿状	ほぼ直立	自然	土師器	
7426	E 6 b0	-	不整形円形	0.55 × 0.53	12	皿状	緩斜	自然	土師器, 須恵器	
7427	E 6 b0	N - 33° - E	楕円形	0.48 × 0.34	35	皿状	外傾	自然	土師器, 陶器	
7428	E 6 b0	-	円形	0.29 × 0.27	13	皿状	緩斜	自然		
7429	E 6 b0	N - 66° - W	楕円形	0.53 × 0.45	17	皿状	緩斜	自然		
7430	E 6 b0	N - 73° - W	楕円形	0.32 × 0.29	8	皿状	緩斜	自然		
7431	E 6 b0	N - 27° - E	楕円形	0.53 × 0.38	25	皿状	緩斜	自然		
7432	E 6 c0	N - 63° - W	楕円形	0.58 × 0.40	18	皿状	外傾	自然	土師器	
7433	E 6 b9	N - 74° - W	楕円形	0.68 × 0.41	16	皿状	緩斜	自然		
7434	E 6 b9	N - 16° - W	楕円形	0.39 × 0.31	20	皿状	外傾 緩斜	自然	土師器	
7435	E 6 c9	N - 77° - W	楕円形	0.70 × 0.50	29	有段	外傾	自然	土師器	
7436	E 6 c8	N - 40° - E	楕円形	0.41 × 0.36	16	皿状	外傾	自然		
7437	E 6 c8	N - 37° - E	楕円形	0.57 × 0.52	18	凹凸	緩斜	自然	土師器	
7438	E 6 b8	N - 76° - W	楕円形	0.43 × 0.38	16	皿状	緩斜	自然	土師器, 須恵器	
7439	E 6 b8	N - 76° - W	楕円形	0.53 × 0.41	14	皿状	緩斜	自然	土師器	
7440	E 6 b8	N - 67° - W	方形	0.39 × 0.37	8	皿状	緩斜	自然	土師器	
7441	E 6 b8	N - 9° - E	楕円形	0.44 × 0.32	22	皿状	緩斜	自然		
7442	E 6 b8	N - 31° - E	楕円形	0.52 × 0.33	23	皿状	外傾	自然		
7443	E 7 e7	-	[円形]	[0.40] × 0.38	58	皿状	ほぼ直立	自然	土師器, 須恵器	
7444	E 7 c1	N - 65° - W	不整楕円形	1.60 × 0.76	87	有段	直立	人為		
7445	E 7 b1	N - 53° - E	不整楕円形	4.70 × 2.25	31	凹凸	直立	自然		本跡→SK7446
7446	E 7 b1	N - 57° - W	不整楕円形	2.31 × 1.02	43	平坦	外傾	人為		SK7445 →本跡
7447	E 7 a2	-	円形	0.56 × 0.51	30	皿状	外傾	自然		
7448	E 7 a2	-	円形	0.67 × 0.67	25	有段	緩斜	自然		
7449	E 7 a3	-	円形	0.48 × 0.46	15	皿状	緩斜	自然		
7450	E 7 a3	-	円形	0.50 × 0.48	12	皿状	緩斜	自然		
7451	E 7 a3	-	円形	0.55 × 0.53	19	皿状	緩斜	自然	土師器	
7452	E 7 a1	N - 80° - W	隅丸長方形	1.49 × 0.55	28	平坦	外傾	人為	土師器	
7453	E 7 b3	-	円形	0.29 × 0.28	40	皿状	ほぼ直立	自然		
7454	E 7 b5	N - 73° - W	不整楕円形	0.91 × 0.69	23	凹凸	外傾	自然	土師器, 須恵器	
7455	E 7 c5	N - 21° - W	楕円形	0.66 × 0.55	13	皿状	緩斜	自然		
7456	E 7 a6	N - 78° - W	不定形	0.43 × (0.23)	16	皿状	皿状	自然	土師器, 須恵器	
7457	E 7 a7	N - 81° - W	[円形・楕円形]	0.37 × (0.22)	34	皿状	ほぼ直立	自然	土師器	
7458	E 7 f3	N - 32° - E	長方形	1.94 × 0.89	21	平坦	外傾	人為		
7459	E 7 g4	N - 63° - W	楕円形	1.50 × 1.27	10	平坦	外傾 緩斜	自然		
7460	E 6 d9	-	円形	0.34 × 0.31	13	皿状	緩斜	自然		
7461	E 6 d9	N - 16° - E	楕円形	0.41 × 0.33	15	皿状	緩斜	自然	土師器	
7462	E 7 g3	-	円形	1.18 × 1.08	24	平坦	ほぼ直立	自然		
7463	E 7 f2	N - 61° - W	楕円形	1.53 × 1.06	42	皿状	ほぼ直立 外傾	自然	土師器	
7464	E 6 c9	N - 40° - E	不定形	1.46 × 1.12	20	凹凸	ほぼ直立	自然	土師器, 須恵器	
7465	E 7 c1	N - 30° - E	楕円形	0.57 × 0.50	32	皿状	外傾	人為	土師器	
7466	E 7 e5	N - 76° - E	[楕円形]	[0.62] × 0.54	16	皿状	緩斜	自然		SI3179 →本跡
7468	D 6 e6	-	円形	0.42 × 0.39	35	平坦	ほぼ直立	自然		

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		底 面	壁 面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
7469	D 6 d6	N -17° - E	楕円形	0.56 × 0.48	30	平坦	外傾	自然		
7470	D 6 d7	N -24° - E	楕円形	0.54 × 0.45	34	平坦	外傾	人為		
7472	D 6 a8	N -74° - E	[楕円形]	1.54 × (0.98)	47	平坦	ほぼ直立	人為	土師器	本跡→SD520
7473	D 6 b0	-	円形	0.76 × 0.70	4	平坦	緩斜	自然	土師器, 須恵器, 陶器	
7478	C 6 i0	N -57° - E	楕円形	0.60 × 0.46	15	皿状	緩斜	自然		
7479	C 6 j0	N -32° - W	楕円形	0.72 × 0.64	33	有段	外傾 緩斜	自然	須恵器	
7480	C 7 i1	N -32° - W	楕円形	0.51 × 0.42	28	皿状	外傾 緩斜	自然		
7481	C 6 i0	N -6° - E	楕円形	0.26 × 0.18	22	皿状	外傾	自然		
7482	C 6 i0	-	円形	0.28 × 0.26	20	皿状	外傾	自然		
7483	C 6 i0	-	円形	0.44 × 0.42	17	皿状	外傾 緩斜	人為		
7484	C 6 i0	N -76° - W	楕円形	0.84 × 0.50	22	皿状	外傾 緩斜	自然		
7485	C 6 h0	N -65° - W	楕円形	0.65 × 0.52	25	平坦	外傾	自然		
7487	D 7 a3	-	円形	0.43 × 0.42	66	U字状	ほぼ直立	自然		
7488	C 7 j3	N -19° - E	楕円形	0.55 × 0.43	65	U字状	ほぼ直立	人為		
7489	C 7 j3	N -79° - W	楕円形	0.53 × 0.43	18	皿状	緩斜	人為		
7490	C 7 j3	N -61° - W	楕円形	0.31 × 0.25	22	皿状	ほぼ直立	人為		
7491	C 6 i8	-	円形	0.93 × 0.88	15	平坦	緩斜	自然		
7492	C 7 h1	-	円形	0.84 × 0.83	26	皿状	緩斜	自然	土師器	
7494	C 7 j3	-	円形	0.38 × 0.35	20	平坦	ほぼ直立 外傾	自然		
7495	C 6 h8	-	円形	0.92 × 0.90	34	平坦	ほぼ直立	自然	土師器, 須恵器	SI3192 →本跡
7496	C 6 i9	N -69° - W	楕円形	0.63 × 0.52	15	皿状	緩斜	自然		
7497	C 6 h0	N -70° - E	楕円形	0.69 × 0.50	19	皿状	緩斜	自然		
7498	C 6 h9	N -42° - E	楕円形	0.31 × 0.27	15	皿状	緩斜	自然		
7499	C 6 h9	N -0°	楕円形	0.55 × 0.50	19	皿状	緩斜	人為		
7500	C 6 g0	N -90°	楕円形	0.35 × 0.24	23	皿状	緩斜	自然		
7501	C 6 g0	N -74° - W	楕円形	0.29 × 0.25	35	皿状	ほぼ直立 外傾	自然		
7502	C 6 f0	-	円形	0.30 × 0.28	35	皿状	ほぼ直立	自然		
7503	C 7 i3	N -7° - W	楕円形	0.79 × 0.69	25	皿状	緩斜	自然		
7504	C 7 i3	N -8° - E	楕円形	0.33 × 0.29	15	皿状	緩斜	自然		
7505	C 7 j2	N -3° - W	楕円形	1.54 × 0.98	39	平坦	外傾	自然	土師器	SI3193 →本跡
7506	C 6 h0	N -82° - E	楕円形	0.58 × 0.50	54	平坦	ほぼ直立	自然		
7507	C 7 j1	N -39° - W	楕円形	0.52 × 0.46	29	皿状	外傾	自然		
7508	C 7 h5	N -0°	楕円形	0.98 × [0.73]	59	平坦	ほぼ直立	人為		
7512	C 7 f5	-	円形	0.78 × 0.73	27	皿状	外傾 緩斜	自然	土師器	
7513	C 7 f2	N -88° - E	楕円形	0.48 × 0.41	24	皿状	外傾	自然	土師器	
7514	C 7 i1	-	[円形・楕円形]	(0.60) × (0.34)	14	皿状	緩斜	不明		SI3193 →本跡
7517	C 7 e2	N -49° - E	不整楕円形	2.00 × 1.36	108	平坦	外傾	自然	土師器, 須恵器	SK7511 →本跡
7519	C 6 b9	-	円形	0.83 × 0.81	8	平坦	緩斜	自然	土師器	
7520	C 6 c7	-	円形	1.38 × 1.28	25	凹凸	緩斜	人為		
7521	C 7 f1	N -62° - W	不整楕円形	2.60 × 2.36	54	凹凸	外傾	自然	土師器	
7524	C 7 f2	N -32° - E	楕円形	2.79 × 1.36	80	有段	外傾	人為		
7525	C 7 c2	N -55° - W	楕円形	0.33 × 0.25	8	平坦	緩斜	自然		本跡→SI3162
7526	C 7 j1	N -90°	楕円形	0.49 × 0.38	29	皿状	ほぼ直立	自然		
7527	C 7 j1	N -75° - W	楕円形	0.50 × 0.43	26	皿状	緩斜	自然		
7528	D 6 a6	N -0°	楕円形	1.43 × 1.10	35	平坦	緩斜	自然		
7529	C 7 d3	-	円形	0.36 × 0.35	60	皿状	ほぼ直立	自然		
7530	C 7 c4	N -0°	楕円形	1.54 × 1.19	19	平坦	外傾	自然	土師器	SB597 →本跡

(2) 溝跡

第 589 号溝跡 (第 78 図)

位置 14 区南西部の D 7j7 区～ E 7d8 区, 標高 21 m ほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 D 7j7 区から南方向 (N - 192° - E) に直線的に延び, E 7c6 区から東方向 (N - 114° - E) に直角に屈曲し E 7d8 区まで直線的に延びている。規模は, 上幅 0.44 ~ 1.44 m, 下幅 0.11 ~ 0.70 m, 深さ 5 ~ 21cm である。断面は浅い U 字状で, 壁は緩やかに立ち上がっている。

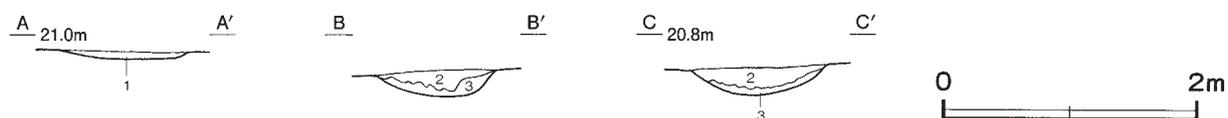
覆土 3 層に分層できる。周囲から流れ込んだ堆積状況を示していることから, 自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック多量, 焼土ブロック・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子多量

遺物出土状況 土師器片 6 点 (坏 1, 甕 5), 須恵器片 1 点 (甕) が出土している。

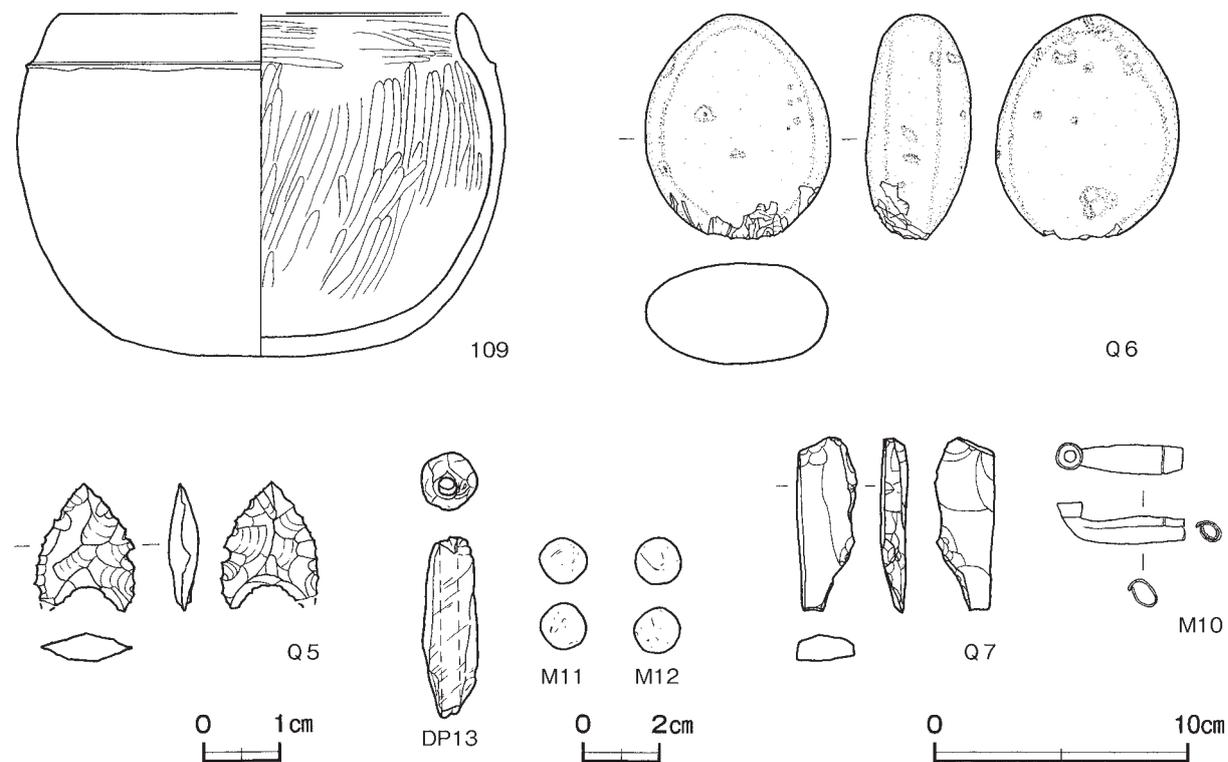
所見 時期は, 特定できる土器が出土していないことから不明である。地境の溝と考えられるが, 詳細は不明である。



第 78 図 第 589 号溝跡実測図

(3) 遺構外出土遺物 (第 79 図)

今回の調査で出土した遺構に伴わない遺物について, 実測図と観察表で掲載する。



第 79 図 遺構外出土遺物実測図

遺構外出土遺物観察表（第79図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
109	土師器	椀	[15.9]	13.7	-	長石	にぶい黄橙	普通	口縁部外面横ナデ 体部外面ナデ 内面ヘラ磨き	SD139 覆土中	40% PL17

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP13	管状土錘	1.5	4.8	0.5	8.5	長石・石英	にぶい黄橙	ナデ 一方向からの穿孔	表土	PL22

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 5	鏝	1.7	1.3	0.4	(0.6)	黒曜石	両面押圧剥離 凹基無茎鏝	表土	PL21
Q 6	磨石	8.9	7.3	4.1	321.1	安山岩	全面研磨痕 端部に敲打痕	表土	PL21
Q 7	剥片	6.9	2.4	1.1	16.8	珪質頁岩	縦長剥片	表土	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M10	煙管	(5.0)	1.2	1.6	(6.4)	銅	雁首部 火皿径1.0cm	SK7413 覆土中	PL22

番号	器種	径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M11	鉛玉	1.2	10.5	鉛	表面灰白色 火繩銃の弾カ	SI3179 覆土中	
M12	鉛玉	1.2	10.1	鉛	表面灰白色 火繩銃の弾カ	SI3190 覆土中	

第4節 ま と め

1 はじめに

島名熊の山遺跡は、平成7年度から調査が実施され、これまでに『茨城県教育財団文化財調査報告』第120・133・149・166・174・190・214・236・264・280・291・322・328・360・380・389・390・403集において報告されている。今回の報告分までの総調査面積は260,191㎡で、県内における最大規模の調査事例である。遺構は、竪穴建物跡2,517棟、掘立柱建物跡415棟をはじめ、陥し穴6基、古墳2基、方形竪穴遺構108基、地下式坑81基、堀跡・溝跡385条、道路跡32条、井戸跡231基、大型竪穴遺構8基、火葬施設37基、墓坑77基、水田跡2か所、遺物包含層4か所などにのぼっている。当遺跡は、4世紀から11世紀にかけての集落跡が中心であり、律令期には「河内郡嶋名郷」の拠点集落として機能していた。中世以降も堀や溝による区画や墓域、水田跡などが確認されており、連綿と集落が営まれてきたことがうかがえる。

今回、整理を行った調査区域は遺跡北部の14区西部から南西部の範囲で、標高19～22mの台地平坦部から縁辺の斜面部にかけて位置している。調査面積は4,457㎡で、確認した遺構は、竪穴建物跡23棟、掘立柱建物跡1棟、井戸跡2基、土坑116基、火葬施設1基、溝跡3条、遺物包含層1か所である。14区については、これまでに『第280集』、『第390集』において報告がなされている。以下において、時期区分は、これまでの成果との整合性を保つために、『第190集』に準拠する¹⁾。また、遺跡内の建物跡群の空間区分は『第291集』におけるA～F群の6群の区分に基づき考察を行うものとする²⁾。

2 14区の概要

今回の調査で、14区の南で東西に延びていた谷は、調査区の西を北に向かって入り込んでいることが明らかとなった。その谷に向かう緩やかな斜面部に、各時代の生活の痕跡が確認された。建物跡群の空間区分では、A群の西部から南西部に位置づけられる³⁾。以下において、今回報告分の集落の様相を各時代ごとに概観する。

(1) 古墳時代(第80図)

当時代の遺構は、竪穴建物跡11棟と掘立柱建物跡1棟を確認した。その内、時期が明かな竪穴建物跡9棟と掘立柱建物跡1棟について、各時期ごと(第4～6期)の変遷を記述する。なお、時期を明確にできなかった第2434号竪穴建物跡は古墳時代後期、第3181号竪穴建物跡は7世紀代と考えられる。

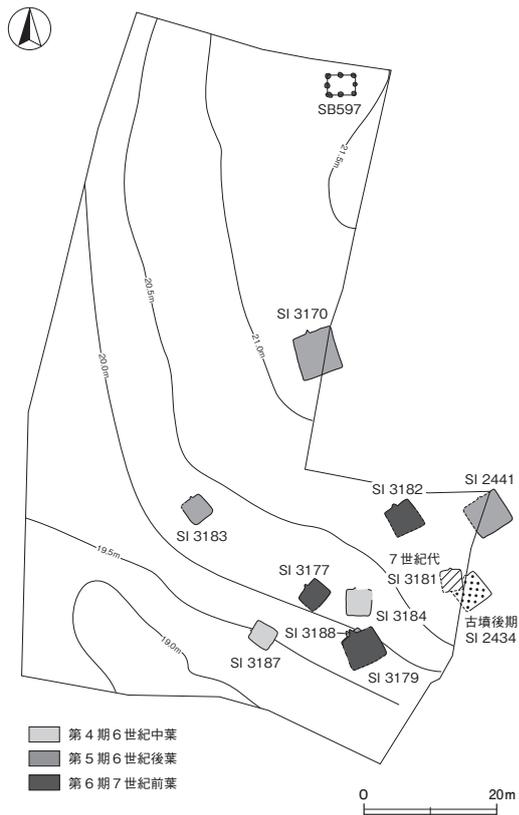
第4期(6世紀中葉)

竪穴建物跡2棟(第3184・3187号竪穴建物跡)が該当する。南西部の標高19～20mの斜面部に構築されていた。14区の当該期の竪穴建物跡は、台地上の平坦部で4棟確認されており、今回の調査で集落が斜面部まで広がっていたことが確認できた。

第5期(6世紀後葉)

竪穴建物跡4棟(第2441・3170・3183・3188号竪穴建物跡)が該当する。当期の集落も台地の平坦部を中心に展開されているが、谷に沿った斜面に当期の竪穴建物が建てられていることが確認できた。

第3183号竪穴建物跡からは、TK209型式に比定される須恵器の脚付長頸壺の脚部が出土している。遺物が竈の周辺に遺棄された状態で多数出土しており、特に壁際で甌を載せた甕が正位で出土している状況からは、当時の煮沸具の保管状況をうかがい知ることができる。

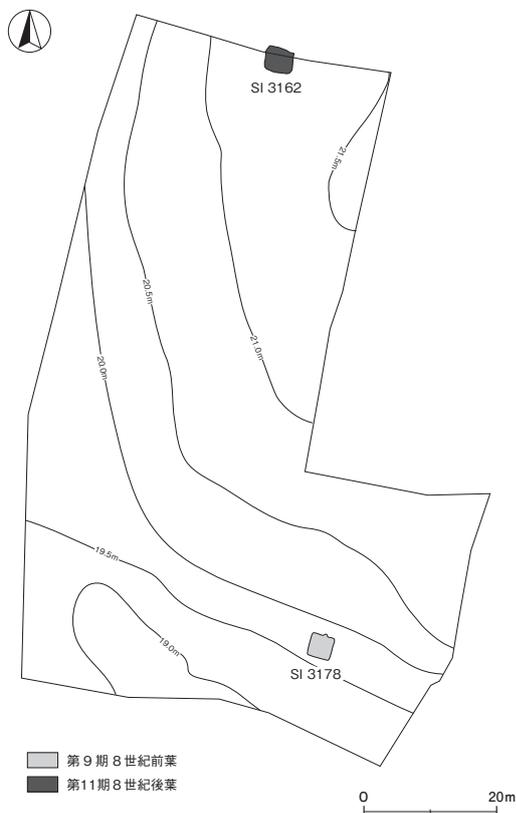


第 80 図 14 区 古墳時代堅穴建物変遷図

第 6 期（7 世紀前葉）

堅穴建物跡 3 棟（第 3177・3179・3182 号堅穴建物跡）と掘立柱建物跡 1 棟（第 597 号掘立柱建物跡）が該当する。堅穴建物跡 3 棟は、南部の緩やかな斜面部で確認された。当期の堅穴建物は、調査区内でほぼ等間隔に位置し、集落が展開されている。古墳時代の堅穴建物跡の確認数は、これまでの調査で指摘されている第 4 期に増加し、第 5 期、第 6 期でも引き続き集落域が拡大するという傾向と合致する。

また、古墳時代の掘立柱建物跡は、これまでの調査で 14 区では確認されていない。同じ A 群である 13 区で、第 5 期の第 548 号掘立柱建物跡が確認されているのみである。今回報告分の第 597 号掘立柱建物跡は、調査区の西部に位置している。同時期の遺構である第 3160 号堅穴建物跡（平成 24 年度調査）が当遺構の 15 m ほど北に位置し、主軸線が同様であることから、関連が想定される。



第 81 図 14 区 奈良時代堅穴建物変遷図

(2) 奈良時代（第 81 図）

当時代の遺構は、堅穴建物跡 2 棟（第 3162・3178 号堅穴建物跡）を確認した。これまでの調査で、第 7・8 期に減少傾向にあった堅穴建物跡が再び増加傾向を見せることが指摘されているが、今回の調査で確認されたのは、第 9 期と第 11 期のそれぞれ 1 棟ずつであった。しかし、当調査区においては掘立柱建物跡 4 棟が、東部と南東部の平坦部で確認されている。

第 9 期（8 世紀前葉）

第 3178 号堅穴建物跡が該当し、南西部の斜面部に位置している。当期の堅穴建物跡は 14 区全体では中央部の平坦部に 3 棟、南東部の斜面部で 1 棟が確認されている。

第 11 期（8 世紀後葉）

第 3162 号堅穴建物跡が該当し、西部の平坦な台地上に位置している。当遺構は、一部が平成 24 年度に調査され、『第 390 集』において 9 世紀中葉の遺構として報告されている。しかし、今回の調査において残された大部分を調査し、出土遺物から当遺構の時期を 8 世紀後葉へと変更した。この堅穴建物跡は、北東コ

コーナー部に竈を有している点が特筆される。コーナーに竈を有している竪穴建物跡は、14区では初出であり、13区を含めたA群では6例目となる。当期に属するのは13区の第2180号竪穴建物跡であり、北壁中央部に付設していた竈を北西コーナー部に作り替えている。コーナー部に竈を有する竪穴建物跡からは、灯明用器と考えられる油煙の付着した土器や鉄鉢形土器などが出土しており、仏教関連施設との関連が指摘されている⁴⁾。今回出土した遺物から、竪穴建物跡の性格を明確に述べることはできないが、当期の集落の中で1棟のみ離れた場所に立地しており、建物内の空間構造も異なることから、特異な存在の竪穴建物であったことが想定できる。

(3) 平安時代 (第82図)

当時代の遺構は、竪穴建物跡10棟、井戸跡2基、土坑12基、遺物包含層1か所を確認した。その内、時期が明かな竪穴建物跡9棟について、各時期(第12～14期)ごとの変遷を以下において記述する。時期は明確に出来なかったが、第3189号竪穴建物跡は9世紀代と考えられる。

第13期(9世紀中葉)

竪穴建物跡6棟(第3171・3180・3185・3186・3191・3192号竪穴建物跡)が該当する。当遺跡の最盛期にあたる。今回報告分においては、遺跡全体で、遺構が多数確認されている第12期の遺構が確認できなかった。当期の6棟は、台地上から谷に向かう斜面部で確認できた。6棟の内、第3186号竪穴建物跡を除く5棟から金属製品(刀子、鎌、釘)が出土している。『第291集』において、当集落の金属製品の保有率が分析されており、当該期は全体で50.4%、A群では68.2%の保有率で、最も保有率の高い時期である⁵⁾。今回の調査でも、当該期の金属製品の保有率の高さが裏付けられたことになる。また、第3180・3186号竪穴建物跡からは灰釉陶器の長頸瓶と椀が出土し、有力者層の存在を想定させる。

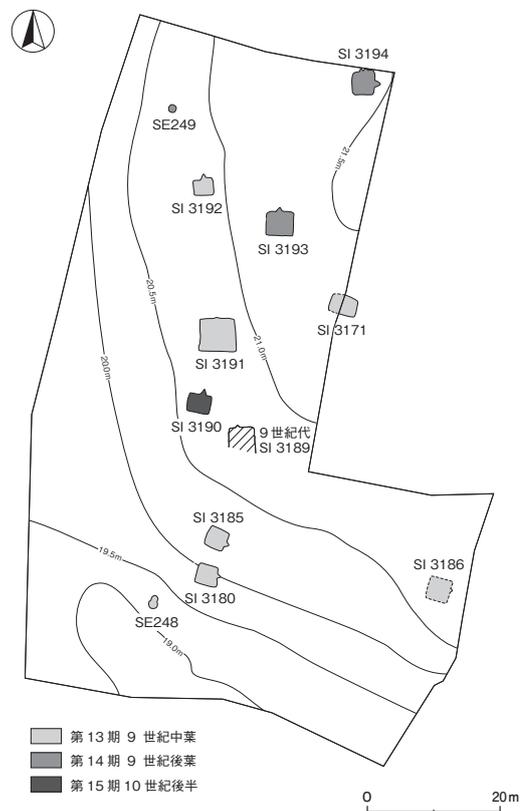
第14期(9世紀後葉)

竪穴建物跡2棟(第3193・3194号竪穴建物跡)が該当する。西部の平坦な台地上、やや中央部寄り確認されている。前期と同様に当遺跡の最盛期である。この2棟から出土した土師器坏には墨書による「石」という文字がともに確認されている。そこから、同一文字を共有する集団の存在が想起される。

また、第3194号竪穴建物跡からは「城内丕」と墨書された土師器坏とともに、灰釉陶器椀や腰帯具の巡方が出土している。これらは、14区ばかりかA群においても、出土例の少ない遺物である。有力者層の存在がうかがえるとともに、集落内における集団関係を再構成する必要がある遺物である。これらについては、後述する。

第15期(10世紀前半)

第3190号竪穴建物跡が該当する。西部の斜面部に位置している。当期には、当遺跡の竪穴建



第82図 14区 平安時代竪穴建物変遷図

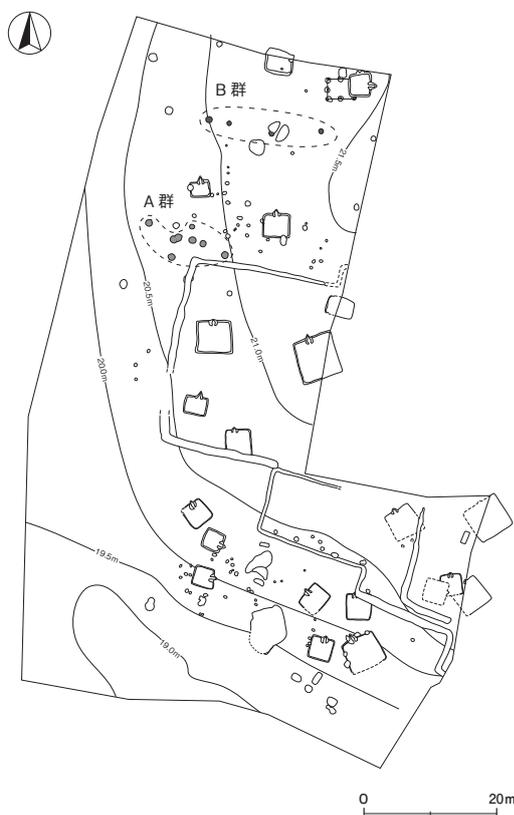
物跡が減少し始める時期である。これまでの調査で、14区での当該期の竪穴建物は確認されていない。A群では、13区で竪穴建物跡4棟と掘立柱建物跡1棟が報告されている。

第3190号竪穴建物跡は、長軸3.54m、短軸2.80mと小形化し、竈の煙道部の掘り込みが92cmと長くなる傾向がみられ、これまで確認されている当期の竪穴建物の特徴を示している。

上記の竪穴建物跡以外に、平安時代の遺構としては、井戸跡2基、土坑12基、遺物包含層1か所が確認された。井戸跡2基（第248・249号井戸跡）は、谷に沿った斜面部に掘られており、水の確保が容易な所で掘削されたと考えられる。位置的に、第248号井戸跡は第3180・3185号竪穴建物跡と、第249号井戸跡は第3193・3194号竪穴建物跡との関連が想定できる。また、今回の報告分で平安時代の土坑とした12基は、径1mほどの円形及び楕円形で、深さが15～50cmのものである。これに類似した平安時代の円形土坑について鶴間正昭氏は、古代の多摩丘陵の開発を特徴付ける遺構として取り上げている⁶⁾。鶴間氏が捉えた円形土坑の特徴について、次のようにまとめることができる。

- ・平面形は概ね円形を呈し、径は1m前後のものが多い。
- ・深さは20～30cmほどのもので、底面が平坦なものが大半を占める。
- ・堆積状況は自然堆積で、使用終了後に開口していたとみられる。
- ・遺物の出土はほとんど見られない。
- ・分布に規則性をもっていたことがうかがわれ、地形との密接な関連が想起される。

円形土坑の性格については、貯蔵穴説、墓坑説、放牧のえさ入れ説などがあるが、貯蔵穴の可能性が趨勢を占めている。鶴間氏は円形土坑の科学分析や堆積状況、分布状況から畑作と関連した貯蔵施設と想定している。神奈川県秦野市の神成松遺跡では円形土坑54基と畝状遺構が⁷⁾、同じく渋沢奈良郷遺跡では円形土坑15基と鋤跡状のくぼみが多数認められる耕作跡が確認されており⁸⁾、畑作との関連を裏付けるものとなっている。



第83図 14区 平安時代土坑位置図

ここで、当遺跡の円形土坑であるが、大きくA群（第7471・7474・7475・7476・7477・7486・7493・7518号土坑）とB群（第7510・7511・7515・7516号土坑）の2群に分けることができる。これら2群とも、竪穴建物のない部分に掘削されていることがわかる。なお、周辺に同様の平面形の土坑も数基確認できたが、深さが浅く判断が困難なものは除外した。時期は、出土遺物と形状から9世紀代と考えられる。

ここで特筆したいことは、1基を除いて底面に薄く黒色土の堆積が確認されたことである。有機物が腐朽し堆積したと考えられる。覆土は自然堆積で、開口していたと想定され、この黒色土との関連から考えると土坑の底面に有機物が敷かれていたか、もしくは上面に有機物で蓋や覆いをしていたことが想定される。廃棄後、敷物や蓋が朽ちて底面に堆積した可能性が考えられる。同時期の竪穴建物跡の近くにまとまって確認されたことから、これらに伴う畑地の貯蔵施設が想定

される。また、鶴間氏は、円形土坑が谷部に集中していることを指摘している⁹⁾。今回の円形土坑も谷に向かう斜面部で確認されており、地形との関係が考えられるが、今後の検討課題としたい。

また、調査区の西を北に延びる谷に第4号遺物包含層が形成されている。各時代の遺物が出土しているが、主体となるのは当時代の9期の遺物である。これまでもこの谷を利用した交易流通が想定されており¹⁰⁾、周辺での活動の過程で遺物が混入し、遺物包含層が形成されていったと考えられる。

(4) 室町時代

当該期の遺構は、火葬施設（第7467号土坑）がこれに該当する。今回の調査では1基のみの確認であり、上面の大部分が削平されていたことから、明確でない部分が多い。しかし、『第280集』において、本跡の東側で斜面に沿って、中世の地下式坑3基、火葬施設8基、墓坑13基のほか、墓坑の可能性のある土坑が集中しており、墓域が形成されていたことが明らかとなっている¹¹⁾。本跡も、これらの遺構とともに一連の墓域を形成していたといえる。

(5) 江戸時代

溝跡2条を確認した。出土遺物から、第139号溝跡が18世紀代、第520号溝跡が18世紀前葉に埋没したものと考えられる。第139号溝跡は、『第280集』において、時期は中世以降とされ、前述した地下式坑や火葬施設、墓坑などの墓域との間に構築された区画と考えられている¹²⁾。今回の調査で、中世の遺物も散見されるが、18世紀代の遺物が多数出土したため、中世から機能し、18世紀にかけて埋没していった溝と比定した。

また、第520号溝跡も『第390集』で報告されており、前回報告と同様に区画溝と考えられる¹³⁾。また、北から南にかけて傾斜がついていることから、排水の機能も兼ね備えていたと考えられる。時期は、出土遺物から18世紀前葉に機能を終え、埋没したものと考える。

当該期の遺構は、この溝2条のみである。それぞれ区画溝であり、畑地や墓域の区画として機能していたものと思われる。

3 出土遺物の検討

当遺跡は、律令期の河内郡嶋名郷の拠点集落である。今回の調査においても、当該期の遺構が多く確認され、出土遺物から有力者の存在を想定することができる。ここでは、確認された平安時代（第13～15期）の出土遺物で、当調査区の性格を際立たせるであろう文字資料と腰帯具（巡方）を取り上げ考察する。熊の山遺跡の一端を明らかにすることで、遺跡の全体像に迫る一助としたい。

(1) 文字資料

今回の14区の調査において、文字資料として墨書土器が5点出土している。以下の表9の通りである。

表9 14区出土文字資料一覧

番号	遺物番号	积文	種別	材質	器種	部位・方向	遺構	時期	備考
1	67	「□」	墨書	須恵器	坏	体部	SI3186	9世紀中葉	
2	83	「石」	墨書	土師器	坏	体部・正位	SI3193	9世紀後葉	
3	85	「壺□」	墨書	須恵器	坏	体部	SI3193	9世紀後葉	
4	86	「石」	墨書	土師器	坏	体部・正位	SI3194	9世紀後葉	
5	87	「城内丕」	墨書	土師器	坏	体部・横位	SI3194	9世紀後葉	

これまで14区では、13点の墨書や刻書などの文字資料が確認されており、13区と合わせたA群においては26点ほどである。

今回特筆される資料は、第3193・3194号竪穴建物跡から出土した墨書土器である。ともに、9世紀後葉に比定される。第3193号竪穴建物跡からは、「石」と記された土師器坏と「奎□」と記された須恵器坏の2点が出土している。また、第3194号竪穴建物跡からは、腰带具の巡方とともに「城内丕」と「石」と墨書された土師器坏がそれぞれ1点ずつ出土している。

まず、「石」と記された墨書土器について述べていきたい。これまで、「石」と記された墨書土器は、遺跡の南西部のE群から16点、東部のD群で1点出土している。この「石」という文字は、『第322集』において、「同一文字を共有する集団の標識文字」の可能性が指摘されている¹⁴⁾。今回、北部から出土していることで、南西部E群の集団と北部A群の集団との交流、もしくは集団の広がりを見ることができると考えられる。

次に、「城内丕」と記された墨書土器であるが、B群から1点、C群から1点、E群の土器が大量投棄された井戸跡から1点出土している。また、「城」及び「城内」「丕」の各文字が記された墨書土器は、A群で1点、B群で1点、C群で3点、D群で3点、E群で7点あり、その内前述の井戸跡からは5点、F群で2点出土している。A群では、第3194号竪穴建物跡から南東50mに位置する、平成24年度調査で9世紀中葉に比定される第3073号竪穴建物跡から「城内」「川」「田」₉と墨書された須恵器坏が出土している。さらに、同じく平成24年度調査で第3194号竪穴建物跡と同時期の9世紀後葉に比定できる第3161号竪穴建物跡からは、「主」「合」などと墨書された土師器坏が出土している。こちらも第3194号竪穴建物跡から北西に25mほどに位置しており、それぞれ関連が考えられる。そして、これまでも『第174集』『第190集』で、これらの文字に関する解釈がなされている。「城」は、遺跡中央部の第16・35号溝による区画を意識したもので、区画の内外で「城」という意識があったのではないかと推測されている。また、「丕」は「大きい」という意味を表しているとされる。同時に、中央部に整然と配置された掘立柱建物B群との関連が想定されており、周辺から硯や腰带具、灰釉陶器の出土も多いことから、豪族の居住施設に内包される官衙的機能を有した集団との関連が想定されている¹⁵⁾。

さらに、「奎」はA群においては初出であるが、遺跡全体から出土しており、当遺跡を代表する文字資料である。このことも集落の広がりを示す好資料ではないかと思われる。

今回、第3194号竪穴建物跡からは、「城内丕」と「石」という異なった集団を想定させる文字資料が出土していることは興味深い。それぞれ、南西部、中央部に多く見られる文字であり、間に谷を挟んだ北部から出土していることは、集団間の交流や広がりが想定される。

(2) 腰带具

腰带具の出土は遺跡全体では20点で、その内巡方が8点（鉄製1、銅製6、斑糲岩製1）を占めている。A群での腰带具の出土は2点目で、平成15・16年度の調査で銅製の巡方が1点出土している。時期は8世紀前葉から11世紀前半にかけてみられ、今回報告の巡方と同時期である9世紀後葉が4点と最も多い。当遺跡における腰带具は、第1083号竪穴建物跡から出土した丸鞆が古墳時代に系譜が求められることから、「前代から続く有力者を取り込む形での律令体制の展開」を示す資料と考えられている¹⁶⁾。

また、出土位置は、遺跡中央部に集中しており、C群4点、D群9点、E群4点が出土している。腰带具が出土した遺構と隣接して、円面硯や灰釉・緑釉陶器が出土しており、有力者の存在が想定されている。これらは、前述した「城内丕」や「城内」「城」などの墨書土器の出土が多い第16・35号溝によって区画

され、整然と配置された掘立柱建物 B 群の周辺である。このことから、地方の末端行政にかかわる地域の有力者の存在が考えられる。

今回、第 3193 号竪穴建物跡で「石」「壘□」の墨書土器、第 3194 号竪穴建物跡で「城内丕」と「石」の墨書土器と巡方が出土したことは、集団の交流を示すとともに、これまで中央部に存在していた有力者の分布を考えることができる資料になったといえる。ただ、有力者との関連を想定できる遺構はわずかであり、「城内」「城内丕」の墨書土器が 9 世紀中葉の第 3073 号竪穴建物跡と 9 世紀後葉の第 3194 号竪穴建物跡から出土していることは、有力者の変遷を考えることも可能であり、「川」の墨書土器は谷を利用した交易流通に関わることも考えられる。

4 おわりに

今回の報告は、遺跡北部の調査区 14 区における平成 25 年度の調査内容を報告してきた。

古墳時代においては、竪穴建物跡 11 棟（第 4 期 2 棟、第 5 期 4 棟、第 6 期 3 棟、後期 1 棟、7 世紀代 1 棟）と掘立柱建物跡 1 棟（第 6 期）が確認できた。これまでの A 群における集落の広がりや、台地の平坦部から谷に向かう斜面部にも確認することができた。

また、律令期は、奈良時代に竪穴建物跡 2 棟（第 9 期・第 11 期）、平安時代に竪穴建物跡 10 棟（第 13 期 6 棟、第 14 期 2 棟、第 15 期 1 棟、9 世紀代 1 棟）と井戸跡 2 基（第 13 期・第 14 期）、土坑 12 基、遺物包含層 1 か所を確認した。特に、墨書土器や腰帯具の巡方の出土から、集落内における有力者の存在が北部にも及んでいることや、集団の交流、広がりや確認できた。また、斜面部に円形土坑が 12 基確認でき、これらが畑作にかかわる屋外の貯蔵施設の可能性を指摘することができた。

さらに、室町時代においては墓域の縁辺を、江戸時代においては区画溝を確認し、中・近世においても土地利用がなされていたことが明らかとなった。

以上のように、熊の山遺跡の北部に位置する 14 区の様相を明らかにすることができた。

註

- 1) 稲田義弘「熊の山遺跡 島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅶ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第 190 集 2002 年 3 月
- 2) 齋藤真弥・酒井雄一・渡邊浩実・松本直人・齋藤貴史・清水哲「島名熊の山遺跡 島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書ⅩⅤ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第 291 集 2008 年 3 月
- 3) 註 2 に同じ
- 4) 木村光輝・駒澤悦郎・中泉雄太・長洲正博「茨城県内における壁隅竈の竪穴建物について－特異な竈を付設した竪穴建物の分析（1）」『埋蔵文化財部年報 34 平成 26 年度』2015 年 6 月
- 5) 註 2 に同じ
- 6) 鶴間正昭「古代末期の丘陵地開発について－多摩丘陵の様相－」『研究論集 IV』東京都埋蔵文化財センター 1986 年 3 月
- 7) 野尻義敬他「神成松遺跡第 5 地点」『神奈川県埋蔵文化財発掘調査報告書 23』2014 年 8 月
- 8) 須和間直子他「渋沢奈良郷遺跡」『かながわ考古学財団調査報告 284』2012 年 3 月
- 9) 註 6 に同じ
- 10) 清水哲「島名熊の山遺跡の集落研究のための前提作業」『埋蔵文化財部年報 26 平成 18 年度』2007 年 11 月
- 11) 酒井雄一・渡邊浩実・齋藤貴史・清水哲「島名熊の山遺跡 島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書ⅩⅢ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第 280 集 2007 年 3 月
- 12) 註 11 に同じ
- 13) 兼子博史・坂本勝彦・田中万里子・櫻井二郎「島名熊の山遺跡 島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書ⅩⅠ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第 390 集 2014 年 3 月

- 14) 早川麗司「鳥名熊の山遺跡 鳥名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書XVI」『茨城県教育財団文化財調査報告』第322集 2009年3月
- 15) a 藤田哲也・三谷正・原信田正夫・川上直登・稲田義弘「鳥名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書V 熊の山遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第174集 2001年3月
b 註1に同じ
- 16) 註1に同じ

写 真 图 版





遺跡遠景（南東から）



遺跡全景

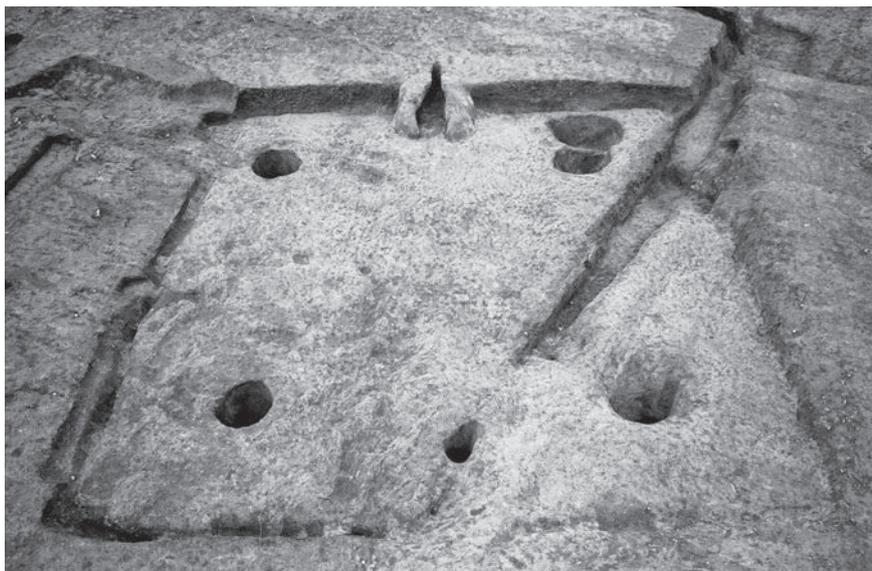
PL2



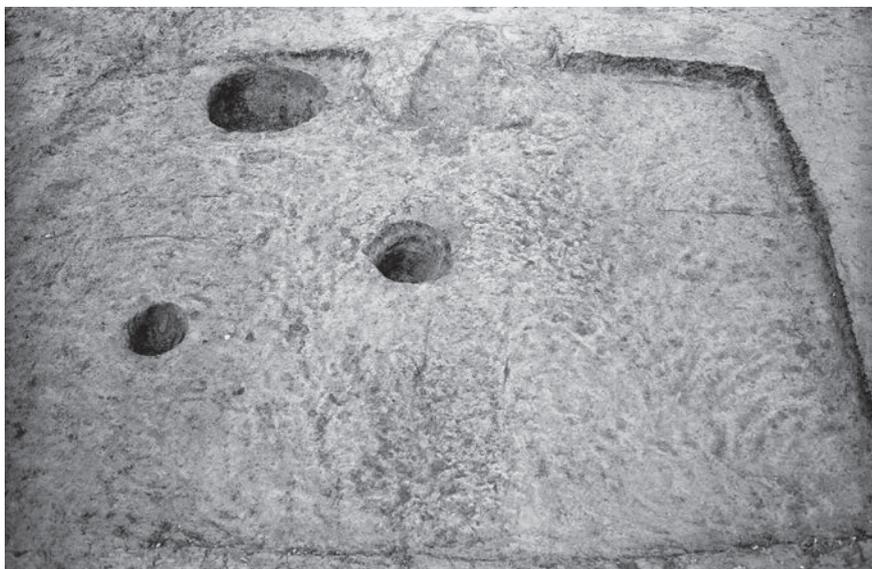
遺跡遠景（北西から）



遺跡全景



第3170号豎穴建物跡



第3177号豎穴建物跡



第3183号豎穴建物跡
遺物出土狀況

PL4



第3183号豎穴建物跡
遺物出土狀況



第3183号豎穴建物跡
遺物出土狀況



第3183号豎穴建物跡
遺物出土狀況

第3184号竖穴建物跡
遺物出土狀況



第3187号竖穴建物跡
遺物出土狀況



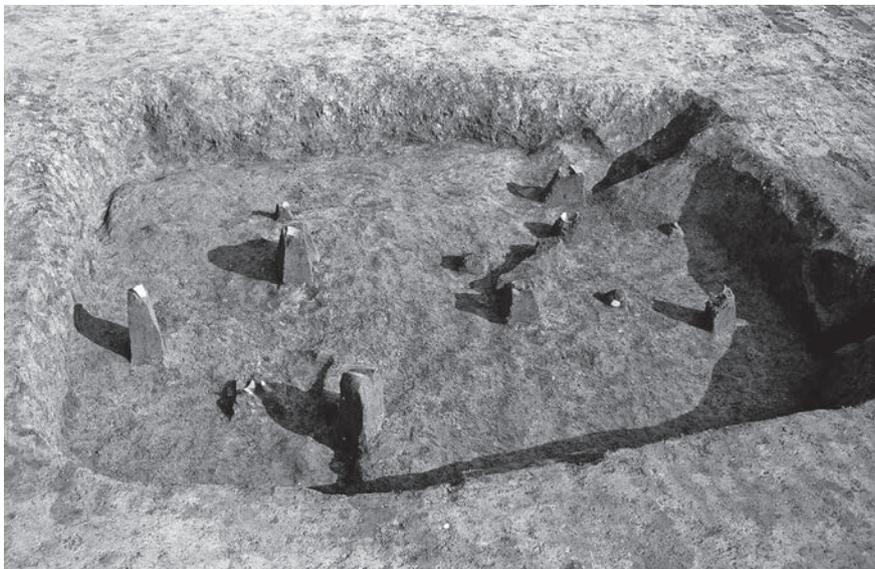
第597号掘立柱建物跡



PL6



第3178号竖穴建物跡



第3162号竖穴建物跡
遺物出土状況

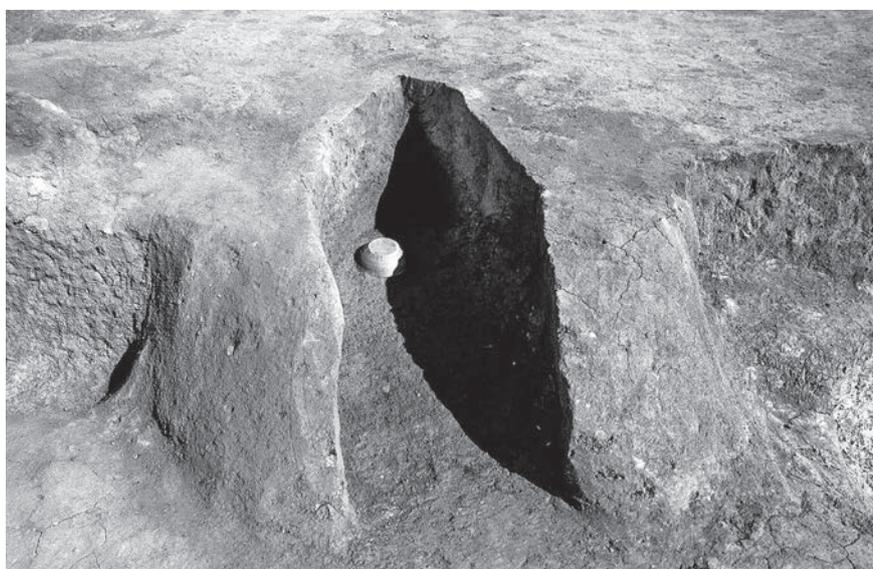


第3162号竖穴建物跡

第3180号竖穴建物跡
遺物出土狀況



第3180号竖穴建物跡
竈遺物出土狀況



第3180号竖穴建物跡



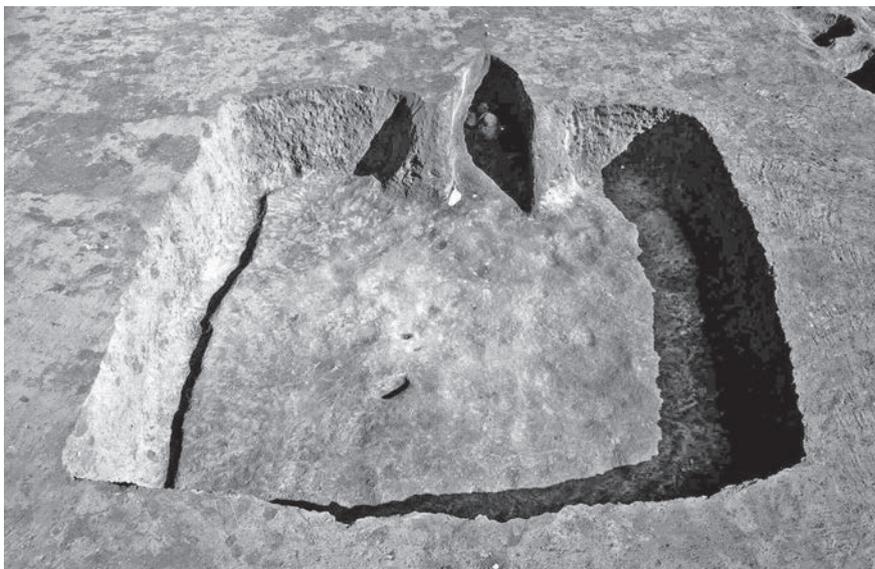
PL8



第3185号竖穴建物跡
竈遺物出土狀況



第3185号竖穴建物跡
竈遺物出土狀況



第3185号竖穴建物跡



第3189号竖穴建物跡



第3190号竖穴建物跡
竈遺物出土状況



第3190号竖穴建物跡

PL10



第3191号竖穴建物跡



第3192号竖穴建物跡
遺物出土状況



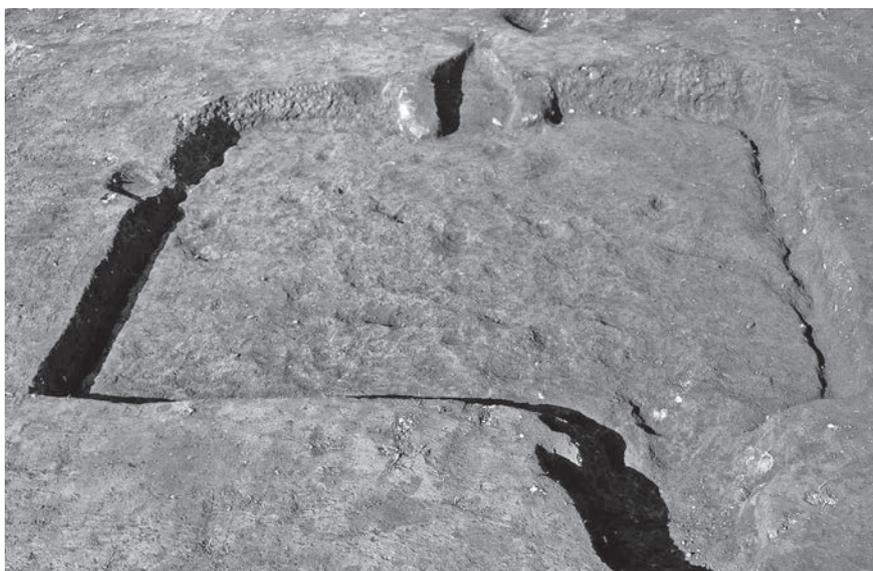
第3192号竖穴建物跡
竈遺物出土状況



第3192号豎穴建物跡



第3193号豎穴建物跡
遺物出土狀況



第3193号豎穴建物跡

PL12



第3194号竖穴建物跡
遺物出土状況



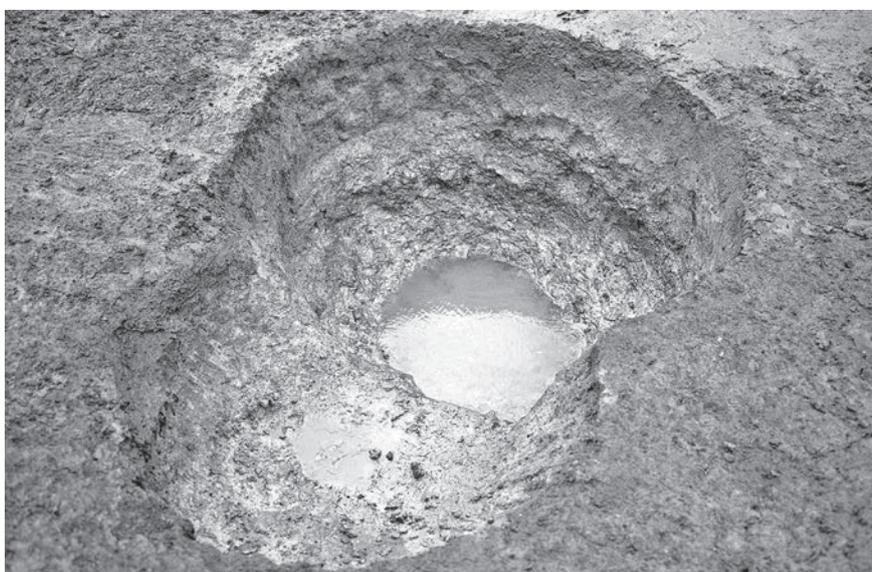
第3194号竖穴建物跡
遺物出土状況



第3194号竖穴建物跡
遺物出土状況



第3194号竖穴建物跡

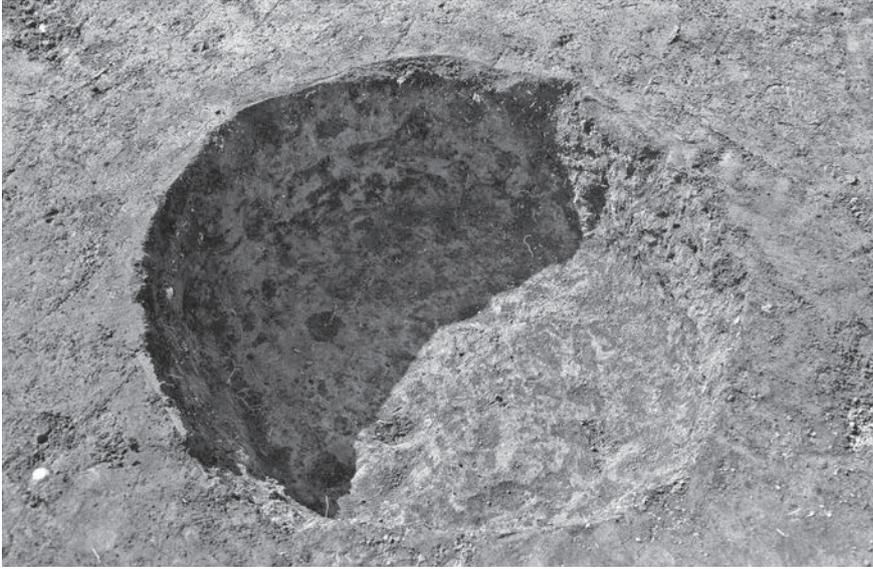


第248号井戸跡



第249号井戸跡

PL14



第 7476 号 土 坑



第 7511 号 土 坑

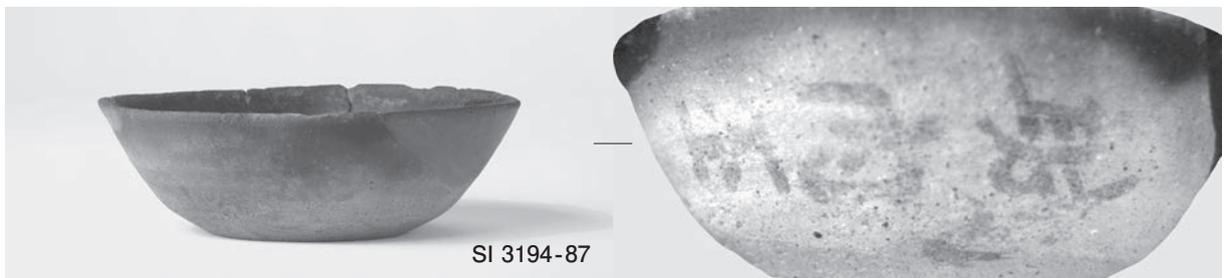
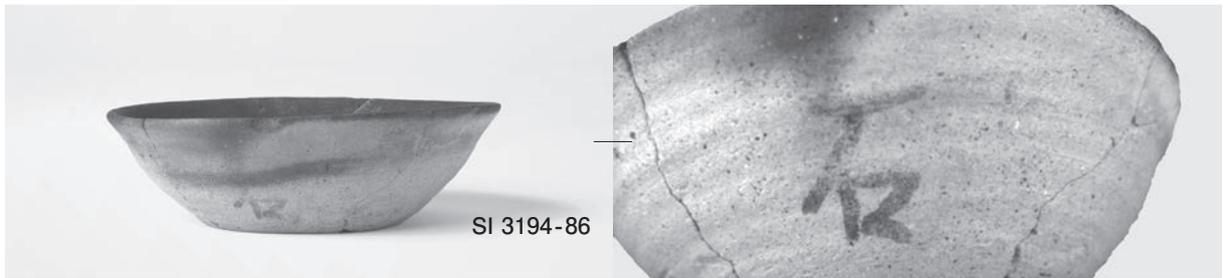
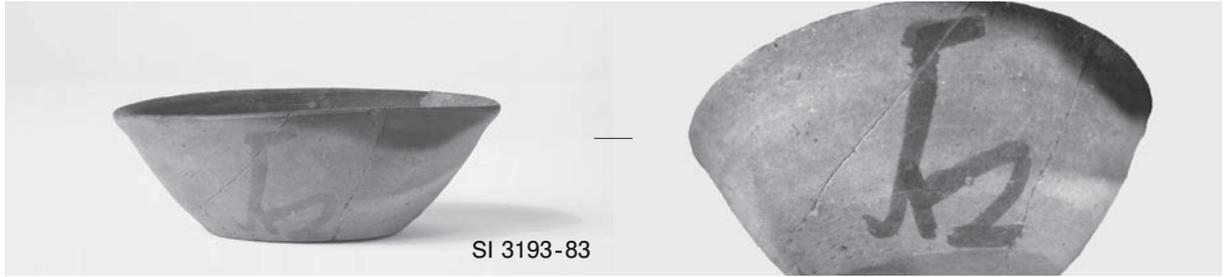


第 4 号 遺 物 包 含 層
遺 物 出 土 状 况



第3162・3170・3177・3180・3183・3184・3186・3191号竖穴建物跡出土土器

PL16



第3180・3185・3191・3193・3194号豎穴建物跡出土土器



第3183・3184・3186・3187・3194号豎穴建物跡，遺構外出土土器

PL18

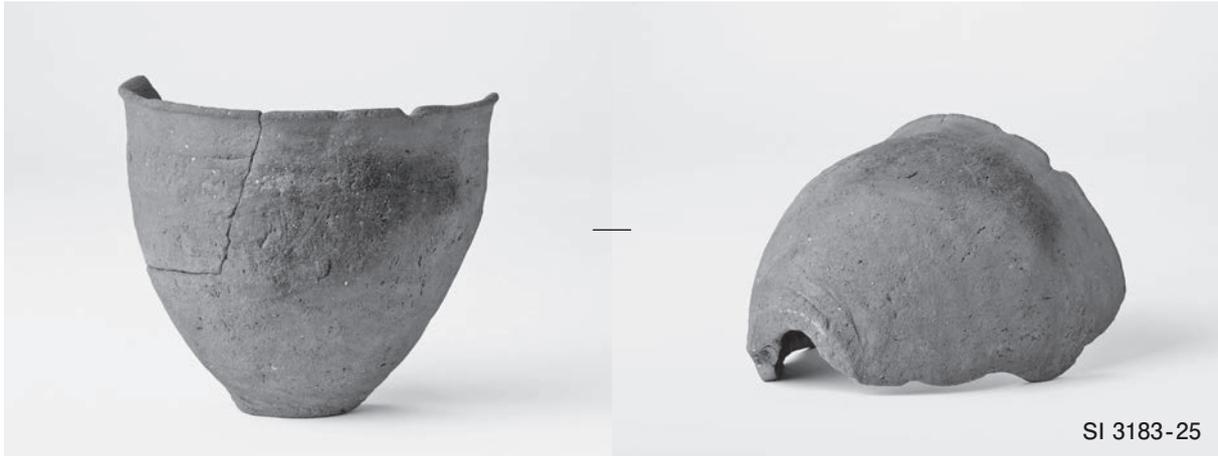


第3183・3185・3187・3194号竖穴建物跡，第4号遺物包含層出土土器



第3177・3183・3185・3192号豎穴建物跡出土土器

PL20

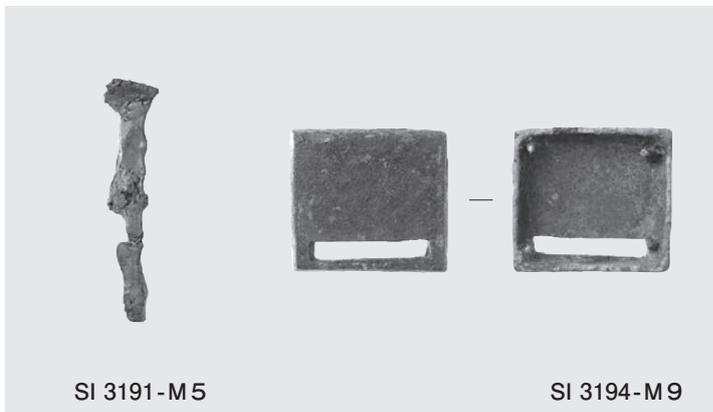
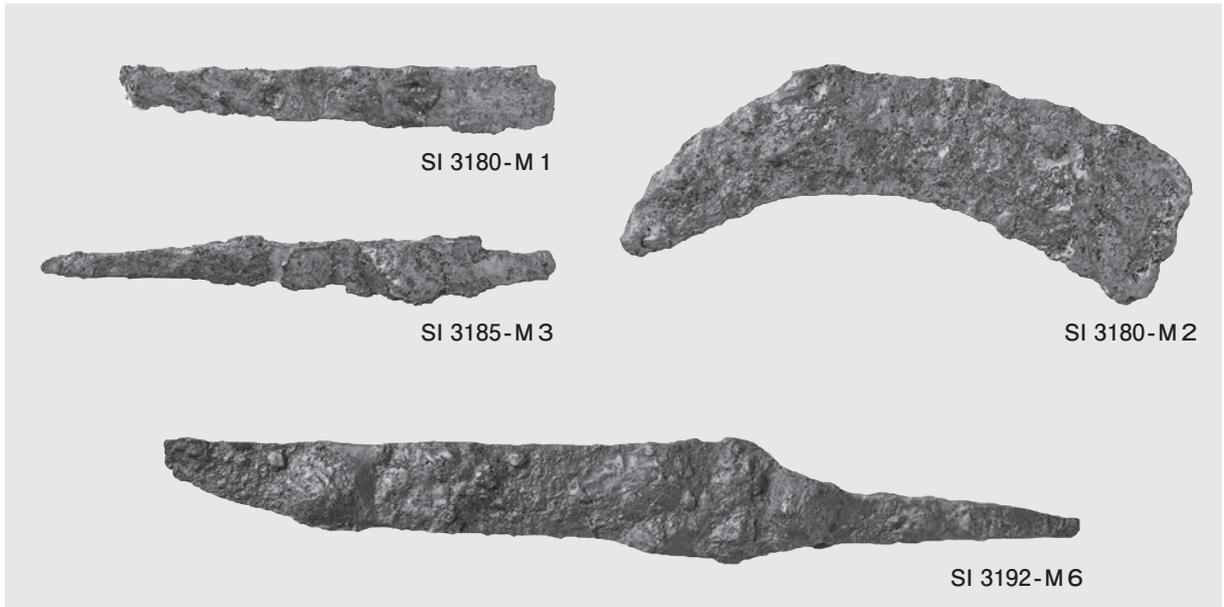


第3183号竖穴建物跡，第4号遺物包含層出土土器



第2441・3171・3184・3186・3192・3193号竖穴建物跡，第249号井戸跡，第7476号土坑，第520号溝跡，第4号遺物包含層，遺構外出土遺物

PL22



第3170・3179・3180・3185・3190・3191・3192・3194号豎穴建物跡，遺構外出土遺物

抄 録

ふりがな	しまなくまのやまいせき							
書名	島名熊の山遺跡							
副書名	島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書 XXII							
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告第 431 集							
著者名	奥沢哲也 大武宣隆							
編集機関	公益財団法人茨城県教育財団							
所在地	〒 310 - 0911 茨城県水戸市見和 1 丁目 356 番地の 2 TEL 029 - 225 - 6587							
発行日	2018 (平成 30) 年 3 月 16 日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	標高	調査期間	調査面積	調査原因
しまなくま やまいせき 島名熊の山遺跡	いばらきけん つくば市 島名字中台 1,333 番地ほか	08220 - 214	36 度 3 分 50 秒 (36 度 4 分 21 秒)	140 度 3 分 36 秒 (140 度 03 分 25 秒)	19 ~ 22 m	20130807 ~ 20131031 20140101 ~ 20140331	2,235 m ² 2,222 m ²	島名・福田坪 一体型特定土 地区画整理事 業に伴う事前 調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
島名熊の山遺跡 (14 区)	集落跡	古墳	竪穴建物跡	11 棟	土師器 (坏・椀・高坏・脚付鉢・甕・小形甕・甑), 須恵器 (脚付長頸壺), 土製品 (土玉・支脚・不明土製品), 石器 (磨石・砥石)			
		奈良	竪穴建物跡	2 棟	土師器 (坏・椀・甕・小形甕・甑), 須恵器 (坏・蓋), 土製品 (紡錘車)			
		平安	竪穴建物跡 井戸跡 土坑 遺物包含層	10 棟 2 基 12 基 1 か所	土師器 (坏・高台付坏・高台付皿・甕・小形甕・甑), 須恵器 (坏・蓋・鉢・甕・大甕・甑), 灰釉陶器 (椀・長頸瓶), 土製品 (土玉・管状土錘), 石器 (砥石), 金属製品 (刀子・鎌・釘・巡方)			
		室町	火葬施設	1 基				
		江戸	溝跡	2 条	土師質土器 (鉢), 陶器 (香炉・壺), 土製品 (竈鏝), 石器 (砥石)			
		時期不明	土坑 溝跡	104 基 1 条	土師器 (椀), 土製品 (管状土錘), 石器 (鏃・磨石), 剥片, 金属製品 (煙管・鉛玉)			
要約	総調査面積 260,191 m ² の県内最大級の集落跡で, 竪穴建物跡 2,517 棟, 掘立柱建物跡 415 棟を確認している。今回報告の調査区は, 遺跡北部の台地上から斜面部にかけて位置しており, 古墳時代後期から江戸時代の遺構が確認できた。平安時代の竪穴建物跡からは, 腰帯具や墨書土器が出土し, 有力者の存在が想定される。							

印刷仕様

編集	OS	Microsoft Windows 7 Home Premium ServicePack1
	編集	Adobe InDesign CS5
	図版作成	Adobe Illustrator CS5
	写真調整	Adobe Photoshop CS5
	Scanning	6×7 film Nikon SUPER COOLSCAN9000 図面類 RICOH imagio MP W4001
使用Font	OpenType	リュウミンPro・L
写真	線数	モノクロ175線以上 カラー210線以上
印刷		印刷所へは、Adobe InDesign CS5でレイアウトして入稿

茨城県教育財団文化財調査報告第431集

島名熊の山遺跡

島名・福田坪一体型特定土地区画整理
事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅲ

平成30（2018）年 3月15日 印刷

平成30（2018）年 3月16日 発行

発行 公益財団法人茨城県教育財団

〒310-0911 水戸市見和1丁目356番地の2

茨城県水戸生涯学習センター分館内

TEL 029-225-6587

H P <http://www.ibaraki-maibun.org>

印刷 (有)川田プリント

〒310-0041 水戸市上水戸4丁目6-53

TEL 029-253-5551

